

疾病、傷害及び死因統計分類提要 総論・新旧対照表（事務局仮訳）

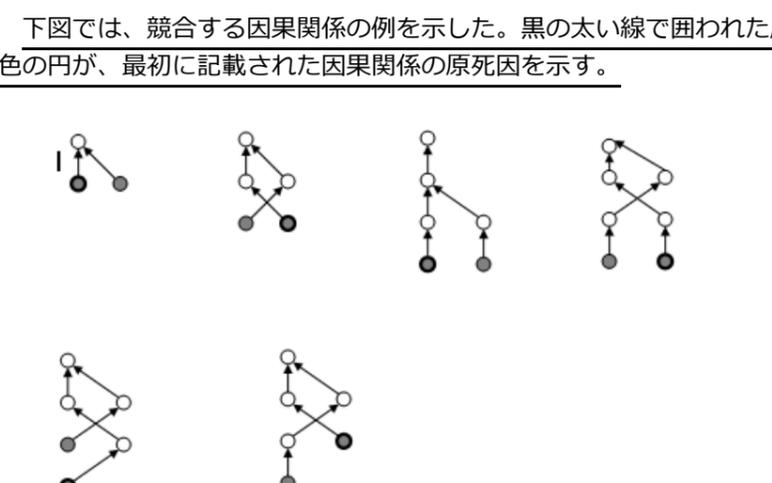
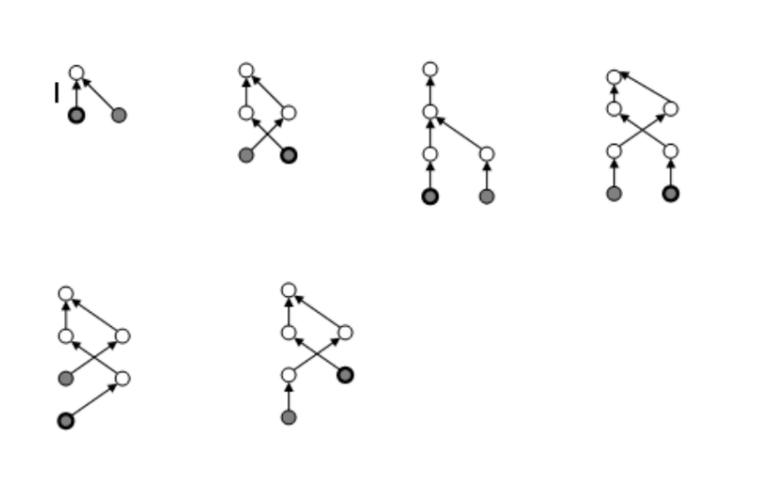
※WHO 勧告文及び改正案の文中における、追加、変更等は、下線により、又、削除は取り消線によって示している。

※連続する二行が灰色塗りとなっているものは、2010 年までに一度改正がありその後再度改正があったもので、始めの改正内容を上段、その後の改正を下段に記載している。

No.	現行	事務局仮訳	WHO 勧告（原文）
1	目次 4.2.2 「因果関係がほとんどない」の解釈	目次 4.2.2 「 因果関係がほとんどない 」の解釈 死因統計の原死因の選択における認められる因果関係と認められない因果関係	Table of contents 4.2.2 Interpretation of “highly improbable” <u>Accepted and rejected sequences for the selection of underlying cause of death for mortality statistics</u>
2	5a 勧告	5.14a 勧告	5a. Recommendations 138a
3		<p><u>1. 導入</u></p> <p>疾病及び関連保健問題の国際統計分類第 10 版（ICD-10）の第 2 巻（総論）には、記録及びコーディングのガイドラインに加え、分類を利用する際の実用的な側面に関する新たな資料、分類の歴史的背景の概要が含まれている。分類（第 1 巻（内容例示表））とその使用方法の説明を同時に参照する必要がある際に使いやすいよう分冊となっている。索引表の使用方法に関する詳細な説明は、第 3 巻（索引表）の導入部に掲載されている。</p> <p>このマニュアルには、ICD に関する基本的な説明、疾病・死亡コーダーのための実用的な説明、データの表示及び解釈のためのガイドラインが記載されている。ICD の使用における詳細な訓練を提供することを意図したものではない。ここに掲載されている資料は、サンプル記録に関する広範な練習や問題点の議論ができるような正式な訓練コースにより補強される必要がある。</p> <p>ICD の使用にあたって生ずる問題が、現場あるいは国の統計担当局の助言によっても解決できない場合は、WHO 国際統計分類協力センター（第 1 巻（内容例示表）参照）から助言を受けることができる。</p>	<p>1. Introduction</p> <p>This volume of the Tenth Revision of the International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems (ICD-10) contains guidelines for recording and coding, together with much new material on practical aspects of the classification's use, as well as an outline of the historical background to the classification. This material is presented as a separate volume for ease of handling when reference needs to be made at the same time to the classification (Volume 1) and the instructions for its use. Detailed instructions on the use of the Alphabetical Index are contained in the introduction to Volume 3.</p> <p>This manual provides a basic description of the ICD, together with practical instructions for mortality and morbidity coders, and guidelines for the presentation and interpretation of data. It is not intended to provide detailed training in the use of the ICD. The material included here needs to be augmented by formal courses of instruction allowing extensive practice on sample records and discussion of problems.</p> <p>If problems arising from the use of the ICD cannot be resolved either locally or with the help of national statistical offices, advice is available from the WHO Collaborating Centres for the Family of International Classifications (see Volume 1).</p>
4	<p>2. 疾病および関連保健問題の国際統計分類の解説</p> <p>2.1 目的および適用範囲</p> <p>疾病分類は、ある一定の基準にしたがって疾病の本質を割り振る分類法のシステムと定義することができる。これには多くの分類軸が考えられるが、作成する統計の用途によって一つの分類軸が選択される。疾病の統計分類は、使用する項目数の範囲内で疾病病態の全体を包括しなければならない。ICD の目的は、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録・分析、解釈および比較を行う</p>	<p>2. 疾病及び関連保健問題の国際統計分類の解説</p> <p>2.1 目的及び適用範囲</p> <p>疾病分類は、ある一定の基準にしたがって疾病の本質を割り振る分類法のシステムと定義することができる。これには多くの分類軸が考えられるが、作成する統計の用途によって一つの分類軸が選択される。疾病の統計分類は、使用する項目数の範囲内で疾病病態の全体を包括しなければならない。ICD の目的は、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録・分析、解釈及び比較を行う</p>	<p>2. Description of the International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems</p> <p>2.1 Purpose and applicability</p> <p>A classification of diseases can be defined as a system of categories to which morbid entities are assigned according to established criteria. The purpose of the ICD is to permit the systematic recording analysis, interpretation and comparison of mortality and morbidity data collected in different countries or areas and at different times. The ICD is used to translate diagnoses of diseases and other health problems from words into an alphanumeric code, which permits easy storage, retrieval and</p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）								
	うことである。ICD は、データの保存、回収および分析を容易にするために、疾病の診断およびその他の保健問題を、言葉から英数字コードに翻訳するために使用される。	ことである。ICD は、データの保存、回収及び分析を容易にするために、疾病の診断及びその他の保健問題を、言葉から英数字コードに翻訳するために使用される。	analysis of the data.								
5	新生物に対する形態コードは、「系統的医学用語」(SNOMED) (参考文献 2. 参照) のコードと同じである。この SNOMED は、腫瘍の用語およびコーディングのマニュアルの 1968 年版 (参考文献 3. 参照) および「系統的病理学用語<国際病理学用語コード>」(SNOP) (参考文献 4. 参照) から由来したものである。形態コードは 5 桁であり; はじめの 4 桁は組織学的な型を分類し、第 5 桁は新生物の性状 (悪性、上皮内、良性等) を分類する。ICD-O の形態コードはまた、ICD-10 の第 2 巻 (内容例示表) および第 3 巻 (索引表) にも使用されている。ICD-O 第 2 版から ICD-10 への変換表が作られており、利用することができる。	新生物に対する形態コードは、「系統的医学用語」(SNOMED) (参考文献 2. 参照) のコードと同じである。この SNOMED は、腫瘍の用語及びコーディングのマニュアルの 1968 年版 (参考文献 3. 参照) 及び「系統的病理学用語<国際病理学用語コード>」(SNOP) (参考文献 4. 参照) から由来したものである。形態コードは 5 桁であり; はじめの 4 桁は組織学的な型を分類し、第 5 桁は新生物の性状 (悪性、上皮内、良性等) を分類する。ICD-O の形態コードはまた、ICD-10 の第 1 巻 (内容例示表) 及び第 3 巻 (索引表) にも使用されている。ICD-O 第 3 版から ICD-10 への変換表が作られており、利用することができる。	The morphology code for neoplasms has been adopted by the <i>Systematized nomenclature of medicine</i> (SNOMED) (2), which was derived from the 1968 edition of the <i>Manual of tumour nomenclature and coding</i> (MOTNAC) (3) and the <i>Systematized nomenclature of pathology</i> (SNOP) (4). The morphology code has five digits; the first four digits identify the histological type and the fifth the behaviour of the neoplasm (malignant, <i>in situ</i> , benign, etc.). The ICD-O morphology code also appear in Volume 1 of ICD-10 and are added to the relevant entries in Volume 3, the Alphabetical Index. Tables are available for the conversion of the ICD-O third edition codes to ICD-10.								
6	<p>3.1.3 病態に対する二つのコード 「剣印および星印」システム</p> <p>剣印 (+) および星印 (*) システムは、統計表章のための選択的な分類を提供するが、ICD の原則は、剣印コードが一次コードであって、常に使用しなければならないコードであるということである。もし他の表章方法もまた必要とされる場合には、「追加して」使用するための星印コードを使用する準備をしなければならない。コーディングには、星印コードは決して単独で使用してはならない。剣印コードを取り入れている統計は、疾病および死亡のデータの表章および医学的ケアのその他の側面についての伝統的な分類に従っている。</p>	<p>3.1.3 病態に対する二つのコード 「剣印及び星印」システム</p> <p>剣印 (+) 及び星印 (*) システムは、統計表章のための選択的な分類を提供するが、ICD の原則は、剣印コードが一次コードであって、常に使用しなければならないコードであるということである。もし他の表章方法もまた必要とされる場合には、「追加して」使用するための星印コードを使用する準備をしなければならない。コーディングには、星印コードは決して単独で使用してはならない。ただし、疾病コーディングにおいては、疾病の発現が医療の焦点である場合、剣印と星印の順を逆転させてもよい。剣印コードを取り入れている統計は、疾病および死亡のデータの表章及び医学的ケアのその他の側面についての伝統的な分類に従っている。</p>	<p>3.1.3 Two codes for certain conditions <i>The “dagger and asterisk” system</i></p> <p>While the dagger and asterisk system provides alternative classifications for the presentation of statistics, it is a principle of the ICD that the dagger code is the primary code and must always be used. Provision should be made for the asterisk code to be used in addition if the alternative method of presentation may also be required. For coding, the asterisk code must never be used alone. <u>However, for morbidity coding, the dagger and asterisk sequence may be reversed when the manifestation of a disease is the primary focus of care.</u> Statistics incorporating the dagger codes conform with the traditional classification for presenting data on mortality and morbidity and other aspects of medical care.</p>								
7	<p>3.1.3 病態に対する二つのコード (2) 記号が項目のタイトルに付いているが、選択的コードが付いていない場合は、その項目に分類されるすべての用語は二重の分類を受けるが、それらは別々のコード</p> <p>A17.8† その他の神経系結核</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: </td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding: 0 10px;">の</td> <td style="vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) </td> </tr> </table> <p>• 髄膜脳炎 (G05.0*) • 脊髄炎 (G05.0*) • 脳膿瘍 (G07*) • 多発 (性) ニューロパチ (シ) - (G63.0*)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: 	}	の	<ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) 	<p>3.1.3 病態に対する二つのコード (2) 記号が項目のタイトルに付いているが、選択的コードが付いていない場合は、その項目に分類されるすべての用語は二重の分類を受けるが、それらは別々のコードを持っている (それらは各用語に付いている)。たとえば、</p> <p>A17.8† その他の神経系結核</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: </td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding: 0 10px;">の</td> <td style="vertical-align: middle;"> <ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) </td> </tr> </table> <p>• 髄膜脳炎 (G05.0*) • 脊髄炎 (G05.0*) • 脳膿瘍 (G07*) • 多発 (性) ニューロパチ (シ) - (G63.0*)</p> <p><u>A18.1† 腎尿路生殖器系の結核</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: 	}	の	<ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) 	<p>3.1.3 Two codes for certain conditions</p> <p>A18.1† Tuberculosis of genitourinary system Tuberculosis of</p> <ul style="list-style-type: none"> • bladder (N33.0*) • cervix (N74.0*) • kidney (N29.1) • male genital organs (N51.-*) • ureter (N29.1) <p>Tuberculous female pelvic inflammatory disease (N74.1*)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: 	}	の	<ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) 								
<ul style="list-style-type: none"> 脳 (G07*) 結核 結核性: 	}	の	<ul style="list-style-type: none"> 結核腫 脊髄 (G07*) 								

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		結核： ・ 腎 (N29.1*) ・ 尿管 (N29.1*) ・ 膀胱 (N33.0*) ・ 男性生殖器 (N51.-*) ・ 子宮頸部 (部) (N74.0*) 結核性女性骨盤炎症性疾患 (N74.1*)	
8	3.1.4 内容例示表で使用されている取り決め 「他に分類されないもの<NEC>」 「他に分類されないもの」という語句は、3桁分類項目のタイトルで使用された場合、掲載されている病態のある特定の変異型が、分類のその他の箇所に現れるかもしれないという警告として働いている。たとえば： J16 その他の感染病原体による肺炎、他に分類されないもの この分類項目は、J16.0 クラミジア肺炎および J16.8 その他の明示された感染病原体による肺炎を含んでいる。多くのその他の項目が、明示された感染病原体による肺炎のために、第 X 章 (たとえば、J10-J15) およびその他の章 (たとえば、P23.-先天性肺炎) に用意されている。J18 肺炎、病原体不詳は、感染病原体が記載されていない肺炎を受け入れるために作られている。	3.1.4 内容例示表で使用されている取り決め 「他に分類されないもの<NEC>」 「他に分類されないもの」という語句は、3桁分類項目のタイトルで使用された場合、掲載されている病態のある特定の変異型が、分類のその他の箇所に現れるかもしれないという警告として働いている。たとえば： J16 その他の感染病原体による肺炎、他に分類されないもの この分類項目は、J16.0 クラミジア肺炎及び J16.8 その他の明示された感染病原体による肺炎を含んでいる。多くのその他の項目が、明示された感染病原体による肺炎のために、第 X 章 (たとえば、J09-J15) 及びその他の章 (たとえば、P23.-先天性肺炎) に用意されている。J18 肺炎、病原体不詳は、感染病原体が記載されていない肺炎を受け入れるために作られている。	3.1.4 Conventions used in the tabular list <i>“Not elsewhere classified”</i> The words “not elsewhere classified”, when used in a three-character category title, serve as a warning that certain specified variants of the listed conditions may appear in other parts of the classification. For example: J16 Pneumonia due to other infectious organisms, not elsewhere classified This category includes J16.0 Chlamydial pneumonia and J16.8 Pneumonia due to other specified infectious organisms. Many other categories are provided in Chapter X (for example, J09-J15) and other chapters (for example, P23.- Congenital pneumonia) for pneumonias due to specified infectious organisms. J18 Pneumonia, organism unspecified, accommodates pneumonias for which the infectious agent is not stated.
9	4.1.4 死亡統計製表のための原死因の選択手順 単一の死因が死亡診断書に記載された場合は、この原因が製表に使用される。	4.1.4 死亡統計製表のための原死因の選択手順 単一の死因が死亡診断書に記載された場合は、 <u>単一死因ルールの適用により</u> 、この原因が製表に使用される。	4.1.4 Procedures for selection of the underlying cause of death for mortality tabulation When only one cause of death is reported, this cause is used for tabulation <u>by application of the one cause rule.</u>
10	4.1.4 死亡統計製表のための原死因の選択手順 ... それゆえ、次の段階は、上記の状況を取り扱う修正ルールAから F (4.1.9 節を参照) のうち一つ以上のものが...	4.1.4 死亡統計製表のための原死因の選択手順 ... それゆえ、次の段階は、上記の状況を取り扱う修正ルールAから <u>DF</u> (4.1.9 節を参照) のうち一つ以上のものが...	4.1.4 Procedures for selection of the underlying cause of death for mortality tabulation ... The next step therefore is to determine whether one or more of the modification rules A to <u>DF</u> (see section....)
11	4.1.5 原死因選択のルール	4.1.5 起点となる先行原因原死因選択のルール	4.1.5 Rules for selection of the originating antecedent cause
12	4.1.5 原死因選択のルール 上下の因果関係 (sequence) <ul style="list-style-type: none"> • 高血圧 (症) (による) 脳卒中 (による) 昏睡である。 	4.1.5 原死因選択のルール 上下の因果関係 (sequence) <ul style="list-style-type: none"> • 高血圧 (症) (による) 脳卒中 (による) 昏睡である。 <p>死亡診断書に複数の因果関係がある場合、最初に記載された因果関係の起因を確認することが重要である。そうでなければ、選択ルール及び修正ルールを正しく適用できなくなり、正しい原死因を選択することも</p>	4.1.5 Rules for selection of the originating antecedent cause <i>Sequence</i> Hypertension (leading to) cerebrovascular accident (leading to) coma; <u>If the death certificate has more than one sequence it is important to identify the originating cause of the first mentioned sequence. Otherwise, the selection and modification rules cannot be applied properly and the underlying cause will not be correctly selected.</u>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>できない。</p> <p>最初に記載された因果関係の起因を確認するには、直接死因（I 欄の最上欄に記載された病態）から始める。その下欄に記載された初めの病態が直接死因を引き起こし得るかを確認する。引き起こし得ない場合、その同じ欄に記載された次の病態が直接死因を引き起こし得るかを確認する。そのようにして、直接死因を引き起こし得る病態が見つかるまで続ける。見つかった病態を、以下においては「仮の起因」と呼ぶ。直接死因を引き起こし得る病態が記載されていない場合、直接死因で終わる因果関係は存在しないことになる。</p> <p>仮の起因を確定できたが、その下欄に他の病態の記載がある場合、下欄でも同じ作業を繰り返す。今度は、上記の方法で確定できた仮の起因から始めて、その下欄に記載された初めの病態が仮の起因を引き起こし得るかを確認する。引き起こし得ない場合、その同じ欄に記載された次の病態が仮の起因を引き起こし得るかを確認する。そのようにして、仮の起因を引き起こし得る病態が見つかるまで続ける。そのようにして見つかった病態が、新たな仮の起因になる。</p> <p>仮の起因を確定できたが、その下欄にさらに他の病態の記載がある場合、新たな仮の起因が見つかる限り、同じ作業を繰り返す。仮の起因を引き起こし得る病態がなくなったら、その最後の仮の起因が最初に記載された因果関係の起因として確定される。</p> <p>下図では、競合する因果関係の例を示した。黒の太い線で囲われた灰色の円が、最初に記載された因果関係の原死因を示す。</p> 	<p>To identify the originating cause of the first mentioned sequence, begin with the direct cause of death (the first mentioned condition on the highest used line in Part I). Establish whether the first condition listed on the next line in Part I can cause the direct cause of death. If it cannot, establish if the second condition listed on this line can cause the direct cause of death. Continue until a condition has been found that could cause the direct cause of death. This condition is referred to in the following as the “temporary originating cause”. If no condition is found that can cause the direct cause of death, there is no sequence ending with the direct cause of death.</p> <p>If a temporary originating cause has been found but there are conditions reported on lower lines in Part I, repeat the procedure for the next line. Now start with the temporary originating cause identified in the previous step. Establish whether the first condition listed on the next lower line in Part I can cause the temporary originating cause. If it cannot, establish if the second condition listed on that line can cause the temporary originating cause. Continue until a condition has been found that could cause the temporary originating cause. This is the new temporary originating cause.</p> <p>If a new temporary originating cause has been found but there are still conditions reported on lower lines in Part I, repeat the procedure for as long as a new temporary originating cause can be identified. When no condition can be found that could cause the temporary originating cause, the last identified temporary originating cause is also the originating cause of the first mentioned sequence.</p> <p>The following illustrate examples of competing sequences. The underlying cause of the first mentioned sequence is in grey with a bold black circle.</p> 
13	<p>4.1.7 一般原則と選択ルール</p> <p>一般原則</p> <p>死亡診断書に複数の病態が記載されている場合は、I 欄の最下欄に単独で記載された病態が、その上欄に記載されたすべての病態を引き起こす可能性がある場合に限り、その病態を選ぶ。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルール</p> <p>一般原則</p> <p>死亡診断書に複数の病態が記載されている場合は、I 欄の最下欄に単独で記載された病態が、その上欄に記載されたすべての病態を引き起こす可能性がある場合に限り、その病態を選ぶ。</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p><i>General Principle</i></p> <p>When more than one condition is entered on the certificate, select the condition entered alone on the lowest used line of Part I only if it could have given rise to all the conditions entered above it.</p> <p>Example 8: I (a) Cerebral haemorrhage (b) Hypertension</p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>例 8: I (a) 脳出血 (b) 高血圧 (症) (c) 慢性腎盂腎炎 (d) 前立腺腺腫</p> <p>前立腺腺腫 (N40) を選ぶ。</p>	<p>例 8: I (a) 脳出血 (b) 高血圧 (症) (c) 慢性腎盂腎炎 (d) 前立腺腺腫</p> <p>前立腺腺腫 (N40D29.1) を選ぶ。</p>	<p>(c) Chronic pyelonephritis (d) Prostatic adenoma</p> <p>Select prostatic adenoma (N40D29.1).</p>
14	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>一般原則</p> <p>例 10: I (a) 気管支肺炎 II 二次性貧血および慢性リンパ性白血病 気管支肺炎を選ぶ。しかし、ルール 3 もまた適用する；例 26 参照。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p> <p>一般原則</p> <p>例 10: I (a) 気管支肺炎 II 二次性貧血および慢性リンパ性白血病 気管支肺炎を選ぶ。しかし、ルール 3 もまた適用する；例 26 参照。</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p><i>General Principle</i></p> <p>...</p> <p><i>Example 10: I(a) Bronchopneumonia</i> II Secondary anaemia and chronic lymphatic leukaemia</p> <p>Select bronchopneumonia. But Rule 3 also applies; see Example 26</p>
15	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>A00 – B19、B25 – B49、B58 – B64、B99 または J12 – J18 に分類されるあらゆる感染症は、HIV病が記載されれば、その直接影響によるものと考えべきである。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p> <p>ルール 3</p> <p>A00 – B19、B25 – B49、B58 – B64、B99 または J12 – J18 に分類される4.2.2 A.(a)節に列挙する感染症以外のあらゆる感染症は、HIV病が記載されれば、その直接影響によるものと考えべきである。</p>	<p>4.1.7</p> <p>Rule 3</p> <p>Any infectious disease classifiable to A00 B19, B25 B49, B58 B64, B99 or J12 J18 aside from those listed in section 4.2.2 A.(a) should be considered to be a direct consequence of reported HIV disease.</p>
16	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>他の病態から直接生じたと推定できる場合について</p> <p>A00 – B19、B25 – B49、B58 – B64、B99 または J12 – J18 に分類されるあらゆる感染症は...</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>他の病態から直接生じたと推定できる場合について</p> <p>A00 – B19、B25 – B49、B58 – B64、B99 又は J12 – J18 に分類されるあらゆる感染症は...</p> <p>いくつかの病態については、死亡より 4 週間以内に医療行為が行われた場合には、その直接影響によるものであると考えられる。付録@@に、そのような合併症を記載する。</p> <p>付録@@：医療行為の直接影響によると思われる病態のリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 本リストに掲載する病態は、死亡より 4 週間以内に医療行為が行われた場合には、その直接影響によるものであると考えべきである。 医療行為が行われる前にその病態がすでに存在していた証拠がある場合は、医療行為の直接影響によるものであると考えべきではない。 	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>...</p> <p>Rule 3</p> <p>...</p> <p><i>Assumed direct consequences of another condition</i></p> <p>...</p> <p>Any infectious diseases ...</p> <p><u>Certain conditions should be considered direct consequences of a medical procedure, if the procedure was carried out within four weeks before death. A list of such complications can be found in Appendix @@.</u></p> <p><u>Appendix @@: List of conditions to be considered direct consequences of medical procedures</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>A condition on the list should be considered a direct consequence of a medical procedure if the procedure was carried out within four weeks before death.</u> <u>No condition on the list should be considered a direct consequence of a procedure if there is evidence that the condition was present before the procedure was carried out.</u> <u>A condition flagged with "OCPR" (Other Cause of Procedure</u>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「OCPR」（医療行為が行われる別の理由の記載が必要（Other Cause of Procedure Required））の符号のある病態は、医療行為が行われる別の理由が死亡診断書に記載されているときのみ医療行為の結果として生じたものとする。 「DSAP」（医療行為後に発生したことを示す期間の記載が必要（Duration Stated, developed After Procedure））の符号のある病態は、その病態が医療行為後に起きたことを明確に示す証拠があるときのみ医療行為の結果として生じたものとする。 癒着については、医療行為が癒着の起きた部位に対して行われた場合、死亡より4週間以内でなくても、その医療行為の結果として生じたものとする。ただし、その医療行為が死亡より1年以上前に行われた場合は、医療ケアの続発・後遺症のコードを使用する。 <p><u>感染症</u></p> <p><u>膿瘍</u> OCPR</p> <p><u>菌血症</u></p> <p><u>瘻孔</u> OCPR 及び同じ部位に対して行われた医療行為の場合のみ</p> <p><u>ガス壊疽</u></p> <p><u>感染, 溶血性</u></p> <p><u>感染 NOS</u> DSAP</p> <p><u>手術創感染</u></p> <p><u>敗血症</u></p> <p><u>出血, 溶血</u></p> <p><u>凝固障害, 消費性</u></p> <p><u>DIC（汎発性血管内凝固）</u></p> <p><u>出血 NOS</u></p> <p><u>胃腸出血</u> OCPR</p> <p><u>腹腔内出血</u> OCPR</p> <p><u>直腸出血</u> OCPR</p> <p><u>手術創出血</u></p> <p><u>明示された部位の出血</u> 同じ部位に対して行われた医療行為の場合のみ</p> <p><u>吐血</u> OCPR</p> <p><u>血腫</u> OCPR</p> <p><u>血胸</u> OCPR</p> <p><u>溶血</u></p>	<p>Required) should be considered an obvious consequence of a procedure only if another reason for performing the procedure is indicated on the certificate.</p> <ul style="list-style-type: none"> A condition flagged with “DSAP” (Duration Stated, developed After Procedure) should be considered an obvious consequence of a medical procedure only if there is clear evidence that the condition developed after the procedure. Adhesions should be considered an obvious consequence of a procedure in the same site or region, even after more than four weeks. If the procedure was performed more than one year before death, use the codes for sequelae of medical care. <p><u>Infections</u></p> <p><u>abscess</u> OCPR</p> <p><u>bacteraemia</u></p> <p><u>fistula</u> OCPR, and for a procedure of the same site or region only</p> <p><u>gas gangrene</u></p> <p><u>infection, haemolytic</u></p> <p><u>infection NOS</u> DSAP</p> <p><u>infection in surgical wound</u></p> <p><u>septicaemia</u></p> <p><u>septic</u></p> <p><u>Haemorrhage, haemolysis</u></p> <p><u>coagulopathy, consumption</u></p> <p><u>DIC (disseminated intravascular coagulation)</u></p> <p><u>haemorrhage NOS</u></p> <p><u>haemorrhage, gastrointestinal</u> OCPR</p> <p><u>haemorrhage, intraabdominal</u> OCPR</p> <p><u>haemorrhage, rectal</u> OCPR</p> <p><u>haemorrhage, surgical wound</u></p> <p><u>haemorrhage, specified site</u> for a procedure of the same site or region only</p> <p><u>haematemesis</u> OCPR</p> <p><u>haematoma</u> OCPR</p> <p><u>haemothorax</u> OCPR</p> <p><u>haemolysis</u></p> <p><u>melaena</u> OCPR</p> <p><u>Cardiac complications</u></p> <p><u>arrest, cardiac</u></p> <p><u>arrhythmia NOS</u> DSAP</p> <p><u>asystole</u></p> <p><u>block, cardiac</u> DSAP</p> <p><u>failure/insufficiency, cardiac</u></p> <p><u>fibrillation, atrial</u> DSAP</p> <p><u>fibrillation, ventricular</u></p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO 勧告 (原文)
		<p><u>下血</u> O CPR</p> <p><u>心臓の合併症</u></p> <p><u>心停止</u></p> <p><u>不整脈 NOS</u> DSAP</p> <p><u>無収縮</u></p> <p><u>心ブロック</u> DSAP</p> <p><u>心不全</u></p> <p><u>心房細動</u> DSAP</p> <p><u>心室細動</u></p> <p><u>梗塞 (心筋)</u></p> <p><u>虚血, 心筋 (急性)</u></p> <p><u>破裂, 心筋</u></p> <p><u>脳血管及びその他の脳の合併症</u></p> <p><u>脳卒中</u> DSAP</p> <p><u>脳損傷 (無酸素性)</u> DSAP</p> <p><u>脳塞栓症</u> DSAP</p> <p><u>脳出血</u> DSAP</p> <p><u>脳梗塞</u> DSAP</p> <p><u>脳虚血</u> DSAP</p> <p><u>脳又は脳血管の病変</u> DSAP</p> <p><u>髄膜炎</u> DSAP</p> <p><u>脳浮腫</u> DSAP</p> <p><u>脳卒中</u> DSAP</p> <p><u>脳血栓</u> DSAP</p> <p><u>その他の血管の合併症</u></p> <p><u>循環停止</u></p> <p><u>塞栓症 (動脈)</u></p> <p><u>塞栓症 (脂肪、空気)</u></p> <p><u>塞栓症 (肺)</u></p> <p><u>塞栓症 (静脈)</u></p> <p><u>循環不全</u></p> <p><u>低血圧</u></p> <p><u>肺梗塞</u></p> <p><u>梗塞 (すべての部位)</u></p> <p><u>閉塞 (すべての部位)</u></p>	<p><u>infarction (myocardial)</u></p> <p><u>ischaemia, myocardial (acute)</u></p> <p><u>rupture, myocardial</u></p> <p><i>Cerebrovascular and other cerebral complications</i></p> <p><u>apoplexy</u> DSAP</p> <p><u>damage, brain (anoxic)</u> DSAP</p> <p><u>embolism, cerebral</u> DSAP</p> <p><u>haemorrhage, cerebral/intracranial</u> DSAP</p> <p><u>infarction, cerebral</u> DSAP</p> <p><u>ischaemia, cerebral/cerebrovascular</u> DSAP</p> <p><u>lesion, cerebral/cerebrovascular</u> DSAP</p> <p><u>meningitis</u> DSAP</p> <p><u>oedema, cerebral</u> DSAP</p> <p><u>stroke</u> DSAP</p> <p><u>thrombosis, cerebral</u> DSAP</p> <p><i>Other vascular complications</i></p> <p><u>arrest, circulatory</u></p> <p><u>embolism (arterial)</u></p> <p><u>embolism, fat/air</u></p> <p><u>embolism, pulmonary</u></p> <p><u>embolism, venous</u></p> <p><u>failure/insufficiency, circulatory</u></p> <p><u>hypotension</u></p> <p><u>infarction, pulmonary</u></p> <p><u>infarction (any site)</u></p> <p><u>occlusion (any site)</u></p> <p><u>phlebitis (any site)</u></p> <p><u>phlebothrombosis (any site)</u></p> <p><u>thrombophlebitis (any site)</u></p> <p><u>thrombosis, arterial</u></p> <p><u>thrombosis, venous</u></p> <p><u>thrombosis NOS (any site)</u></p> <p><i>Respiratory complications</i></p> <p><u>alkalosis and acidosis, respiratory</u></p> <p><u>ARDS (adult respiratory distress syndrome)</u></p> <p><u>arrest, respiratory</u></p> <p><u>aspiration</u></p> <p><u>atelectasis</u></p> <p><u>bronchitis</u> DSAP</p> <p><u>effusion, pleura</u></p> <p><u>empyema</u> O CPR</p> <p><u>fistula, bronchopleural or oesophageal</u> O CPR</p> <p><u>failure/insufficiency, pulmonary</u></p> <p><u>failure/insufficiency, respiratory</u></p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO 勧告 (原文)
		静脈炎 (すべての部位) 静脈血栓症 (すべての部位) 血栓性静脈炎 (すべての部位) 動脈血栓症 静脈血栓症 血栓症 NOS (すべての部位) 呼吸器の合併症 呼吸性アルカローシス及び呼吸性アシドーシス ARDS (成人呼吸促迫症候群) 呼吸停止 誤嚥 無気肺 気管支炎 DSAP 胸水 蓄膿 O CPR 気管胸膜瘻又は食道瘻 O CPR 肺動脈弁閉鎖不全症 呼吸不全 縦隔炎 上気道閉塞 O CPR 喉頭浮腫 O CPR 肺水腫又は肺の血液沈滞 肺炎 気胸 O CPR 胃腸の合併症 O CPR O CPR 腹腔内膿瘍 O CPR 便秘 O CPR 胃拡張 O CPR 循環障害又は胃腸障害 O CPR 腸間膜塞栓症 O CPR 肝不全 DSAP 胆汁瘻、腸瘻、直腸瘻 O CPR イレウス O CPR 腸虚血 O CPR 胃腸壊死 O CPR 腸 (機械的) 閉塞 O CPR	mediastinitis obstruction, upper airway O CPR oedema, laryngeal O CPR oedema/hypostasis, pulmonary pneumonia pneumothorax O CPR <i>Gastrointestinal complications</i> abscess, intra-abdominal O CPR constipation O CPR dilatation, gastric O CPR disorder, circulatory, gastrointestinal O CPR embolism, mesenterial O CPR failure, hepatic DSAP fistula, biliary/ bowel/rectovaginal O CPR ileus O CPR ischaemia, intestinal O CPR necrosis, gastrointestinal O CPR obstruction, bowel (mechanical) O CPR peritonitis O CPR ulcer, gastrointestinal (stress) O CPR volvulus O CPR <i>Renal and urinary complications</i> anuria failure/insufficiency, renal fistula, urinary O CPR infection, urinary pyelonephritis DSAP retention, urine stricture, urethra O CPR uraemia urosepsis <i>Other complications</i> <u>Adhesions for a procedure of the same site or region only</u> shock NOS shock, anaphylactic "complication(s)" NOS crisis, thyrotoxic DSAP displacement, prosthesis failure, (multi)organ gangrene insufficiency, anastomosis O CPR necrosis, fat/wound O CPR syndrome, compartment O CPR seizures (epileptic) DSAP

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>腹膜炎 O CPR 胃腸（ストレス）潰瘍 O CPR 軸捻 O CPR</p> <p>腎臓及び泌尿器の合併症 無尿 腎不全 尿瘻 O CPR 尿路感染 腎盂腎炎 DSAP 尿閉 尿道狭窄 O CPR 尿毒症 尿路性敗血症</p> <p>その他の合併症</p> <p>癒着 同じ部位に対して行われた医療行為の場合のみ</p> <p>ショック NOS アナフィラキシーショック 「合併症」NOS 甲状腺クリーゼ DSAP 人工補装具のずれ （多）臓器不全 壊疽 不十分な吻合 O CPR 脂肪壊死、創傷の壊死 O CPR コンパートメント症候群 O CPR てんかん発作 DSAP 褥瘡性潰瘍</p>	<p><u>ulcer, decubitus</u></p>
17	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示 ルール 3 ... いくつかの術後合併症...</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示 ルール 3 ... <u>クロストリジウム・ディフィシルによる全腸炎は、抗生物質療法の結果として生じたものとして想定されるべきである。</u> ... いくつかの術後合併症...</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules ... Rule 3 ... <u>Enterocolitis due to <i>Clostridium difficile</i> should be assumed to be an obvious consequence of antibiotic therapy.</u> ... Certain postoperative complications...</p>
18	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		心不全 (I50.-) 及び心疾患, 詳細不明 (I51.9) は、他の心臓の病態の明らかな結果と考えるべきである。	<u>Heart failure (I50.-) and unspecified heart disease (I51.9) should be considered an obvious consequence of other heart conditions.</u>
19	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>...</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>心不全 (I50.-) および心疾患, 詳細不明 (I51.9) は、他の心臓の病態の結果として生じたと考えるべきである。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>...</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>心不全 (I50.-) 及び心疾患, 詳細不明 (I51.9) は、他の心臓の病態の結果として生じたと考えるべきである。</p> <p><u>食道静脈瘤 (I85.-) は、B18.-、K70.-、K73.-、K74.-及び K76.-に分類される肝疾患の結果として生じたと考えるべきである。</u></p>	<p>Section 4.1.7</p> <p>...</p> <p>Rule 3</p> <p>...</p> <p>Heart failure (I50.-) and unspecified heart disease (I51.9) should be considered an obvious consequence of other heart conditions.</p> <p><u>Oesophageal varices (I85.-) should be considered an obvious consequence of liver diseases classifiable to B18.-, K70.-, K73.-, K74.-, and K76.-.</u></p>
20	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p> <p>ルール 3</p> <p><u>肺水腫 (J81) は、心疾患 (肺性心疾患を含む)、肺実質に影響のある病態 (肺感染症、誤嚥及び吸入、呼吸窮迫症候群、高地、毒素循環等)、体液過剰を起こす病態 (腎不全、低アルブミン血症等)、肺循環に影響のある先天奇形 (肺静脈の先天性狭窄等) の明らかな結果と考えるべきである。</u></p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>Rule 3</p> <p>Pulmonary edema (J81) should be considered an obvious consequence of heart disease (including pulmonary heart disease); of conditions affecting the lung parenchyma, such as lung infections, aspiration and inhalation, respiratory distress syndrome, high altitude, and circulating toxins; of conditions causing fluid overload, such as renal failure and hypoalbuminemia; and of congenital anomalies affecting the pulmonary circulation, such as congenital stenosis of pulmonary veins.</p>
21	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>ルール 3</p> <p>J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は明らかに次の疾患によって生じたと考えられる。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調 (症) といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J18.0 および J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は嚥下機能に影響を与える疾患が原因となっていると考えるべきである。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例</p> <p>ルール 3</p> <p><u>大葉性肺炎, 詳細不明 (J18.1) は、アルコール使用による依存症候群 (F10.2) の明らかな結果と考えるべきである。J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J15.0-15.6、J15.8-J15.9、J16.8、J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は次の疾患の明らかな結果と考えるべきである。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調 (症) といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J15.0-15.6、J15.8-J15.9、J16.8、J18.0 及び J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は、嚥下機能に影響を与える疾患の明らかな結果と考えるべきである。J18.0-の肺炎 (大葉性肺炎を除く) が不動症又は可動性の減少とともに記載された場合は、J18.2 にコードするべきである。</u></p> <p>J12-J18 にある各種肺炎は、免疫機能を低下させる病態の結果として生じたと考えるべきである。J18.0 と J18.2-J18.9 項目の肺炎は明らかに次の疾患によって生じたと考えられる。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調 (症) といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、呼吸器疾患や、伝染病、重症な損傷があげられる。J18.0 および J18.2-J18.9、J69.0 と J69.8 項目の肺炎は嚥下機能に</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>Rule 3</p> <p><u>Lobar pneumonia, unspecified (J18.1) should be considered an obvious consequence of dependence syndrome due to use of alcohol (F10.2). Any pneumonia in J12-J18 should be considered an obvious consequence of conditions that impair the immune system. Pneumonia in <u>J15.0-15.6, J15.8-J15.9, J16.8, J18.0 and J18.2-J18.9</u> should be considered an obvious consequence of wasting diseases (such as malignant neoplasm and malnutrition) and diseases causing paralysis (such as cerebral haemorrhage or thrombosis), as well as serious respiratory conditions, communicable diseases, and serious injuries. Pneumonia in <u>J15.0-15.6, J15.8-J15.9, J16.8, J18.0 and J18.2-J18.9, J69.0, and J69.8</u> should also be considered an obvious consequence of conditions that affect the process of swallowing. <u>Pneumonia in J18.- (except lobar pneumonia) reported with immobility or reduced mobility should be coded to J18.2.</u></u></p>

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		影響を与える疾患が原因となっていると考えるべきである。	
22	<p>「塞栓症」という記載または診断を受けた疾病は、静脈血栓症、静脈炎、血栓性静脈炎、弁膜性心疾患、分娩またはその他の手術によって、直接生じたと考えられる。ただし、どこで血栓が形成され、その血栓がどこに飛んで塞栓となったかをはっきり明記していなければならない。静脈血栓症または血栓性静脈炎は肺塞栓症の原因となりうる。左心系（僧房弁や大動脈弁）で作られた血栓、または心房細動による血栓は体内循環の動脈塞栓症の原因となりうる。同様に、右心系の弁（三尖弁や肺動脈弁）周囲に形成される血栓は、肺（動脈）塞栓の原因となりうる。また、左心系の血栓は心臓の中隔欠損症を通過して右心系に通過する場合がある。</p>	<p>その他の一般的な続発性の病態（肺塞栓症、褥瘡性潰瘍、膀胱炎等）は、次の疾患の明らかな結果と考えるべきである。すなわち、悪性腫瘍や栄養失調（症）といった消耗性疾患、脳出血や脳塞栓症といった麻痺を起こす疾患、また、伝染病や重症な損傷があげられる。ただし、そのような続発性の病態は、呼吸器疾患の明らかな結果と考えるべきではない。</p> <p>「塞栓症」という記載または診断を受けた疾病は、静脈血栓症、静脈炎、血栓性静脈炎、弁膜性心疾患、分娩またはその他の手術によって、直接生じたと考えられる。ただし、どこで血栓が形成され、その血栓がどこに飛んで塞栓となったかをはっきり明記していなければならない。静脈血栓症または血栓性静脈炎は肺塞栓症の原因となりうる。左心系（僧房弁や大動脈弁）で作られた血栓、または心房細動による血栓は体内循環の動脈塞栓症の原因となりうる。同様に、右心系の弁（三尖弁や肺動脈弁）周囲に形成される血栓は、肺（動脈）塞栓の原因となりうる。また、左心系の血栓は心臓の中隔欠損症を通過して右心系に通過する場合がある。</p>	<p><u>Other common secondary conditions (such as pulmonary embolism, decubitus ulcer, and cystitis) should be considered an obvious consequence of wasting diseases (such as malignant neoplasms and malnutrition) and diseases causing paralysis (such as cerebral haemorrhage or thrombosis) as well as communicable diseases, and serious injuries. However, such secondary conditions should not be considered an obvious consequence of respiratory conditions.</u></p>
23	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示 ... ルール 3 ... 他の病態から直接生じたと推定できる場合について</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示 ... ルール 3 ... 他の病態から直接生じたと推定できる場合について</p> <p>アシドーシス (E87.2); その他の明示された代謝障害 (E88.8); その他の単ニューロパチ<シ>- (G58.-); 多発 (性) ニューロパチ<シ>- , 詳細不明 (G62.9); 末梢神経系のその他の障害 (G64); その他の原発性筋障害 (G71.8) において他に記載のない筋萎縮、自律神経系の障害、詳細不明 (G90.9)、神経痛及び神経炎、詳細不明 (M79.2); 虹彩毛様体炎 (H20.9); 白内障、詳細不明 (H26.9); 網脈絡膜の炎症、詳細不明 (H30.9); 網膜血管閉塞症 (H34); 背景網膜症及び網膜血管変化 (H35.0); その他の増殖性網膜症 (H35.2); 網膜出血 (H35.6); 網膜障害、詳細不明 (H35.9); 末梢血管疾患、詳細不明 (I73.9); (四) 肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化 (症) (I70.2); 関節炎、詳細不明 (M13.9); ネフローゼ症候群 (N03- N05); 慢性腎臓病、詳細不明 (N18.9 N18.-); 詳細不明の腎不全 (N19); 詳細不明の萎縮腎 (N26); 腎及び尿管の障害、詳細不明 (N28.9) における腎疾患、ならびに持続性たんぱく<蛋白>尿、詳細不明 (N39.1); え<壊>疽、他に分類されないもの (R02); 昏睡、詳細不明 (R40.2); 及びその他の明示された血液化学的異常所見 (R79.8) でアセトン血症、高窒素血症、及び関連する病態に関連するものについては、糖尿病 (E10-E14) の明らかな結果と考えるべきである。</p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>Rule 3 ... <i>Assumed direct consequences of another condition</i></p> <p><u>Acidosis (E87.2); Other specified metabolic disorders (E88.8); Other mononeuropathies (G58.-); Polyneuropathy, unspecified (G62.9); Other disorders of peripheral nervous system (G64); amyotrophy not otherwise specified in Other primary disorders of muscles (G71.8). Disorder of autonomic nervous system, unspecified (G90.9), and Neuralgia and neuritis, unspecified (M79.2); Iridocyclitis (H20.9); Cataract, unspecified (H26.9); Chorioretinal inflammation, unspecified (H30.9); Retinal vascular occlusions (H34); Background retinopathy and retinal vascular changes (H35.0); Other proliferative retinopathy (H35.2); Retinal haemorrhage (H35.6); Retinal disorder, unspecified (H35.9); Peripheral vascular disease, unspecified (I73.9); Atherosclerosis of arteries of extremities (I70.2); Arthritis, unspecified (M13.9); Nephrotic syndrome (N03-N05); Chronic kidney disease, (N18.-); Unspecified kidney failure (N19); Unspecified contracted kidney (N26); renal disease in Disorder of kidney and ureter, unspecified (N28.9) and Persistent proteinuria, unspecified (N39.1); Gangrene, not elsewhere classified (R02); Coma, unspecified (R40.2); and Other specified abnormal findings of blood chemistry (R79.8) for acetonemia, azotemia, and related conditions should be considered an obvious consequence of Diabetes mellitus (E10-E14).</u></p>

2010

2013

No.	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		アシドーシス (E87.2); その他の明示された代謝障害 (E88.8); その他の単ニューロパチ<シ>- (G58.-); 多発(性)ニューロパチ<シ>- , 詳細不明 (G62.9); 末梢神経系のその他の障害 (G64); その他の原発性筋障害 (G71.8) において他に記載のない筋萎縮; 自律神経系の障害, 詳細不明 (G90.9); 神経痛および神経炎, 詳細不明 (M79.2) ; 虹彩毛様体炎 (H20.9); 白内障、詳細不明 (H26.9); 網脈絡膜の炎症, 詳細不明 (H30.9); 網膜血管閉塞症 (H34); 背景網膜症及び網膜血管変化 (H35.0); その他の増殖性網膜症 (H35.2); 網膜出血 (H35.6); 網膜障害, 詳細不明 (H35.9) 末梢血管疾患, 詳細不明 (I73.9) ; (四) 肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化(症) (I70.2); 末梢血管疾患, 詳細不明 (I73.9); リポイド類え<壊>死症, 他に分類されないもの (L92.1); 下肢の潰瘍, 他に分類されないもの (L97); 関節炎, 詳細不明 (M13.9); 神経痛及び神経炎, 詳細不明 (M79.2); 骨障害, 詳細不明 (M89.9); ネフローゼ症候群 (N03- N05); 慢性腎疾患 (N18.-); 詳細不明の腎不全 (N19); 詳細不明の萎縮腎 (N26); 腎及び尿管の障害, 詳細不明 (N28.9) における腎疾患; 一ならびに持続性たんぱく<蛋白>尿, 詳細不明 (N39.1); え<壊>疽, 他に分類されないもの (R02); 昏睡, 詳細不明 (R40.2); 及びその他の明示された血液化学的異常所見 (R79.8) でアセトン血症、高窒素血症、及び関連する病態に関連するものについては、糖尿病 (E10-E14) の明らかな結果と考えるべきである。	Acidosis (E87.2); Other specified metabolic disorders (E88.8); Other mononeuropathies (G58.-); Polyneuropathy, unspecified (G62.9); Other disorders of peripheral nervous system (G64); Myoneural disorder, unspecified (G70.9) ; Amyotrophy not otherwise specified in Other primary disorders of muscles (G71.8), Disorder of autonomic nervous system, unspecified (G90.9), Iridocyclitis, unspecified (H20.9); Cataract, unspecified (H26.9); Chorioretinal inflammation, unspecified (H30.9); Retinal vascular occlusions (H34); Back ground retinopathy and retinal vascular changes (H35.0); Other proliferative retinopathy (H35.2); Retinal haemorrhage (H35.6); Retinal disorder, unspecified (H35.9); Paralytic strabismus, unspecified (H49.9); Blindness and low vision (H54); Atherosclerosis of arteries of extremities (I70.2); Peripheral vascular disease, unspecified (I73.9); Angiopathy in Other and unspecified disorders of circulatory system (I99); Dermatitis, unspecified (L30.9); Necrobiosis lipoidica, not elsewhere classified (L92.1); Ulcer of lower limb, not elsewhere classified (L97); Arthritis, unspecified (M13.9); Neuralgia and neuritis, unspecified (M79.2); Disorder of bone, unspecified (M89.9); Nephrotic syndrome (N03- N05); Chronic kidney disease (N18.-); Unspecified kidney failure (N19); Unspecified contracted kidney (N26); Renal disease in Disorder of kidney and ureter, unspecified (N28.9); Urinary tract infection site not specified (N39.0); Persistent proteinuria, unspecified (N39.1); Gangrene, not elsewhere classified (R02); Coma, unspecified (R40.2); and Acetonemia, azotemia, and related conditions in Other specified abnormal findings of blood chemistry (R79.8) should be considered an obvious consequence of Diabetes mellitus (E10-E14).
24		下記のリストに記載の分類項目は、消耗性疾患及び麻痺を起こす病態の明らかな結果と考えるべきである。「M」の符号のある分類項目の病態は、最右欄に記載のコーディングの前提条件を満たした場合のみ、「消耗性疾患及び麻痺を起こす疾患」のリストに記載の病態の明らかな結果と考えるべきである。	Conditions in the following categories should be considered obvious consequences of the conditions listed in the “wasting and paralyzing diseases” list. Conditions in categories flagged with an ‘M’ (Maybe) should be considered obvious consequences of the conditions listed in the “wasting and paralyzing diseases” list only if they meet the prerequisite for code assignment noted in the final column of the table.

Code(s)	Description	Condit ional Respo nse	Qualifier
E86	Volume depletion		
G81-G83	Other paralytic syndromes		
I26.0-I26.9	Pulmonary embolism		
I74.2-I74.4	Arterial embolism and thrombosis of extremities		
I80.1-I80.3	Phlebitis and thrombophlebitis of lower extremities		
I80.9	Phlebitis and thrombophlebitis of unspecified site		
I82.9	Embolism and thrombosis of unspecified vein		

コード	記載	条件的 対応	条件
E86	体液量減少 (症)		
G81 - G83	その他の麻痺症候群		
I26.0 - I26.9	肺塞栓症		
I74.2 - I74.4	(四) 肢の動脈の塞栓症及び血栓症		
I80.1 - I80.3	下肢の静脈炎及び血栓 (性) 静脈炎		
I80.9	部位不明の静脈炎及び血栓 (性) 静脈炎		
I82.9	部位不明の静脈の塞栓症及び血栓症		

K55.0	Acute vascular disorder of intestine	M	The condition in K55.0 must be specified as an embolism
K56.4	Other impaction of intestine		
K59.0	Constipation		
L89	Decubitus ulcer		
N10-N12	Tubulo-interstitial nephritis	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N17, N19	Renal failure <u>Kidney disease, acute or unspecified</u>		
N28.0	Ischaemia and infarction of kidney	M	The condition in N28.0 must be specified as an embolism of the renal artery
N30.0-N30.2	Cystitis, acute, interstitial and other chronic	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N30.9	Cystitis, unspecified	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N31	Neuromuscular dysfunction of bladder, not elsewhere classified		
N34.0-N34.2	Urethritis	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N35.1-N35.9	Urethral stricture (non-traumatic)	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder
N39.0	Urinary tract infection, site not specified	M	Diseases causing paralysis or inability to control bladder

K55.0	腸の急性血行障害	M	K55.0 の病態が塞栓症であることの記載がなければならぬ
K56.4	その他の腸かん<嵌>頓		
K59.0	便秘		
L89	じょく<褥>瘡性潰瘍		
N10-N12	尿細管間質性腎炎	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N17, N19	腎臓病、急性又は詳細不明		
N28.0	腎虚血及び腎梗塞	M	N28.0 の病態が腎動脈の塞栓症であることの記載がなければならぬ
N30.0-N0.2	膀胱炎、急性、間質性、その他の慢性	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N30.9	膀胱炎、詳細不明	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N31	神経因性膀胱（機能障害）、他に分類されないもの		
N34.0-N34.2	尿道炎	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N35.1-N35.9	尿道狭窄（非外傷性）	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患
N39.0	尿路感染症、部位不明	M	麻痺又は膀胱の制御不能を起こす疾患

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
25	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>...</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>体循環の動脈塞栓症は、～心房細動の結果生じたのは明白である、と考えるはならない。</p>	<p>4.1.7 一般原則と選択ルールの例示</p> <p>...</p> <p>ルール 3</p> <p>...</p> <p>体循環の動脈塞栓症は、～心房細動の結果生じたのは明白である、と考えるはならない。</p> <p><u>詳細不明の認知症 (F03) 及びアルツハイマー <Alzheimer> 病 (G30.-) は、明らかにダウン <Down> 症候群 (Q90.-) の結果として生じたものと考えべきである。</u></p>	<p>4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules</p> <p>...</p> <p>Rule 3</p> <p>...</p> <p>Arterial embolism in the systemic circulation . . . an obvious consequence of atrial fibrillation</p> <p><u>Unspecified dementia (F03) and Alzheimer' s disease (G30.-) should be considered an obvious consequence of Down' s syndrome(Q90.-).</u></p>
26	<p>腎炎症候群は、猩紅熱やレンサ球菌性の咽頭痛といったレンサ球菌感染症によって生じたと考えられる。急性腎不全が、尿路感染症の発症前から存在していたという証拠がなければ、尿路感染症によって生じたと考える。</p>	<p>腎炎症候群は、猩紅熱や連鎖球菌性の咽頭痛といった連鎖球菌感染症の結果と推定できるによって生じたと考えられる。</p> <p><u>急性腎不全が、尿路感染症の発症前から存在していたという証拠がなければ、尿路感染症の明らかな結果と推定すべきであるによって生じたと考える。</u></p>	<p>Nephritic syndrome may be assumed to be a consequence of any streptococcal infection (scarlet fever, streptococcal sore throat, etc).</p> <p><u>Acute renal failure should be assumed as an obvious consequence of a urinary tract infection, provided that there is no indication that the renal failure was present before the urinary tract infection.</u></p>
27	<p>脱水は、腸管感染症の影響によるものと考えられる。</p>	<p>脱水は、腸管感染症の影響によるもの<u>明らかな結果</u>と考えられるべきである。</p> <p><u>新生児原発性無気肺 (P28.0) は、先天的な腎臓の病態 (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4) 、前期破水 (P01.1) 、及び羊水過少症 (P01.2) の直接影響によるものと推定すべきである。</u></p> <p><u>前期破水又は羊水過少症により影響を受けた胎児及び新生児 (P01.1-P01.2) は、先天的な腎臓の病態 (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4) の直接影響によるものと推定すべきである。</u></p>	<p>Dehydration may be should be considered assumed to be a <u>an obvious consequence of any intestinal infectious disease.</u></p> <p><u>Primary atelectasis of newborn (P28.0) should be considered an obvious consequence of congenital kidney conditions (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4), premature rupture of membranes (P01.1), and oligohydramnios (P01.2).</u></p> <p><u>Fetus and newborn affected by premature rupture of membranes or oligohydramnios (P01.1-P01.2) should be assumed to be a direct consequence of congenital kidney conditions (Q60, Q61.0-Q61.1, Q61.3-Q61.9, Q62.1, Q62.3, Q62.4).</u></p>
28	<p>ある臓器についての手術は、死亡診断書のどこかに記載された同じ臓器のすべての外科的病態 (悪性新生物または損傷のような病態) の直接影響と考えるべきである。</p>	<p>ある臓器についての手術は、死亡診断書のどこかに記載された同じ臓器のすべての外科的病態 (悪性腫瘍新生物又は損傷のような病態) の直接影響によるもの<u>と考えるべきである。</u></p> <p><u>出血は、抗凝固薬の中毒又は過剰量の明らかな結果と考えるべきである。ただし、中毒又は過剰量の記載がない場合は、出血が、抗凝固療法の明らかな結果と考えるべきではない。胃出血は、ステロイド、アスピリン及び非ステロイド性抗炎症薬 (NSAID)の明らかな結果と考えるべきである。</u></p> <p><u>精神遅滞は、P00-P04 (母体側要因ならびに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児) 、P05 (胎児発育遅延<成長遅滞> 及び胎児栄養失調 (症)) 、P07 (妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの) 、P10 (出産損傷による頭蓋内裂傷及び出血) 、P11.0 (出産損傷による脳浮腫) 、P11.1</u></p>	<p>An operation on a given organ should be considered a direct consequence of any surgical condition (such as malignant tumour or injury) of the same organ reported anywhere on the certificate.</p> <p><u>Haemorrhage should be considered an obvious consequence of anticoagulant poisoning or overdose. However, haemorrhage should not be considered an obvious consequence of anticoagulant therapy without mention of poisoning or overdose. Gastric haemorrhage should be considered an obvious consequence of steroid, aspirin, and nonsteroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs).</u></p> <p><u>Mental retardation should be considered an obvious consequence of perinatal conditions in P00-P04 (Fetus and newborn affected by maternal factors and by complications of pregnancy, labour and delivery), P05 (Slow fetal growth and fetal malnutrition), P07 (Disorders related to short gestation and low birth weight, not elsewhere classified), P10 (Intracranial laceration and haemorrhage due to birth injury), P11.0 (Cerebral oedema due to birth injury), P11.1 (Other specified brain damage due to birth injury), P11.2</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		(出産損傷によるその他の明示された脳傷害)、P11.2(出産損傷による詳細不明の脳傷害)、P11.9(中枢神経系の出産損傷、詳細不明)、P15.9(出産損傷、詳細不明)、P20(子宮内低酸素症)、P21(出生時仮死)、P35(先天性ウイルス疾患)、P37(その他の先天性感染症及び寄生虫病)、P52(胎児及び新生児の頭蓋内非外傷性出血)、P57(核黄疸)、P90(新生児のけいれん<痙攣>)及びP91(新生児の脳のその他の機能障害)における、周産期の病態の明らかな結果と考えるべきである。	(Unspecified brain damage due to birth injury), P11.9 (Birth injury to central nervous system, unspecified), P15.9 (Birth injury, unspecified), P20 (Intrauterine hypoxia), P21 (Birth asphyxia), P35 (Congenital viral diseases), P37 (Other congenital infectious and parasitic diseases), P52 (Intracranial nontraumatic haemorrhage of fetus and newborn), P57 (Kernicterus), P90 (Convulsions of newborn) and P91 (Other disturbances of cerebral status of newborn).]
29	4.1.7 一般原則と選択ルール の例示 ルール3 例 25 : I (a) 脳のトキソプラズマ症および帯状疱疹 [帯状ヘルペス] (b) バーキット<Burkitt>リンパ腫、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病	4.1.7 一般原則と選択ルール の例示 ルール3 例 25 : I (a) 脳のトキソプラズマ症及び帯状疱疹 [帯状ヘルペス] II (b) バーキット<Burkitt>リンパ腫、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病	4.1.7 Examples of the General Principle and selection rules Rule 3 Example 25: I (a) Cerebral toxoplasmosis and herpes zoster II (b) Burkitt lymphoma, HIV disease
30	4.1.9 修正ルール ルールA 老衰およびその他の診断名不明確の病態 選ばれた死因が不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その不明確な診断名が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態によってコード番号が変わる場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。: I46.9 心停止(詳細不明); I95.9 低血圧(詳細不明); I99 循環器疾患(その他および詳細不明) J96.0 急性呼吸不全; J96.9 呼吸不全(詳細不明); P28.5 新生児の呼吸不全; R00-R94 および R96-R99 (症状、徴候、および異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95(乳幼児突然死症候群)は含まれない。	4.1.9 修正ルール ルールA 老衰及びその他の診断名不明確の病態 選ばれた死因が不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その不明確な診断名が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態によってコード番号が変わる場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。: I46.1 (心臓性突然死<急死>と記載されたもの; I46.9 心停止<、詳細不明>; I95.9 低血圧、<詳細不明>; I99 循環器疾患、<その他および詳細不明> J96.0 急性呼吸不全; J96.9 呼吸不全、<詳細不明>; P28.5 新生児の呼吸不全; R00-R94 及び R96-R99 (症状、徴候、及び異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95(乳幼児突然死症候群)は含まれない。 <u>死亡診断書に記載されている他のすべての病態が診断名不明確の病態又は軽微な病態である場合は、死因を選びなおすことはしない。つまり、このような場合にはルールAは適用されない。</u>	4.1.9 The modification rules <i>Rule A. Senility and other ill-defined conditions</i> Where the selected cause is ill-defined and a condition classified elsewhere is reported on the certificate, reselect the cause of death as if the ill-defined condition had not been reported, except to take account of that condition if it modifies the coding. The following conditions are regarded as ill-defined: I46.1 (Sudden cardiac death, so described); I46.9 (Cardiac arrest, unspecified); I95.9 Hypotension, unspecified); I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system); J96.0 (Acute respiratory failure); J96.9 (Respiratory failure, unspecified); P28.5 (Respiratory failure of newborn); R00-R94 or R96-R99 (Symptoms, signs and abnormal clinical and laboratory findings, not elsewhere classified). Note that R95 (Sudden infant death) is not regarded as ill-defined. <u>If all other conditions reported on the certificate are ill-defined or trivial, the cause of death should not be reselected. That is, Rule A does not apply.</u>
31	4.1.9 修正ルール ルールB 軽微な病態 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態で、同時にもっと重篤な病態が記載されている場合には、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす(ただし、不明確な病態や軽微な病態は除く)。もし軽微な病態を治療して副作用が生じ、その結果死亡したとしたら、副作用を死因として選ぶ。	4.1.9 修正ルール ルールB 軽微な病態 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態で(付録 10.1 参照)、同時にもっと重篤な病態が記載されている場合には、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす(ただし、不明確な病態や軽微な病態は除く)。もし軽微な病態を治療して副作用が生じ、その結果死亡したとしたら、副作用を死因として選ぶ。	4.1.9 The modification rules <i>Rule B. Trivial conditions</i> Where the selected cause is a trivial condition unlikely to cause death (see Appendix 7.1) and a more serious condition (any condition except an ill-defined or another trivial condition) is reported, reselect the underlying cause... ..of the trivial condition, select the adverse reaction.

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
32	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>ルール C 連鎖 (Linkage) ...</p> <p>選ばれた死因が死亡診断書上の他の病態と複数の連鎖関係をもつ場合は、もし最初に選ばれた死因が記載されなかったならば、選ばれたであろう病態に連鎖する。適用可能ないかなる連鎖についても応用する。</p>	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>ルール C 連鎖 (Linkage) ...</p> <p>選ばれた死因が死亡診断書上の他の病態と複数の連鎖関係をもつ場合は、もし最初に選ばれた死因が記載されなかったならば、選ばれたであろう病態に連鎖する。適用可能ないかなる連鎖についても応用する。</p> <p><u>起点となる先行原因よりも選ばれた病態を具体的に表現する連合コードがある場合は、連合コードを使うべきである。ただし、連合コードが起点となる先行原因のコードとは異なる 3 桁分類項目にある場合、連合コードは起点となる先行原因を明確に特定しなければならない。複合コーディングにおいては、可能なすべての詳細を保持するようにすべきである。</u></p>	<p>4.1.9 The modification rules</p> <p><i>Rule C. Linkage</i> ...</p> <p>Where a conflict in linkages occurs, link with the condition that would have been selected if the cause initially selected had not been reported. Make any further linkage that is applicable.</p> <p><u>Combination codes which express a more specific variety of the condition selected than the originating antecedent cause should be used when available. However, when the combination code is in a different three-character category than the code for the originating antecedent cause, the code for the combination must clearly identify the originating antecedent cause. All possible detail should be retained in the multiple cause coding.</u></p>
33	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>ルール E 疾病の初期および晩期の状態</p> <p>選ばれた死因が、疾病の初期の状態、それと同じ疾患のさらに進んだ病期が死亡診断書に記載されていた場合は、このさらに進んだ病期にコードする。このルールは、分類に特別に規定された場合を除いては、「急性」型による「慢性」型の疾患と記載された場合には適用されない。</p>	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>ルール E 疾病の初期および晩期の状態</p> <p>選ばれた死因が、疾病の初期の状態、それと同じ疾患のさらに進んだ病期が死亡診断書に記載されていた場合は、このさらに進んだ病期にコードする。このルールは、分類に特別に規定された場合を除いては、「急性」型による「慢性」型の疾患と記載された場合には適用されない。</p>	<p>4.1.9 The modification rules</p> <p><i>Rule E. Early and late stages of disease</i> Where the selected cause is an early stage of a disease and a more advanced stage of the same disease is reported on the certificate, code to the more advanced stage. This rule does not apply to a “chronic” form reported as due to an “acute” form unless the classification gives special instructions to that effect.</p>
34	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>...</p> <p>ルール F 続発・後遺症(Sequelae)</p> <p>選ばれた死因が、独立した「～の続発・後遺症」という項目が設けられている病態の初期の型である場合で、死亡がその病態の活動期に起きたものではなく、むしろこの病態の残遺的影響のために起きたという証拠がある場合には、適当な「～の続発・後遺症」の項目にコードする。</p>	<p>4.1.9 修正ルール</p> <p>...</p> <p>ルール F 続発・後遺症(Sequelae)</p> <p>選ばれた死因が、独立した「～の続発・後遺症」という項目が設けられている病態の初期の型である場合で、死亡がその病態の活動期に起きたものではなく、むしろこの病態の残遺的影響のために起きたという証拠がある場合には、適当な「～の続発・後遺症」の項目にコードする。</p>	<p>4.1.9 The modification rules</p> <p>...</p> <p><i>Rule F. Sequelae</i> Where the selected cause is an early form of a condition for which the classification provides a separate “Sequelae of...” category, and there is evidence that death occurred from residual effects of its condition rather than from those of its active phase, code to the appropriate “Sequelae of...” category.</p>
35	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルール A 老衰およびその他の診断名不明確の病態</p> <p>選ばれた死因が、R95(乳幼児突然死症候群)を除く第XVIII章(症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)に分類され、R00-R94またはR96-R99以外に分類される病態が死亡診断書に記載された場合は、第XVIII章に分類される病態が記載されなかったもの</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルール A 老衰及びその他の診断名不明確の病態</p> <p>選ばれた死因が、R95(乳幼児突然死症候群)を除く第XVIII章(症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)に分類され、R00-R94またはR96-R99以外に分類される病態が死亡診断書に記載された場合は、第XVIII章に分類される病態が記載されなかったもの</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p><i>Rule A. Senility and other ill-defined conditions</i></p> <p>Where the selected cause is ill-defined and a condition classified elsewhere is reported on the certificate, reselect the cause of death as if the ill-defined condition had not been reported, except to take account of that condition if it modifies the coding. The following conditions are regarded as ill-defined: I46.1 (Sudden cardiac death, so described); I46.9 (Cardiac arrest,</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	として死因を選びなおす。ただし、その病態がコーディングを修飾している場合は、その病態を考慮する。	<p>のとしそ不明確である場合や、死亡診断書に記載する上で他に分類される病態である場合には、その診断名不明確な病態が記載されなかったものとして、死因を選びなおす。ただし、その病態がコーディングを修飾している場合は、その病態を考慮する。次の内容は、不明確な診断名がついた病態と考えられる。： I46.1 (心臓性突然死<急死>と記載されたもの)； I46.9 心停止,詳細不明； I95.9 低血圧,詳細不明； I99 循環器疾患,その他および詳細不明； J96.0 急性呼吸不全； J96.9 呼吸不全,詳細不明； P28.5 新生児の呼吸不全； R00-R94 及びR96-R99 (症状、徴候、及び異常臨床所見、異常検査所見で、他に分類されないもの)。ただし、R95 (乳幼児突然死症候群) は含まれない。</p> <p>死亡診断書に記載されている他のすべての病態が診断名不明確の病態又は軽微な病態である場合は、死因を選びなおすことはしない。つまり、このような場合にはルールAは適用されない。</p>	<p>unspecified); I95.9 (Hypotension, unspecified); I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system); J96.0 (Acute respiratory failure); J96.9 (Respiratory failure, unspecified); P28.5 (Respiratory failure of newborn); R00-R94 and R96-R99 (Symptoms, signs and abnormal clinical and laboratory findings, not elsewhere classified). Note that R95 (Sudden infant death syndrome) is not regarded as ill-defined.</p> <p><u>If all other conditions reported on the certificate are ill-defined or trivial, the cause of death should not be reselected. That is, Rule A does not apply.</u></p>
36	<p>4.1.10 修正ルール例</p> <p>ルール B 軽微な病態</p> <p>(A) 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態であり、さらに重篤な病態 (不明確または他の軽微な病態を除く病態) が記載されている場合は、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす。</p>	<p>4.1.10 修正ルール例</p> <p>ルール B 軽微な病態</p> <p>(A) 選ばれた死因が、それ自身では死因になりそうもない軽微な病態であり (付録 10.1 参照)、さらに重篤な病態 (不明確又は他の軽微な病態を除く病態) が記載されている場合は、その軽微な病態が記載されなかったものとして、原死因を選びなおす。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule B. Trivial conditions</p> <p>(A) Where the selected cause is a trivial condition unlikely to cause death (see Appendix 7.1) and a more serious condition (any condition except an ill-defined or another trivial condition) is reported, reselect the underlying cause as if the trivial condition had not been reported.</p>
37	<p>4.1.10 修正ルール例</p> <p>ルール C 連鎖 (Linkage) ...</p> <p>選ばれた死因が死亡診断書上の他の病態と複数の連鎖関係をもつ場合は、もし最初に選ばれた死因が記載されなかったならば、選ばれたであろう病態に連鎖する。適用可能ないかなる連鎖についても応用する。</p>	<p>4.1.10 修正ルール例</p> <p>ルール C 連鎖 (Linkage) ...</p> <p>選ばれた死因が死亡診断書上の他の病態と複数の連鎖関係をもつ場合は、もし最初に選ばれた死因が記載されなかったならば、選ばれたであろう病態に連鎖する。適用可能ないかなる連鎖についても応用する。</p> <p><u>起点となる先行原因よりも選ばれた病態を具体的に表現する連合コードがある場合は、連合コードを使うべきである。ただし、連合コードが起点となる先行原因のコードとは異なる 3 桁分類項目にある場合、連合コードは起点となる先行原因を明確に特定しなければならない。複合コーディングにおいては、可能なすべての詳細を保持するようにすべきである。</u></p> <p>例 43: I (a) 心筋症 (b) アルコール依存症 アルコール性心筋症 (I42.6) にコードする。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule C. Linkage</p> <p>...</p> <p>Where a conflict in linkages occurs, link with the condition that would have been selected if the cause initially selected had not been reported. Make any further linkage that is applicable.</p> <p><u>Combination codes which express a more specific variety of the condition selected than the originating antecedent cause should be used when available. However, when the combination code is in a different three-character category than the code for the originating antecedent cause, the code for the combination must clearly identify the originating antecedent cause. All possible detail should be retained in the multiple cause coding.</u></p> <p>Example 43: I (a) Cardiomyopathy (b) Alcoholism Code alcoholic cardiomyopathy (I42.6)</p> <p>Example 43: I (a) Intestinal obstruction</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>例 43: I (a) 腸閉塞 (b) 大腿<股>ヘルニア 閉塞を伴う大腿<股>ヘルニア (K41.3) にコードする。</p>	<p>例 4344: I (a) 腸閉塞 (b) 大腿<股>ヘルニア 閉塞を伴う大腿<股>ヘルニア (K41.3) にコードする。</p> <p>例 45: I (a) てんかん発作 (b) 慢性アルコール中毒</p> <p><u>慢性アルコール中毒 (F10.2) にコードする。特殊なてんかん症候群は G40.5 として索引に記載されているが、この連合コードは起点となる先行原因を特定していない。</u></p>	<p>(b) Femoral hernia Code to femoral hernia with obstruction (K41.3).</p> <p><i>Example 45:</i> I (a) Epileptic attack (b) Chronic alcoholism</p> <p><u>Code to chronic alcoholism (F10.2). Special epileptic syndromes are indexed to G40.5, but that combination code does not identify the originating antecedent cause.</u></p>
38	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールC 連鎖 (Linkage)</p> <p>例 55: I (a) ニューモシスチス・カリニ肺炎 (b) HIV</p> <p>B 20.6 の HIV にコードする。一般原則により、ニューモシスチス・カリニ肺炎を伴った HIV 疾患にコードする。</p> <p>例 56: I (a) 呼吸不全 (b) HIV</p> <p>B 24 にコードする。呼吸不全は不明確な病態であり、B20—B23 のどの分類項目にも適用しない。</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールC 連鎖 (Linkage)</p> <p>例 55: I (a) ニューモシスチス・カリニ[jirovecii]肺炎 (b) HIV</p> <p>B 20.6 の HIV にコードする。一般原則により、ニューモシスチス・カリニ[jirovecii]肺炎を伴った HIV 疾患にコードする。</p> <p>例 56: I (a) 呼吸不全 (b) HIV</p> <p>B 24 にコードする。呼吸不全は不明確な病態であり、B20—B23 のどの分類項目にも適用しない。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule C. Linkage</p> <p><i>Example 55:</i> I (a) Pneumocystis carinii [jirovecii] pneumonia (b) HIV</p> <p>links 80</p> <p>Code to B20.6. HIV, selected by the General Principle, with Pneumocystis carinii [jirovecii] pneumonia.</p>
39	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールD 特異性 (原死因の明確化)</p> <p>例 62: I (a) 心膜炎 (b) 尿毒症および肺炎</p> <p>尿毒症性心膜炎 (N18.8) にコードする。ルール1により尿毒症が選ばれる (例 14 参照) が、これは心膜炎を修飾する。</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールD 特異性 (原死因の明確化)</p> <p>例 62: I (a) 心膜炎 (b) 尿毒症及び肺炎</p> <p>尿毒症性心膜炎 (N18.58) にコードする。ルール1により尿毒症が選ばれる (例 14 参照) が、これは心膜炎を修飾する。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule D. Specificity</p> <p><i>Example 60:</i> I (a) Pericarditis (b) Uraemia and pneumonia</p> <p>Code to uraemic pericarditis (N18.585). Uraemia, selected by Rule 1 (see Example 14), modifies the pericarditis.</p>
40	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールE 疾病の初期および晩期の状態 選ばれた死因が、疾病の初期の状態、それと同じ疾患のさらに進んだ病期が死亡診断書に記載されていた場合は、このさらに進ん</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>ルールE 疾病の初期および晩期の状態 選ばれた死因が、疾病の初期の状態、それと同じ疾患のさらに進んだ病期が死亡診断書に記載されていた場合は、このさらに進ん</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>Rule E. Early and late stages of disease Where the selected cause is an early stage of a disease and a more advanced stage of the same disease is reported on the certificate, code to the more advanced stage. This rule does not apply to a “chronic” form</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>だ病期にコードする。このルールは、分類に特別に規定された場合を除いて、「急性」型による「慢性」型の疾患と記載された場合には適用されない。</p> <p>例 63 : I (a) 第三期梅毒 (b) 初期梅毒 第三期梅毒(A52.9)にコードする。</p> <p>例 64 : I (a) 妊娠子かん<癩> (b) 子かん<癩>前症 妊娠子かん<癩> (O15.0)にコードする。</p> <p>例 65 : I (a) 慢性心筋炎 (b) 急性心筋炎 急性心筋炎(I40.9)にコードする。</p> <p>例 66 : I (a) 慢性腎炎 (b) 急性腎炎 これには、特別の規定があるため、慢性腎炎、詳細不明(N03.9)にコードする。</p>	<p>だ病期にコードする。このルールは、分類に特別に規定された場合を除いて、「急性」型による「慢性」型の疾患と記載された場合には適用されない。</p> <p>例 63 : I (a) 第三期梅毒 (b) 初期梅毒 第三期梅毒(A52.9)にコードする。</p> <p>例 64 : I (a) 妊娠子かん<癩> (b) 子かん<癩>前症 妊娠子かん<癩> (O15.0)にコードする。</p> <p>例 65 : I (a) 慢性心筋炎 (b) 急性心筋炎 急性心筋炎(I40.9)にコードする。</p> <p>例 66 : I (a) 慢性腎炎 (b) 急性腎炎 これには、特別の規定があるため、慢性腎炎、詳細不明(N03.9)にコードする。</p>	<p>reported as due to an “acute” form unless the classification gives special instructions to that effect. <i>Example 63:</i> I (a) Tertiary syphilis - (b) Primary syphilis Code to tertiary syphilis (A52.9). <i>Example 64:</i> I (a) Eclampsia during pregnancy - (b) Pre-eclampsia Code to eclampsia during pregnancy (O15.0). <i>Example 65:</i> I (a) Chronic myocarditis - (b) Acute myocarditis Code to acute myocarditis (I40.9). <i>Example 66:</i> I (a) Chronic nephritis - (b) Acute nephritis Code to chronic nephritis, unspecified (N03.9), as special instruction is given to this effect.</p>
41	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>...</p> <p>ルール F 続発・後遺症(Sequelae) 選ばれた死因が、独立した「～の続発・後遺症」という項目が設けられている病態の初期の型である場合で、死亡がその病態の活動期に起きたものではなく、むしろこの病態の残遺的影響のために起きたという証拠がある場合には、適当な「～の続発・後遺症」の項目にコードする。 「～の続発・後遺症」の分類項目は下記のとおりである：B90-B94、E64.-、E68、G09、I69、O97 および Y85-Y89。</p> <p>例 67 : I (a) 肺線維症 (b) 陳旧性肺結核 呼吸器結核の続発・後遺症(B90.9)にコードする。</p> <p>例 68 : I (a) 気管支肺炎 (b) 脊柱湾曲 (c) 小児期のくる病 くる病の続発・後遺症(E64.3)にコードする。</p> <p>例 69 : I (a) 水頭症 (b) 結核性髄膜炎 結核性髄膜炎の続発・後遺症(B90.0)にコードする。</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例</p> <p>...</p> <p>ルール F 続発・後遺症(Sequelae) 選ばれた死因が、独立した「～の続発・後遺症」という項目が設けられている病態の初期の型である場合で、死亡がその病態の活動期に起きたものではなく、むしろこの病態の残遺的影響のために起きたという証拠がある場合には、適当な「～の続発・後遺症」の項目にコードする。 「～の続発・後遺症」の分類項目は下記のとおりである：B90-B94、E64.-、E68、G09、I69、O97 および Y85-Y89。</p> <p>例 67 : I (a) 肺線維症 (b) 陳旧性肺結核 呼吸器結核の続発・後遺症(B90.9)にコードする。</p> <p>例 68 : I (a) 気管支肺炎 (b) 脊柱湾曲 (c) 小児期のくる病 くる病の続発・後遺症(E64.3)にコードする。</p> <p>例 69 : I (a) 水頭症 (b) 結核性髄膜炎 結核性髄膜炎の続発・後遺症(B90.0)にコードする。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules</p> <p>...</p> <p>Rule F. Sequelae - Where the selected cause is an early form of a condition for which the classification provides a separate “Sequelae of...” category, and there is evidence that death occurred from residual effects of its condition rather than from those of its active phase, code to the appropriate “Sequelae of...” category. - “Sequelae of...” categories are as follows: B90-B94, E64., E68, G09, I69, O97 and Y85-Y87. - <i>Example 67:</i> I (a) Pulmonary fibrosis - (b) Old pulmonary tuberculosis Code to sequelae of respiratory tuberculosis (B90.9). <i>Example 68:</i> I (a) Bronchopneumonia - (b) Curvature of spine - (c) Rickets in childhood Code to sequelae of rickets (E64.3). <i>Example 69:</i> I (a) Hydrocephalus - (b) Tuberculous meningitis Code to sequelae of tuberculous meningitis (B90.0). <i>Example 70:</i> I (a) Hypostatic pneumonia - (b) Hemiplegia - (c) Cerebrovascular accident (10 years)</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>例 70 : I (a) 臥床<沈下>性肺炎 (b) 片麻痺 (c) 脳卒中(10年経過) 脳卒中の続発・後遺症(I69.4)にコードする。</p> <p>例 71 : I (a) 慢性腎炎 (b) 猩紅熱 その他の明示された感染症および寄生虫症の続発・後遺症(B94.8)にコードする。腎炎が「慢性」であるとの記載から、猩紅熱はもはや活動期のものではないと考える。</p>	<p>例 70 : I (a) 臥床<沈下>性肺炎 (b) 片麻痺 (c) 脳卒中(10年経過) 脳卒中の続発・後遺症(I69.4)にコードする。</p> <p>例 71 : I (a) 慢性腎炎 (b) 猩紅熱 その他の明示された感染症および寄生虫症の続発・後遺症(B94.8)にコードする。腎炎が「慢性」であるとの記載から、猩紅熱はもはや活動期のものではないと考える。</p>	<p>Code to sequelae of cerebrovascular accident (I69.4). <i>Example 71: I (a) Chronic nephritis</i> (b) Scarlet fever Code to sequelae of other specified infectious and parasitic diseases (B94.8). The description of the nephritis as chronic implies that the scarlet fever is no longer in its active phase.</p>
42	<p>4.1.10 修正ルールの例 ...</p>	<p>4.1.10 修正ルールの例 ...</p> <p><u>修正後のルール 3 の適用</u></p> <p><u>修正ルールの適用後、改めてルール 3 を適用する。ただし、修正ルールにより選ばれた起因が他の病態によるものであることが正しく記載されている場合、その病態が診断名不明確の病態又は軽微な病態である場合を除き、ルール 3 は適用しない。</u></p> <p>例 xx: I (a) 敗血症 (b) 動脈塞栓症 (c) 循環不全 II 結腸の悪性新生物</p> <p>結腸の悪性新生物 (C18.9) にコードする。一般原則により選ばれる循環不全は、(ルール A 老衰及びその他の診断名不明確の病態)により却下し、動脈塞栓症を起因として選ぶ。動脈塞栓症は、結腸の悪性新生物(消耗性疾患)の直接影響によるものと考えることができる。ルール 3 が適用され、結腸の悪性新生物 (C18.9) が原死因として選ばれる。</p> <p>例 xx: I (a) 敗血症 (b) 動脈塞栓症 (c) 全身性アテローム粥状硬化症 II 結腸の悪性新生物</p> <p>動脈塞栓症 (I74.9) にコードする。一般原則により選ばれる全身性アテローム粥状硬化症は、動脈塞栓症に連鎖する(ルール C)。動脈塞栓症は、結腸の悪性新生物(消耗性疾患)の直接影響によるものと考えることができるが、この死亡診断書では動脈塞栓症が全身性アテローム粥状硬化症によるものであると記載されている。したがって、ルール 3 は適用しない。</p>	<p>4.1.10 Examples of the modification rules ...</p> <p><u>Application of Rule 3 following modification</u></p> <p><u>After application of the modification rules, selection Rule 3 should be re-applied. However, Rule 3 should not be applied if the originating cause selected by application of the modification rules is correctly reported as due to another condition, except when this other condition is ill-defined or trivial.</u></p> <p><i>Ex xx:</i> I(a) Septicemia (b) Arterial embolism (c) Circulatory insufficiency II Malignant neoplasm of colon</p> <p>Code to malignant neoplasm of colon (C18.9). Circulatory insufficiency, selected by the General Principle, is ignored (Rule A Senility and other ill-defined conditions) and arterial embolism is selected as the originating cause. Arterial embolism can be considered a direct consequence of malignant neoplasm of colon (a wasting condition). Rule 3 applies, and malignant neoplasm of colon (C18.9) is selected as underlying cause of death.</p> <p><i>Ex xx:</i> I(a) Septicemia (b) Arterial embolism (c) Generalized atherosclerosis II Malignant neoplasm of colon</p> <p>Code to arterial embolism (I74.9). Generalized atherosclerosis, selected by the General Principle, links with arterial embolism (Rule C). Although arterial embolism can be considered a direct consequence of malignant neoplasm of colon (a wasting condition) it is reported as due to generalized atherosclerosis on this certificate. Rule 3 is, therefore, not applied.</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
43	4.1.11 原死因コーディングのための注 ...	4.1.11 原死因コーディングのための注 A51.- 早期梅毒 下記の記載を伴うもの： A52.- (晩期梅毒)、A52.-にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding A51.- Early syphilis <i>with mention of:</i> A52.- (Latesyphilis), code A52.-
44		4.1.11 原死因コーディングのための注 C78-C79 続発性悪性新生物 原死因コーディングには使用しない。悪性新生物の 原発部位がわかっていないか、記載されていない場 合は、部位の明示されない悪性新生物 (C80.-) に コードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding C78-C79 Secondary malignant neoplasms Not to be used for underlying cause mortality coding. If primary site of malignant neoplasm is not known or indicated, code to Malignant neoplasm without specification of site (C80.-)
45	D50—D89 ...	4.1.11 原死因コーディングのための注 C97 独立した (原発性) 多発部位の悪性新生物 原死因コーディングには使用しない。多発性であるが独 立した悪性腫瘍が死亡証明書に記載される場合、選択ル ール及び修正ルールを通常の方法で適用することによっ て原死因を選ぶ。「4.2.7 節 悪性新生物」も参照。 D50—D89 ...	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding B95-B97 Bacterial, viral and other infectious agents Not to be used for underlying cause mortality coding. C97 Malignant neoplasms of independent (primary) multiple sites Not to be used for underlying cause mortality coding. When multiple but independent malignant neoplasms are reported on the death certificate, select the underlying cause by applying the Selection and Modification Rules in the normal way. See also section 4.2.7, Malignant neoplasms.
46	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 原死因コーディングのための注 E10—E14 糖尿病 下記の起点となる先行原因として記載された場合： E87.2 (アシドーシス)、4 桁細分類項目.1 を伴う E10 —E14 にコードする。 E88.8 (その他の明示された代謝障害)、4 桁細分類項 目.1 を伴う E10—E14 にコードする。 G58.- (その他の単ニューロパチ<シ>-)、4 桁細分類 項目.4 を伴う E10—E14 にコードする。 G62.9 (多発 (性) ニューロパチ<シ>-、詳細不明)、 4 桁細分類項目.4 を伴う E10—E14 にコードす る。 G64 (末梢神経系のその他の障害)、4 桁細分類項目.4 を伴う E10—E14 にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding E10-E14 Diabetes mellitus <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> E87.2 (Acidosis), code E10-E14 with fourth character .1 E88.8 (Other specified metabolic disorders), code E10- E14 with fourth character .1 G58.- (Other mononeuropathies), code E10-E14 with fourth character .4 G62.9 (Polyneuropathy, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4 G64 (Other disorders of peripheral nervous system), code E10-E14 with fourth character .4 G70.9 (Myoneural disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4 G71.8 (Other primary disorders of muscles), code E10- E14 with fourth character .4



	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		<p>G70.9 (神経筋障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>G71.8 (その他の原発性筋障害)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>G90.9 (自律神経系の障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H20.9 (虹彩毛様体炎)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H26.9 (白内障, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H30.9 (網脈絡膜の炎症, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H34 (網膜血管閉塞症)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H35.0 (背景網膜症及び網膜血管変化)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H35.2 (その他の増殖性網膜症)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H35.6 (網膜出血)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H35.9 (網膜障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H49.9 (麻痺性斜視, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H54 (盲<失明>及び低視力)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>I73.9 (末梢血管疾患, 詳細不明)、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>I70.2 ((四)肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化(症))、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>I99 (循環器系のその他及び詳細不明の障害)、血管障害の場合、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>L30.9 (皮膚炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>L92.1 (リポイド類え<壊>死症、他に分類されないもの)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>M13.9 (関節炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>M79.2 (神経痛及び神経炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>M89.9 (骨障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p>	<p>G90.9 (Disorder of autonomic nervous system, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>H20.9 (Iridocyclitis), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H26.9 (Cataract, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H30.9 (Chorioretinal inflammation, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H34 (Retinal vascular occlusions), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.0 (Background retinopathy and retinal vascular changes), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.2 (Other proliferative retinopathy), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.6 (Retinal haemorrhage), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.9 (Retinal disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H49.9 (Paralytic strabismus, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H54 (Blindness and low vision), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>I70.2 (Atherosclerosis of arteries of extremities), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>I73.9 (Peripheral vascular disease, unspecified), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system), if angiopathy, code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>L30.9 (Dermatitis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>L92.1 (Necrobiosis lipoidica, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>M13.9 (Arthritis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>M79.2 (Neuralgia and neuritis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>M89.9 (Disorder of bone, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>N03-N05(Nephrotic syndrome), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N18.- (Chronic kidney disease), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N19 (Unspecified kidney failure), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N26 (Unspecified contracted kidney), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N28.9 (Disorder of kidney and ureter, unspecified), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N39.0 (Urinary tract infection, site not specified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>N39.1 (Persistent proteinuria, unspecified), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>R02 (Gangrene, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>R40.2 (Coma, unspecified), code E10-E14 with fourth</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>N03-N05 (ネフローゼ症候群)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N18.- (慢性腎臓病, 詳細不明)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N19 (詳細不明の腎不全)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N26 (詳細不明の萎縮腎)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N28.9 (腎及び尿管の障害)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N39.0 (尿路感染症, 部位不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N39.1 (持続性たんぱく<蛋白>尿, 詳細不明)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R02 (え<壊>疽, 他に分類されないもの)、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R40.2 (昏睡, 詳細不明)、4桁細分類項目.0を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>R79.8 (その他の明示された血液化学的異常所見)、アセトン血症、高窒素血症、及び関連する病態の場合、4桁細分類項目.1を伴う E10-E14 にコードする。 上記の組み合わせのいずれかの場合、4桁細分類項目.7を伴う E10-E14 にコードする。</p>	<p>character .0</p> <p>R79.8 (Other specified abnormal findings of blood chemistry), if acetoneuria, azotemia, and related conditions, code E10-E14 with fourth character .1</p> <p>Any of above in combination, code E10-E14 with fourth character .7</p>
		<p>4.1.11 原死因コーディング  2013</p> <p>E10-E14 糖尿病</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合を伴うもの:</p> <p>E87.2 (アシドーシス)、4桁細分類項目.1を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>E88.8 (その他の明示された代謝障害)、4桁細分類項目.1を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G58.- (その他の単ニューロパチ<シ>ー)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G62.9 (多発(性)ニューロパチ<シ>ー, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G64 (末梢神経系のその他の障害)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G70.9 (神経筋障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G71.8 (その他の原発性筋障害)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>G90.9 (自律神経系の障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>...</p> <p>E10-E14 Diabetes mellitus when reported as the <u>originating antecedent cause with mention of:</u></p> <p>E87.2 (Acidosis), code E10-E14 with fourth character .1</p> <p>E88.8 (Other specified metabolic disorders), code E10-E14 with fourth character .1</p> <p>G58.- (Other mononeuropathies), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G62.9 (Polyneuropathy, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G64 (Other disorders of peripheral nervous system), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G70.9 (Myoneural disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G71.8 (Other primary disorders of muscles), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G90.9 (Disorder of autonomic nervous system, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>H20.9 (Iridocyclitis), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H26.9 (Cataract, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H30.9 (Chorioretinal inflammation, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H34 (Retinal vascular occlusions), code E10-E14 with fourth</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>H20.9 (虹彩毛様体炎)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H26.9 (白内障, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H30.9 (網脈絡膜の炎症, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H34 (網膜血管閉塞症)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H35.0 (背景網膜症及び網膜血管変化)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H35.2 (その他の増殖性網膜症)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H35.6 (網膜出血)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H35.9 (網膜障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H49.9 (麻痺性斜視, 詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>H54 (盲<失明>および低視力)、4桁細分類項目.3を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>I73.9 (末梢血管疾患, 詳細不明)、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>I70.2 ((四) 肢の動脈のアテローム<じゅく<粥>状>硬化 (症))、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>I99 (循環器系のその他および詳細不明の障害)、血管障害の場合、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L30.9 (皮膚炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L92.1 (リポイド類えく壊>死症、他に分類されないもの)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L97 (下肢の潰瘍、他に分類されないもの)、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M13.9 (関節炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M79.2 (神経痛及び神経炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M89.9 (骨障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N03-N05 (ネフローゼ症候群)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N18.- (慢性腎臓病, 詳細不明)、4桁細分類項目.2を伴う E10-E14 にコードする。</p>	<p>character .3</p> <p>H35.0 (Background retinopathy and retinal vascular changes), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.2 (Other proliferative retinopathy), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.6 (Retinal haemorrhage), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H35.9 (Retinal disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H49.9 (Paralytic strabismus, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H54 (Blindness and low vision), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>I70.2 (Atherosclerosis of arteries of extremities), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>I73.9 (Peripheral vascular disease, unspecified), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system), if angiopathy, code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>L30.9 (Dermatitis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>L92.1 (Necrobiosis lipoidica, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>L97 (Ulcer of lower limb), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>M13.9 (Arthritis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>M79.2 (Neuralgia and neuritis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>M89.9 (Disorder of bone, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>N03-N05 (Nephrotic syndrome), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N18.- (Chronic kidney disease), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N19 (Unspecified kidney failure), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N26 (Unspecified contracted kidney), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N28.9 (Disorder of kidney and ureter, unspecified), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>N39.0 (Urinary tract infection, site not specified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>N39.1 (Persistent proteinuria, unspecified), code E10-E14 with fourth character .2</p> <p>R02 (Gangrene, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>R40.2 (Coma, unspecified), code E10-E14 with fourth character .0</p> <p>R79.8 (Other specified abnormal findings of blood chemistry), if acetonemia, azotemia, and related conditions, code E10-E14 with fourth character .1</p> <p>Any of above in combination, code E10-E14 with fourth character .7 <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> E15 (Non-diabetic hypoglycaemic coma for unspecified</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		<p>N19 (詳細不明の腎不全)、4桁細分類項目.2を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>N26 (詳細不明の萎縮腎)、4桁細分類項目.2を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>N28.9 (腎及び尿管の障害)、4桁細分類項目.2を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>N39.0 (尿路感染症、部位不明)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>N39.1 (持続性たんぱく尿、詳細不明)、4桁細分類項目.2を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>R02 (えく壊瘡、他に分類されないもの)、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>R40.2 (昏睡、詳細不明)、4桁細分類項目.0を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>R79.8 (その他の明示された血液化学的異常所見)、アセトン血症、高窒素血症、及び関連する病態の場合、4桁細分類項目.1を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>上記の組み合わせのいずれかの場合、4桁細分類項目.7を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合：</p> <hr/> <p>E15 (非糖尿病性低血糖性昏睡：詳細不明の低血糖性昏睡の場合のみ)、E1x.0にコードする。</p> <p>G70.9 (神経筋障害、詳細不明)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>G98 (神経系のその他の障害、他に分類されないもの：シャルコー<Charcot>関節症(脊髄ろう<瘻>性)、非梅毒性を除く)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>G98 (神経系のその他の障害、他に分類されないもの：シャルコー<Charcot>関節症(脊髄ろう<瘻>性)、非梅毒性の場合のみ)、4桁細分類項目.6を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H49.9 (麻痺性斜視、詳細不明)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>H54 (盲<失明>及び低視力)、4桁細分類項目.3を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>I99 (循環器系のその他及び詳細不明の障害)、血管障害<病><アンギオパシー>の場合、4桁細分類項目.5を伴うE10-E14にコードする。</p> <p>K31.8 (胃及び十二指腸のその他の明示された疾患：胃不全麻痺の場合のみ)、4桁細分類項目.4を伴うE10-E14にコードする。</p>	<p>hypoglycemic coma only), code E1x.0</p> <p>G70.9 (Myoneural disorder, unspecified), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G98 (Other disorders of the nervous system, not elsewhere classified except Charcot's arthropathy, non-syphilitic), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>G98 (Other disorders of the nervous system, not elsewhere classified if Charcot's arthropathy, non-syphilitic), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>H49.9 (Paralytic strabismus, unspecified), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>H54 (Blindness and low vision), code E10-E14 with fourth character .3</p> <p>I99 (Other and unspecified disorders of circulatory system), if angiopathy, code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>K31.8 (Other specified diseases of stomach and duodenum; gastroparesis only), code E10-E14 with fourth character .4</p> <p>L30.9 (Dermatitis, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>L98.4 (Chronic ulcer of skin, not elsewhere classified), code E10-E14 with fourth character .5</p> <p>M89.9 (Disorder of bone, unspecified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>N39.0 (Urinary tract infection, site not specified), code E10-E14 with fourth character .6</p> <p>Any of above in combination, code E10-E14 with fourth character .7</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>L30.9 (皮膚炎, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>L98.4 (皮膚の慢性潰瘍, 他に分類されないもの)、4桁細分類項目.5を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>M89.9 (骨障害, 詳細不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>N39.0 (尿路感染症, 部位不明)、4桁細分類項目.6を伴う E10-E14 にコードする。</p> <p>上記の組み合わせのいずれかの場合、4桁細分類項目.7を伴う E10-E14 にコードする。</p>	
47	4.1.11 原死因コーディングのための注	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p><u>F10-F19 精神作用物質使用による精神及び行動の障害</u></p> <p>...</p> <p>4桁細分類項目 .2 (依存症候群) でせん妄を伴う離脱状態 (.4) の記載を伴うもの、4桁細分類項目 .4 を伴う F10-F19 にコードする。</p> <p>4桁細分類項目 .2 (依存症候群) で健忘症候群 (.6) の記載を伴うもの、4桁細分類項目 .6 を伴う F10-F19 にコードする。</p> <p>4桁細分類項目 .2 (依存症候群) で残遺及び晩発性精神病性障害 (.7) の記載を伴うもの、4桁細分類項目 .7 を伴う F10-F19 にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p><u>F10-F19 Mental and behavioural disorders due to psychoactive substance use</u></p> <p>...</p> <p><u>Fourth character .2 (Dependence syndrome) with mention of Withdrawal state with delirium (.4), code F10-F19 with fourth character .4</u></p> <p><u>Fourth character .2 (Dependence syndrome) with mention of Amnesic syndrome (.6), code F10-F19 with fourth character .6</u></p> <p><u>Fourth character .2 (Dependence syndrome) with mention of Residual and late-onset psychotic disorder (.7), code F10-F19 with fourth character .7</u></p> <p>...</p>
48	<p>F 10.- アルコール使用による精神および行動の障害</p> <p>下記の記載を伴うもの：</p> <p>E 24.4 (アルコール性クッシング<Cushing>症候群)、E 24.4 にコードする。</p> <p>...</p> <p>K 76.9 (肝疾患、詳細不明)、K 70.9 にコードする。</p> <p>K 85 (急性膵炎)、K 85 にコードする。</p> <p>K 86.0 (アルコール性慢性膵炎)、K 86.0 にコードする。</p>	<p>F 10.- アルコール使用による精神及び行動の障害</p> <p>下記の記載を伴うもの：</p> <p>E 24.4 (アルコール性クッシング<Cushing>症候群)、E 24.4 にコードする。</p> <p>...</p> <p>K 76.9 (肝疾患、詳細不明)、K 70.9 にコードする。</p> <p>K 85 (急性膵炎)、K 85 にコードする。</p> <p>K 85.2 (アルコール性急性膵炎)、K 85.2 にコードする。</p> <p>K 86.0 (アルコール性慢性膵炎)、K 86.0 にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>F10.- Mental and behavioural disorders due to use of alcohol with mention of:</p> <p>...</p> <p>K76.9 (Liver disease, unspecified), code K70.9</p> <p>...</p> <p><u>K85.2 (Alcohol-induced acute pancreatitis), code K85.2</u></p> <p>...</p> <p>K86.0 (Alcohol-induced chronic pancreatitis), code K86.0</p>
49	<p>F 10.- アルコール使用による精神および行動の障害</p> <p>下記の記載を伴うもの：</p> <p>E 24.4 (アルコール性クッシング<Cushing>症候群)、E 24.4 にコードする。</p>	<p>F 10.- アルコール使用による精神及び行動の障害</p> <p>下記の記載を伴うもの：</p> <p>E 24.4 (アルコール性クッシング<Cushing>症候群)、E 24.4 にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>F10.- Mental and behavioural disorders due to use of alcohol with mention of:</p> <p>E24.4 (Alcohol-induced Cushing's syndrome), code E24.4</p> <p>...</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	...	F10.0 ... アルコール使用による急性中毒 下記の記載を伴うもの: F10.2 (アルコール使用による依存症候群)、F10.2 にコードする。	F10.0 <u>Acute intoxication due to use of alcohol</u> <i>with mention of:</i> F10.2 <u>(Dependence syndrome due to use of alcohol), code F10.2</u> F10.2 Dependence syndrome due to use of alcohol <i>with mention of:</i> F10.4, F10.6, F10.7 Withdrawal state with delirium, Amnesic syndrome, Residual and late-onset psychotic disorder, code F10.4, F10.6, F10.7
50	F10.2 アルコール使用による依存症候群 下記の記載を伴うもの: F10.4、F10.6、F10.7 せん妄を伴う離脱状態、健忘症候 群、残遺および晩発性 精神病性障害、F10.4、F10.6、F10.7 にコードする。	F10.2 アルコール使用による依存症候群 下記の記載を伴うもの: F10.4、F10.6、F10.7 せん妄を伴う離脱状態、健忘症候 群、残遺および晩発性 精神病性障害、F10.4、F10.6、F10.7 にコードする。	F10.2 Dependence syndrome due to use of alcohol <i>with mention of:</i> F10.4, F10.6, F10.7 Withdrawal state with delirium, Amnesic syndrome, Residual and late-onset psychotic disorder, code F10.4, F10.6, F10.7
51	F17.- タバコ使用による精神および行動の障害 下記の起点となる先行原因として記載された場合: C34.- (気管支および肺の悪性新生物)、 <u>C</u> <u>34.-</u> にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、 <u>I20-I25</u> にコード する。 J40-J47 (慢性下気道疾患)、 <u>J40-J47</u> にコー ドする。	F17.- タバコ使用による精神及び行動の障害 下記の起点となる先行原因として記載された場合: C34.- (気管支および肺の悪性新生物)、<u>C</u> <u>34.-</u>にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、<u>I20-I25</u>にコード する。 J40-J47 (慢性下気道疾患)、<u>J40-J47</u>にコー ドする。 結果として生じた身体的病態がわかっている場合は使用し ない。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding F17.- Mental and behavioural disorders due to use of tobacco <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> C34.- (Malignant neoplasm of bronchus and lung), code <u>C34.-</u> I20-I25 (Ischaemic heart disease), code <u>I20-I25</u> J40-J47 (Chronic lower respiratory disease), code <u>J40-J47</u> <u>Not to be used if the resultant physical condition is known</u>
52	4.1.11 原死因コーディングのための注 ...	4.1.11 原死因コーディングのための注 ... F80.- 会話及び言語の特異的発達障害 F81.- 学習能力の特異的発達障害 原因となる身体的病態がわかっている場合は使用しない。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding ... F80.- <u>Specific developmental disorders of speech and language</u> F81.- <u>Specific developmental disorders of scholastic skills</u> <u>Not to be used if underlying physical condition is known</u>
53	4.1.11 原死因コーディングのための注 I10 本態性 (原発性<一次性>) 高血圧 (症) 下記の記載を伴うもの: N05.- (詳細不明の腎炎症候群)、 <u>N05.-</u> にコードす る。 N18.- (慢性腎不全)、 <u>I12.-</u> にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、 <u>I12.-</u> にコードする。	4.1.11 原死因コーディングのための注 I10 本態性 (原発性<一次性>) 高血圧 (症) 下記の記載を伴うもの: N05.- (詳細不明の腎炎症候群)、 <u>N05.-</u> にコードす る。 N18.- (慢性腎不全腎臓病)、 <u>I12.-</u> にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、 <u>I12.-</u> にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding I10 Essential (primary) hypertension <i>with mention of:</i> N05.- (Unspecified nephritic syndrome), code <u>N05.-</u> N18.- (Chronic renal failure kidney disease), code <u>I12.-</u> N19 (Unspecified renal failure), code <u>I12.-</u>
54	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding I10 Essential (primary) hypertension

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>I10 本態性(原発性<一次性>)高血圧(症) 下記の記載を伴うもの: I11.- (高血圧性心疾患)、I11.-にコードする。 I12.- (高血圧性腎疾患)、I12.-にコードする。 I13.- (高血圧性心腎疾患)、I13.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25にコードする。 I60-I69 (脳血管疾患)、I60-I69にコードする。 N00.- (急性腎炎症候群)、N00.-にコードする。</p> <p>...</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合: H35.0 (背景網膜症および網膜血管変化)、H35.0にコードする。 I05-I09 (リウマチ性と明示されないが、I05-I09に分類される疾患)、I34-I38にコードする。 I34-I38 (非リウマチ性弁膜症)、I34-I38にコードする。 I50.- (心不全)、I11.0にコードする。 I51.4-I51.9 (心疾患の合併症および診断名不明確な心疾患の記載)、I11.-にコードする。</p>	<p>I10 本態性(原発性<一次性>)高血圧(症) 下記の記載を伴うもの: I11.- (高血圧性心疾患)、I11.-にコードする。 I12.- (高血圧性腎疾患)、I12.-にコードする。 I13.- (高血圧性心腎疾患)、I13.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25にコードする。 I50.- (心不全)、I11.0にコードする。 <u>I51.4-I51.9 (心疾患の合併症及び診断名不明確な心疾患の記載)、I11.-にコードする。</u> I60-I69 (脳血管疾患)、I60-I69にコードする。 N00.- (急性腎炎症候群)、N00.-にコードする。</p> <p>...</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合: H35.0 (背景網膜症及び網膜血管変化)、H35.0にコードする。 I05-I09 (リウマチ性と明示されないが、I05-I09に分類される疾患)、I34-I38にコードする。 I34-I38 (非リウマチ性弁膜症)、I34-I38にコードする。 I50.- (心不全)、I11.0にコードする。 I51.4-I51.9 (心疾患の合併症および診断名不明確な心疾患の記載)、I11.-にコードする。</p>	<p><i>with mention of:</i></p> <p>I11.- (Hypertensive heart disease), code I11.- I12.- (Hypertensive renal disease), code I12.- I13.- (Hypertensive heart and renal disease), code I13.- I20-I25 (Ischaemic heart disease), code I20-I25 I50.- (Heart failure), code I11.0 I51.4- (Complications and ill-defined I51.9 descriptions of heart disease), code I11.- I60-I69 (Cerebrovascular disease), code I60-I69 N00.- (Acute nephritic syndrome), code N00.-</p> <p>..</p> <p><i>when reported as the originating antecedent cause of:</i></p> <p>H35.0 (Background retinopathy and other vascular changes), code H35.0 I05-I09 (Conditions classifiable to I05-I09 but not specified as rheumatic), code I34-I38 I34-I38 (Nonrheumatic valve disorders), code I34-I38 I50.- (Heart failure), code I11.0 I51.4 (Complications and ill-defined I51.9 descriptions of heart disease), code I11.-</p>
55	<p>I11.- 高血圧性心疾患 下記の記載を伴うもの: I20-I25 (虚血性心疾患)、<u>I20-I25</u>にコードする。 N18.- (慢性腎不全)、<u>I13.-</u>にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、<u>I13.-</u>にコードする。 N26 (詳細不明の萎縮腎)、<u>I13.-</u>にコードする。</p>	<p>I11.- 高血圧性心疾患 下記の記載を伴うもの: I20-I25 (虚血性心疾患)、<u>I20-I25</u>にコードする。 N18.- (慢性腎不全腎臓病)、<u>I13.-</u>にコードする。 N19 (詳細不明の腎不全)、<u>I13.-</u>にコードする。 N26 (詳細不明の萎縮腎)、<u>I13.-</u>にコードする。</p>	<p>I11.- Hypertensive heart disease</p> <p><i>with mention of:</i></p> <p>I20-I25 (Ischaemic heart disease), code I20-I25 N18.- (Chronic renal failure kidney disease), code I13.- N19 (Unspecified renal failure), code I13.-</p>
56	<p>I12.- 高血圧性腎疾患 下記の記載を伴うもの: I11.- (高血圧性心疾患)、I13.-にコードする。</p>	<p>I12.- 高血圧性腎疾患 下記の記載を伴うもの: I11.- (高血圧性心疾患)、I13.-にコードする。</p>	<p>I12.- Hypertensive renal disease</p> <p><i>with mention of:</i></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>I13- (高血圧性心腎疾患)、I13.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25 にコードする。</p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合：</p> <p>I50.- (心不全)、I13.0 にコードする。 I51.4-I51.9 (心疾患の合併症および診断名不明確な心疾患の記載)、I13.-にコードする。</p>	<p>I13- (高血圧性心腎疾患)、I13.-にコードする。 I20-I25 (虚血性心疾患)、I20-I25 にコードする。</p> <p><u>I50.- (心不全)、I13.0 にコードする。</u></p> <p><u>I51.4-I51.9 (心疾患の合併症及び診断名不明確な心疾患の記載)、I13.-にコードする。</u></p> <p>下記の起点となる先行原因として記載された場合： I50.- (心不全)、I13.0 にコードする。 I51.4-I51.9 (心疾患の合併症および診断名不明確な心疾患の記載)、I13.-にコードする。</p>	<p>I11.- (Hypertensive heart disease), code I13.- I13.- (Hypertensive heart and renal disease), code I13.-</p> <p>I20-I25 (Ischaemic heart disease), code I20-I25 <u>I50.- (Heart failure), code I13.0</u> <u>I51.4- (Complications and ill-defined descriptions of heart disease), code I13.-</u></p> <p><i>when reported as the originating antecedent cause of:</i></p> <p>I50.- (Heart failure), code I13.0 I51.4 (Complications and ill defined descriptions of heart disease), code I13.-</p>
57	<p>I 13. - 高血圧性心腎疾患 下記の病態を伴うもの： I 20- I 25 (虚血性心疾患)、<u>I 20- I 25</u> にコードする。</p>	<p>I 13. - 高血圧性心腎疾患 下記の記載病態を伴うもの： I 20- I 25 (虚血性心疾患)、<u>I 20- I 25</u> にコードする。</p>	<p>I13.- Hypertensive heart and renal disease <i>with mention of:</i> I20-I25 (Ischaemic heart disease), code I20-I25</p>
58	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I 15.- 二次性<続発性>高血圧 (症) 原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の診断名不明確および原因不明の死亡 (R99) にコードする。</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I 15.- 二次性<続発性>高血圧 (症) 原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の診断名不明確および原因不明の死亡 (R99) にコードする。</p> <p><u>I15.0 腎血管性高血圧 (症) ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.0 にコードする。</u></p> <p><u>I15.1 その他の腎障害による二次性<続発性>高血圧 (症) ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、N28.9 にコードする。</u></p> <p><u>I15.2 内分泌障害による二次性<続発性>高血圧 (症) ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、E34.9 にコードする。</u></p> <p><u>I15.8 その他の二次性<続発性>高血圧 (症) ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.8 にコードする。</u></p> <p><u>I15.9 二次性<続発性>高血圧 (症)、詳細不明 ルール 3 の適用により先行病態がわかっているか、推測できる場合は使用しない。先行病態がわかっていないか、推測できない場合は、I15.9 にコードする。</u></p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>I15.- Secondary hypertension</p> <p>Not to be used for underlying cause mortality coding. If the cause is not stated, code to Other ill defined and unspecified causes of mortality (R99).</p> <p>I15.0 Renovascular hypertension <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.0.</u></p> <p><u>I15.1 Hypertension secondary to other renal disorders</u> <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to N28.9.</u></p> <p><u>I15.2 Hypertension secondary to endocrine disorders</u> <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to E34.9.</u></p> <p><u>I15.8 Other secondary hypertension</u> <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.8.</u></p> <p><u>I15.9 Secondary hypertension, unspecified</u> <u>Not to be used if the antecedent condition is known or can be inferred by an application of Rule 3. If the antecedent condition is not known or cannot be inferred, code to I15.9.</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
59	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I24.0 冠(状)(動脈)血栓症、心筋梗塞に至らなかったもの原死因コーディングには使用しない。死因としては心筋梗塞の発生が推定され、<u>I21.-</u>または<u>I22.-</u>に分類するのが適当である。</p> <p>I27.9 肺性心疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： <u>M41.-</u> ((脊柱)側弯(症))、<u>I27.1</u> にコードする。</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I24.0 冠(状)(動脈)血栓症、心筋梗塞に至らなかったもの原死因コーディングには使用しない。死因としては心筋梗塞の発生が推定され、<u>I21.-</u>又は<u>I22.-</u>に分類するのが適当である。</p> <p><u>I25.2 陳旧性心筋梗塞</u> <u>原死因コーディングには使用しない。もし、原因が記載されていないならば、その他の型の慢性虚血性心疾患(I25.8)にコードする。</u></p> <p>I27.9 肺性心疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： <u>M41.-</u> ((脊柱)側弯(症))、<u>I27.1</u> にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>I24.0 Coronary thrombosis not resulting in myocardial infarction Not to be used for underlying cause mortality coding. For mortality the occurrence of myocardial infarction is assumed and assignment made to <u>I21.-</u> or <u>I22.-</u> as appropriate</p> <p><u>I25.2 Old myocardial infarction</u> <u>Not to be used for underlying cause mortality coding. If the cause is not stated, code to Other forms of chronic ischaemic heart disease (I25.8)</u></p> <p>I27.9 Pulmonary heart disease, unspecified with mention of: M41.- (Scoliosis), code <u>I27.1</u></p>
60	<p>I50.- 心不全 I51.9 心疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： <u>M41.-</u> ((脊柱)側弯(症))、I27.1 にコードする。</p>	<p>I50.- 心不全 I51.9 心疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： <u>I10</u> (本態性(原発性<一次性>)高血圧(症))、I1.0 にコードする。 <u>I11.-</u> (高血圧性心疾患)、I11.0 にコードする。 <u>I12.0</u> (腎不全を伴う高血圧性腎疾患)、I13.2 にコードする。 <u>I12.9</u> (腎不全を伴わない高血圧性腎疾患)、I13.0 にコードする。 <u>I13.0</u> (心不全(うっ血性)を伴う高血圧性心腎疾患)、I13.0 にコードする。 <u>I13.1</u> (腎不全を伴う高血圧性心腎疾患)、I13.2 にコードする。 <u>I13.2</u> (心不全(うっ血性)及び腎不全の合併を伴う高血圧心腎疾患)、I13.2 にコードする。 <u>I13.9</u> (腎不全を伴う高血圧性心腎疾患、詳細不明)、I13.0 にコードする。 <u>M41.-</u> ((脊柱)側弯(症))、I27.1 にコードする。</p>	<p>I50.- Heart failure I51.9 Heart disease, unspecified with mention of:</p> <p><u>I10</u> (Essential (primary) hypertension), code I11.0 I11.0 (Hypertensive heart disease), code I11.0 <u>I11.-</u> (Hypertensive heart disease), code I11.0 <u>I12.0</u> (Hypertensive renal disease with renal failure), code I13.2 <u>I12.9</u> (Hypertensive renal disease without renal failure), code I13.0 <u>I13.0</u> (Hypertensive heart and renal disease with (congestive) heart failure), code I13.0 <u>I13.1</u> (Hypertensive heart and renal disease with renal failure), code I13.2 <u>I13.2</u> (Hypertensive heart and renal disease with both (congestive) heart failure and renal failure), code I13.2 <u>I13.9</u> (Hypertensive heart and renal disease with renal failure, unspecified), code I13.0 M41.- (Scoliosis), code I27.1</p>
61	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I67.2 脳動脈のアテローム<じゅく<粥>状>動脈硬化(症) 下記の記載を伴うもの： <u>I60-I66</u> (脳出血、脳梗塞および脳卒中、脳実質外動脈および脳動脈の閉塞および狭窄)、<u>I60-I64</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合： <u>F03</u> (詳細不明の認知症)、<u>F01.-</u>にコードする。</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p> <p>I67.2 脳動脈のアテローム<じゅく<粥>状>動脈硬化(症) 下記の記載を伴うもの： <u>I60-I66</u> (脳出血、脳梗塞及び脳卒中、脳実質外動脈及び脳動脈の閉塞及び狭窄)、<u>I60-I64</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合： <u>F03</u> (詳細不明の認知症)、<u>F01.-</u>にコードする。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding</p> <p>I67.2 Cerebral atherosclerosis with mention of: I60-I66 (Cerebral haemorrhage, cerebral infarction or stroke, occlusion and stenosis of precerebral and cerebral arteries), code I60-I64. When reported as the originating antecedent cause of conditions in: F03 (Unspecified dementia), code F01.- G20 (Parkinson's disease), code G20 G21.4 <u>G21.9 (Secondary parkinsonism, unspecified), code G21.4</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	G20 (パーキンソン<Parkinson>病)、 <u>G20</u> にコードする。	G20 (パーキンソン<Parkinson>病)、 G20 <u>G21.4</u> にコードする。 G21.9 (続発性パーキンソン<Parkinson>症候群, 詳細不明)、G21.4 にコードする。	
62	I70.9 全身性および詳細不明のアテローム<じゅく>状動脈硬化 (症) 下記の記載を伴うもの: R02 (え<壊>疽、他に分類されないもの)、 <u>I70.2</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合: F01 (血管性認知症)、 <u>F01.-</u> にコードする。 F03 (詳細不明の認知症)、 <u>F01.-</u> にコードする。 G20 (パーキンソン<Parkinson>病)、 <u>G20</u> にコードする。	I70.9 全身性及び詳細不明のアテローム<じゅく>状動脈硬化 (症) 下記の記載を伴うもの: R02 (え<壊>疽、他に分類されないもの)、 <u>I70.2</u> にコードする。 下記における病態の起点となる先行原因として記載された場合: F01 (血管性認知症)、 <u>F01.-</u> にコードする。 F03 (詳細不明の認知症)、 <u>F01.-</u> にコードする。 G20 (パーキンソン<Parkinson>病)、 G20 <u>G21.4</u> にコードする。 G21.9 (続発性パーキンソン<Parkinson>症候群, 詳細不明)、G21.4 にコードする。	I70.9 Generalised and unspecified atherosclerosis <i>With mention of:</i> R02 (Gangrene, not elsewhere classified), code I70.2 <i>When reported as the originating antecedent cause of:</i> F01 (Vascular dementia), code F01.- F03 (Unspecified dementia), code F01.- G20 (Parkinson's disease), code G20 G21.4 G21.9 (Secondary parkinsonism, unspecified), code G21.4
63	J 06.- 多部位および部位不明の急性上気道感染症 下記の起点となる先行原因として記載された場合: G03.8 (髄膜炎)、G03.8 にコードする。 G06.0 (頭蓋内膿瘍および肉芽腫)、 <u>G06.0</u> にコードする。 H65-H66 (中耳炎)、 <u>H65-H66</u> にコードする。 H70.- (乳 (様) 突 (起) 炎および関連病態)、 <u>H70.-</u> にコードする。 J 10-J 18 (インフルエンザおよび肺炎)、 <u>J 10-J 18</u> にコードする。 J 20-J 21 (気管支炎および細気管支炎)、 <u>J 20-J 21</u> にコードする。 J 40-J 42 (詳細不明および慢性気管支炎)、 <u>J 40-J 42</u> にコードする。 J 44.- (その他の慢性閉塞性肺疾患)、 <u>J 44.-</u> にコードする。 N00.- (急性腎炎症候群)、 <u>N00.-</u> にコードする。	J 06.- 多部位及び部位不明の急性上気道感染症 下記の起点となる先行原因として記載された場合: G03.8 (髄膜炎)、G03.8 にコードする。 G06.0 (頭蓋内膿瘍及び肉芽腫)、 <u>G06.0</u> にコードする。 H65-H66 (中耳炎)、 <u>H65-H66</u> にコードする。 H70.- (乳 (様) 突 (起) 炎及び関連病態)、 <u>H70.-</u> にコードする。 J 10-J 18 <u>J 09-J 18</u> (インフルエンザ及び肺炎)、 <u>J 10-J 18</u> にコードする。 J 20-J 21 (気管支炎及び細気管支炎)、 <u>J 20-J 21</u> にコードする。 J 40-J 42 (詳細不明及び慢性気管支炎)、 <u>J 40-J 42</u> にコードする。 J 44.- (その他の慢性閉塞性肺疾患)、 <u>J 44.-</u> にコードする。 N00.- (急性腎炎症候群)、 <u>N00.-</u> にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding J00 Acute nasopharyngitis [common cold] J06.- Acute upper respiratory infections of multiple and unspecified sites <i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> G03.8 (Meningitis), code G03.8 G06.0 (Intracranial abscess and granuloma), code G06.0 H65-H66 (Otitis media), code H65-H66 H70.- (Mastoiditis and related conditions), code H70.- J09-J18 <u>J09-J18</u> (Influenza and pneumonia), code J09-J18 J09-J18 J20-J21 (Bronchitis and bronchiolitis), code J20-J21 J40-J42 (Unspecified and chronic bronchitis), code J40-J42 J44.- (Other chronic obstructive pulmonary disease), code J44.- N00.- (Acute nephritic syndrome), code N00.-
64	4.1.11 原死因コーディングのための注 J 06.- 多部位および部位不明の急性上気道感染症 ... J 20.- 急性気管支炎	4.1.11 原死因コーディングのための注 J06.- 多部位及び部位不明の急性上気道感染症 ... J18.- 肺炎, 病原体不詳 下記の記載を伴うもの: R26.3 (不動態)、J18.2 にコードする。 J20.- 急性気管支炎	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding J06.- Acute upper respiratory infections of multiple and unspecified sites ... <u>J18.- Pneumonia, organism unspecified</u> <i>With mention of:</i> <u>R26.3 (Immobility), code to J18.2</u> J20.- Acute bronchitis
65	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	J43.- 肺気腫 ... J45.- 喘息	J43.- 肺気腫 ... J44.8-J44.9 その他及び詳細不明の慢性閉塞性肺疾患 下記の記載を伴うもの: J12-J18 (肺炎)、J44.0 にコードする。 J20-J22 (その他の急性下気道感染症)、J44.0 にコードする。 J45.- 喘息	J43.- Emphysema ... J44.8-J44.9 Other and unspecified chronic obstructive pulmonary disease With mention of: J12-J18 (Pneumonia), code J44.0 J20-J22 (Other acute lower respiratory infections), code J44.0 J45.- Asthma
66	4.1.11 原死因コーディングのための注 K 72 肝不全、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.4 にコードする。 K 73 慢性肝炎、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.1 にコードする。 K 74.0 肝線維症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.2 にコードする。 K 74.1 肝硬化症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.2 にコードする。 K 74.2 肝硬化症を伴う肝線維症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.2 にコードする。 K 74.6 その他および詳細不明の肝硬変 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.3 にコードする。 K 75.9 炎症性肝疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.1 にコードする。 K 76.0 脂肪肝<肝の脂肪化>、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、K 70.0 にコードする。	4.1.11 原死因コーディングのための注 K71 中毒性肝疾患 下記の記載を伴うもの:: T51.- (アルコールの毒作用)、K70.-にコードする。 K 72 肝不全、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.4 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.4 にコードする。 K 73 慢性肝炎、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.1 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.1 にコードする。 K 74.0 肝線維症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.2 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.2 にコードする。 K 74.1 肝硬化症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.2 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.2 にコードする。 K 74.2 肝硬化症を伴う肝線維症 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.2 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.2 にコードする。 K 74.6 その他及び詳細不明の肝硬変 下記の記載を伴うもの: F 10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、K 70.3 にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、K70.3 にコードする。 K 75.9 炎症性肝疾患、詳細不明	4.1.11 Notes for underlying cause mortality coding K71 Toxic liver disease with mention of: T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.- K72 Hepatic failure, not elsewhere classified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.4 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.4 K73 Chronic hepatitis, not elsewhere classified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.1 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.1 K74.0 Hepatic fibrosis with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2 K74.1 Hepatic sclerosis with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2 K74.2 Hepatic fibrosis with hepatic sclerosis with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K70.2 T51.- (Toxic effect of alcohol), code K70.2 K74.6 Other and unspecified cirrhosis of liver with mention of:

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>K76.9 肝疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神および行動の障害)、<u>K70.9</u> にコードする。</p>	<p>下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、<u>K70.1</u> にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、<u>K70.1</u> にコードする。 K76.0 脂肪肝<肝の脂肪化>、他に分類されないもの 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、<u>K70.0</u> にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、<u>K70.0</u> にコードする。 K76.9 肝疾患、詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、<u>K70.9</u> にコードする。 T51.- (アルコールの毒作用)、<u>K70.9</u> にコードする。</p>	<p>F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code <u>K70.3</u> T51.- (<u>Toxic effect of alcohol</u>), code <u>K70.3</u> K75.9 Inflammatory liver disease, unspecified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code <u>K70.1</u> T51.- (<u>Toxic effect of alcohol</u>), code <u>K70.1</u> K76.0 Fatty (change) of liver, not elsewhere classified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code <u>K70.0</u> T51.- (<u>Toxic effect of alcohol</u>), code <u>K70.0</u> K76.9 Liver disease, unspecified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code <u>K70.9</u> T51.- (<u>Toxic effect of alcohol</u>), code <u>K70.9</u></p>
67	<p>K91.- 消化器系の処置後障害, 他に分類されないもの 原死因コーディングには使用しない。手術、4.2.6 節参照。</p>	<p>K85.9 急性膵炎, 詳細不明 下記の記載を伴うもの： F10.- (アルコール使用による精神及び行動の障害)、<u>K85.2</u> にコードする。 K91.- 消化器系の処置後障害, 他に分類されないもの 原死因コーディングには使用しない。手術、4.2.6 節参照。</p>	<p>4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding K85.9 Acute pancreatitis, unspecified with mention of: F10.- (Mental and behavioural disorders due to use of alcohol), code K85.2</p>
68	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注 L89.- じょくく褥>瘡性潰瘍 下記の起点となる先行原因として記載された場合： さらに病期の進んだ L89.- (じょくく褥>瘡性潰瘍)、そのさらに進んだ病期の4桁細分類項目を伴う L89.- にコードする。</p>	<p>L89.- Decubitus ulcer and pressure area when reported as the originating antecedent cause of: L89.- (Decubitus ulcer and pressure area) of a more advanced stage, code L89.- with the fourth character for the more advanced stage.</p>
69	<p>N00.- 急性ネフローゼ症候群 下記の起点となる先行原因として記載された場合： N03.- (慢性ネフローゼ症候群)、<u>N03.-</u> にコードする。 N18.- 慢性腎不全</p>	<p>N00.- 急性ネフローゼ症候群 下記の起点となる先行原因として記載された場合： N03.- (慢性ネフローゼ症候群)、<u>N03.-</u> にコードする。 N18.- 慢性腎不全腎臓病</p>	<p>N00.- Acute nephritic syndrome when reported as the originating antecedent cause of: N03.- (Chronic nephritic syndrome), code N03.- N18.- Chronic renal failure kidney disease</p>
70	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p>	<p>4.1.11 原死因コーディングのための注</p>	<p>N18.- Chronic kidney disease</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		N18.- 慢性腎臓病 下記の起点となる先行原因として記載された場合： さらに病期の進んだ N18.- (慢性腎臓病)、そのさらに進んだ病期の 4 桁細分類項目を伴う N18.- にコードする。	<i>when reported as the originating antecedent cause of:</i> N18.- (Chronic kidney disease) of a more advanced stage, code N18.- with the fourth character for the more advanced stage
71	4.1.11 原死因コーディングのための注	4.1.11 原死因コーディングのための注 Q44.6 肝臓の嚢胞性疾患 下記の記載を伴うもの： Q61.1-Q61.3 (多発性嚢胞腎疾患)、Q61.1-Q61.3 にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding Q44.6 Cystic disease of liver with mention of: Q61.1-Q61.3 (Polycystic kidney disease), code Q61.1-Q61.3
72	4.1.11 原死因コーディングのための注 P07.- 妊娠期間短縮および低出産体重に関連した障害、他に分類されないもの P08.- 遷延妊娠および高出産体重児に関連した障害 もし、周産期死亡のその他の原因が記載されていれば、使用しない。	4.1.11 原死因コーディングのための注 P07.- 妊娠期間短縮及び低出産体重に関連した障害、他に分類されないもの P08.- 遷延妊娠及び高出産体重児に関連した障害 もし、周産期死亡のその他の原因が記載されていれば、使用しない。記載された周産期死亡のその他の原因が新生児の呼吸不全 (P28.5) のみの場合はこれを適用しない。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding P07.- Disorders related to short gestation and low birth weight, not elsewhere classified P08.- Disorders related to long gestation and high birth weight Not to be used if any other cause of perinatal mortality is reported. <u>This does not apply if the only other cause of perinatal mortality reported is respiratory failure of newborn (P28.5).</u>
73	4.1.11 原死因コーディングのための注 P 72.2 – P 74 ... R69.- 原因不明および詳細不明の疾病	4.1.11 原死因コーディングのための注 P 72.2 – P 74 ... R57.2 敗血症性ショック R65.0 臓器不全を伴わない感染源の全身性炎症性反応症候群 R65.1 臓器不全を伴う感染源の全身性炎症性反応症候群 原死因コーディングには使用しない。原因となる感染症 (A00-B99) にコードする。原因となる感染症が記載されていない場合は、敗血症、詳細不明 (A41.9) にコードする。 R69.- 原因不明及び詳細不明の疾病	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding ... perinatal period, unspecified (P96.9) R57.2 Septic shock R65.0 Systemic inflammatory response syndrome of infectious origin without organ failure R65.1 Systemic inflammatory response syndrome of infectious origin with organ failure <u>Not to be used for underlying cause mortality coding. Code to the originating infectious disease (A00-B99). If no originating infectious disease is mentioned, code to unspecified sepsis (A41.9).</u> R69.- Unknown and unspecified causes of morbidity
74	4.1.11 原死因コーディングのための注 S02. 頭蓋骨および顔面骨の骨折 複数の部位の記載がある場合は、頭蓋骨および顔面骨を含む多発骨折 S02.7 にコードする。 S06.- 頭蓋内損傷 頭蓋骨または顔面骨の骨折が、頭蓋内損傷と関連のある場合、骨折が優先される。 下記の記載を伴うもの： S02.- 頭蓋骨または顔面骨の骨折、S02 にコードする。	4.1.11 原死因コーディングのための注 S02. 頭蓋骨および顔面骨の骨折 複数の部位の記載がある場合は、頭蓋骨および顔面骨を含む多発骨折 S02.7 にコードする。 S06.- 頭蓋内損傷 頭蓋骨または顔面骨の骨折が、頭蓋内損傷と関連のある場合、骨折が優先される。 下記の記載を伴うもの： S02.- 頭蓋骨または顔面骨の骨折、S02 にコードする。	4.1.11 Notes for use in underlying cause mortality coding S02.- Fracture of skull and facial bones - When more than one site is mentioned, code to multiple fractures involving skull and facial bones, S02.7 S06.- Intracranial injury - When a fracture of the skull or facial bones is associated with an intracranial injury, priority should be given to the fracture. - with mention of: - S02.- (Fracture of skull or facial bones), code S02.-

	現行				事務局仮訳				WHO勧告 (原文)																																																																																																										
							M13.9	E10-14 (E1x.6)	M89.9	<u>M89.9</u>	E10-E14(E1x.6)																																																																																																								
							<u>M79.2</u>	M79.2	E10-14 (E1x.4)		N03- N05																																																																																																								
								M89.9	E10-14 (E1x.6)		N05																																																																																																								
							<u>N03- N05</u>	N03- N05	E10-14 (E1x.2)		N18.-																																																																																																								
							<u>N18.-</u>	N18.-	E10-14 (E1x.2)		N19																																																																																																								
							<u>N19</u>	N19	E10-14 (E1x.2)		N26																																																																																																								
							<u>N26</u>	N26	E10-14 (E1x.2)		N28.9																																																																																																								
							<u>N28.9</u>	N28.9	E10-14 (E1x.2)		N39.0 <u>N39.0</u>																																																																																																								
								N39.0	E10-14 (E1x.6)		N39.1																																																																																																								
							<u>N39.1</u>	N39.1	E10-14 (E1x.2)		R02																																																																																																								
							<u>R02</u>	R02	E10-14 (E1x.5)		R40.2																																																																																																								
							<u>R40.2</u>	R40.2	E10-14 (E1x.0)		R79.8																																																																																																								
							E86																																																																																																												
76	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた 原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病 態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こさ れた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I10</td> <td>I20-I25</td> <td></td> <td>I20-I25</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>I50.-</td> <td>I11.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>I15.4- I51.9</td> <td>I11.-</td> </tr> <tr> <td>I12.-</td> <td>I20-I25</td> <td></td> <td>I20-I25</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>I50.-</td> <td>I13.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>I15.4- I51.9</td> <td>I13.-</td> </tr> <tr> <td>I50- I51.9</td> <td>M41.-</td> <td></td> <td>I27.1</td> </tr> </tbody> </table>				第1欄 選ばれた 原因 Selected-	第2欄 付記された病 態 With mention-	第3欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	I10	I20-I25		I20-I25			I50.-	I11.0			I15.4- I51.9	I11.-	I12.-	I20-I25		I20-I25			I50.-	I13.0			I15.4- I51.9	I13.-	I50- I51.9	M41.-		I27.1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた 原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病 態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こさ れた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I10</td> <td>I20-I25</td> <td></td> <td>I20-I25</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td><u>I50.-</u></td> <td><u>I11.0</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td><u>I15.4-</u> <u>I51.9</u></td> <td><u>I11.-</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>I50.-</td> <td>I11.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>I15.4- I51.9</td> <td>I11.-</td> </tr> <tr> <td>I12.-</td> <td>I20-I25</td> <td></td> <td>I20-I25</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td><u>I50.-</u></td> <td><u>I13.0</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td><u>I15.4-</u> <u>I51.9</u></td> <td><u>I13.-</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>I50.-</td> <td>I13.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>I15.4- I51.9</td> <td>I13.-</td> </tr> <tr> <td>I50- I51.9</td> <td><u>I10</u></td> <td></td> <td><u>I11.0</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>I11.-</u></td> <td></td> <td><u>I11.0</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>I12.0</u></td> <td></td> <td><u>I13.2</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>I12.9</u></td> <td></td> <td><u>I13.0</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>I13.0</u></td> <td></td> <td><u>I13.0</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>I13.2</u></td> <td></td> <td><u>I13.2</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>I13.9</u></td> <td></td> <td><u>I13.2</u></td> </tr> </tbody> </table>				第1欄 選ばれた 原因 Selected-	第2欄 付記された病 態 With mention-	第3欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	I10	I20-I25		I20-I25			<u>I50.-</u>	<u>I11.0</u>			<u>I15.4-</u> <u>I51.9</u>	<u>I11.-</u>			I50.-	I11.0			I15.4- I51.9	I11.-	I12.-	I20-I25		I20-I25			<u>I50.-</u>	<u>I13.0</u>			<u>I15.4-</u> <u>I51.9</u>	<u>I13.-</u>			I50.-	I13.0			I15.4- I51.9	I13.-	I50- I51.9	<u>I10</u>		<u>I11.0</u>		<u>I11.-</u>		<u>I11.0</u>		<u>I12.0</u>		<u>I13.2</u>		<u>I12.9</u>		<u>I13.0</u>		<u>I13.0</u>		<u>I13.0</u>		<u>I13.2</u>		<u>I13.2</u>		<u>I13.9</u>		<u>I13.2</u>	<p>4.1.12 Summary of linkages by code number</p> <p>Table 1. Summary of linkages by code number Selected cause With mention of As cause of Resulting Linked Code I10 I20-I25 I20-I25 <u>I50.- I11.0</u> I51.4-I51.9 I11.- I50.- I11.0 I51.4 I51.9 I11.- I12.- I20-I25 I20-I25 <u>I50.- I13.0</u> I51.4-I51.9 I13.- I50.- I13.0 I51.4 I51.9 I13.- I50.- I51.9 I10 I11.0 I11.- I11.0 <u>I12.0 I13.2</u> <u>I12.9 I13.0</u> <u>I13.0 I13.0</u> <u>I13.1 I13.2</u> <u>I13.2 I13.2</u> <u>I13.9 I13.0</u> M41 I27.1</p>		
第1欄 選ばれた 原因 Selected-	第2欄 付記された病 態 With mention-	第3欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																
I10	I20-I25		I20-I25																																																																																																																
		I50.-	I11.0																																																																																																																
		I15.4- I51.9	I11.-																																																																																																																
I12.-	I20-I25		I20-I25																																																																																																																
		I50.-	I13.0																																																																																																																
		I15.4- I51.9	I13.-																																																																																																																
I50- I51.9	M41.-		I27.1																																																																																																																
第1欄 選ばれた 原因 Selected-	第2欄 付記された病 態 With mention-	第3欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																
I10	I20-I25		I20-I25																																																																																																																
		<u>I50.-</u>	<u>I11.0</u>																																																																																																																
		<u>I15.4-</u> <u>I51.9</u>	<u>I11.-</u>																																																																																																																
		I50.-	I11.0																																																																																																																
		I15.4- I51.9	I11.-																																																																																																																
I12.-	I20-I25		I20-I25																																																																																																																
		<u>I50.-</u>	<u>I13.0</u>																																																																																																																
		<u>I15.4-</u> <u>I51.9</u>	<u>I13.-</u>																																																																																																																
		I50.-	I13.0																																																																																																																
		I15.4- I51.9	I13.-																																																																																																																
I50- I51.9	<u>I10</u>		<u>I11.0</u>																																																																																																																
	<u>I11.-</u>		<u>I11.0</u>																																																																																																																
	<u>I12.0</u>		<u>I13.2</u>																																																																																																																
	<u>I12.9</u>		<u>I13.0</u>																																																																																																																
	<u>I13.0</u>		<u>I13.0</u>																																																																																																																
	<u>I13.2</u>		<u>I13.2</u>																																																																																																																
	<u>I13.9</u>		<u>I13.2</u>																																																																																																																

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)																																																																																																																								
		M41.- I27.1																																																																																																																									
77	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I70.9</td> <td>R02</td> <td></td> <td>I70.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>F03</td> <td>F01.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G20</td> <td>G20</td> </tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	I70.9	R02		I70.2			F03	F01.-			G20	G20	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I70.9</td> <td>R02</td> <td></td> <td>I70.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>F03</td> <td>F01.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G20</td> <td>G20G21.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G21.9</td> <td>G21.4</td> </tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	I70.9	R02		I70.2			F03	F01.-			G20	G20 G21.4			G21.9	G21.4	<p>4.1.12 Summary of linkages by code number</p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Selected cause</th> <th>With mention of</th> <th>As cause of</th> <th>Resulting linked code</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I67.2</td> <td>I60-I66</td> <td></td> <td>I60-I64</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>F03</td> <td>F01.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G20</td> <td>G21.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G21.9</td> <td>G21.4</td> </tr> <tr> <td>I70.9</td> <td>R02</td> <td></td> <td>I70.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>F03</td> <td>F01.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G20</td> <td>G20 G21.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G21.9</td> <td>G21.4</td> </tr> </tbody> </table>	Selected cause	With mention of	As cause of	Resulting linked code	I67.2	I60-I66		I60-I64			F03	F01.-			G20	G21.4			G21.9	G21.4	I70.9	R02		I70.2			F03	F01.-			G20	G20 G21.4			G21.9	G21.4																																																
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																								
I70.9	R02		I70.2																																																																																																																								
		F03	F01.-																																																																																																																								
		G20	G20																																																																																																																								
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																								
I70.9	R02		I70.2																																																																																																																								
		F03	F01.-																																																																																																																								
		G20	G20 G21.4																																																																																																																								
		G21.9	G21.4																																																																																																																								
Selected cause	With mention of	As cause of	Resulting linked code																																																																																																																								
I67.2	I60-I66		I60-I64																																																																																																																								
		F03	F01.-																																																																																																																								
		G20	G21.4																																																																																																																								
		G21.9	G21.4																																																																																																																								
I70.9	R02		I70.2																																																																																																																								
		F03	F01.-																																																																																																																								
		G20	G20 G21.4																																																																																																																								
		G21.9	G21.4																																																																																																																								
78	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J00 } J06.- }</td> <td></td> <td>G03.8</td> <td>G03.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G06.0</td> <td>G06.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H65-H66</td> <td>H65-H66</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H70.-</td> <td>H70.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J10-J18</td> <td>J10-J18</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J20-J21</td> <td>J20-J21</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J40-J42</td> <td>J40-J42</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J44.-</td> <td>J44.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>N00.-</td> <td>N00.-</td> </tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	J00 } J06.- }		G03.8	G03.8			G06.0	G06.0			H65-H66	H65-H66			H70.-	H70.-			J10-J18	J10-J18			J20-J21	J20-J21			J40-J42	J40-J42			J44.-	J44.-			N00.-	N00.-	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J00 } J06.- }</td> <td></td> <td>G03.8</td> <td>G03.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G06.0</td> <td>G06.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H65--H66</td> <td>H65--H66</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H70.-</td> <td>H70.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J09J10-- J18</td> <td>J09J10-- J18</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J20--J21</td> <td>J20--J21</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J40--J42</td> <td>J40--J42</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J44.-</td> <td>J44.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>N00.-</td> <td>N00.-</td> </tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	J00 } J06.- }		G03.8	G03.8			G06.0	G06.0			H65--H66	H65--H66			H70.-	H70.-			J09J10-- J18	J09J10-- J18			J20--J21	J20--J21			J40--J42	J40--J42			J44.-	J44.-			N00.-	N00.-	<p>4.1.12 Summary of linkages by code number</p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <p>Page 86 – revise codes</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>J00 }</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>J06.- }</td> <td></td> <td>G03.8</td> <td>G03.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>G06.0</td> <td>G06.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H65-H66</td> <td>H65-H66</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>H70.-</td> <td>H70.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J09J10-- J18</td> <td>J09J10-- J18</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J20-J21</td> <td>J20-J21</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J40-J42</td> <td>J40-J42</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>J44.-</td> <td>J44.-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>N00.-</td> <td>N00.-</td> </tr> </tbody> </table>	J00 }				J06.- }		G03.8	G03.8			G06.0	G06.0			H65-H66	H65-H66			H70.-	H70.-			J09J10-- J18	J09J10-- J18			J20-J21	J20-J21			J40-J42	J40-J42			J44.-	J44.-			N00.-	N00.-
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																								
J00 } J06.- }		G03.8	G03.8																																																																																																																								
		G06.0	G06.0																																																																																																																								
		H65-H66	H65-H66																																																																																																																								
		H70.-	H70.-																																																																																																																								
		J10-J18	J10-J18																																																																																																																								
		J20-J21	J20-J21																																																																																																																								
		J40-J42	J40-J42																																																																																																																								
		J44.-	J44.-																																																																																																																								
		N00.-	N00.-																																																																																																																								
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																								
J00 } J06.- }		G03.8	G03.8																																																																																																																								
		G06.0	G06.0																																																																																																																								
		H65--H66	H65--H66																																																																																																																								
		H70.-	H70.-																																																																																																																								
		J09J10-- J18	J09J10-- J18																																																																																																																								
		J20--J21	J20--J21																																																																																																																								
		J40--J42	J40--J42																																																																																																																								
		J44.-	J44.-																																																																																																																								
		N00.-	N00.-																																																																																																																								
J00 }																																																																																																																											
J06.- }		G03.8	G03.8																																																																																																																								
		G06.0	G06.0																																																																																																																								
		H65-H66	H65-H66																																																																																																																								
		H70.-	H70.-																																																																																																																								
		J09J10-- J18	J09J10-- J18																																																																																																																								
		J20-J21	J20-J21																																																																																																																								
		J40-J42	J40-J42																																																																																																																								
		J44.-	J44.-																																																																																																																								
		N00.-	N00.-																																																																																																																								
79	<p>4.1.12 コード番号による連鎖表</p> <p>表 1. コード番号による連鎖表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J43.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>J60-J64</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	J43.-				J60-J64				<p>4.1.12 コード番号による連鎖表</p> <p>表 1. コード番号による連鎖表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>第1欄 選ばれた原因 Selected-</th> <th>第2欄 付記された病態 With mention-</th> <th>第3欄 引き起こされた病態 As cause of</th> <th>第4欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J43.-</td> <td>J40</td> <td></td> <td>J44.-</td> </tr> <tr> <td>J44.8- J44.9</td> <td>J12-J18</td> <td></td> <td>J44.0</td> </tr> </tbody> </table>	第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-	J43.-	J40		J44.-	J44.8- J44.9	J12-J18		J44.0	<p>4.1.12 Summary of linkages by code number</p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Selected cause</th> <th>With mention of</th> <th>As cause of</th> <th>Resulting lined code</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J43.-</td> <td>J40</td> <td></td> <td>J44.-</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>J44.8-J44.9</td> <td>J12-J18</td> <td></td> <td>J44.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>J20-J22</td> <td></td> <td>J44.0</td> </tr> <tr> <td>J60-J64</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Selected cause	With mention of	As cause of	Resulting lined code	J43.-	J40		J44.-	...				J44.8-J44.9	J12-J18		J44.0		J20-J22		J44.0	J60-J64																																																																											
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																								
J43.-																																																																																																																											
J60-J64																																																																																																																											
第1欄 選ばれた原因 Selected-	第2欄 付記された病態 With mention-	第3欄 引き起こされた病態 As cause of	第4欄 連鎖コード Resulting link-																																																																																																																								
J43.-	J40		J44.-																																																																																																																								
J44.8- J44.9	J12-J18		J44.0																																																																																																																								
Selected cause	With mention of	As cause of	Resulting lined code																																																																																																																								
J43.-	J40		J44.-																																																																																																																								
...																																																																																																																											
J44.8-J44.9	J12-J18		J44.0																																																																																																																								
	J20-J22		J44.0																																																																																																																								
J60-J64																																																																																																																											

	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）																																																																												
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>J20-J22</td> <td></td> <td>J44.0</td> </tr> <tr> <td>J60-J64</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		J20-J22		J44.0	J60-J64																																																																								
	J20-J22		J44.0																																																																												
J60-J64																																																																															
80	<p>4.1.12 コード番号による連鎖表</p> <p>表 1. コード番号による連鎖表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-</th> <th>第 2 欄 付記された病 態 With mention-</th> <th>第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of</th> <th>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J81</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>M41.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	J81				M41.-				<p>4.1.12 コード番号による連鎖表</p> <p>表 1. コード番号による連鎖表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-</th> <th>第 2 欄 付記された病 態 With mention-</th> <th>第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of</th> <th>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J81</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>K85.9</u></td> <td></td> <td></td> <td><u>K85.2</u></td> </tr> <tr> <td>M41.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	J81				<u>K85.9</u>			<u>K85.2</u>	M41.-				<p>4.1.12 Summary of linkages by code number</p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Selected cause</th> <th>With mention of</th> <th>As cause of</th> <th>Resulting linked code</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F10.-</td> <td>...</td> <td></td> <td>...</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K74.6</td> <td></td> <td>K70.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K75.9</td> <td></td> <td>K70.1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K76.0</td> <td></td> <td>K70.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K76.9</td> <td></td> <td>K70.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K85.2</td> <td></td> <td>K85.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K86.0</td> <td></td> <td>K86.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>O35.4</td> <td></td> <td>O35.4</td> </tr> <tr> <td>F10.2</td> <td>F10.4, F10.6, F10.7</td> <td></td> <td>F10.4, F10.6, F10.7</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>K85.9</u></td> <td><u>F10.-</u></td> <td></td> <td><u>K85.2</u></td> </tr> </tbody> </table>	Selected cause	With mention of	As cause of	Resulting linked code	F10.-		K74.6		K70.3		K75.9		K70.1		K76.0		K70.0		K76.9		K70.9		K85.2		K85.2		K86.0		K86.0		O35.4		O35.4	F10.2	F10.4, F10.6, F10.7		F10.4, F10.6, F10.7	...				<u>K85.9</u>	<u>F10.-</u>		<u>K85.2</u>
第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
J81																																																																															
M41.-																																																																															
第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
J81																																																																															
<u>K85.9</u>			<u>K85.2</u>																																																																												
M41.-																																																																															
Selected cause	With mention of	As cause of	Resulting linked code																																																																												
F10.-																																																																												
	K74.6		K70.3																																																																												
	K75.9		K70.1																																																																												
	K76.0		K70.0																																																																												
	K76.9		K70.9																																																																												
	K85.2		K85.2																																																																												
	K86.0		K86.0																																																																												
	O35.4		O35.4																																																																												
F10.2	F10.4, F10.6, F10.7		F10.4, F10.6, F10.7																																																																												
...																																																																															
<u>K85.9</u>	<u>F10.-</u>		<u>K85.2</u>																																																																												
81	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-</th> <th>第 2 欄 付記された病 態 With mention-</th> <th>第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of</th> <th>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>O64.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S06.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	O64.-				S06.-				<table border="1"> <thead> <tr> <th>第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-</th> <th>第 2 欄 付記された病 態 With mention-</th> <th>第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of</th> <th>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>O64.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R57.2</td> <td><u>A00 – B99</u></td> <td></td> <td><u>A00 – B99</u></td> </tr> <tr> <td>R65.0</td> <td><u>A00 – B99</u></td> <td></td> <td><u>A00 – B99</u></td> </tr> <tr> <td>-.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S06.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	O64.-				R57.2	<u>A00 – B99</u>		<u>A00 – B99</u>	R65.0	<u>A00 – B99</u>		<u>A00 – B99</u>	-.1				S06.-				<p>4.1.12 Summary of linkages by code number</p> <p><i>Table 1. Summary of linkages by code number</i></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Selected cause</th> <th>With mention of</th> <th>As cause of</th> <th>Resulting linked code</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>O64</u></td> <td><u>O65.-</u></td> <td></td> <td><u>O65.-</u></td> </tr> <tr> <td><u>R57.2</u></td> <td><u>A00-B99</u></td> <td></td> <td><u>A00-B99</u></td> </tr> <tr> <td><u>R65.0-1</u></td> <td><u>A00-B99</u></td> <td></td> <td><u>A00-B99</u></td> </tr> <tr> <td><u>S06.-</u></td> <td><u>S02.-</u></td> <td></td> <td><u>S02.-</u></td> </tr> </tbody> </table>	Selected cause	With mention of	As cause of	Resulting linked code	<u>O64</u>	<u>O65.-</u>		<u>O65.-</u>	<u>R57.2</u>	<u>A00-B99</u>		<u>A00-B99</u>	<u>R65.0-1</u>	<u>A00-B99</u>		<u>A00-B99</u>	<u>S06.-</u>	<u>S02.-</u>		<u>S02.-</u>																				
第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
O64.-																																																																															
S06.-																																																																															
第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
O64.-																																																																															
R57.2	<u>A00 – B99</u>		<u>A00 – B99</u>																																																																												
R65.0	<u>A00 – B99</u>		<u>A00 – B99</u>																																																																												
-.1																																																																															
S06.-																																																																															
Selected cause	With mention of	As cause of	Resulting linked code																																																																												
<u>O64</u>	<u>O65.-</u>		<u>O65.-</u>																																																																												
<u>R57.2</u>	<u>A00-B99</u>		<u>A00-B99</u>																																																																												
<u>R65.0-1</u>	<u>A00-B99</u>		<u>A00-B99</u>																																																																												
<u>S06.-</u>	<u>S02.-</u>		<u>S02.-</u>																																																																												
82	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-</th> <th>第 2 欄 付記された病 態 With mention-</th> <th>第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of</th> <th>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>O64.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S06.-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	O64.-				S06.-				<table border="1"> <thead> <tr> <th>第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-</th> <th>第 2 欄 付記された病 態 With mention-</th> <th>第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of</th> <th>第 4 欄 連鎖コード Resulting link-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R65.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S06.-</td> <td>S02.-</td> <td></td> <td>S02.-</td> </tr> <tr> <td>V01 -</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>X59</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-	R65.0				-.1				S06.-	S02.-		S02.-	V01 -				X59				<p>4.1.12 Summary of linkages by code number [Table 1. Summary of linkages by code number]</p> <p>“S06.- S02.- S02.-”</p>																																								
第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
O64.-																																																																															
S06.-																																																																															
第 1 欄 選ばれた 原因 Selected-	第 2 欄 付記された病 態 With mention-	第 3 欄 引き起こさ れた病態 As cause of	第 4 欄 連鎖コード Resulting link-																																																																												
R65.0																																																																															
-.1																																																																															
S06.-	S02.-		S02.-																																																																												
V01 -																																																																															
X59																																																																															
83	4.1.12 コード番号による連鎖表	4.1.12 コード番号による連鎖表	<p>4.1.12 Summary of linkages by code number</p> <p><i>Table 2. Summary of codes not to be used in underlying cause mortality</i></p>																																																																												

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)																								
			<p>....</p> <p>I23.- (code to I21 or I22) H90-H91 I24.0 (code to I21 or I22) N46 <u>I25.2</u> (code to I25.8) N97.- I65.- (code to I63)</p>																								
86	<table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっていたら使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>O08.-</td> <td>...</td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっていたら使用されないコード	O08.-	...	<table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっていたら使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>O08.- (O00-O07 にコードする)</td> <td></td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっていたら使用されないコード	O08.- (O00-O07 にコードする)																		
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっていたら使用されないコード																										
O08.-	...																										
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっていたら使用されないコード																										
O08.- (O00-O07 にコードする)																											
87	<table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっていたら使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>...</td> </tr> <tr> <td>P72.2-P74 (P96.9 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R69.- (R95-R99 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっていたら使用されないコード	P72.2-P74 (P96.9 にコードする)		R69.- (R95-R99 にコードする)		...		<table border="1"> <tr> <td>原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)</td> <td>原死因がわかっていたら使用されないコード</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>...</td> </tr> <tr> <td>P72.2-P74 (P96.9 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R57.2 (A41.9 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>R65.0-.1</u> (A41.9 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R69.- (R95-R99 にコードする)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>...</td> <td></td> </tr> </table>	原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっていたら使用されないコード	P72.2-P74 (P96.9 にコードする)		R57.2 (A41.9 にコードする)		<u>R65.0-.1</u> (A41.9 にコードする)		R69.- (R95-R99 にコードする)		...		<p>4.1.12 Summary of linkages by code number</p> <p><i>Table 2. Summary of codes not to be used in underlying cause mortality coding</i></p> <p>....</p> <p>P72.2-P74 (code to P96.9) <u>R57.2</u> (code to A41.9) <u>R65.0-.1</u> (code to A41.9) R69.- (code to R95-R99)</p>
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっていたら使用されないコード																										
...	...																										
P72.2-P74 (P96.9 にコードする)																											
R69.- (R95-R99 にコードする)																											
...																											
原死因コーディングには使用されないコード (括弧内の項目にコードする; もし、コードが示されていないならば、R99 にコードする)	原死因がわかっていたら使用されないコード																										
...	...																										
P72.2-P74 (P96.9 にコードする)																											
R57.2 (A41.9 にコードする)																											
<u>R65.0-.1</u> (A41.9 にコードする)																											
R69.- (R95-R99 にコードする)																											
...																											
88	<p>※4.2.2 節については、大幅な修正があったため、2010 年までの修正についてあ、見え消しは省いている。2011 年以降の修正については、見え消しで示した。</p>																										
89	<p>4.2.2 「因果関係がほとんどない」の解釈</p> <p>「因果関係がほとんどない」という表現は、因果関係が存在するとは考えられないということを示すために、ICD 第6回修正以来用いられてきたものである。一般原則および選択ルールの適用にあたり、因果関係があるかどうか考える上での参考として、下記のような場合は「因果関係がほとんどない」とみなされるべきである。</p>	<p>4.2.2 死因統計の原死因の選定における認められる因果関係と認められない因果関係</p> <p>本節では、原死因を選ぶ際に、死因の因果関係が妥当なものとしてでないものをリストにまとめた。このリストの目的は、可能な限り、最も有用な死因統計を可能にすることである¹。したがって、因果関係が妥当かそうでないかの判断は、純粋に医学的な観点よりも公衆衛生の観点により強く反映されている場合がある。下記の指示</p>	<p>Note 4.2.2 Interpretation of “highly” improbable for implementation January 2010 (incorporates URC 0318, 1038, 1130 and 1238)</p> <p>4.2.2 Accepted and rejected sequences for the selection of underlying cause of death for mortality statistics</p> <p>This section lists sequences of causes of death that should be accepted or rejected when selecting the underlying cause of death. The purpose of these lists is to produce the most useful mortality statistics possible.² Thus,</p>																								

1 以前の ICD では、選択ルールの適用において認められない因果関係を示すために「因果関係がほとんどない」という表現が使われていた。

2 The expression “highly improbable” was previously used in the ICD to indicate a causal relationship that was not to be accepted when applying the selection rules.

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		は、それが医学的に正しいか否かにかかわらず適用されるものである。	whether a sequence is listed as “rejected” or “accepted” may reflect interests of importance for public health rather than what is acceptable from a purely medical point of view. The following instructions always apply, therefore, whether the relationship is considered medically correct or not.
90		A. 認められない因果関係 一般原則及び選択ルールの適用において、下記の因果関係は認められない。	A. <i>Rejected sequences</i> When applying the General Principle and the selection rules, the following relationships should be rejected:
91	<p>(a) あらゆる感染症は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] または AIDS のような免疫機能の障害「による」と考えてよい。</p> <p>(b) 感染症または寄生虫症 (A00– B99) が、この章に記載されている以外の疾病「による」と記載されている場合：ただし、下記のものは除く：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 感染性と推定される下痢および胃腸炎 (A09) - 敗血症 (A40– A41) - 丹毒 (A46) - ガスえく壊疽 (A48.0) - バンサン<Vincent>口峡炎くアンギナ (A69.1) - 真菌症 (B35– B49) <p>は、他の疾病「による」と考えてよい</p> <ul style="list-style-type: none"> - あらゆる感染症は、化学物質 (化学療法) および放射線による免疫抑制「による」と考えてよい。 - 悪性新生物「による」と記載されている A00– B19 または B25– B64 に分類される感染症はすべてこのように考えてよい。 - 水痘および帯状疱疹感染症 (B01– B02) は、糖尿病、結核およびリンパ増殖性新生物「による」と考えてよい； 	<p>(a) 感染症 下記の感染症は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV]、悪性新生物又は免疫機能を低下させる病態によると記載されている場合を除き、他の疾患又は病態によるものとして受け入れられるべきでない：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 腸チフス及びパラチフス、その他のサルモネラ感染症、細菌性赤痢 (A01– A03) - 結核 (A15– A19) <p>下記の感染症及び寄生虫症は、他の疾患又は病態によるものとして受け入れられるべきでない (HIV/AIDS、悪性新生物又は免疫抑制の場合でも受け入れられるべきではない)：</p> <ul style="list-style-type: none"> - コレラ (A00) - ボツリズム<ボツリヌス中毒> (A05.1) - ペスト、野兔病<ツラレミア>、炭疽、ブルセラ症 (A20– A23) - レプトスピラ症 (A27) - 破傷風、ジフテリア、百日咳、猩紅熱、髄膜炎菌疾患 (A33– A39) - オウム病クラミジアによる疾患 (A70) - リケッチア症 (A75– A79) - 急性灰白髄炎<ポリオ> (A80) - クロイツフェルト・ヤコブ病 (A81.0) - 亜急性硬化性全脳炎<SSPE> (A81.1) - 狂犬病、蚊媒介ウイルス (性) 脳炎、ダニ媒介ウイルス (性) 脳炎、詳細不明のウイルス (性) 脳炎 (A82– A86) - デング出血熱及びその他の蚊媒介ウイルス熱 (A91– A92) - 黄熱 (A95) - フニン及びマチュポ出血熱、ラッサ熱 (A96.0– A96.2) - その他のウイルス性出血熱 (A98) - 痘瘡、サル痘、麻疹、風疹 (B03– B06) - 急性B型及びC型肝炎 (B16– B17.1) - ムンプス (B26) - マラリア、リーシュマニア症、シャガス病 (B50– B57) - 結核の続発・後遺症 (B90) - 灰白髄炎<ポリオ> の続発・後遺症 (B91) - ハンセン病の続発・後遺症 (B92) 	<p>(a) Infectious diseases</p> <p>The following infectious diseases should not be accepted as due to any other disease or condition, except when reported as due to human immunodeficiency virus [HIV] disease, malignant neoplasms and conditions impairing the immune system:</p> <ul style="list-style-type: none"> • typhoid and paratyphoid fevers, other salmonella infections, shigellosis (A01– A03) • tuberculosis (A15– A19) <p>The following infectious and parasitic diseases should not be accepted as due to any other disease or condition (not even HIV/AIDS, malignant neoplasms or immunosuppression):</p> <ul style="list-style-type: none"> • cholera (A00) • botulism (A05.1) • plague, tularaemia, anthrax, brucellosis (A20– A23) • leptospirosis (A27) • tetanus, diphtheria, whooping cough, scarlet fever, meningococcal disease (A33– A39) • diseases due to Chlamydia psittaci (A70) • rickettsioses (A75– A79) • acute poliomyelitis (A80) • Creutzfeldt– Jakob disease (A81.0) • subacute sclerosing panencephalitis (A81.1) • rabies, mosquito– borne viral encephalitis, tick– borne viral encephalitis, unspecified viral encephalitis (A82– A86) • dengue haemorrhagic and other mosquito– borne viral fevers (A91– A92) • yellow fever (A95) • Junin and Machupo haemorrhagic fevers, Lassa fever (A96.0– A96.2) • other viral haemorrhagic fevers (A98) • smallpox, monkeypox, measles, rubella (B03– B06) • acute hepatitis B and C (B16– B17.1) • mumps (B26) • malaria, leishmaniasis, Chagas’ disease (B50– B57) • sequelae of tuberculosis (B90) • sequelae of poliomyelitis (B91) • sequelae of leprosy (B92) • sequelae of trachoma (B94.0) • sequelae of viral encephalitis (B94.1) • sequelae of viral hepatitis (B94.2) • other emerging diseases reportable to WHO (e.g., SARS, influenza due to avian influenza virus)

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		<ul style="list-style-type: none"> - トラコーマの続発・後遺症 (B94.0) - ウイルス(性)脳炎の続発・後遺症 (B94.1) - ウイルス肝炎の続発・後遺症 (B94.2) - WHOへの報告対象となっているその他の新興疾患(例: U04 SARS、J09鳥インフルエンザウイルスによるインフルエンザ) 	
		<p style="text-align: center;">2013</p> <p>(a) 感染症 下記の感染症は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV]、悪性新生物又は免疫機能を低下させる病態によると記載されている場合を除き、他の疾患又は病態によるものとして受け入れられるべきでない:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 腸チフス及びパラチフス、その他のサルモネラ感染症、細菌性赤痢 (A01-A03) - 結核 (A15-A19) - 結核の続発・後遺症 (B90) <p>下記の感染症及び寄生虫症は、他の疾患又は病態によるものとして受け入れられるべきでない (HIV/AIDS、悪性新生物又は免疫抑制の場合でも受け入れられるべきではない):</p> <ul style="list-style-type: none"> - コレラ (A00) - ボツリズム<ボツリヌス中毒> (A05.1) - ペスト、野兔病<ツラレミア>、炭疽、ブルセラ症 (A20-A23) - レプトスピラ症 (A27) - 破傷風、ジフテリア、百日咳、猩紅熱、髄膜炎菌疾患 (A33-A39) - オウム病クラミジアによる疾患 (A70) - リケッチア症 (A75-A79) - 急性灰白髄炎<ポリオ> (A80) - クロイツフェルト・ヤコブ病 (A81.0) - 亜急性硬化性全脳炎<SSPE> (A81.1) - 狂犬病、蚊媒介ウイルス(性)脳炎、ダニ媒介ウイルス(性)脳炎、詳細不明のウイルス(性)脳炎 (A82-A86) - デング出血熱及びその他の蚊媒介ウイルス熱 (A91-A92) - 黄熱 (A95) - フニン及びマチュポ出血熱、ラッサ熱 (A96.0-A96.2) - その他のウイルス性出血熱 (A98) - 痘瘡、サル痘、麻疹、風疹 (B03-B06) - 急性B型及びC型肝炎 (B16-B17.1) - 慢性B型及びC型肝炎 (B18.0-B18.2) - ムンプス (B26) - マラリア、リーシュマニア症、シャガス病 (B50-B57) - 結核の続発・後遺症 (B90) - 灰白髄炎<ポリオ>の続発・後遺症 (B91) - ハンセン病の続発・後遺症 (B92) - トラコーマの続発・後遺症 (B94.0) 	<p>(a) Infectious diseases</p> <p>The following infectious diseases should not be accepted as due to any other disease or condition, except when reported as due to human immunodeficiency virus [HIV] disease, malignant neoplasms and conditions impairing the immune system:</p> <ul style="list-style-type: none"> • typhoid and paratyphoid fevers, other salmonella infections, shigellosis (A01-A03) • tuberculosis (A15-A19) <p>• sequelae of tuberculosis (B90)</p> <p>The following infectious and parasitic diseases should not be accepted as due to any other disease or condition (not even HIV/AIDS, malignant neoplasms or immunosuppression):</p> <ul style="list-style-type: none"> • cholera (A00) • botulism (A05.1) • plague, tularaemia, anthrax, brucellosis (A20-A23) • leptospirosis (A27) • tetanus, diphtheria, whooping cough, scarlet fever, meningococcal disease (A33-A39) • diseases due to Chlamydia psittaci (A70) • rickettsioses (A75-A79) • acute poliomyelitis (A80) • Creutzfeldt-Jakob disease (A81.0) • subacute sclerosing panencephalitis (A81.1) • rabies, mosquito-borne viral encephalitis, tick-borne viral encephalitis, unspecified viral encephalitis (A82-A86) • dengue haemorrhagic and other mosquito-borne viral fevers (A91-A92) • yellow fever (A95) • Junin and Machupo haemorrhagic fevers, Lassa fever (A96.0-A96.2) • other viral haemorrhagic fevers (A98) • smallpox, monkeypox, measles, rubella (B03-B06) • acute hepatitis B and C (B16-B17.1) • mumps (B26) • malaria, leishmaniasis, Chagas' disease (B50-B57) • sequelae of tuberculosis (B90) • sequelae of poliomyelitis (B91) • sequelae of leprosy (B92) • sequelae of trachoma (B94.0) • sequelae of viral encephalitis (B94.1) • sequelae of viral hepatitis (B94.2) • other emerging diseases reportable to WHO (e.g., SARS, influenza due to avian influenza virus)

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<ul style="list-style-type: none"> - ウイルス (性) 脳炎の続発・後遺症 (B94.1) - ウイルス肝炎の続発・後遺症 (B94.2) - WHOへの報告対象となっているその他の新興疾患 (例: U04 SARS、J09 鳥インフルエンザウイルスによるインフルエンザ) 	
		<p>a) 感染症</p> <p>下記の感染症は、ヒト免疫不全ウイルス[HIV]、悪性新生物又は免疫機能を低下させる病態によると記載されている場合を除き、他の疾患又は病態によるものとして受け入れられるべきでない:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 腸チフス及びパラチフス、その他のサルモネラ感染症、細菌性赤痢 (A01-A03) - 結核 (A15-A19) - 結核の続発・後遺症 (B90) <p>下記の感染症及び寄生虫症は、他の疾患又は病態によるものとして受け入れられるべきでない (HIV/AIDS、悪性新生物又は免疫抑制の場合でも受け入れられるべきではない):</p> <ul style="list-style-type: none"> - コレラ (A00) - ボツリズム<ボツリヌス中毒> (A05.1) - ペスト、野兔病<ツラレミア>、炭疽、ブルセラ症 (A20-A23) - レプトスピラ症 (A27) - らい<癩> (ハンセン<Hansen>病) (A30) - 破傷風、ジフテリア、百日咳、猩紅熱、髄膜炎菌疾患 (A33-A39) - オウム病クラミジアによる疾患 (A70) - トラコーマ (A71) - リケッチア症 (A75-A79) - 急性灰白髄炎<ポリオ> (A80) - クロイツフェルト・ヤコブ病 (A81.0) - 亜急性硬化性全脳炎<SSPE> (A81.1) - 狂犬病、蚊媒介ウイルス (性) 脳炎、ダニ媒介ウイルス (性) 脳炎、詳細不明のウイルス (性) 脳炎 (A82-A86) - デング出血熱及びその他の蚊媒介ウイルス熱 (A91-A92) - 黄熱 (A95) - フニン及びマチュポ出血熱、ラッサ熱 (A96.0-A96.2) - その他のウイルス性出血熱 (A98) - 痘瘡、サル痘、麻疹、風疹 (B03-B06) - 急性B型及びC型肝炎 (B16-B17.1) - 慢性B型及びC型肝炎 (B18.0-B18.2) - ムンプス (B26) - マラリア、リーシュマニア症、シャガス病 (B50-B57) - 灰白髄炎<ポリオ> の続発・後遺症 (B91) - ハンセン病の続発・後遺症 (B92) - トラコーマの続発・後遺症 (B94.0) 	<p>4.2.2 Accepted and rejected sequences for the selection of underlying cause of death for mortality statistics</p> <p>This section lists sequences of causes of death that should be accepted or rejected when selecting the underlying cause of death...</p> <p>...</p> <p>A. Rejected sequences</p> <p>When applying the General Principle and the selection rules, the following relationships should be rejected:</p> <p>(a) Infectious diseases</p> <p>...</p> <p>The following infectious and parasitic diseases should not be accepted as due to any other disease or condition (not even HIV/AIDS, malignant neoplasms or immunosuppression):</p> <p>...</p> <ul style="list-style-type: none"> • leptospirosis (A27) • leprosy (Hansen's disease) (A30) • tetanus, diphtheria, whooping cough, scarlet fever, meningococcal disease (A33-A39) • diseases due to Chlamydia psittaci (A70) • trachoma (A71) • rickettsioses (A75-A79) <p>...</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		<ul style="list-style-type: none"> - ウイルス(性)脳炎の続発・後遺症(B94.1) - ウイルス肝炎の続発・後遺症(B94.2) - WHOへの報告対象となっているその他の新興疾患(例: U04 SARS、J09鳥インフルエンザウイルスによるインフルエンザ) 	
92	(c) 悪性新生物が、何らかの疾病「による」と記載された場合、ただし、ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病は除く；	(b) 悪性新生物 悪性新生物は、何らかの疾病によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病は除く。	(b) Malignant neoplasms A malignant neoplasm should not be accepted as due to any other disease, <i>except</i> human immunodeficiency virus (HIV) disease.
93	(d) 血友病(D66, D67, D68.0-D68.2)が、その他の疾病「による」と記載された場合；	(c) 血友病 血友病(D66, D67, D68.0-D68.2)は、その他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。	I Haemophilia Haemophilia (D66, D67, D68.0-D68.2) should not be accepted as due to any other disease.
94	(e) 糖尿病(E10-E14)が、他の疾病「による」と記載された場合、ただし、下記のもの除く； <ul style="list-style-type: none"> - ヘモクロマトーシス(E83.1) - 脾疾患(K85-K86) - 脾の新生物(C25.-, D13.6, D13.7, D37.7) - 栄養失調(症)(E40-E46) 	(d) 糖尿病 糖尿病(E10-E14)は、他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、 <u>脾臓を損傷させる病態、及び付録10.2の糖尿病の原因となり得る病態のリストは除く。</u>	(d) Diabetes Diabetes (E10-E14) should not be accepted as due to any other disease <i>except</i> diseases causing damage to the pancreas, <u>and listed in Appendix 7.2 for a list of conditions that can cause diabetes.</u> ※部会時資料から修正(原文新旧対照表の漏れ。2010年版書籍に併せて修正)
		<p style="text-align: center;">2013</p> <p>4.2.2 死因統計の原死因が認められる認められる因果関係と認められない因果関係 ...</p> <p>A. 認められない因果関係 ...</p> <p>(d) 糖尿病 1型糖尿病<IDDM>(E10) (E10-E14)は、自己免疫反応によりベータ細胞の破壊を引き起こす病態を除いて、他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、<u>脾臓を損傷させる病態は除く。</u></p> <p>2型糖尿病<NIDDM>(E11)は、インスリン抵抗性を引き起こす病態を除いて、<u>他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。</u></p> <p>ただし、<u>その他の明示された糖尿病及び詳細不明の糖尿病(E13-E14)は、脾臓を損傷させる病態、及び付録10.2の糖尿病の原因となり得る病態のリストは除く</u>を除いて、他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。</p> <p>糖尿病を引き起こす可能性のある病態については、付録7.2のリストを参照。</p>	<p>Section 4.2.2 Accepted and rejected sequences for the selection of underlying cause of death for mortality statistics ...</p> <p>A. Rejected sequences ...</p> <p>(d) Diabetes <u>Insulin-dependent diabetes mellitus (E10) (E10-E14) should not be accepted as “due to” any other disease <i>except</i> for conditions causing damage to the pancreas, <u>autoimmune destruction of β-cells.</u></u> <u>Non-insulin-dependent diabetes mellitus (E11) should not be accepted as “due to” any other disease <i>except</i> conditions causing insulin resistance.</u> <u>Other and unspecified diabetes mellitus (E13-E14) should not be accepted as “due to” any other disease <i>except</i> conditions causing damage to the pancreas.</u> See Appendix 7.2 for a list of the conditions that can cause diabetes.</p>
95	(f) リウマチ熱(I00-I02)またはリウマチ性心疾患(I05-I09)	(e) リウマチ熱	(e) Rheumatic fever

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	が、猩紅熱(A38)、レンサ球菌性敗血症(A40.-)、レンサ球菌性咽頭炎(J02.0)および急性扁桃炎(J03.-)以外の疾病「による」と記載された場合；	リウマチ熱(I00-I02)又はリウマチ性心疾患(I05-I09)は、他の疾患によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、下記のものとは除く： - 猩紅熱(A38) - 連鎖球菌性敗血症(A40.-) - 連鎖球菌性咽頭炎(J02.0) - 急性扁桃炎(J03.-)	Rheumatic fever (I00-I02) or rheumatic heart disease (I05-I09) should not be accepted as due to any disease <i>except</i> : • scarlet fever (A38) • streptococcal sepsis (A40.0-) • streptococcal sore throat (J02.0) • acute tonsillitis (J03.-)
96	(g) 高血圧性病態が、新生物「による」と記載された場合、ただし、下記のものとは除く： - 内分泌系の新生物 - 腎の新生物 - カルチノイド腫瘍；	(f) 高血圧 高血圧性病態は、新生物によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、下記のものとは除く： - 内分泌系の新生物 - 腎の新生物 - カルチノイド腫瘍	(f) Hypertension Hypertensive conditions should not be accepted as due to any neoplasm <i>except</i> : • endocrine neoplasms • renal neoplasms • carcinoid tumours
97	(h) 慢性虚血性心疾患(I20, I25)が、新生物「による」と記載された場合；	(g) 慢性虚血性心疾患 慢性虚血性心疾患(I20, I25)は、新生物によるものとして受け入れられるべきでない。	(g) Chronic ischaemic heart disease Chronic ischaemic heart disease (I20, I25) should not be accepted as due to any neoplasm.
98	(i) (1) 脳血管疾患(I60-I69)が、消化器系の疾患(K00-K92)「による」と記載された場合 (2) 脳実質外動脈の血栓症による脳梗塞(I63.0) 脳実質外動脈の詳細不明の閉塞による脳梗塞(I63.2) 脳動脈の血栓症による脳梗塞(I63.3) 脳動脈の詳細不明の閉塞による脳梗塞(I63.5) 脳静脈血栓症による脳梗塞、非化膿性(I63.6) その他の脳梗塞(I63.8) 脳梗塞、詳細不明(I63.9) 出血または脳梗塞と明示されない脳卒中(I64) その他の脳血管疾患(I67) 脳卒中の続発・後遺症、出血または梗塞と明示されないもの(I69.4) その他および詳細不明の脳血管疾患の続発・後遺症(I69.8)それが心内膜炎「による」と記載された場合(I05-I08, I09.1, I33-I38) (3) 脳実質外動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの(I65)。ただし、塞栓症を除く。 脳動脈の閉塞ならびに狭窄、脳梗塞に至らなかったもの(I66)。ただし、塞栓症を除く。 脳梗塞の続発・後遺症(I69.3)。ただし、塞栓症を除くそれが心内膜炎「による」と記載された場合(I05-I08, I09.1, I33-I38)	(h) 脳血管疾患 (1) 脳血管疾患(I60-I69)は、消化器系の疾患(K00-K92)によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、肝疾患(K70-K76)による脳内出血(I61.-)は除く。 (2) 脳梗塞及び心内膜炎 下記の脳血管の病態は、心内膜炎によるものとして受け入れられるべきでない(I05-I08, I09.1, I33-I38)： - 脳実質外動脈の血栓症による脳梗塞(I63.0) - 脳実質外動脈の詳細不明の閉塞による脳梗塞(I63.2) - 脳動脈の血栓症による脳梗塞(I63.3) - 脳動脈の詳細不明の閉塞による脳梗塞(I63.5) - 脳静脈血栓症による脳梗塞、非化膿性(I63.6) - その他の脳梗塞(I63.8) - 脳梗塞、詳細不明(I63.9) - 出血又は脳梗塞と明示されない脳卒中(I64) - その他の脳血管疾患(I67) - 脳卒中の続発・後遺症、出血又は梗塞と明示されないもの(I69.4) - その他及び詳細不明の脳血管疾患の続発・後遺症(I69.8) - 脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの(I65)。ただし、塞栓症を除く。 - 脳動脈の閉塞ならびに狭窄、脳梗塞に至らなかったもの(I66)。ただし、塞栓症を除く。 - 脳梗塞の続発・後遺症(I69.3)。ただし、塞栓症を除く。	(h) Cerebrovascular disease (1) Cerebrovascular disease and diseases of the digestive system Cerebrovascular diseases (I60-I69) should not be accepted as due to a disease of the digestive system (K00-K92), <i>except</i> cerebral haemorrhage (I61.-) due to diseases of liver (K70-K76). (2) Cerebral infarction and endocarditis The following cerebrovascular conditions should not be accepted as due to endocarditis (I05-I08, I09.1, I33-I38): • cerebral infarction due to thrombosis of precerebral arteries (I63.0) • cerebral infarction due to unspecified occlusion of precerebral arteries (I63.2) • cerebral infarction due to thrombosis of cerebral arteries (I63.3) • cerebral infarction due to unspecified occlusion of cerebral arteries (I63.5) • cerebral infarction due to cerebral venous thrombosis, nonpyogenic (I63.6) • other cerebral infarction (I63.8) • cerebral infarction, unspecified (I63.9) • stroke, not specified as haemorrhage or infarction (I64) • other cerebrovascular diseases (I67) • sequelae of stroke, not specified as haemorrhage or infarction (I69.4) • sequelae of other and unspecified cerebrovascular diseases (I69.8) • occlusion and stenosis of precerebral arteries, not resulting in cerebral infarction (I65), <i>except</i> embolism • occlusion and stenosis of cerebral arteries, not resulting in cerebral infarction (I66), <i>except</i> embolism • sequelae of cerebral infarction (I69.3), <i>except</i> embolism
99	(j) 動脈硬化性〔アテローム<じゅく<粥>状〕動脈硬化性〕と記載	(i) 動脈硬化	(i) Atherosclerosis

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	された病態が、新生物「による」と記載された場合；	動脈硬化性 [アテローム<じゅく<粥>状>動脈硬化性] と記載された病態は、新生物によるものとして受け入れられるべきでない。	Any condition described as arteriosclerotic [atherosclerotic] should not be accepted as due to any neoplasm.
100	(k) インフルエンザ (J10-J11) が、その他の疾病「による」と記載された場合；	(j) インフルエンザ インフルエンザ (J09-J11) は、その他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。	(j) Influenza Influenza (J09-J11) should not be accepted as due to any other disease.
101	(l) 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99) が、その他の疾病「による」と記載された場合。ただし、下記のものを除く； • 先天奇形が、染色体異常または先天奇形症候群「による」と記載された場合 • 肺低形成が、先天奇形「による」と記載された場合；	(k) 先天奇形 先天奇形 (Q00-Q99) は、未熟を含むその他の疾病によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、下記のものを除く； - 先天奇形は、染色体異常又は先天奇形症候群によるものとして受け入れられるべきである - 肺低形成は、先天奇形によるものとして受け入れられるべきである	(k) Congenital anomalies A congenital anomaly (Q00-Q99) should not be accepted as due to any other disease of the individual, including immaturity, <i>except</i> : • a congenital anomaly should be accepted as due to a chromosome abnormality or a congenital malformation syndrome • pulmonary hypoplasia should be accepted as due to a congenital anomaly
102	(m) カレンダー上、発病日「X」のあとの発病日「Y」のとき、発病日が「X」に生じた疾病が、発病日が「Y」である疾病「による」と記載された場合； (ただし、4.1.6 の例 5 を参照のこと)	(l) 期間の齟齬 カレンダー上、発病日「X」のあとの発病日「Y」のとき、発病日が「X」に生じた疾病は、発病日が「Y」である疾病によるものとして受け入れられるべきでない (ただし、4.1.6 節の例 5 を参照のこと)。	(l) Conflicting durations A condition of stated date of onset “X” should not be accepted as due to a condition of stated date of onset “Y”, when “X” predates “Y” (but see also Example 5 in section 4.1.6).
103	(n) 事故 (V01-X59) であると記載されたものが、この章以外のその他の原因「による」と記載されていた場合、ただし、下記のものを除く； (1) 事故 (V01-X59) が、てんかん (G40-G41) によると記載された場合 (2) 転倒・転落 (W00-W19) が、骨密度の障害 (M80-M85) による場合 (3) 転倒・転落 (W00-W19) が、骨密度の障害による (病的) 骨折による場合 (4) 窒息が、病態の結果として粘液、血液 (W80) または吐物 (W78) の誤嚥によると記載された場合 (5) 何らかの食物 (液体あるいは固形物) の誤嚥 (W79) が、嚥下機能に影響をおよぼす疾病によると記載された場合；	(m) 事故 事故 (V01-X59) は、この章以外のその他の原因によるものとして受け入れられるべきでない。ただし、下記のものを除く； - 事故 (V01-X59) は、てんかん (G40-G41) によるものとして受け入れられるべきである - 転倒・転落 (W00-W19) は、骨密度の障害 (M80-M85) によるものとして受け入れられるべきである - 転倒・転落 (W00-W19) は、骨密度の障害による (病的) 骨折によるものとして受け入れられるべきである - 窒息は、病態の結果として粘液、血液 (W80) 又は吐物 (W78) の誤嚥によるものとして受け入れられるべきである - 何らかの食物 (液体あるいは固形物) の誤嚥 (W79) は、嚥下機能に影響をおよぼす疾病によるものとして受け入れられるべきである	(m) Accidents Accidents (V01-X59) should not be accepted as due to any other cause outside this chapter, <i>except</i> : • any accident (V01-X59) should be accepted as due to epilepsy (G40-G41) • a fall (W00-W19) should be accepted as due to a disorder of bone density (M80-M85) • a fall (W00-W19) should be accepted as due to a (pathological) fracture caused by a disorder of bone density • asphyxia caused by aspiration of mucus, blood (W80) or vomitus (W78) should be accepted as due to disease conditions • aspiration of food (liquid or solid) of any kind (W79) should be accepted as due to a disease which affects the ability to swallow
104	(o) 自殺 (X60-X84) が、その他の原因「による」と記載された場合。 上記のリストは、「因果関係がほとんどない」一連のすべてを示すものではないが、他に指示されている場合でなければ、その他の症例では一般原則を適用すべきものである。	(n) 自殺 自殺 (X60-X84) は、その他の原因によるものとして受け入れられるべきでない。 上記のリストは、認められない因果関係のすべてを示すものではないが、他に指示されている場合でなければ、その他の症例では一般原則を適用すべきものである。	(n) Suicide Suicide (X60-X84) should not be accepted as due to any other cause. The above list does not cover all sequences that should be rejected, but in other cases, the General Principle should be followed unless otherwise indicated.
105		B. 妥当と認められる因果関係 一般原則及び選択ルールの適用において、下記の因果関係は妥当	B. Acceptable sequences When applying the General Principle and the selection rules, the following

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		<p>なものと受け入れられるべきである。</p> <p>(a) 感染症 4.2.2 A.(a)に記載されている以外の感染症は、他の病態によるものとして受け入れられるべきである。</p> <p>(b) HIVによる感染症 下記の感染症は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病、悪性新生物又は免疫機能を低下させる病態によるものとして受け入れられるべきである： - 腸チフス及びパラチフス、その他のサルモネラ感染症、細菌性赤痢 (A01-A03) - 結核 (A15-A19)</p> <p>(c) 悪性腫瘍及びHIV 悪性新生物は、ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病によるものとして受け入れられるべきである。</p>	<p>relationships should be accepted:</p> <p>(j) Infectious diseases due to other conditions</p> <p>Infectious diseases other than those noted in 4.2.2 A.(a) should be accepted as due to other conditions.</p> <p>(b) Infectious diseases due to HIV</p> <p>The following infectious diseases should be accepted as due to human immunodeficiency virus [HIV] disease, malignant neoplasms and conditions impairing the immune system:</p> <ul style="list-style-type: none"> • typhoid and paratyphoid fevers, other salmonella infections, shigellosis (A01-A03) • tuberculosis (A15-A19) <p>I Malignancies and HIV</p> <p>A malignant neoplasm should be accepted as due to human immunodeficiency virus (HIV) disease.</p>
106		<p>(d) 糖尿病 糖尿病 (E10-E14) は、膵臓を損傷させる病態によるものとして受け入れられるべきである。</p> <p>糖尿病を引き起こす可能性のある病態のリストについては、付録7.2参照。</p>	<p>(d) Diabetes</p> <p>Diabetes (E10-E14) should be accepted as due to diseases causing damage to the pancreas.</p> <p>See Appendix 7.2 for a list of the conditions that can cause diabetes.</p>
107		<p>B. 妥当と認められる因果関係</p> <p>(d) 糖尿病 <u>1型糖尿病 (IDDM) (E10-E14) は、自己免疫反応によりベータ細胞の破壊を引き起こす病態膵臓を損傷させる病態によるものとして受け入れられるべきである。</u></p> <p><u>2型糖尿病 (NIDDM) (E11) は、インスリン抵抗性を引き起こす病態によるものとして受け入れられるべきである。</u></p> <p><u>その他の明示された糖尿病及び詳細不明の糖尿病 (E13-E14) は、膵臓を損傷させる病態によるものとして受け入れられるべきである。</u></p> <p>糖尿病を引き起こす可能性のある病態のリストについては、付録7.2参照。</p>	<p>B. Acceptable sequences ...</p> <p>(d) Diabetes:</p> <p><u>Insulin dependent diabetes mellitus (E10) (E10-E14) should be accepted as “due to” diseases causing damage to the pancreas as autoimmune destruction of β-cells.</u></p> <p><u>Non-insulin-dependent diabetes mellitus (E11) should be accepted as “due to” conditions causing insulin resistance.</u></p> <p><u>Other and unspecified diabetes mellitus (E13-E14) should be accepted as “due to” conditions causing damage to the pancreas.</u></p> <p>See Appendix 7.2 for a list of the conditions that can cause diabetes.</p>
108		<p>(e) リウマチ熱 リウマチ熱 (I00-I02) 又はリウマチ性心疾患 (I05-I09)</p>	<p>(e) Rheumatic fever</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>は、下記によるものとして受け入れられるべきである：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 猩紅熱 (A38) - 連鎖球菌性敗血症 (A40.-) - 連鎖球菌性咽頭炎 (J02.0) - 急性扁桃炎 (J03.-) <p>(f) 高血圧 高血圧性病態は、下記によるものとして受け入れられるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 内分泌系の新生物 - 腎の新生物 - カルチノイド腫瘍 <p>(g) 脳血管疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> - 脳内出血 (I61.-) は、肝疾患 (K70-K76) によるものとして受け入れられるべきである。 <p>塞栓症を原因として、下記が生じた場合は、心内膜炎によるものとして受け入れられるべきである (I05-I08, I09.1, I33-I38)：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 脳実質外動脈の閉塞及び狭窄 (I65) - 脳動脈の閉塞ならびに狭窄 (I66) - 脳梗塞の続発・後遺症 (I69.3) <p>(h) 先天奇形</p> <ul style="list-style-type: none"> - 先天奇形は、染色体異常又は先天奇形症候群によるものとして受け入れられるべきである - 肺低形成は、先天奇形によるものとして受け入れられるべきである <p>(i) 事故</p> <ul style="list-style-type: none"> - 事故 (V01-X59) は、てんかん (G40-G41) によるものとして受け入れられるべきである - 転倒・転落 (W00-W19) は、骨密度の障害 (M80-M85) によるものとして受け入れられるべきである - 転倒・転落 (W00-W19) は、骨密度の障害による (病的) 骨折によるものとして受け入れられるべきである - 窒息は、病態の結果として粘液、血液 (W80) 又は吐物 (W78) の誤嚥によるものとして受け入れられるべきである - 何らかの食物 (液体あるいは固形物) の誤嚥 (W79) は、嚥下機能に影響をおよぼす疾病によるものとして受け入れられるべきである 	<p>Rheumatic fever (I00-I02) or rheumatic heart disease (I05-I09) should be accepted as due to</p> <ul style="list-style-type: none"> • scarlet fever (A38) • streptococcal sepsis (A40.0-) • streptococcal sore throat (J02.0) • acute tonsillitis (J03.-) <p>(f) Hypertension</p> <p>Any hypertensive condition should be accepted as due to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • endocrine neoplasms • renal neoplasms • carcinoid tumours <p>(g) Cerebrovascular diseases</p> <ul style="list-style-type: none"> • cerebral haemorrhage (I61.-) should be accepted as due to diseases of liver (K70-K76) <p>Embolism causing:</p> <ul style="list-style-type: none"> • occlusion and stenosis of precerebral arteries (I65) • occlusion and stenosis of cerebral arteries (I66) • sequelae of cerebral infarction (I69.3) <p style="padding-left: 40px;">should be accepted as due to endocarditis (I05-I08, I09.1, I33-I38).</p> <p>(h) Congenital anomalies</p> <ul style="list-style-type: none"> • a congenital anomaly should be accepted as due to a chromosome abnormality or a congenital malformation syndrome • pulmonary hypoplasia should be accepted as due to a congenital anomaly <p>(j) Accidents</p> <ul style="list-style-type: none"> • any accident (V01-X59) should be accepted as due to epilepsy (G40-G41) • a fall (W00-W19) should be accepted as due to a disorder of bone density (M80-M85) • a fall (W00-W19) should be accepted as due to a (pathological) fracture caused by a disorder of bone density • asphyxia caused by aspiration of mucus, blood (W80) or vomitus (W78) should be accepted as due to disease conditions, • aspiration of food (liquid or solid) of any kind (W79) should be accepted as due to a disease which affects the ability to swallow;
109	4.2.3 分類に対する期間の影響	4.2.3 分類に対する期間の影響	4.2.3 Effect of duration on classification

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	直接原因および先行原因の記載された上下の因果関係について評価を行う場合、疾病または病態の発病から死亡までの期間を考慮すべきである。期間は「因果関係がほとんどない」関係(上記参照)の解釈および修正ルールF(続発・後遺症)に適用されるものである。	直接原因及び先行原因の記載された上下の因果関係について評価を行う場合、疾病又は病態の発病から死亡までの期間を考慮すべきである。期間は「因果関係がほとんどない」関係(上記参照)の解釈および修正ルールF(続発・後遺症)に適用されるものである。	In evaluating the reported sequence... This would apply in the interpretation of “highly improbable” relationships (see above) and in Modification Rule F (sequelae).
110	4.2.4 続発・後遺症 いくつかの分類項目(B90 – B94、E64.-、E68、G09、I69.-、O97、Y85 – Y89)は、死亡が、記載された疾病または損傷の活動期にはなく、後遺症により起きたということを示すため、原死因コーディングにおいて用いられる。修正ルールFはこのような状況で適用される。記載された疾病もしくは...	4.2.4 続発・後遺症 いくつかの分類項目(B90 – B94、E64.-、E68、G09、I69.-、O97、Y85 – Y89)は、死亡が、記載された疾病又は損傷の活動期にはなく、後遺症により起きたということを示すため、原死因コーディングにおいて用いられる。修正ルールFはこのような状況で適用される。記載された疾病もしくは...	4.2.4 Sequelae Certain categories (B90-B94, E64.-, E68, G09, I69, O97 and Y85-Y87) are to be used for underlying cause mortality coding to indicate that death resulted from the late (residual effects of a given disease or injury rather than during the active phase. Modification Rule F applies in such circumstances. Conditions reported...
111	4.2.6 手術 ある手術が、手術が行われた病態の記載または手術時の所見の記載がなく、死因として死亡診断書に記載され、索引表がその手術に対して特定のコードを指示していないならば、手術名により示される臓器または部位についての残余の分類項目にコードする(たとえば、「腎切除術」は N28.9 にコードする)。もし、手術名が臓器または部位を示していないならば(たとえば「開腹術」)、また Y60 – Y84 に分類される医療過誤の記載または術後合併症の記載もなければ、「その他の診断名不明および原因不明の死亡」(R99)にコードする。もし、手術中の医療事故と記載があれば、Y60 – Y69 にコードする。もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、Y83 – Y84 にコードする。	4.2.6 手術外科的及び内科的ケアにおける合併症 <u>A. 原因の記載のない外科及びその他の手技</u> ある手術又はその他の医学的手技が、手術が行われた病態の記載又は手術時の所見の記載がなく、死因として死亡診断書に記載され、…手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、O74、O75.4 又は Y83 – Y84 にコードする。	4.2.6 Operations Complications of surgical and medical care <u>A. Surgical and other procedures without mention of cause</u> If an operation or other medical procedure appears on the certificate as the cause of death ... without mention of misadventure at the time of the procedure, code to O74, O75.4 or Y83-Y84.
112	4.2.6 手術 ある手術が、手術が行われた病態の記載または手術時の所見の記載がなく、死因として死亡診断書に記載され、索引表がその手術に対して特定のコードを指示していないならば、手術名により示される臓器または部位についての残余の分類項目にコードする(たとえば、「腎切除術」は N28.9 にコードする)。もし、手術名が臓器または部位を示していないならば(たとえば「開腹術」)、また Y60 – Y84 に分類される医療過誤の記載または術後合併症の記載もなければ、「その他の診断名不明および原因不明の死亡」(R99)にコードする。もし、手術中の医療事故と記載があれば、Y60 – Y69 にコードする。もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、Y83 – Y84 にコードする。	4.2.6 手術 ある手術が、手術が行われた病態の記載又は手術時の所見の記載がなく、死因として死亡診断書に記載され、索引表がその手術に対して特定のコードを指示していないならば、手術名により示される臓器又は部位についての残余の分類項目にコードする(たとえば、「腎切除術」は N28.9 にコードする)。もし、手術名が臓器又は部位を示していないならば(たとえば「開腹術」)、また O74、O75.4 又は Y60 – Y84 に分類される医療過誤の記載又は術後合併症の記載もなければ、「その他の診断名不明及び原因不明の死亡」(R99)にコードする。もし、手術中の医療事故と記載があれば、O74、O75.4 又は Y60 – Y69 にコードする。もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、O74、O75.4 又は Y83 – Y84 にコードする。 <u>処置による合併症が索引にないか、包含用語又は索引用語の同義語でない場合は常に、早期合併症及び機械的合併症を T80-T88 に</u>	4.2.6 Operations <i>If an operation appears ... unless there is a mention of a therapeutic misadventure classifiable to <u>O74, O75.4</u> or <u>Y60-Y84</u> or a postoperative complication. ... If there is a mention of a misadventure at the time of the procedure, code to <u>O74, O75.4</u> or <u>Y60-Y69</u>. If there is a mention of an abnormal reaction of the patient, without mention of misadventure at the time of the procedure, code to <u>O74, O75.4</u> or <u>Y83-Y84</u>.</i> <i>Whenever a complication of a procedure is not indexed or is not a synonym of an inclusion or indexed term, code early complications and mechanical complications to <u>T80-T88</u>. Code late complications and functional complications to the appropriate system chapter.</i>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<u>コードする。後期合併症及び機能的合併症は、適切な章にコードする。</u>	
113	4.2.6 手術 ... もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、Y83-Y84 にコードする。	4.2.6 手術 ... もし、手術中の医療事故という記載がなく、患者の異常な反応と記載があれば、Y83-Y84 にコードする。 <u>例 1： I (a) 肺塞栓症</u> <u>(b) 虫垂切除術</u> <u>虫垂の疾患，詳細不明 (K38.9) にコードする。</u> <u>例 2： I (a) 大動脈の不慮の穿孔</u> <u>(b)開腹術</u> <u>外科手術における意図しない穿孔 (Y60.) にコードする。</u> <u>産科手術の合併症は、外科手術の理由にコードする。産科手術の理由が記載されていない場合は、O75.4 にコードする。</u> <u>例 3： I (a) 術後出血</u> <u>(b) 帝王切開</u> <u>(c) 遷延分娩</u> <u>遷延分娩，詳細不明 (O63.9) にコードする。</u> <u>例 4： I (a) 羊水塞栓症</u> <u>(b) 帝王切開</u> <u>産科手術及び処置のその他の合併症 (O75.4) にコードする。</u>	4.2.6 Operations <i>If an operation appears on the certificate as the cause of death without mention of the condition for which it was performed or of the findings at operation, and the alphabetical index does not provide a specific code for the operation, code to the residual category for the organ or site indicated by the name of the operation (e.g. code "nephrectomy" to N28.9). If the operation does not indicate an organ or site, e.g. "laparotomy", code to "Other ill-defined and unspecified causes of mortality" (R99), unless there is a mention of a therapeutic misadventure classifiable to Y60-Y84 or a postoperative complication. If there is mention of a misadventure at the time of the procedure, code to Y60-Y69. If there is a mention of an abnormal reaction of the patient, without mention of misadventure at the time of the procedure, code to Y83-Y84.</i> <i>Example: I (a) Pulmonary embolism</i> <i>(b) Appendectomy</i> <i>Code to unspecified disease of appendix (K38.9)</i> <i>Example: I (a) Accidental puncture of aorta</i> <i>(b) Laparotomy</i> <i>Code to unintentional puncture during surgical operation (Y60.)</i> <i>Code complications of obstetrical surgery to the reason for the surgery. If no reason for the obstetrical surgery is stated, code to O75.4.</i> <i>Example: I (a) Postoperative haemorrhage</i> <i>(b) Caesarean section</i> <i>(c) Prolonged labour</i> <i>Code to long labour, unspecified (O63.9)</i> <i>Example: I (a) Amniotic fluid embolism</i> <i>(b) Caesarean section</i> <i>Code to other complications of obstetric surgery and procedures (O75.4)</i>
114		<u>B. 他に分類される外因による事故に関連する医療機器</u> <u>死亡が、医療機器が関わる事故によって生じたが、その事故が医療機器の故障又は誤動作によるのではなく、他に分類される外因によって引き起こされた場合、その外因にコードする。</u> <u>例 xx： I (a) 吸入性肺炎</u> <u>(b) 気管の出血</u> <u>(c) 人工呼吸器につながっている時にベッドから転落</u> <u>II 肝移植後に人工呼吸療法</u> <u>ベッドからの転落 (W06) にコードする。人工呼吸器の故障又は誤動作の記載はないため。</u> <u>例 xx： I (a) 肺水腫</u> <u>(b) 大動脈内バルーン・パンピングの停止</u> <u>(c) ハリケーンによる停電</u> <u>(d) 僧帽弁閉鎖不全症を伴う心筋梗塞</u>	<u>B. Medical devices associated with adverse incidents due to external causes classified elsewhere</u> <u>If a death is caused by an incident involving a medical device, but the incident is due to an external cause classified elsewhere and not to any breakdown or malfunctioning of the device itself, code to the external cause.</u> <u>Ex xx:</u> <u>I(a) Inhalation pneumonia</u> <u>(b) Hemorrhage of trachea</u> <u>(c) Fell from bed while attached to respirator</u> <u>II Respirator treatment following liver transplant</u> <u>Code to fall involving bed (W06). There is no mention of any breakdown or malfunctioning of the respirator.</u> <u>Ex xx:</u> <u>I(a) Pulmonary edema</u> <u>(b) Intra-aortic balloon pump stopped</u> <u>(c) Power cut due to hurricane</u> <u>(d) Recent myocardial infarction with mitral</u>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p><u>暴風雨による受傷者 (X37) にコードする。バルーン・ポンピングの故障又は誤動作を示唆する記載はないため。</u></p> <p><u>事故の外因が分類にない場合は、その他及び詳細不明の損傷を起こす詳細不明の要因への曝露 (X59.9) にコードする。</u></p> <p>例 xx : I (a) 心不全及び呼吸不全 (b) 強心剤の投与停止 (c) 鎖骨下カテーテルの不慮の除去 II 胆嚢の急性破裂に対する外科手術 <u>不慮の除去は分類にないため、その他及び詳細不明の損傷を起こす詳細不明の要因への曝露 (X59.9) にコードする。</u></p>	<p><u>insufficiency</u></p> <p><u>Code to victim of cataclysmic storm (X37). There is no indication of any malfunctioning of the balloon pump.</u></p> <p><u>If the external cause of the incident is not specifically classified, code to exposure to unspecified factor causing other and unspecified injury (X59.9).</u></p> <p><u>Ex xx: I(a) Cardiac and respiratory failure</u> <u>(b) Stopped administration of inotrop drugs</u> <u>(c) Accidental removal of subclavian line</u> <u>II Surgery for acute rupture of gallbladder</u></p> <p><u>Code to exposure to unspecified factor causing other and unspecified injury (X59.9), since accidental removal is not specifically classified.</u></p>
115	<p>※悪性新生物については、記載内容・順序修正が多く WHO 側で個々の見え消し版を作成していないため、2010 年版までの修正は、現行版と併記するに止めた。2011 年以降の修正は、2010 年版からの見え消しで示している。</p>		
116	<p>4.2.7 悪性新生物</p> <p>悪性新生物が原死因と考えられる場合は、原発部位を決定することが最も重要である。形態および性状もまた考慮されなければならない。「がん」は包括的な用語で、あらゆる形態学的グループに用いられるが、リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物にはほとんど用いられない。「癌 (腫)」は、時々「がん」の同義語として用いられるが、これは不正確である。死亡診断書のなかには、腫瘍の原発部位が疑わしかったのか、死亡診断書作成が不正確であったのかどうか、あいまいなものがある。このような場合には、できれば、死亡診断書作成者に照会して、明らかにしなくてはならない。これができなければ、下記のガイドラインを参照する。</p> <p>第 2 巻の 1037-1070 ページに分類されている腫瘍の形態は、形態コードおよび部位によるコーディングについての適用とともに、索引表の中に記載されている。</p>	<p>4.2.7 悪性新生物</p> <p>4.2.7.1 序</p> <p><u>悪性新生物のコーディングは、他の病態のコーディングと基本的に同じである。選択ルール及び修正ルールは、通常通り悪性新生物について記載している死亡診断書に適用すべきで、すべての死因コーディングと同様に、コーディング担当者は死亡診断書に記載されたすべての情報を考慮に入れて ICD コードを割り当てなければならない。</u></p> <p><u>新生物については、性状、形態及び部位に関する情報を考慮することが特に重要である。性状、形態及び部位が医師によって十分に記載されている場合、コーディング担当者は用語の正しいコードを第 3 巻 (索引表) の用語から容易に見つけることができる。しかし、死亡診断書に記載されている用語は必ずしも完全に十分に明確なわけではない。本節の指示は、そうした場合にコーディング担当者がコードを割り当てるのに役立つ。また、悪性新生物と記載している死亡診断書にも、他の原因による死亡の場合と同様に選択ルール及び修正ルールが適用されるということも示している。</u></p> <p>(a) <u>性状、形態及び部位</u></p> <p><u>新生物をコードする場合、性状、形態及び部位をすべて考慮しなければならない。新生物の性状とは、体内でそれが活動する方法、すなわち腫瘍がどのように増殖する可能性があるかを示す。ICD の</u></p>	<p>4.2.7 Malignant neoplasms</p> <p>4.2.7.1 Introduction</p> <p><u>Coding malignant neoplasms is no different from coding other conditions. The selection and modification rules should be applied as usual to death certificates mentioning malignant neoplasms, and as in all mortality coding, the coder has to take all information given on the Death Certificate into account when assigning ICD codes.</u></p> <p><u>For neoplasms, it is especially important to consider information on behaviour, morphology and site. When behaviour, morphology and site are well described by the physician, the coder will have no difficulty in finding the correct code for the term in Volume 3. However, the terms stated on the death certificate are not always complete or clear enough. These instructions will help coders to assign codes in such cases. They also show that the same selection and modification rules apply to death certificates mentioning malignant neoplasms as to deaths from other causes.</u></p> <p>(a) <u>Behaviour, morphology and site</u></p> <p><u>Behaviour, morphology and site must all be considered when coding neoplasms. The behaviour of a neoplasm is the way it acts within the body, i.e., how a tumour is likely to develop. The following ICD grouping refers to behaviour:</u></p> <p><u>C00-C96 Malignant (invades surrounding tissue or disseminates from its point of origin and begins to grow at another site)</u> <u>D00-D09 In situ (malignant but still confined to the tissue in which it originated)</u> <u>D10-D36 Benign (grows in place without the potential for spread)</u> <u>D37-D48 Uncertain or unknown behaviour (undetermined whether benign or malignant)</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>下記の分類では、性状を参照する:</p> <ul style="list-style-type: none"> - C00-C96 悪性 (起点から周囲の組織に侵入するか、又は広がり、別の部位で増殖し始める) D00-D09 上皮内 (悪性であるが、起点となった組織にまだ限定している) D10-D36 良性 (広がる可能性のない位置で増殖する) D37-D48 性状不詳又は不明 (良性か悪性かはっきりしない) <p>形態とは、細胞又は組織の種類及び構造、並びに新生物の性状を示す。ICD では、下記のものを含むいくつか主要な形態学的グループを分類している:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 扁平上皮癌及び腺癌などの癌 (腫) - 中皮腫などの肉腫及びその他の軟部組織腫瘍 - 肝癌 (C22.0) など、原発新生物の部位を示す部位特異的タイプ - ホジキンリンパ腫及び非ホジキンリンパ腫などのリンパ腫 - 白血病 - 悪性黒色腫 (C43.-) など、その他の明示された形態学的グループ <p>ICD の分類項目は新生物の部位を示し、さらに新生物の異なる性状を区別する。分類項目は下記のとおりである:</p> <ul style="list-style-type: none"> - C00-C75 原発と記載された又は推定された、明示された部位の悪性新生物で、リンパ組織、造血組織及び関連組織を除く異なる種類の組織の悪性新生物 C76 その他及び部位不明の悪性新生物 C77-C79 続発性悪性新生物で、新生物の形態学的型とは無関係に、別の部位から広がったと記載された又は推定されたもの 注: これらの分類項目 (C77-C79) は原死因については使用しない C80 部位の明示されない悪性新生物 C81-C96 原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物 <p>(b) 索引表の使用</p> <p>第 3 巻の索引表における「新生物」の項目では、注記事項、部位のリスト、及び新生物の性状により最大 5 個のコードが与えられている。しかし、部位に関して「新生物」に従ったリストを参照する前に、索引表における形態学的型を調べることが重要である。形態</p>	<p><i>Morphology</i> describes the type and structure of cells or tissues and the behaviour of neoplasms. The ICD provides for classification of several large morphological groups including the following:</p> <p>Carcinomas, including squamous cell carcinoma and adenocarcinoma Sarcomas and other soft tissue tumours, including mesotheliomas Site-specific types that indicate the site of the primary neoplasm, such as hepatoma (C22.0) Lymphomas, including Hodgkin's lymphoma and non-Hodgkin's lymphoma Leukaemias Other specified morphological groups, such as malignant melanoma (C43.-)</p> <p>The ICD categories will give the <i>site</i> of the neoplasm, and also distinguish between the different behaviours of the neoplasms. The categories are:</p> <p>C00-C75 Malignant neoplasms, stated or presumed to be primary, of specified sites and in different types of tissue, except lymphoid, haematopoietic, and related tissue C76 Malignant neoplasms of other and ill-defined sites C77-C79 Malignant secondary neoplasms, stated or presumed to be spread from another site, regardless of morphological type of neoplasm Note: these categories (C77-C79) are not to be used for underlying cause of death C80 Malignant neoplasm of unspecified site C81-C96 Malignant neoplasms, stated or presumed to be primary, of lymphoid, haematopoietic, and related tissue</p> <p>(b) Using the Alphabetical Index</p> <p>The entry "Neoplasm" in the Volume 3 Alphabetical Index gives guidance notes, listing of sites, and up to five codes depending on the behaviour of the neoplasm. However, it is important to look up the morphological type in the Alphabetical Index before referring to the listing under "Neoplasm" for the site. The entry for the morphological type will either state a code to use, or direct you to the correct entry under the main term "Neoplasm".</p> <p>Not all combinations of prefixes in compound morphological terms are indexed. For example, the term chondrofibrosarcoma does not appear in the Alphabetical Index, but fibrochondrosarcoma does. Since the two terms have the same prefixes, though in a different order, code the chondrofibrosarcoma the same as fibrochondrosarcoma.</p> <p>Unless it is specifically indexed, code a morphological term ending in "osis" in the same way as the tumour name to which "osis" has been added. For example, code neuroblastomatosis in the same way as neuroblastoma. However, do not code hemangiomatosis, which is specifically indexed to a different category, in the same way as hemangioma. Widespread metastasis of a carcinoma is often called carcinomatosis. See Sections 4.2.7.5 and 4.2.7.6 for more detailed coding instructions on metastasizing neoplasms.</p> <p>If an unqualified nonspecific term such as carcinoma or sarcoma appears with a term describing a more specific histology of the same broad group, code to the site of the more specific morphology, assuming the nonspecific to be metastatic.</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>学的型の項目は、使用すべきコードを示すか、又は「新生物」の項目の中の正しい項目を示す。</p> <p>合成された形態学的用語における接頭辞のすべての組み合わせが索引に載せられるわけではない。例えば、chondrofibrosarcoma<軟骨肉腫>という用語は索引表にはないが、fibrochondrosarcoma<線維軟骨肉腫>はある。二つの用語は同じ接頭辞を有するため、順番は異なるものの、chondrofibrosarcomaをfibrochondrosarcomaと同じにコードする。</p> <p><訳注：日本語版では、軟骨肉腫は第3巻に掲載されている、繊維軟骨肉腫はなく軟骨肉腫はある></p> <p>特に索引に載せられていない場合は、「osis」で終わる形態学的用語は、「osis」の前にある腫瘍名と同じ方法でコードする。例えば、neuroblastomatosisはneuroblastoma<神経芽腫>と同じにコードする。しかし、索引の中であえて異なる分類項目に載せられているhemangiomatosis<血管腫症>は、hemangioma<血管腫>と同じにコードしてはならない。癌(腫)<carcinoma>の幅広い転移は、癌腫症<carcinomatosis>と呼ばれることが多い。転移性新生物に関するコーディングのより詳細な説明については、4.2.7.5節及び4.2.2.6節参照。</p> <p>もし、癌(腫)又は肉腫のような限定語のない具体的でない用語が、悪性新生物と同じ意味でより具体的な組織型を示す用語とともに記載されているならば、形態学的により具体的とされる部位にコードし、具体的でない方は他に転移性であると推定する。</p> <p><u>(c) 選択ルール</u></p> <p>悪性新生物が、死亡診断書に記載されているその他の死因に自動的に優先することはない。選択ルールを厳密に適用した結果、悪性新生物が原死因として選択された場合にのみ、死亡を悪性新生物に帰するものとする。</p> <p>例 1: I (a) 肝硬変 (b) ウイルス肝炎 II 肝細胞癌(腫)</p> <p>ウイルス肝炎(B19.9)にコードする。ウイルス肝炎は、一般原則によって選ばれる。ウイルス肝炎は、肝細胞がんの明らかな結果ではなく、肝細胞がんは原死因として選択すべきでない。</p> <p>例 2: I (a) 腎不全 (b) 腎症 (c) 糖尿病</p>	<p><u>(c) Selection rules</u></p> <p><u>Note that a malignant neoplasm does not automatically take precedence over other causes of death mentioned on the death certificate. A death should be assigned to a malignant neoplasm only if the selection rules, strictly applied, lead to the selection of the neoplasm as the underlying cause of death.</u></p> <p><u>Example 1:</u> I (a) Liver cirrhosis (b) Viral hepatitis II Hepatocellular carcinoma</p> <p><u>Code to viral hepatitis (B19.9). Viral hepatitis is selected by the General Principle. It is not an obvious consequence of hepatocellular carcinoma, which should not be selected as the underlying cause of death.</u></p> <p><u>Example 2:</u> I (a) Renal failure (b) Nephropathy (c) Diabetes mellitus (d) Malignant neoplasm of breast</p> <p><u>Code to diabetes with renal complications (E14.2). According to the instruction on causes of diabetes in section 4.2.2, malignant neoplasm of breast is rejected as a cause of diabetes. Diabetes is selected as the underlying cause by Rule 1.</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>(d) <u>乳房の悪性新生物</u></p> <p>腎合併症を伴う糖尿病 (E14.2) にコードする。4.2.2 における糖尿病の原因に関する指示に従うと、乳房の悪性新生物は糖尿病の原因と認められない。ルール 1 により、糖尿病が原死因として選ばれる。</p>	
117	<p>A 悪性の意味</p> <p>新生物が転移 (続発) を生じたという死亡診断書上の記載があれば、同種の新生物が転移を生じたとする記載がない場合に第 II 章の他の節に分類されるとしても、悪性としてコードしなければならないということの意味する。</p> <p>例 1: I (a) リンパ節転移 (b) 乳房の上皮内癌 乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</p> <p>B 接頭語のついた部位または不明確な定義の部位</p> <p>「周囲」、「傍」、「前」、「上」、「下」等の接頭語がついている部位の新生物、または部位の「範囲」もしくは「領域」にあると記載されている新生物は、これらの用語が特に指示されていなければ、下記のようにコードする: C40, C41 (骨および関節軟骨)、C43 (皮膚の悪性黒色腫)、C44 (皮膚のその他の悪性新生物)、C45 (中皮腫)、C47 (末梢神経および自律神経系)、C49 (結合組織および軟部組織)、C70 (髄膜)、C71 (脳) および C72 (中枢神経系のその他の部位) の分類項目のいずれかに分類される形態学的型については、その分類項目の適切な細分類にコードする; その他の場合には、C76 (その他および部位不明確な) の適切な細分類にコードする。</p> <p>例 2: I (a) 脚部の線維肉腫 下肢の結合組織および軟部組織の新生物 (C49.2) にコードする。</p> <p>C 部位不明の悪性新生物で他の病態の記載を伴うもの</p> <p>原発性の悪性新生物の部位が明示されていない場合、穿孔、閉塞、または出血のような他の記載された病態の部位から、その部位の推測を行ってはならない。これらの病態は、実際の新生物と無関係な部位に生じる可能性がある。たとえば、腸閉塞が卵巣悪性腫瘍の進展により生じたかもしれない。</p> <p>例 3: I (a) 腸閉塞 (b) 癌 (腫) 部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p>	<p>4.2.7.2 悪性の意味</p> <p><u>新生物が続発症を引き起こしたという死亡診断書上の記載があれば、たとえ転移の記載のない同種の新生物は別に分類するものでも、その新生物を悪性としてコードしなければならないということの意味する。</u></p> <p>例 3: I (a) <u>脳転移</u> (b) <u>肺腫瘍</u></p> <p><u>肺の悪性がん (C34.9) にコードする。脳転移を引き起こしたことから、肺腫瘍は悪性と考えられる。一般原則を適用する。</u></p> <p>例 4: I (a) <u>胸壁転移</u> (b) <u>乳房の上皮内癌 (腫)</u></p> <p><u>乳房の悪性癌 (腫) (C50.9) にコードする。乳房腫瘍は胸壁に広がったため、もはや上皮内ではない。一般原則が適用される。</u></p> <p><u>これは、第 2 章に索引として載せられていないその他の種類の増殖、例えば一定のポリープにも適用される。転移又は続発性腫瘍の原因として記載される場合は悪性と考えべきで、悪性新生物としてコードすべきである。</u></p> <p>例 5: I (a) <u>肺の続発性悪性新生物</u> (b) <u>胃のポリープ</u></p> <p><u>胃の原発性悪性新生物 (C16.9) にコードする。ポリープは続発性疾患の広がりの原因として記載されているため、悪性と考えられる。一般原則が適用される。</u></p>	<p>4.2.7.2 Implication of malignancy</p> <p><u>A mention anywhere on the certificate that a neoplasm has produced secondaries means that the neoplasm must be coded as malignant, even though the neoplasm without mention of metastases would be classified differently.</u></p> <p><u>Example 3: I (a) Brain metastasis</u> <u>(b) Lung tumour</u></p> <p><u>Code to malignant lung cancer (C34.9). The lung tumour is considered malignant since it has produced brain metastases. The General Principle applies.</u></p> <p><u>Example 4: I (a) Metastatic involvement of chest wall</u> <u>(b) Carcinoma in situ of breast</u></p> <p><u>Code to malignant carcinoma of breast (C50.9). Since the breast tumour has spread to the chest wall it is no longer in situ, and it is considered malignant. The General Principle applies.</u></p> <p><u>This also applies to other types of growths that are not indexed to Chapter II, for example certain polyps. If they are reported as the cause of metastases or secondary tumours, they should be considered malignant and coded as malignant neoplasms.</u></p> <p><u>Example 5: I (a) Secondary malignant neoplasm of lung</u> <u>(b) Polyp of stomach</u></p> <p><u>Code to primary malignant neoplasm of stomach (C16.9). Since the polyp is reported as the cause of secondary spread it is considered malignant. The General Principle applies.</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
118	<p>D 原発部位の明示された悪性新生物</p> <p>もし、特定の部位が原発として記載されているならば、死亡診断書上の記載された位置や I 欄または II 欄の別にかかわらず、示された部位を原発として選択する。もし、原発部位が不明であると記載されているならば、下記の E を参照する。原発部位は下記の方法の一つに示されるだろう：</p> <p>(a) I 欄または II 欄のどちらかに原発部位として一つの部位が明示されている場合</p> <p>例 4： I (a) 膀胱癌 II 腎原発 腎の悪性新生物 (C64) にコードする。</p> <p>(b) 「続発性」、「転移性」、「浸潤性」または「癌腫症」として他の部位が明示されている場合</p> <p>例 5： I (a) 乳癌 (b) 脳の続発性腫瘍 ルール 2 を適用して、乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</p> <p>(c) 形態が原発性悪性新生物を示す場合</p> <p>へパトーマ<肝細胞癌>のように、形態学的型から原発部位が明らかかな場合は、これを「原発性」という用語が含まれていたかのように考える。</p> <p>例 6： I (a) 転移性癌 (b) 偽粘液性腺癌 部位不明の偽粘液性腺癌は、索引表では卵巣に分類されるので、卵巣の悪性新生物 (C56) にコードする。</p> <p>複数の原発部位または形態が示されている場合には、下記の F, G および H 節に従ってコードする。</p>	<p>4.2.7.3 原発部位</p> <p>悪性新生物が原死因と考えられる場合、原発部位を決定することが最も重要である。死亡診断書が原発部位に関してあいまいである場合、死亡診断書作成者 (医師) の確認を取るためにあらゆる努力を払うべきである。4.2.7.3-4.2.7.9 節における下記の説明は、そうした確認が取れない場合にのみ適用すべきである。</p> <p><u>A. 原発部位が示された場合</u></p> <p><u>(a) 原発性として明示される新生物</u></p> <p>一つの悪性新生物が原発と明示され、その他の新生物も記載されているが、原発と記載されていない場合、これらのその他の新生物は続発性と考える。また、これらのその他の新生物は原発と明示された新生物の明らかな結果と考える。</p> <p>例 6: I (a) 膀胱の移行上皮癌 (腫) II 移行上皮がん、腎臓において原発</p> <p>一般原則によって選択される I(a)の膀胱の移行上皮がんが原発と明示されていない。II 欄に原発と記載された新生物がある。したがって、ルール 3 が適用され、I(a)における膀胱の移行上皮がんは、II 欄に記載する原発性腎臓腫瘍の明らかな結果と考えられる。腎の悪性新生物 (C64) にコードする。</p> <p>新生物が異なる形態を有する場合、これは適用されない。</p> <p>例 7: I (a) 膀胱の移行上皮がん II 骨肉腫、膝において原発</p> <p>I(a)の膀胱の移行上皮癌 (腫) は、原発と明示されていない。一般原則により、膀胱の移行上皮癌 (腫) を暫定的な原死因として選ぶ。II 欄に記載する悪性新生物は形態の異なるものである。移行上皮がんは骨肉腫の結果ではないため、ルール 3 は適用されない。膀胱の悪性新生物 (C67.9) にコードする。</p> <p>原発と明示された新生物が死亡診断書に複数記載されている場合のさらなる説明については、下記 C を参照する。</p> <p><u>(b) 続発性疾患と明示されたその他の新生物</u></p>	<p>4.2.7.3 Primary site</p> <p><u>When a malignant neoplasm is considered to be the underlying cause of death, it is most important to determine the primary site. When the death certificate is ambiguous as to the primary site, every effort should be made to obtain clarification from the certifier. The following instructions in Sections 4.2.7.3 - 4.2.7.9 should be applied only when clarification cannot be obtained.</u></p> <p>A. Primary site indicated</p> <p><u>(a) A neoplasm specified as primary</u></p> <p><u>If one malignant neoplasm is specified as primary, and other neoplasms are mentioned but not described as primary, then consider these other neoplasms as secondary. Also consider them as an obvious consequence of the neoplasm specified as primary.</u></p> <p>Example 6: I (a) Transitional cell carcinoma of bladder II Transitional cell carcinoma, primary in kidney</p> <p>The transitional cell bladder carcinoma on I(a), selected by the General Principle, is not specified as primary. There is a neoplasm described as primary reported in Part II. Therefore, Rule 3 applies, and the transitional cell bladder carcinoma on I(a) is considered an obvious consequence of the primary kidney tumour reported in Part II. Code to malignant neoplasm of kidney (C64).</p> <p><u>This does not apply if the neoplasms have different morphology.</u></p> <p>Example 7: I (a) Transitional cell carcinoma of bladder II Osteosarcoma, primary in knee</p> <p>The transitional cell bladder carcinoma on I(a) is not specified as primary. Use the General Principle to select transitional cell carcinoma of bladder as the temporary underlying cause of death. The malignant neoplasm reported in Part II is of a different morphology. Since a transitional cell carcinoma is not a consequence of an osteosarcoma, Rule 3 does not apply. Code to malignant neoplasm of bladder (C67.9).</p> <p><u>For further instructions on certificates with more than one neoplasm specified as primary, see Section C below.</u></p> <p><u>(b) Other neoplasms specified as secondary</u></p> <p><u>Secondary malignant neoplasms should be accepted as due to other malignant neoplasms. Also, malignant neoplasms on the list of common sites of metastases (see Section 4.2.7.5 Table 3), should be accepted as due to other malignant neoplasms.</u></p> <p>Example 8: I (a) Secondaries in lung, pleura, brain and liver (b) Carcinoma of breast</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>続発性悪性新生物は、その他の悪性新生物によると考えるべきである。また、一般的転移部位リストの悪性新生物（4.2.7.5 節の表 3 参照）はその他の悪性新生物によると考えるべきである。</p> <p>例 8: I (a) 肺、胸膜、脳及び肝臓における続発症 (b) 乳房の癌 (腫)</p> <p>乳房の癌 (腫) は、胸膜、脳、及び肝臓において続発症を引き起こすことがある。一般原則が適用される。原死因として乳房の悪性新生物 (C50.9) を選ぶ。続発性と明示された悪性新生物は、原発と明示された新生物の明らかな結果と考えるべきである。</p> <p>例 9: I (a) 肺の続発性癌 (腫) II 腎臓において原発</p> <p>まず、一般原則を用い、肺の続発性癌 (腫) を暫定的な原死因として選ぶ。しかし、続発性新生物は原発性腎臓腫瘍の明らかな結果である。ルール 3 が適用され、腎の悪性新生物 (C64) を原死因として選ぶ。</p> <p>また、一つを除くすべての部位が続発性と明示される場合、続発性と明示されない部位を原発と考える。結果として、ルール 3 が適用される。</p> <p>例 10: I (a) リンパ節、脊椎及び腹膜における続発症 II 前立腺がん</p> <p>I 欄に記載されているすべての部位は続発性と明示されている。一つの部位、すなわち前立腺だけが続発性と明示されていない。まず、ルール 2 を適用して、リンパ節における続発性新生物を暫定的な原死因として選ぶ。次に、続発性新生物の広がり II 欄に記載されている前立腺がんの明らかな結果であることから、ルール 3 を適用する。原死因として前立腺の悪性新生物 (C61) を選択する。</p> <p>(c) 悪性新生物のリスクを高める疾患によると記載された新生物</p> <p>悪性新生物が一般にその部位の悪性新生物のリスクを高めると考えられる病態によって引き起こされたとの記載がある場合、その新生物を原発としてコードする。その部位が一般的転移部位リストにあるとしてもこれが適用される (4.2.7.5 節の表 3 参照)。</p> <p>例 11: I (a) 肝臓及び肺のがん (b) 慢性肝炎</p>	<p>A carcinoma of breast may cause secondaries in pleura, brain, and liver. The General Principle applies. Select malignant neoplasm of breast (C50.9) as the underlying cause of death.</p> <p>A malignant neoplasm specified as secondary should be considered an obvious consequence of a neoplasm specified as primary.</p> <p>Example 9: I (a) Secondary carcinoma of lung II Primary in kidney</p> <p>First, use the General Principle to select secondary carcinoma of lung as the temporary underlying cause. However, the secondary neoplasm is an obvious consequence of the primary kidney tumour. Rule 3 applies, and malignant neoplasm of kidney (C64) is selected as underlying cause of death.</p> <p>Also, if all sites but one are specified as secondary, consider the site not specified as secondary as the primary one. Consequently, Rule 3 applies.</p> <p>Example 10: I (a) Secondaries in lymph nodes, vertebrae and peritoneum II Prostate cancer</p> <p>All sites mentioned in Part I are specified as secondary. There is one site reported that is not specified as secondary, namely prostate. First, apply Rule 2 to select the secondary neoplasm in lymph nodes as the temporary underlying cause. Then apply Rule 3, since the secondary spread is an obvious consequence of prostate cancer reported in Part II. Select malignant neoplasm of prostate (C61) as the underlying cause of death.</p> <p>(c) A neoplasm reported as due to a disease that increases the risk of malignancy</p> <p>When a malignant neoplasm is reported as caused by a condition generally considered to increase the risk of a malignancy of that site, code the neoplasm as primary. This applies even if the site is on the list of common sites of metastases (see Table 3 in Section 4.2.7.5).</p> <p>Example 11: I (a) Cancer of liver and lung (b) Chronic hepatitis</p> <p>Code to unspecified malignant neoplasm of liver (C22.9), since chronic hepatitis increases the risk of primary liver cancer.</p> <p>Example 12: I (a) Cancer of lung (b) Cancer of liver (c) Prolonged exposure to vinyl chloride</p> <p>Code to unspecified malignant neoplasm of liver (C22.9), since vinyl chloride increases the risk of primary liver cancer. Using section 4.2.7.5, the cancer of lung is regarded as secondary.</p> <p>Example 13: I (a) Cancer of chest wall (b) Cancer of lung</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>慢性肝炎は原発性肝がんのリスクを高めることから、肝の悪性新生物、詳細不明 (C22.9) にコードする。</p> <p>例 12: I (a) 肺がん (b) 肝がん (c) 塩化ビニルへの長期間の暴露</p> <p>塩化ビニルは原発性肝がんのリスクを高めることから、肝の悪性新生物、詳細不明 (C22.9) にコードする。4.2.7.5 節により、肺がんは続発性と考えられる。</p> <p>例 13: I (a) 胸壁のがん (b) 肺のがん (c) 喫煙</p> <p>気管支又は肺の悪性新生物、部位不明 (C34.9) にコードする。タバコは原発性肺がんのリスクを高める。4.2.7.5 節により、胸壁のがんは続発性と考えられる。</p> <p>例 14: I (a) 胸膜及びリンパ節の中皮腫 (b) アスベスト粉じん<塵>の長期間の吸引</p> <p>胸膜の中皮腫 (C45.0) にコードする。アスベストへの暴露は、原発とみなされる胸膜中皮腫のリスクを高める。リンパ節の悪性新生物は続発性と考えられる (4.2.7.5 節 D 参照)。</p> <p>例 15: I (a) 縦隔及び肝臓の悪性新生物 (b) アスベスト粉じん<塵>の長期間の吸引</p> <p>縦隔の悪性新生物 (C38.3) にコードする。アスベストへの暴露は縦隔におけるがんのリスクを高める。肝臓新生物は続発性と考えられる。</p> <p>悪性新生物のリスクを高めるとされる病態に関するさらなる情報については、死因分類における ICD-10 に関する WHO のウェブサイト参照。</p> <p>(d) 部位特異的形態</p> <p>索引表はいくつかの形態を特定の原発部位に割り当てている：</p> <p>例 16: I (a) 全身性の転移の広がり (b) 偽粘液性腺がん</p>	<p>(c) Smoking</p> <p><u>Code to malignant neoplasm of bronchus or lung, unspecified (C34.9). Tobacco increases the risk of primary lung cancer. Using section 4.2.7.5, the cancer of chest wall is considered secondary.</u></p> <p><u>Example 14: I (a) Mesothelioma of pleura and lymph nodes</u> <u>(b) Prolonged inhalation of asbestos dust</u></p> <p><u>Code to mesothelioma of pleura (C45.0). Exposure to asbestos increases the risk of pleural mesothelioma, which is considered primary. The malignant neoplasm of lymph nodes is considered secondary (see Section 4.2.7.5 D).</u></p> <p><u>Example 15: I (a) Malignant neoplasm of mediastinum and liver</u> <u>(b) Prolonged inhalation of asbestos dust</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of mediastinum (C38.3). Exposure to asbestos increases the risk of cancer in the mediastinum, and the liver neoplasm is considered secondary.</u></p> <p><u>For further information on conditions considered to increase the risk of malignancy, please refer to the WHO website on ICD-10 in classification of mortality.</u></p> <p>(d) Site-specific morphology</p> <p><u>Note that the Alphabetical Index assigns some morphologies to a specific primary site:</u></p> <p><u>Example 16: I (a) Generalised metastatic spread</u> <u>(b) Pseudomucinous adenocarcinoma</u></p> <p><u>Select pseudomucinous adenocarcinoma using the General Principle. Code to malignant neoplasm of ovary (C56), since pseudomucinous adenocarcinoma of unspecified site is assigned to the ovary in the Alphabetical Index.</u></p> <p><u>If two or more morphologies are indicated, code according to Section 4.2.7.3 C.</u></p> <p>(e) Durations do not indicate primary site</p> <p><u>Durations should not be used to establish the primary site, since the same patient could develop several primary malignant neoplasms. Also, stated duration may refer to the date of diagnosis rather than the duration of the disease.</u></p> <p><u>Example 17: I (a) Malignant neoplasm of throat 8 months</u> <u>II Malignant neoplasm of breast 12 years</u></p> <p><u>A condition selected by the General Principle or Rules 1 or 2 should be considered an obvious consequence of a condition reported elsewhere on the certificate only if there is no doubt about the relationship. In this case, the different durations do not necessarily indicate that the malignant neoplasm</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>一般原則を用いて偽粘液性腺がんを選ぶ。部位不明の偽粘液性腺がんは、索引表において卵巣に分類されるので、卵巣の悪性新生物 (C56) にコードする。</p> <p>二つ以上の形態が示される場合、4.2.7.3 節 C に従ってコードする。</p> <p>(e) 期間は原発部位を示さない</p> <p>同じ患者がいくつかの原発性悪性新生物を発現することから、原発部位を確定するのに期間を使用すべきでない。また、記載されている期間はその疾患の期間よりもむしろ診断日を示している場合がある。</p> <p>例 17: I (a) 咽頭の悪性新生物 8ヶ月 II 乳房の悪性新生物 12年</p> <p>一般原則又はルール 1 もしくは 2 によって選択された病態は、因果関係に疑いがない場合にのみ、死亡診断書の他の場所に記載された病態の明らかな結果と考えるべきである。上記の例の場合、患者が二つの独立した原発性悪性腫瘍を発現したかもしれないことから、期間の違いは、咽頭の悪性新生物が乳房の悪性新生物から広がった転移であるということを必ずしも示しているわけではない。そのため、ルール 3 は適用されない。一般原則によって選択された咽頭の悪性新生物 (C14.0) にコードする。</p> <p>例 18: I (a) 腎臓 (7 カ月) 及び前立腺 (5 年) の悪性新生物</p> <p>例 15 と同様に、期間の違いは、最近の新生物の方が期間の長い新生物から広がった転移であるということを必ずしも示しているわけではない。ルール 3 は適用されない。いずれの悪性新生物も原発性とみなされる。ルール 2 によって選択された腎の悪性新生物 (C64) にコードする。</p>	<p>of throat is a metastatic spread from the breast malignancy, since the patient may have developed two independent primary malignancies. Consequently, Rule 3 does not apply. Code to malignant neoplasm of throat (C14.0) selected by the General Principle.</p> <p><i>Example 18: I (a) Malignant neoplasm of kidney (7 months) and of prostate (5 years)</i></p> <p>As in Example 15, the different durations do not necessarily indicate that the more recent neoplasm is a metastatic spread from the one with longer duration. Rule 3 does not apply. Both malignant neoplasms are considered primary. Code to malignant neoplasm of kidney (C64), selected by Rule 2.</p>
119	<p>E 原発部位不明の場合</p> <p>死亡診断書のどこかに、「原発部位不明」またはこれと同様の記載がなされている場合は、死亡診断書に記載された部位にかかわらず、その新生物の形態学的型に対応する「部位不明」の分類項目 (たとえば、腺癌 C80、線維肉腫 C49.9、骨肉腫 C41.9) にコードする。</p> <p>例 7: I (a) 肝の続発性癌</p>	<p>B. 原発部位不明</p> <p>死亡診断書に原発部位が不明であると記載されている場合、関与する形態学的型に対応する「部位不明」の分類項目にコードする。例えば、腺がんは C80.0、線維肉腫は C49.9、骨肉腫は C41.9 にコードする。死亡診断書の他の場所に記載されているその他の各部位は無視する。</p> <p>例 19: I (a) 肝臓の続発性がん</p>	<p>B. Primary site unknown</p> <p>If the certificate states that the primary site is unknown, code to the category for unspecified site for the morphological type involved. For example, code adenocarcinoma to C80.0, fibrosarcoma to C49.9, and osteosarcoma to C41.9. Disregard any other sites mentioned elsewhere on the certificate.</p> <p><i>Example 19: I (a) Secondary carcinoma of liver (b) Primary site unknown (c) ? stomach ? colon</i></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>(b) 原発部位不明 (c) ?胃?結腸 部位不明の癌(腫) (C80) にコードする。</p> <p>例 8: I (a) 全身転移 (b) 背部の黒色腫 (c) 原発部位不明 部位不明の悪性黒色腫 (C43.9) にコードする。</p>	<p>(b) 原発部位不明 (c) ?胃?結腸 <英語では、I (c) が落ちているが、説明文からすると必要か。> > 死亡診断書には原発部位が不明であると記載されている。 I(c)欄に記載されて胃及び結腸を無視し、部位不明の癌(腫) (C80.0) にコードする。</p> <p>例 20: I (a) 全身転移 (b) 黒色腫 (c) 原発部位不明 部位不明の悪性黒色腫 (C43.9) にコードする。形態学的型が示されていない場合、部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする:</p> <p>例 21: I (a) 肝臓への転移 死亡診断書は原発部位を明示していない。可能であれば、死亡診断書作成者(医師)に確認を取るべきである。これが可能でなければ、部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。</p>	<p>The certificate states that the primary site is unknown. Disregard stomach and colon mentioned on line I (c), and code to carcinoma without specification of site (C80.0).</p> <p>Example 20: I (a) Generalized metastases (b) Melanoma (c) Primary site unknown</p> <p>Code to malignant melanoma of unspecified site (C43.9).</p> <p>If the morphological type is not indicated, code to unspecified malignant neoplasm (C80.9):</p> <p>Example 21: I (a) Metastases of liver</p> <p>The certificate does not specify the primary site. If possible, clarification should be sought from the certifier. If this is not possible, code to malignant neoplasm of unspecified site (C80.9).</p>
120	<p>F 独立した(原発性の)多部位(C97)の場合</p> <p>複数の原発性新生物が発生することがある。これは二つの異なる解剖学的部位、または二つの異なる形態学的型(たとえば、副腎腫および導く乳管管内癌)の記載、または特定の部位および第2の部位を意味する形態学的型の混合によって示される。一つの原発性悪性新生物が、もう一つの原発性悪性新生物に起因することは、ほとんどありえないが、リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)では、ある型から他の型に変わることがある(たとえば、非ホジキンリンパ腫から白血病になることがある)。</p> <p>もし、I欄に記載された複数の部位が、同一の器官系にあれば、H節を参照する。もし、それらの部位が同一の器官系にはなく、どれが原発でどれが転移かが示されていないならば、独立した(原発性の)多部位の悪性新生物(C97)にコードする。ただし、全部がC81-C96に分類できる場合、または記載された部位の一つが、一般的な転移部位である場合や肺である場合は除く(下記のG参照)。</p> <p>例 9: I (a) 胃癌 (b) 乳癌 解剖学的に異なる二つの部位が記載されており、一方が他方の原因とは考えられないため、独立した(原発性の)多部位</p>	<p>C. 複数の原発性新生物がある場合</p> <p>複数の原発性新生物の存在は、例えば下記のようにいくつかの方法で示すことができる:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 二つ以上の異なる解剖学的部位の記載 - 二つ以上の異なる形態学的型の記載 - 特定の部位及びもう一つの部位を意味する形態学的型の混合 <p>死亡診断書に複数の原発性悪性新生物の記載がある場合、死亡診断書作成者(医師)に対して悪性新生物の一つを原死因として明示するよう求めるべきである。そうした確認が取れない場合、選択ルールを通常の方法で適用するべきである。</p> <p>(a) 複数の異なる解剖学的部位</p> <p>一つの部位の原発性悪性新生物が、別の部位の原発性新生物によるものであると考えるべきではない。</p> <p>例 22: I (a) 胃がん (b) 乳がん 胃は一般的な転移部位リストになく(4.2.7.5 節表 3 参</p>	<p>C. More than one primary neoplasm</p> <p>The presence of more than one primary neoplasm could be indicated in several ways, for example:</p> <ul style="list-style-type: none"> • mention of two or more different anatomical sites • two or more distinct morphological types • by a mix of a morphological type that implies a specific site, plus another site <p>When a death certificate mentions more than one primary malignant neoplasm, the certifier should be asked to specify one of the malignant neoplasms as the underlying cause of death. If no clarification can be obtained, the selection rules should be applied in the usual way.</p> <p>(a) Two or more different anatomical sites</p> <p>A primary malignant neoplasm of one site should not be accepted as due to a primary neoplasm of another site.</p> <p>Example 22: I (a) Cancer of stomach (b) Cancer of breast</p> <p>Stomach is not on the list of common sites of metastases (see Section 4.2.7.5 Table 3) and both cancer of stomach and cancer of breast are regarded as</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>の悪性新生物 (C97) にコードする。</p> <p>例 10: I (a) ホジキン病 (b) 膀胱癌 二つの異なる形態学的型が記載されているので、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p> <p>例 11: I (a) 急性リンパ球性白血病 (b) 非ホジキンリンパ腫 両者は C81-C96 に分類され、上下の因果関係がみとめられるので、非ホジキンリンパ腫 (C85.9) にコードする。</p> <p>例 12: I (a) 白血病 (b) 非ホジキンリンパ腫 (c) 卵巣癌 二つは C81-C96 に分類されるが、他部位の記載があるので、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p> <p>例 13: I (a) 白血病 II 乳癌 乳癌は II 欄に記載されているので、白血病 (C95.9) にコードする。多部位を取り扱う場合は、死亡診断書の I 欄に記載されている部位だけを考慮する (H 参照)。</p>	<p>照)、胃がんと乳がんはいずれも原発性とみなされる。しかし、一つの原発性悪性新生物が別の原発性悪性新生物によるものとは考えない。ルール 2 が適用され、胃がん (C16.9) を原死因として選ぶ。</p> <p>例 23: I (a) 前立腺がん II 胃がん 二つの異なる原発性新生物、すなわち胃がん及び前立腺がんが記載されている。一般原則を使用して、I 欄に記載されている前立腺の悪性新生物 (C61) を選ぶ。</p> <p>例 24: I (a) がん II 前立腺がん 一般原則を使用して、部位不明の悪性新生物 (C80.9) を暫定的な原死因として選ぶ。次にルール D 特異性を適用して、II 欄に記載されているより具体的な用語の「前立腺のがん」(C61) を選ぶ。</p> <p>(b) 複数の異なる形態 特定の形態の悪性新生物が、異なる形態の新生物によるものと認められるべきではない。</p> <p>例 25: I (a) 腎細胞がん (b) 燕麦細胞がん 腎細胞がん及び燕麦細胞がんは形態が異なる。そのため、腎細胞がんが燕麦細胞がんによるものとは認められない。ルール 2 を適用し、腎細胞がん (C64) を原死因として選ぶ。</p> <p>「がん」という用語を特定の形態としてみなしてはならない。「がん」は「悪性新生物」の同義語として用いられることが多い。</p> <p>例 26: I (a) 肝がん (b) 結腸の悪性黒色腫 「肝がん」と「悪性黒色腫」を異なる形態としてみなしてはならない。一般原則を適用して結腸の悪性黒色腫を選択し、結腸の悪性新生物 (C18.9) にコードする。肝がんは続発性と考える。</p> <p>ただし、リンパ組織、造血組織又は関連組織の新生物 (C81-</p>	<p>primary. However, one primary malignant neoplasm is not accepted as due to another. Rule 2 applies, and cancer of stomach (C16.9) is selected as the underlying cause.</p> <p>Example 23: I (a) Cancer of prostate II Cancer of stomach Two different primary neoplasms are mentioned, stomach cancer and cancer of prostate. Use the General Principle to select cancer of prostate (C61), which is mentioned in Part I.</p> <p>Example 24: I (a) Cancer II Cancer of prostate Use the General Principle to select unspecified cancer (C80.9) as the temporary underlying cause. Then apply Rule D, Specificity, to select the more specific term “cancer of prostate” (C61), reported in Part II.</p> <p>(b) Two or more different morphologies A malignant neoplasm of a specific morphology should not be accepted as due to a neoplasm of a different morphology.</p> <p>Example 25: I (a) Hypernephroma (b) Oat cell carcinoma Hypernephroma and oat cell carcinoma are different morphologies. Therefore, hypernephroma is not accepted as due to oat cell carcinoma. Use Rule 2 to select hypernephroma (C64) as underlying cause of death.</p> <p>Do not regard the term “cancer” as a specific morphology. It is often used as a synonym of “malignant neoplasm”.</p> <p>Example 26: I (a) Liver cancer (b) Malignant melanoma of colon Do not regard “liver cancer” and “malignant melanoma” as different morphologies. Use the General Principle to select malignant melanoma of colon, and code to malignant neoplasm of colon (C18.9). Consider the liver cancer secondary.</p> <p>However, a neoplasm in lymphoid, haematopoietic or related tissue (C81-C96) may develop into another type of neoplasm in lymphoid, haematopoietic or related tissue. Therefore, if the certificate reports a sequence of such neoplasms, the sequence is accepted.</p> <p>Example 27: I (a) Acute lymphocytic leukaemia (b) Non-Hodgkin’s lymphoma A non-Hodgkin lymphoma may develop into an acute lymphocytic leukemia. The sequence is accepted, and non-Hodgkin’s lymphoma (C85.9) is selected as underlying cause according to the General Principle.</p> <p>Acute exacerbation of or blastic crisis (acute) in, chronic leukaemia is considered an obvious consequence of the chronic form.</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>C96) は、リンパ組織、造血組織又は関連組織で別の種類の新生物になる可能性がある。そのため、死亡診断書がこのような新生物の上下の因果関係を記載している場合には、その上下の因果関係は妥当と認められる。</p> <p>例 27: I (a) 急性リンパ球性白血病 (b) 非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫</p> <p>非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫は、急性リンパ性白血病になることがある。上下の因果関係が認められるので、一般原則に従い、非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫 (C85.9) が原死因として選ばれる。</p> <p>慢性白血病の急性転化や芽胞発症 (急性) は、慢性型の明らかな結果ととえられる。</p> <p>例 28: I (a) 急性及び慢性のリンパ球性白血病 I(a)欄の最初の行に記載されている急性リンパ球性白血病を、ルール 2 に従い、暫定的な原死因として選ぶ。しかし、これは慢性リンパ球性白血病の明らかな結果である。ルール 3 も適用され、原死因として慢性リンパ球性白血病 (C91.1) が選ばれる。</p> <p>(c) その他の部位とともに記載された部位特異的形態</p> <p>いくつかの形態は特定の部位又は組織の種類に特異的である (索引表を参照)。特定の部位又は組織の悪性新生物は、別の部位又は別の種類の組織の新生物によるものと考えべきではない。部位特異的な形態が別の部位の悪性新生物とともに記載されている場合、選択ルールを通常の方法で適用する。</p>	<p><u>Example 28: I (a) Acute and chronic lymphocytic leukaemia</u></p> <p><u>The acute lymphocytic leukemia, mentioned first on line I (a), is selected as the temporary underlying cause according to Rule 2. However, it is an obvious consequence of the chronic lymphocytic leukaemia. Rule 3 also applies, and chronic lymphocytic leukaemia (C911) is selected as the underlying cause of death.</u></p> <p><u>(c) Site-specific morphology reported with other sites</u></p> <p><u>Some morphologies are specific for a particular site or type of tissue (see the Alphabetical Index). A malignant neoplasm of a particular site or tissue should not be accepted as due to a neoplasm of another site or type of tissue. Apply the selection rules in the usual way, if a site-specific morphology is reported with a malignant neoplasm of another site.</u></p>
121		<p>例 29: I (a) ホジキン<Hodgkin>リンパ腫 (b) 膀胱の癌 (腫)</p> <p>二つの異なる形態学的型が記載され、二つの異なる原発性新生物、すなわちホジキン<Hodgkin>リンパ腫及び膀胱癌 (腫) の存在を示している。一方の原発性悪性新生物をもう一方によると考えるべきではない。そのため、ルール 2 が適用され、ホジキン<Hodgkin>リンパ腫 (C81.9) が原死因として選ばれる。</p>	<p><u>Example 29: I (a) Hodgkin's disease-lymphoma</u> <u>(b) Carcinoma of bladder</u></p> <p><u>Two different morphological types are mentioned, which indicates the presence of two different primary neoplasms, Hodgkin's disease lymphoma and bladder carcinoma. One primary malignant neoplasm should not be accepted as due to another. Therefore, Rule 2 applies, and Hodgkin's disease lymphoma (C81.9) is selected as the underlying cause.</u></p>
		<p>例 29: I (a) ホジキン<Hodgkin>リンパ腫 (b) 膀胱の癌 (腫)</p> <p>二つの異なる形態学的型が記載され、二つの異なる原発性新生物、すなわちホジキン<Hodgkin>リンパ腫及び膀胱癌 (腫) の存在を示している。一方の原発性悪性新生物をもう一方によると考えるべ</p>	<p style="text-align: center;">2013</p> <p>4.2.7.3 Primary site ... C. More than one primary neoplasm ... (c) <i>Site-specific morphology reported with other sites</i> ... <u>Example 29: I (a) Hodgkin lymphoma</u> <u>(b) Carcinoma of bladder</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>きではない。そのため、ルール 2 が適用され、ホジキン<Hodgkin>リンパ腫、<u>詳細不明</u> (C81.9) が原死因として選ばれる。</p>	<p>Two different morphological types are mentioned, which indicates the presence of two different primary neoplasms, Hodgkin lymphoma and bladder carcinoma. One primary malignant neoplasm should not be accepted as due to another. Therefore, Rule 2 applies, and Hodgkin lymphoma, <u>unspecified</u> (C81.9) is selected as the underlying cause.</p>
122		<p>例 30: I (a) <u>肝細胞がん</u> (b) <u>乳がん</u></p> <p>「肝細胞がん」という形態は、肝臓の原発性悪性新生物を示す。肝細胞がんと乳房のがんはいずれも原発性と考えられることから、肝臓の原発性悪性新生物を乳房のがんによるものと認めるべきでない。ルール 2 を用いてヘパトーマ (C22.0) にコードする。</p>	<p><u>Example 30: I (a) Hepatoma</u> <u>(b) Cancer of breast</u></p> <p><u>The morphology “hepatoma” indicates a primary malignant neoplasm of liver. A primary malignant neoplasm of liver should not be accepted as due to cancer of breast, since both the hepatoma and the breast cancer are considered primary. Code to hepatoma (C22.0), using Rule 2.</u></p>
123		<p>4.2.7.4 重複する部位の悪性新生物</p> <p>内容例示表の第 2 章の序文 (注、5 節) には、細分類項目.8「境界部位にまたがる悪性新生物」の内容及び使用目的が記載されている。しかし、死因コーディングでは、病変が境界部位にまたがっていると明確に記載されている場合、又は死亡診断書に用いられている解剖学的用語が境界部位にまたがっていることを示している場合にのみ、境界部位にまたがる悪性新生物のコードを使用すべきである。悪性新生物が臓器又は臓器系のある一部分から同じ臓器又は臓器系の別の部分に広がった場合には、境界部位にまたがる病変のコードは使用しない。</p> <p>例 31: I (a) <u>舌及び口腔底にまたがる悪性新生物</u></p> <p><u>C14.8 口唇, 口腔及び咽頭の境界部病巣にコードする。新生物は境界部にまたがっていると記載されている。</u></p> <p>例 32: I (a) <u>直腸 S 状結腸の悪性新生物</u></p> <p><u>C19 直腸 S 状結腸移行部の悪性新生物にコードする。「直腸 S 状」の用語は境界部位を示す。</u></p> <p>死亡診断書が近接する部位を列挙するということは十分でない。その場合、選択ルール及び修正ルールを通常の方法で適用することによって原死因を選択する。</p> <p>例 33: I (a) <u>結腸及び胆のう<囊>の悪性新生物</u></p> <p><u>「結腸及び胆のう<囊>」が境界部をまたがる新生物であることを示す記述はない。そのため、これは二つの独立した原発部位とみなされる。死亡診断書の最初に記載されていることか</u></p>	<p>4.2.7.4 Malignant neoplasms of overlapping sites</p> <p><u>The introduction to Chapter II in Volume 1 (Notes, Section 5) describe the contents and the intended use of subcategory .8, malignant neoplasms of overlapping sites. In mortality coding, however, the codes for malignant neoplasms of overlapping sites should be used only if the lesion has been expressly described as overlapping, or if the anatomical term used on the death certificate indicates an overlapping site. Do not use the codes for overlapping lesions if a malignant neoplasm has spread from one part of an organ or organ system to another part of the same organ or organ system.</u></p> <p><u>Example 31: I (a) Overlapping malignant neoplasm of tongue and floor of mouth</u></p> <p><u>Code to C14.8, overlapping lesion of lip, oral cavity and pharynx. The neoplasm is described as overlapping.</u></p> <p><u>Example 32: I (a) Malignant neoplasm of rectosigmoid colon</u></p> <p><u>Code to C19, malignant neoplasm of rectosigmoid junction. The term “rectosigmoid” indicates an overlapping site.</u></p> <p><u>It is not sufficient that the certificate enumerates contiguous sites. In that case, select the underlying cause by applying the selection and modification rules in the normal way.</u></p> <p><u>Example 33: I (a) Malignant neoplasm of colon and gallbladder</u></p> <p><u>There is no statement that the “colon and gallbladder” refers to an overlapping neoplasm. Therefore, they are considered as two independent primary sites. Malignant neoplasm of colon (C18.9) is selected as underlying cause of death according to Rule 2, since it is mentioned first on the certificate.</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)																												
		ら、ルール2に従って結腸の悪性新生物(C18.9)が原死因として選ばれる。																													
124	<p>G 転移性新生物</p> <p>悪性新生物が広がるかまたは転移する場合、さらに未分化になることがあるとしても、それは一般的には同一の形態学的型を保持するものである。いくつかの転移は、病理学者が確信を持って原発部位を推断することができる特徴的な顕微鏡所見を有するものである(例:甲状腺)。癌(腫)の播種性転移は、しばしば、癌腫症<carcinomatosis>と呼ばれている。もし、癌(腫)または肉腫のような修飾語のない非特異的な用語が、悪性新生物と同じ意味でより特異的な組織型を示す用語とともに記載されているならば、形態学的により特異的とされる部位にコードし、他は転移したもののみならず。</p> <p>悪性の細胞は、身体のかなる部位にも転移する可能性があるが、他の部位に比べて転移しやすい部位があり、この部位は、別に扱わなければならない(次頁参照)。しかし、もし、死亡診断書にこれらの部位が単独に記載され、「転移性」と記載されていなければ、原発と考えるべきである。</p>	<p>4.2.7.5 一般的な転移部位</p> <p><u>A. 一般的転移部位リスト</u></p> <p>悪性の細胞は身体のかなる部位にも転移する可能性があるが、他の部位に比べて転移しやすい部位があり、この部位は別に扱わなければならない。これらの部位のリストを下表3に示す。</p> <p>表3. 一般的転移部位</p> <table border="1"> <tr> <td>骨</td> <td>縦隔</td> </tr> <tr> <td>脳</td> <td>髄膜</td> </tr> <tr> <td>横隔膜</td> <td>腹膜</td> </tr> <tr> <td>不明確な部位(C76に分類可能な部位)</td> <td>胸膜</td> </tr> <tr> <td>肝臓</td> <td>後腹膜</td> </tr> <tr> <td>肺(特殊な指示参照)</td> <td>脊髄</td> </tr> <tr> <td>リンパ節(特殊な指示参照)</td> <td></td> </tr> </table>	骨	縦隔	脳	髄膜	横隔膜	腹膜	不明確な部位(C76に分類可能な部位)	胸膜	肝臓	後腹膜	肺(特殊な指示参照)	脊髄	リンパ節(特殊な指示参照)		<p>4.2.7.5. Common sites of metastases</p> <p><u>A. List of common sites of metastases</u></p> <p>Although malignant cells can metastasize anywhere in the body, certain sites are more common than others and must be treated differently. These sites are listed in Table 3 below.</p> <p>-----</p> <p>Table 3. Common sites of metastases</p> <table border="1"> <tr> <td>Bone</td> <td>Mediastinum</td> </tr> <tr> <td>Brain</td> <td>Meninges</td> </tr> <tr> <td>Diaphragm</td> <td>Peritoneum</td> </tr> <tr> <td>Ill-defined sites (sites classifiable to C76)</td> <td>Pleura</td> </tr> <tr> <td>Liver</td> <td>Retroperitoneum</td> </tr> <tr> <td>Lung (see special instruction)</td> <td>Spinal cord</td> </tr> <tr> <td>Lymph nodes (see special instruction)</td> <td></td> </tr> </table>	Bone	Mediastinum	Brain	Meninges	Diaphragm	Peritoneum	Ill-defined sites (sites classifiable to C76)	Pleura	Liver	Retroperitoneum	Lung (see special instruction)	Spinal cord	Lymph nodes (see special instruction)	
骨	縦隔																														
脳	髄膜																														
横隔膜	腹膜																														
不明確な部位(C76に分類可能な部位)	胸膜																														
肝臓	後腹膜																														
肺(特殊な指示参照)	脊髄																														
リンパ節(特殊な指示参照)																															
Bone	Mediastinum																														
Brain	Meninges																														
Diaphragm	Peritoneum																														
Ill-defined sites (sites classifiable to C76)	Pleura																														
Liver	Retroperitoneum																														
Lung (see special instruction)	Spinal cord																														
Lymph nodes (see special instruction)																															
125	<p>一般的転移部位リスト</p> <table border="1"> <tr> <td>骨</td> <td>縦隔</td> </tr> <tr> <td>脳</td> <td>髄膜</td> </tr> <tr> <td>横隔膜</td> <td>腹膜</td> </tr> <tr> <td>心</td> <td>胸膜</td> </tr> <tr> <td>肝</td> <td>後腹膜</td> </tr> <tr> <td>肺</td> <td>脊髄</td> </tr> <tr> <td>リンパ節</td> <td></td> </tr> <tr> <td>不明確な部位(C76に分類される部位)</td> <td></td> </tr> </table> <p>* 肺については、肺は転移部位になると同時に、原発性悪性新生物の発生部位にもなるという特殊な問題がある。肺が上記リストにない部位とともに記載された場合には、肺を一般的転移部位と考えるべきである。しかし、気管支または気管支原性のがんの記載がある場合には、この新生物を原発性と考えべきである。もし、肺が記載され、他の部位が一般的転移部位リストにあるものだけであれば、肺原発と考える。</p> <p>* 原発と明示されていないリンパ節の悪性新生物は、続発性と推定するべきである。</p> <p>-----</p> <p>例14: I (a) 脳のがん 脳が悪性新生物(C71.9)にコードする。</p> <p>例15: I (a) 骨のがん (b) 肺癌 骨は、一般的転移部位リストにあるため、肺原発と考え、肺</p>	骨	縦隔	脳	髄膜	横隔膜	腹膜	心	胸膜	肝	後腹膜	肺	脊髄	リンパ節		不明確な部位(C76に分類される部位)		<p><u>B. 一般的転移部位: リストの使用方法</u></p> <p><u>(a) その他の部位とともに記載された一般的転移部位</u></p> <p>複数の部位が死亡診断書に記載され、原発部位が示されていない場合、表3に記載の部位の新生物を続発性、表3にないものを原発性と考え、次に、選択ルールを通常の方法で適用することによって原死因を選択する。</p> <p>例34: I (a) 脳のがん (b) 乳がん</p> <p>乳房は表3にないため、原発性と考えられる。脳は表3にあり、続発性と考えられる。続発性悪性新生物はもちろん原発性のものである可能性がある。一般原則に従い、乳がん(C50.9)が原死因として選ばれる。</p> <p>例35: I (a) 腹膜がん II 乳房がん</p> <p>腹膜は表3にあり、続発性と考えられる。乳房は表3になく、原発性と考えられる。まず、一般原則を適用して腹膜がんを暫定的な原死因として選ぶ。しかし、(続発性)腹膜がんは(原発性の)乳がんの明らかな結果である(4.2.7.3節A(b))</p>	<p><u>B. Common sites of metastases: how to use the list</u></p> <p><u>(a) A common site of metastases reported with other sites</u></p> <p>If several sites are reported on the death certificate and the primary site is not indicated, consider neoplasms of sites in Table 3 as secondary, and those not in Table 3 as primary. Then select the underlying cause by applying the selection rules in the usual way.</p> <p>Example 34: I (a) Brain cancer (b) Cancer of breast</p> <p>Breast is not in Table 3 and is, therefore, considered primary. Brain is in Table 3 and is considered secondary. A secondary malignancy could, of course, be due to a primary one. Breast cancer (C50.9) is selected as the underlying cause according to the General Principle.</p> <p>Example 35: I (a) Peritoneal cancer II Cancer of breast</p> <p>Peritoneum is in Table 3 and is considered secondary. Breast is not in Table 3 and is considered primary. First, apply the General Principle to select peritoneal cancer as the temporary underlying cause. However, the (secondary) peritoneal cancer is an obvious consequence of the (primary) cancer of breast, see Section 4.2.7.3 A (b). Therefore, apply Rule 3 and select cancer of breast (C50.9) as the underlying cause of death.</p> <p>Example 36: I (a) Cancer of liver (b) Cancer of colon (c) Cancer of bladder</p>												
骨	縦隔																														
脳	髄膜																														
横隔膜	腹膜																														
心	胸膜																														
肝	後腹膜																														
肺	脊髄																														
リンパ節																															
不明確な部位(C76に分類される部位)																															

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>の悪性新生物 (C34.9)にコードする。</p> <p>「転移性」という形容詞は、二つの意味に使用されている一ある場合は、他の原発部位から続発したことを意味する形容詞として使用され、ある場合には、転移を起こした原発を意味する形容詞として使用される。この混乱を避けるため、下記のガイドラインが提案されている：</p> <p>(a) 明示された部位「から転移 (metastatic from)」したと記載された悪性新生物は、その部位を原発と解釈する。</p> <p>例 16: I (a) 卵巣からの転移性奇形腫 卵巣の悪性新生物 (C56) にコードする。</p> <p>(b) ある部位「へ転移 (metastatic to)」したと記載された悪性新生物は、特定の原発部位を示す組織型の記載がない限り、その部位を続発と解釈する。</p> <p>例 17: I (a) 直腸への転移性癌 (腫) 直腸の続発性悪性新生物 (C78.5) にコードする。「～へ」という用語は、直腸が転移部位であることを明確に示している。</p> <p>例 18: I (a) 脳の転移性骨肉腫 骨肉種の部位不明であるため、骨の悪性新生物 (C41.9) にコードする。</p> <p>(c) 「(～の) 転移性 (metastatic of)」と記載された単一の悪性新生物 「(～の) 転移性」という用語は、下記のように解釈する： (1) 一つの部位が記載され、それが転移性であると記載された場合で、もし、形態学的型の記載がなければ、その特定された部位の続発性悪性新生物としてコードする。</p> <p>(注) 英語版では一般的転移部位リストの記載の有無で分けてそれぞれ別にコードされているが、日本の用法では局在部位に「転移性」と記載された場合で、他に判断する根拠となる記載がない場合はこれを「続発性」と解釈した方が適当であると考えられるので、上記のように変更した。</p> <p>例 19: I (a) 子宮頸癌、転移性 子宮頸 (部)、部位不明 (C53.9) にコードする。</p> <p>例 20: I (a) 転移性脳腫瘍 脳の続発性悪性新生物 (C79.3) にコードする。</p> <p>例 21: I (a) 肺の転移性癌 (腫)</p>	<p>参照)。そのため、ルール 3 を適用し、乳房のがん (C50.9) を原死因として選ぶ。</p> <p>例 36: I (a) 肝がん (b) 結腸がん (c) 膀胱がん</p> <p>肝臓は表 3 にあり、続発性と考えられる。結腸及び膀胱は表 3 になく、いずれも原発性と推定される。しかし、結腸の原発がんは、原発性の膀胱がんによるものと認められるべきでない。死亡診断書には、その他に、妥当な上下の因果関係、すなわち結腸の(原発)がんによる(続発性)肝がんの記載がある。ルール 1 を適用し、結腸の悪性新生物 (C18.9) を原死因として選ぶ。</p> <p>(注) 1) 表 3 に記載されている部位の新生物がその部位又は組織の悪性新生物のリスクを高める病態によるものとして記載されている場合、その新生物は原発性と考えられる (4.2.7.3 節 A (c) 参照)。 2) 表 3 に記載されている部位の悪性新生物が、死亡診断書に記載されている唯一の悪性新生物であり、かつ「転移性」として限定されていない場合、これも原発性と考えられる。</p> <p>(b) その他の形態学的型とともに記載される一般的転移部位</p> <p>表 3 にある部位の新生物が異なる形態の新生物とともに記載される場合、表 3 にある新生物を続発性、異なる形態のものを原発性と考える。次に、選択ルールを通常の方法で適用することによって原死因を選択する。</p> <p>例 37: I (a) 肝臓がん (b) 結腸の腺がん (c) 大腿の皮膚の悪性黒色腫</p> <p>肝臓は表 3 にあり、続発性と考えられる。結腸及び皮膚は表 3 になく、いずれも原発性と推定される。しかし、結腸及び皮膚の悪性腫瘍は形態が異なる。そのため、結腸の腺がんが腸の悪性黒色腫によるとは認められない。しかし、(続発性)肝臓がんは結腸の腺がんによるということはあるため、I (a)欄に記載されている肝臓がんが終わる上下の因果関係がある。ルール 1 に従い、結腸の悪性新生物が原死因として選ばれる。</p> <p>「肝臓がん」を別の形態とみしてはならない (4.2.7.3 節 C(b) 参照)。</p>	<p>Liver is in Table 3 and is considered secondary. Colon and bladder are not in Table 3 and are both assumed to be primary. However, a primary cancer of colon should not be accepted as due to a primary cancer of bladder. There is still an acceptable sequence on the certificate, namely (secondary) liver cancer due to (primary) cancer of colon. Use Rule 1 to select malignant neoplasm of colon (C18.9) as underlying cause of death.</p> <p>Note:</p> <p>1) A neoplasm of a site listed in Table 3 is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of a malignancy of that site or tissue, see Section 4.2.7.3 A (c).</p> <p>2) When a malignant neoplasm of one of the sites listed in Table 3 is the only malignant neoplasm mentioned on a death certificate, and it is not qualified as “metastatic”, it is also considered primary.</p> <p>(b) A common site of metastases reported with other morphological types</p> <p>If a neoplasm of a site in Table 3 is reported together with a neoplasm of a different morphology, consider the neoplasm in Table 3 as secondary, and those of a different morphology as primary. Then select the underlying cause by applying the selection rules in the usual way.</p> <p>Example 37: I (a) Liver cancer (b) Adenocarcinoma of colon (c) Malignant melanoma of skin of thigh</p> <p>Liver is in Table 3 and is considered secondary. Colon and skin are not in Table 3 and are both assumed to be primary. However, the colon and skin malignancies are of different morphology. Consequently, adenocarcinoma of colon is not accepted as due to malignant melanoma of intestine. A (secondary) liver cancer, however, can be due to adenocarcinoma of colon, so there is a sequence ending with the liver cancer reported on line I (a). Malignant neoplasm of colon is selected as underlying cause according to Rule 1.</p> <p>Do not regard “liver cancer” as a separate morphology, see Section 4.2.7.3 C (b).</p> <p>(c) All reported sites are on the list of common sites of metastases</p> <p>If all reported sites are in Table 3, they should all be considered secondary. This means that no primary tumour is reported, and the case should be coded to malignant neoplasm of unspecified site (C80.9).</p> <p>Example 38: I (a) Cancer of brain, ribs, pleura, and peritoneum</p> <p>The sites mentioned are all in Table 3 and are all considered secondary. Code the case to malignant neoplasm of unspecified site (C80.9).</p> <p>Note that special instructions apply to cases where lung is reported with other sites listed in Table 3. See Section 4.2.7.5 C.</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>肺の悪性新生物 (C34.9) にコードする。</p> <p>(2) 部位が記載されていないが、形態学的型が転移性のものと考えられる場合には、含まれている特定の形態学的型の原発部位不明のものとしてコードする。</p> <p>例 22: I (a) 転移性燕麦細胞癌 肺の悪性新生物 (C34.9) にコードする。</p> <p>(3) もし、単一の形態学的型および一般的な転移部位(一般的転移部位リスト参照)以外の部位が、転移性のものと記載されている場合は、形態学的型および部位に対する特定の分類項目にコードする。</p> <p>例 23: I (a) 腕の転移性黒色腫 この例では、腕の不明確な部位が、C76.-に分類される一般的な転移部位ではなく、黒色腫についての特定の部位であるので、腕の皮膚の黒色腫 (C43.6) にコードする。</p>	<p>(c) 記載された部位のすべてが一般的転移部位リストに掲載されている</p> <p>記載された部位がすべて表 3 にある場合、すべて続発性と考えられるべきである。このことは、原発性腫瘍は記載されていないということの意味し、この症例は部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードすべきである。</p> <p>例 38: I (a) 脳、肋骨、胸膜及び腹膜のがん</p> <p>記載されている部位はすべて表 3 にあり、すべて続発性と考えられる。この症例は、部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。</p> <p>肺が表 3 に記載されているその他の部位とともに記載されている場合には、特殊な指示が適用されるということに注意する。 4.2.7.5 節 C を参照。</p>	
126	<p>(4) もし、単一の形態学的型が転移性のものとして記載され、記載された部位が、肺を除く一般的な転移部位(一般的転移部位リスト参照)の一つならば、その形態学的型に対する「部位不明」にコードする。ただし、明示されない部位が C80 (部位の明示されない悪性新生物) に分類される場合を除く。この場合は、記載された部位の続発性悪性新生物にコードする。</p> <p>例 24: I (a) 脳 of 転移性骨肉腫 脳は一般的転移部位リストにあるため、骨の悪性新生物、部位不明 (C41.9) にコードする。</p> <p>(d) 転移性と考えられる複数の悪性新生物</p> <p>(1) 一般的転移部位のリストにはないが、形態学的には同一であって複数の部位が記載され、それらすべてが「転移性」と考えられる場合は、解剖学的系統の原発部位不明または含まれる形態学的型の原発部位不明のものとしてコードする。</p> <p>例 25: I (a) 前立腺の転移性癌 (腫) (b) 皮膚の転移性癌 (腫) 前立腺の転移性癌 (腫) は皮膚の転移性癌 (腫) に起因するものとは考えられないので、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする; 両者とも、おそらくは、(c) 欄に記載されるべき原発部位不明の悪性新生物の転移によるものである。</p> <p>例 26: I (a) 胃 of 転移性癌 (腫)</p>	<p><u>C. 特殊な指示: 肺</u></p> <p>肺については、転移部位になると同時に、原発性悪性新生物の発生部位にもなる(悪性新生物の転移部位にも原発部位にもなる)という特殊な問題がある。死亡診断書に記載されているその他の新生物の有無や、記載されている他の新生物によって原発性又は続発性を判断する。</p> <p>(a) 肺が原発性新生物の発生部位と考えられる場合</p> <p>死亡診断書に記載されている唯一の部位が肺である場合、原発性と考えられる。</p> <p>例 39: I (a) 肺がん</p> <p>肺が記載されている唯一の部位であるため、肺が原発性と考えられる。一般原則が適用され、原死因として肺がん (C34.9) が選ばれる。</p> <p>また、肺以外のその他すべての部位が表 3 にある場合、肺が原発性と考えられる。</p> <p>例 40: I (a) 肝臓のがん (b) 肺癌 (腫)</p> <p>肝臓は表 3 にあるため、肺が原発性と考えられる。一般原則が</p>	<p><u>C. Special instruction: lung</u></p> <p>The lung poses special problems in that it is a common site for both metastases and primary malignant neoplasms. It is considered primary or secondary, depending on other neoplasms reported on the certificate, if any.</p> <p>(a) Lung considered a primary neoplasm</p> <p>If lung is the only site mentioned on the certificate, it is considered primary.</p> <p>Example 39: I (a) Lung cancer</p> <p>Lung is the only site mentioned, and therefore lung is considered primary. The General Principle applies and carcinoma of lung (C34.9) is selected as the underlying cause of death.</p> <p>Also, if all other sites are in Table 3, lung is considered primary.</p> <p>Example 40: I (a) Cancer of liver (b) Carcinoma of lung</p> <p>Liver is in Table 3, and therefore lung is considered primary. The General Principle applies and carcinoma of lung (C34.9) is selected as the underlying cause of death.</p> <p>When a malignant neoplasm of bronchus or bronchogenic cancer is mentioned, this neoplasm should also be considered primary.</p> <p>Example 41: I (a) Carcinoma of bronchus (b) Carcinoma of breast</p> <p>Neither bronchus nor breast are in Table 3, and therefore both are considered</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>(b) 乳房の転移性癌 (腫) (c) 肺の転移性癌 (腫) 乳房と胃とは同一の解剖学的系統には属さず、肺は一般的転移部位リストにあるので、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>(2)もし、異なる組織学的グループに属する複数の形態学的型が、転移性と考えられるならば、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする (上記 F 参照)。</p> <p>例 27: I (a) 腸閉塞 (b) 腸の転移性腺癌 (c) 子宮の転移性肉腫 独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p> <p>(3)もし、形態学的型が示唆する部位と独立した解剖学的部位とが、ともに転移性と記載されているならば、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>例 28: I (a) 転移性結腸癌および転移性腎細胞癌 部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>(4)もし、同一の形態学的型である複数の部位が記載され、それらのうち一つを除いて、すべてが転移性とされているか、または一般的な転移部位リストにあるならば、記載の順序や I 欄か II 欄かにかかわらず、転移性のものと考えられない部位にコードする。もし、すべての部位が転移性と考えられるか、または一般的な転移部位リストにあるならば、部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>例 29: I (a) 胃の転移性癌 (腫) (b) 胆のう<囊>の癌 (腫) (c) 結腸の転移性癌 (腫) 胆のう<囊>の悪性新生物 (C23) にコードする。</p> <p>例 30: I (a)卵巣の転移性癌 (腫) (b)肺の癌 (腫) (c)転移性子宮頸癌 部位の明示されない悪性新生物 (C80) にコードする。</p> <p>例 31: I (a) 胃の転移性癌 (腫) (b) 肺の転移性癌 (腫) II 結腸癌 II 欄の記載であったとしても、転移性と考えられない唯一の診断名であるため、結腸の悪性新生物 (C18.9) にコードする。</p>	<p><u>適用され、肺癌 (腫) (C34.9) が原死因として選ばれる。</u></p> <p><u>気管支又は気管支原性の悪性新生物の記載がある場合には、この新生物も原発性と考えべきである。</u></p> <p>例 41: I (a) 気管支の癌 (腫) (b) 乳房の癌 (腫)</p> <p><u>気管支も乳房も表 3 にないため、いずれも原発性と考えられる。一方の原発性新生物をもう一方によるとは認められないため、ルール 2 が適用される。気管支の悪性新生物 (C34.9) を原死因として選ぶ。</u></p> <p>(注) 肺の新生物が肺がんのリスクを高める病態によるものと記載される場合、肺の新生物を原発性と考えられる (4.2.7.3 節 A (c)参照)。</p> <p>(b) 肺が続発性新生物の部位と考えられる場合</p> <p><u>部位不明の肺の悪性新生物が別の悪性新生物によると記載される場合、肺の新生物は続発性と考えられ、この上下の因果関係は認められる。</u></p> <p>例 42: I (a) 肺がん (b) 胃がん</p> <p><u>(続発性) 肺がんは胃がんによると認められるため、一般原則によって胃がんが選ばれる。</u></p> <p><u>肺が表 3 に記載されていない部位とともに I 欄に記載される場合にはいつでも、肺を続発性と考えべきである。</u></p> <p>例 43: I (a) 肺及び乳房の癌 (腫)</p> <p><u>肺癌 (腫) は乳房とともに記載され、乳房は表 3 にないことから、肺癌 (腫) が続発性と考えられる。ルール 3 が適用され、続発性肺癌 (腫) は乳房の癌 (腫) の明らかな結果と考えられる。乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</u></p> <p>(注) 肺の新生物が肺がんのリスクを高める病態によるものと記載される場合、肺の新生物が原発性と考えられる (4.2.7.3 節 A (c)参照)。</p> <p><u>部位不明の肺の悪性新生物は、死亡診断書の別の場所に記載されている悪性新生物の明らかな結果と考えるべきではない。</u></p>	<p><u>primary. One primary neoplasm is not accepted as due to another, and therefore Rule 2 applies. Select malignant neoplasm of bronchus (C34.9) as underlying cause of death.</u></p> <p><u>Note: A neoplasm of lung is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of lung cancer, see Section 4.2.7.3 A (c).</u></p> <p><i>(b) Lung considered a secondary neoplasm</i></p> <p><u>If an unspecified malignant neoplasm of lung is reported as due to another malignant neoplasm, the lung neoplasm is considered secondary and the sequence accepted.</u></p> <p><u>Example 42: I (a) Lung cancer (b) Stomach cancer</u></p> <p><u>Stomach cancer is selected by the General Principle, since (secondary) lung cancer is accepted as due to the stomach cancer.</u></p> <p><u>Lung should also be considered secondary whenever it appears in Part I with sites that are not mentioned in Table 3.</u></p> <p><u>Example 43: I (a) Carcinoma of lung and breast</u></p> <p><u>Lung carcinoma is considered secondary since it is reported with breast, which is not in Table 3. Rule 3 applies, and the secondary lung carcinoma is considered an obvious consequence of the carcinoma of breast. Code to malignant neoplasm of breast (C50.9).</u></p> <p><u>Note: A neoplasm of lung is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of lung cancer, see Section 4.2.7.3 A (c).</u></p> <p><u>An unspecified malignant neoplasm of lung should not be considered an obvious consequence of a malignant neoplasm reported elsewhere on the death certificate.</u></p> <p><u>Example 44: I (a) Lung cancer II Stomach cancer</u></p> <p><u>The lung cancer is not specified as either secondary or metastatic. Therefore, it is not considered an obvious consequence of stomach cancer reported in Part II, and Rule 3 does not apply. Select lung cancer (C34.9) as underlying cause of death, according to the General Principle.</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
	<p>(5)もし、記載されたすべての部位が、一般的転移部位リストにあるならば、含まれている形態学的型の原発部位不明にコードする。ただし、肺が記載された場合は除く。この場合は、肺の悪性新生物（C34.-）にコードする。</p> <p>例 32: I (a)肝のがん (b)腹部のがん 両者とも一般的転移部位リストにあるため、部位の明示されない悪性新生物（C80）にコードする。（腹部は、C76.-に含まれる不明確な部位の一つである）</p>	<p>例 44: I (a) 肺がん II 胃がん</p> <p>肺がんについて、続発性とも転移性とも明示されていない。そのため、II 欄に記載されている胃がんの明らかな結果とは考えられず、ルール 3 は適用されない。一般原則に従い、肺がん（C34.9）を原死因として選ぶ。</p>	
127	<p>例 33: I (a)脳のがん (b)肺のがん この場合は肺原発と考えられ、記載されている唯一のその他の部位である脳が一般的転移部位リストにあるため、肺の悪性新生物（C34.9）にコードする。</p> <p>(6)もし、記載された部位のうち一つだけが一般的転移部位リストにある部位、または肺であるならば、リストにない部位にコードする。</p>	<p>D. 特殊な指示：リンパ節</p> <p>原発として明示されていないリンパ節の悪性新生物は、続発性と推定するべきである。</p> <p>例 45: I (a) 頸部リンパ節のがん</p> <p>部位不明の悪性新生物（C80.9）にコードする。頸部リンパ節のがんは、部位不明の原発性悪性新生物の続発と考えられる。</p>	<p><u>D. Special instruction: lymph node</u></p> <p><u>Malignant neoplasm of lymph nodes not specified as primary should be assumed to be secondary.</u></p> <p><u>Example 45: I (a) Cancer of cervical lymph nodes</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of unspecified site, (C80.9). The cancer of cervical lymph nodes is considered secondary to an unspecified primary malignant neoplasm.</u></p>
128	<p>例 34: I (a)肺のがん (b)乳房のがん 乳房は一般的転移部位リストにはなく、肺はこの例では転移部位と考えられるので、乳房の悪性新生物（C50.9）にコードする。</p> <p>(7)もし、記載された部位の一つ以上が、一般的な転移部位（一般的転移部位リスト参照）であるが、複数の部位または異なる複数の形態学的型が記載されているならば、独立した（原発性の）多部位の悪性新生物（C97）にコードする（上記 F 参照）。</p> <p>例 35: I (a)肝のがん (b)膀胱のがん (c)結腸のがん 肝は一般的転移部位リストにあり、さらに二つの独立した部位が記載されているので、独立した（原発性の）多部位の悪性新生物（C97）にコードする。</p> <p>(8)もし、転移性と考えられるいくつかの部位と、その他のいくつかの部位とが混合で記載の場合は、多部位の規則に従う（上記 F および下記 H 参照）。</p>	<p><u>4.2.7.6 転移がん</u></p> <p><u>(注)「転移性」の表現は、主に英語の問題である。英語を使用しない国々は、4.2.7.6 節については、必要な範囲内で翻訳するべきである。</u></p> <p><u>転移性と限定される新生物は、原発性又は続発性のいずれでも常に悪性である。</u></p> <p><u>しかし、「転移性 (metastatic)」という形容詞は、二つの意味に使用されている。ある場合は、他の原発部位から続発したことを意味する形容詞として使用され、ある場合には、転移を起こした原発を意味する形容詞として使用される。</u></p> <p><u>(a) 「～からの転移」 (metastatic from) する悪性新生物</u></p> <p><u>悪性新生物が、明示された部位「からの転移」 (metastatic from) と記載される場合、その部位を原発性とみなすべきである。</u></p> <p>例 46: I (a) 卵巣からの転移性奇形腫</p> <p><u>「卵巣からの転移性奇形腫」という表現は、新生物が卵巣を起点としていることを暗に示している。卵巣の悪性新生物 (C56) にコードする。</u></p> <p>これは、一般的転移部位リストにある部位にも適用される。</p>	<p><u>4.2.7.6 Metastatic cancer</u></p> <p><u>Note: The expression "metastatic" is a problem mainly in the English language. Other countries should translate only as much as needed of Section 4.2.7.6.</u></p> <p><u>Neoplasms qualified as metastatic are always malignant, either primary or secondary.</u></p> <p><u>However, the adjective "metastatic" is used in two ways, sometimes meaning a secondary from a primary elsewhere and sometimes denoting a primary that has given rise to metastases.</u></p> <p><u>(a) Malignant neoplasm "metastatic from"</u></p> <p><u>If a malignant neoplasm is described as "metastatic from" a specified site, that site should be considered primary.</u></p> <p><u>Example 46: I (a) Metastatic teratoma from ovary</u></p> <p><u>The expression "metastatic teratoma from ovary" implies that the neoplasm originated in the ovary. Code to malignant neoplasm of ovary (C56).</u></p> <p><u>This also applies to sites on the list of common sites of metastases.</u></p> <p><u>Example 47: I (a) Metastatic mesothelioma from peritoneum</u></p> <p><u>A "metastatic mesothelioma from peritoneum" is primary in the peritoneum, although peritoneum is one of the sites listed in Table 3. Code to malignant mesothelioma of peritoneum (C45.1).</u></p>

現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
<p>H 多部位</p> <p>多部位を取り扱う場合は、死亡診断書の I 欄の記載だけを考慮する。</p> <p>もし、死亡診断書に複数の部位の悪性新生物が記載の場合は、原発性と記載された部位または原発性か続発性か示されていない部位を選択する（上記 D, E および F 参照）。</p> <p>原発性と明示された部位を含まない多部位</p> <p>(a) I 欄にある部位のみを考慮するルール H があるが、もし、肺を除く一般的な転移部位の一つが I 欄に記載されており、もう一つの他の部位または形態学的型が、死亡診断書のどこかに記載されてあるならば、前記の一般的な転移部位以外の部位にコードする。しかし、もし、リンパ組織、造血組織または関連組織の悪性新生物が II 欄に記載されたならば、I 欄のみを考慮する。</p> <p>例 36: I (a) 胃のがん (b) 肝のがん 胃の悪性新生物 (C16.9) にコードする。経過からは肝が原発部位であると見られるが、一般的転移部位である肝からの胃への転移はありそうもないので、胃がんが肝へ転移したものと推定する。</p> <p>例 37: I (a) 腹膜がん II 乳癌 腹膜は一般的転移部位リストにあるため、続発性と考えられるので、乳房の悪性新生物 (C50.9) にコードする。</p> <p>(b) 『一つの部位「または」その他の部位』と記載された（または「または」が暗に示唆された）悪性新生物は、両部位を包含する分類項目にコードする。もし、適当な分類項目がなければ、含まれる形態学的型の部位不明にコードする。このルールは、それらが一般的な転移部位リストにあるかないかにかかわらず、すべてに適用する。</p> <p>例 38: I (a) 上行結腸または下行結腸の癌（腫） 結腸の悪性新生物、部位不明 (C18.9) にコードする。</p> <p>例 39: I (a) 腰椎または仙骨の骨肉腫</p>	<p>例 47: I (a) 腹膜からの転移性中皮腫</p> <p>腹膜は表 3 に記載されている部位の一つであるが、「腹膜からの転移性中皮腫」は腹膜が原発部位であること示している。腹膜中皮腫 (C45.1) にコードする。</p> <p>(b) 「～への転移」(metastatic to) する悪性新生物</p> <p>明示された部位「への転移」(metastatic to) として記載されている悪性新生物は、その部位が一般的転移部位リストにあるか否かにかかわらず、その明示された部位の続発性新生物と解釈すべきである。原発部位が明示されていなければ、原発部位不明の悪性新生物 (C80.9) にコードする。</p> <p>例 48: I (a) 直腸への転移性癌（腫）</p> <p>「への転移」という表現は、直腸が続発部位であることを示している。原発部位が示されていないことから、原発部位不明の悪性新生物 (C80.9) を原死因としてコードする。</p> <p>C40-C47, C49 又は C70-C72 に分類できる形態が記載されている場合、その形態学的型の「部位不明」の細分類項目にコードする。</p> <p>例 49: I (a) 脳への転移性骨肉腫</p> <p>「脳への転移」という表現は、脳が続発部位であることを示している。しかし、骨肉腫は索引表で骨の悪性新生物として掲載されている。骨の悪性新生物、部位不明 (C41.9) を原死因としてコードする。</p> <p>(c) 部位 A から部位 B への転移性 (metastatic of site A to site B) 悪性新生物</p> <p>部位 A から部位 B への転移と記載されている悪性新生物は、部位 A を原発、部位 B を続発と解釈すべきである。</p> <p>例 50: I (a) 肝臓から脳への転移性がん II 食道がん</p> <p>「肝臓から脳への転移性」という表現は、悪性新生物が肝臓で発生し、脳に広がったことを示している。原死因を選択する場合、肝臓の原発性がん (C22.9) にコードする。</p> <p>肝臓が原発部位であるということが示されていることから、4.2.7.5 節 B (a)における、表 3 にある部位がその他の部位とともに</p>	<p>(b) <u>Malignant neoplasm "metastatic to"</u></p> <p><u>A malignant neoplasm described as "metastatic to" a specified site should be interpreted as a secondary neoplasm of the specified site, whether the site is on the list of common sites of metastases or not. Code to malignant neoplasm of unknown primary site (C80.9) if no primary site is indicated.</u></p> <p><u>Example 48: I (a) Metastatic carcinoma to the rectum</u></p> <p><u>The expression "metastatic to" indicates that rectum is a secondary site. Code malignant neoplasm of unknown primary site (C80.9) as underlying cause of death, since no primary site is indicated</u></p> <p><u>If a morphology classifiable to C40-C47, C49, or C70-C72 is reported, code to the "unspecified site" subcategory of that morphological type.</u></p> <p><u>Example 49: I (a) Metastatic osteosarcoma to brain</u></p> <p><u>The expression "metastatic to brain" indicates that brain is a secondary site. However, the osteosarcoma is indexed to malignant neoplasm of bone in the Alphabetical Index. Code unspecified malignant neoplasm of bone (C41.9) as underlying cause of death.</u></p> <p>(c) <u>Malignant neoplasm metastatic of site A to site B</u></p> <p><u>A malignant neoplasm described as metastatic of site A to site B should be interpreted as primary of site A and secondary of site B.</u></p> <p><u>Example 50: I (a) Metastatic cancer of liver to brain II Oesophageal cancer</u></p> <p><u>The expression "metastatic of liver to brain" indicates that the malignancy originated in the liver and spread to the brain. When selecting the underlying cause of death, code to primary cancer of liver (C22.9).</u></p> <p><u>Since there is an indication that liver is the primary site, the instructions in Section 4.2.7.5 B (a) on sites in Table 3 reported with other sites do not apply. Liver is still considered the primary site, even though oesophageal cancer is also mentioned.</u></p> <p>(d) <u>"Metastatic" malignant neoplasm on the list of common sites of metastases</u></p> <p><u>A "metastatic" neoplasm is considered secondary if the site is on the list of common sites of metastases.</u></p> <p><u>Example 51: I (a) Bowel obstruction (b) Metastatic cancer of peritoneum (c) Sarcoma of uterus</u></p> <p><u>Metastatic cancer of peritoneum is considered secondary, since peritoneum is in Table 3. Sarcoma of uterus (C55) is selected as underlying cause by the General Principle.</u></p>

現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
<p>骨の悪性新生物、詳細不明（C41.9）にコードする。</p> <p>(c) もし、複数の形態学的型の悪性新生物が、リンパ組織、造血組織または関連組織（C81-C96）に発生したならば、記載された経過によってコードする。それは、これらの新生物は、C81-C96の他の分類項目に帰結することが時々あるためである。慢性白血病の急性転化や芽胞発症は慢性型にコードする。</p> <p>例 40： I (a)急性リンパ球性白血病 (b)非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫 非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫（C85.9）にコードする。</p> <p>例 41： I (a)急性および慢性リンパ球性白血病 慢性リンパ球性白血病（C91.1）にコードする。</p> <p>同一の器官系における多部位</p> <p>もし、記載された部位が、同一の器官系に属するもので連続しているならば、細分類項目.8を使用する（内容例示表第1章の注5参照）。これは、死亡診断書で、部位が『一つの部位「および」他の部位』のように記載されている場合、または部位がI欄内の別々の欄に記載されている場合に適用される。両部位を包含する細分類項目.8にコードする。記載された部位の連続性について疑問がある場合は、記載された臓器の部位不明にコードする。</p> <p>(a)同一部位内の二つの連続している細部位の記載がある場合は、その3桁分類項目の細分類項目.8にコードする。</p> <p>例 42： I (a)下行結腸およびS状結腸の癌（腫） 結腸の境界部悪性新生物（C18.8）にコードする。</p> <p>(b) もし、細部位が連続していなければ、その3桁分類項目の細分類項目.9にコードする。</p> <p>例 43： I (a)腭頭部癌 (b)腭尾部癌 腭の悪性新生物、部位不明（C25.9）にコードする。</p> <p>(c)もし、同一の身体系内の異なる3桁分類項目に区分される二つの連続部位の記載があれば、全身身体系の細分類項目.8にコードする（内容例示表第II章の注5のリスト参照）。</p> <p>例 44： I (a)膣および子宮頸（部）の癌（腫） 女性生殖器の境界部位の悪性新生物（C57.8）にコードする</p>	<p>記載された場合の指示は適用されない。食道がんの記載もあるものの、肝臓が原発部位と考えられる。</p> <p>(d) 一般的転移部位リストにある「転移性」悪性新生物</p> <p>「転移性」新生物の部位が一般的転移部位リストにある場合、その新生物を続発とみなす。</p> <p>例 51： I (a) 腸閉塞 (b)腹膜の転移性がん (c)子宮の肉腫</p> <p>腹膜は表3にあることから、腹膜の転移がんは続発と考えられる。一般原則により、子宮の肉腫（C55）が原死因として選ばれる。</p> <p>該当する場合には、ルール3を適用する。</p> <p>例 52： I (a) 胸膜の転移性がん II 胃がん</p> <p>胸膜がんは転移性と記載されており、続発と考えられる。胃がんも記載されており、原発と考えられる（4.2.7.3節A(b)参照）。まず、一般原則を適用し、胸膜がんを暫定的な原死因として選ぶ。しかし、ルール3に従って、（続発性）胸膜がんは明らかに（原発性）胃がんの結果と考えられる。原死因として胃がん（C16.9）を選択する。</p> <p>死亡診断書に他の新生物が記載されていなくても、表3にある部位の新生物は続発とみなす。続発性悪性新生物は、原死因として選択すべきでないことに注意する。原発性腫瘍が記載されていなければ、その症例を部位不明の悪性新生物（C80.9）にコードする。</p> <p>例 53： I (a) 転移性脳腫瘍</p> <p>脳は表3にある部位の一つで、「転移性」脳腫瘍は続発とみなされる。原発性新生物は記載されていない。そのため、原発部位不明の悪性新生物（C80.9）にコードする。</p> <p>(注) 表3に記載されている部位の新生物がその部位又は組織の悪性新生物のリスクを高める病態によるものとして記載されている場合、その新生物は原発性とみなす（4.2.7.3節A(c)参照）。</p> <p>(e) 一般的転移部位リストにない「転移性」悪性新生物</p>	<p>Use Rule 3 if applicable.</p> <p><u>Example 52: I (a) Metastatic cancer of pleura II Cancer of stomach</u></p> <p><u>The pleura cancer is described as metastatic and is considered secondary. Stomach cancer is also reported and is considered primary (see Section 4.2.7.3 A (b)). First, apply the General Principle to select the pleural cancer as the temporary underlying cause. However, (secondary) pleura cancer is considered an obvious consequence of (primary) stomach cancer, according to Rule 3. Stomach cancer (C16.9) is selected as underlying cause of death.</u></p> <p><u>A neoplasm of a site in Table 3 is considered secondary, even if no other neoplasm is mentioned on the certificate. Note that a secondary malignant neoplasm should not be selected as the underlying cause of death. If no primary tumour is reported, code the case to malignant neoplasm of unspecified site (C80.9).</u></p> <p><u>Example 53: I (a) Metastatic brain cancer</u></p> <p><u>Brain is one of the sites in Table 3, and the “metastatic” brain cancer is considered secondary. There is no primary neoplasm reported. Therefore, code to malignant neoplasm of unknown primary site (C80.9).</u></p> <p><u>Note: A neoplasm of a site listed in Table 3 is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of a malignancy of that site or tissue, see Section 4.2.7.3 A (c).</u></p> <p><u>(e) “Metastatic” malignant neoplasm not on the list of common sites of metastases</u></p> <p><u>If a site that is not on the list of common sites of metastases is qualified as “metastatic” or “metastatic of”, consider it primary and code to malignant primary of that particular site.</u></p> <p><u>Example 54: I (a) Cervix cancer, metastatic</u></p> <p><u>Cervix is not in Table 3, and the “metastatic” cervix cancer is therefore considered primary. Code to malignant neoplasm of cervix (C53.9).</u></p> <p><u>Apply the selection rules in the usual way.</u></p> <p><u>Example 55: I (a) Metastatic adenocarcinoma of prostate (b) Metastatic adenocarcinoma of colon</u></p> <p><u>Prostate and colon are not in Table 3, and both neoplasms are considered primary. One primary neoplasm is not accepted as due to another. Rule 2 applies, and malignant neoplasm of prostate (C61) is selected as underlying cause.</u></p> <p><u>(f) “Metastatic” cancer of lung</u></p> <p><u>If the only malignancy mentioned is “metastatic” neoplasm of lung, code to primary malignant neoplasm of lung.</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>る。</p> <p>(d) もし、死亡診断書に二つの部位が記載され、両者は同一の器官系に属し、同一の形態学的型を示すならば、下記のリストに示すように、その器官系の細分類項目.9 にコードする:</p> <p>C26.9 消化器系、部位不明確 C39.9 呼吸器系、部位不明確 C41.9 骨および関節軟骨、部位不明 C49.9 結合組織および軟部組織、部位不明 C57.9 女性生殖器、部位不明 C63.9 男性生殖器、部位不明 C68.9 尿路、部位不明 C72.9 中枢神経系、部位不明</p> <p>例 45: I (a)肺塞栓症 (b)胃のがん (c)胆嚢のがん 消化器系、部位不明確 (C26.9) にコードする。</p> <p>(e) もし、細分類項目.8 または.9 が使用できなければ、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p> <p>例 46: I (a)心停止 (b)前立腺および膀胱の癌 (腫) 細分類項目.8 が使用できないので、独立した (原発性の) 多部位の悪性新生物 (C97) にコードする。</p>	<p>一般的転移部位リストにない部位が「転移性」又は「～の転移性」として特定されている場合、その部位を原発とみなし、その部位の原発性悪性新生物にコードする。</p> <p>例 54: I (a) 子宮頸がん、転移性</p> <p>子宮頸部は表 3 にないため、「転移性」子宮頸がんを原発性とみなす。子宮頸部の悪性新生物 (C53.9) にコードする。</p> <p>選択ルールを通常の方法で適用する。</p> <p>例 55: I (a) 前立腺の転移性腺がん (b) 結腸の転移性腺がん</p> <p>前立腺及び結腸は表 3 になく、いずれの新生物も原発性とみなされる。一方の原発性新生物がもう一方によるとは考えない。ルール 2 を適用して、前立腺の悪性新生物 (C61) を原死因として選択する。</p> <p>(f) 肺の「転移性」がん</p> <p>記載されている唯一の悪性新生物が肺の「転移性」新生物である場合、肺の原発性悪性新生物にコードする。</p> <p>例 56: I (a) 肺の転移癌 (腫)</p> <p>他の部位が記載されていないため、肺の原発性悪性新生物 (C34.9) にコードする。</p> <p>また、死亡診断書に記載されているその他の新生物が、いずれも一般的転移部位リストにある場合も、肺の「転移性」新生物を原発性と考え。</p> <p>例 57: I (a) 肺の転移性がん II 胸膜、肝臓及び脳のがん</p> <p>胸膜、肝臓及び脳はすべて表 3 に掲載されているため、「肺の転移性がん」を原発性と考えられる。肺の悪性新生物 (C34.9) を原死因として選ぶ。</p> <p>別の悪性新生物が死亡診断書に記載され、その悪性新生物の部位が一般的転移部位リストにない場合、肺を続発と考える。</p> <p>例 58: I (a) 肺の転移性がん II 胃がん</p>	<p><u>Example 56: I (a) Metastatic carcinoma of lung</u></p> <p><u>Code to primary malignant neoplasm of lung (C34.9) since no other site is mentioned.</u></p> <p><u>Also consider a “metastatic” neoplasm of lung primary, if all other neoplasm sites reported on the death certificate are on the list of common sites of metastases.</u></p> <p><u>Example 57: I (a) Metastatic cancer of lung</u> <u>II Cancer of pleura, liver and brain</u></p> <p><u>“Metastatic cancer of lung” is considered primary, since pleura, liver, and brain are all in Table 3. Select malignant neoplasm of lung (C34.9) as underlying cause of death.</u></p> <p><u>If another malignancy is mentioned that is not on the list of common sites of metastases, consider lung secondary.</u></p> <p><u>Example 58: I (a) Metastatic cancer of lung</u> <u>II Stomach cancer</u></p> <p><u>Since stomach cancer is also mentioned, “metastatic cancer of lung” is considered secondary. First use the General Principle to select the (secondary) lung cancer as the temporary underlying cause. Then apply Rule 3, and consider (secondary) cancer of lung an obvious consequence of the stomach cancer mentioned in Part II. Select stomach cancer (C16.9) as the underlying cause of death.</u></p> <p><u>Note: A neoplasm of lung is considered primary when it is reported as due to a condition that increases the risk of lung cancer, see Section 4.2.7.3 A (c).</u></p> <p><u>(g) “Metastatic” neoplasm of a specific morphology</u></p> <p><u>If the morphological type is classifiable to C40-C47, C49, or C70-C72 and the site reported on the certificate indicates the same type of tissue, code to the appropriate subcategory for the morphological type.</u></p> <p><u>Example 59: I (a) Metastatic osteosarcoma of femur</u></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of long bones of lower limb (C40.2).</u></p> <p><u>If the morphological type is classifiable to C40-C47, C49, or C70-C72 and the site reported on the certificate indicates a different type of tissue, code to the unspecified site for the morphological type.</u></p> <p><u>Example 60: I (a) Metastatic rhabdomyosarcoma</u> <u>(b) of hilar lymph nodes</u></p> <p><u>Code to unspecified site for rhabdomyosarcoma (C49.9).</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>胃がんが記載されていることから、「肺の転移性がん」は続発性と考えられる。まず、一般原則を用い、(続発性)肺がんを暫定的な原死因として選ぶ。次に、ルール 3 を適用し、肺の(続発性)がんは、II 欄に記載されている胃がんの明らかな結果と考える。胃がん (C16) を原死因として選ぶ。</p> <p>(注) 肺の新生物が肺がんのリスクを高める病態によるものと記載される場合、肺の新生物が原発性と考えられる (4.2.7.3 節 A (c)参照)。</p> <p>(g) 特定の形態の「転移性」新生物</p> <p>形態学的型が C40-C47、C49 又は C70-C72 に分類できるもので、死亡診断書に記載されている部位が同じ種類の組織を示す場合、その形態学的型の適した細分類項目にコードする。</p> <p>例 59: I (a) 大腿骨の転移性骨肉腫</p> <p>下肢の長骨の悪性新生物 (C40.2) にコードする。</p> <p>形態学的型が C40-C47、C49 又は C70-C72 に分類できるもので、死亡診断書に記載されている部位が異なる種類の組織を示す場合、その形態学的型の部位不明にコードする。</p> <p>例 60: I (a) 転移性横紋筋肉腫 (b) 肺門リンパ節のもの</p> <p>横紋筋肉腫, 部位不明 (C49.9) にコードする。</p>	
129		<p>4.2.7.7 接頭辞又は不明確な定義を持つ部位</p> <p>「周囲」、「傍」、「前」、「上」、「下」等の接頭語がついている部位の新生物、又は部位の「範囲」もしくは「領域」にあると記載されている新生物は、これらの用語が特に指示されていないならば、下記のようにコードすべきである：</p> <p>下記の分類項目の一つに分類される悪性新生物について：</p> <p>C40、C41 (骨及び関節軟骨) C43 (皮膚の悪性黒色腫) C44 (皮膚のその他の悪性新生物) C45 (中皮腫) C46 (カボジ<Kaposi>肉腫) C47 (末梢神経及び自律神経系) C49 (結合組織及び軟部組織) C70 (髄膜) C71 (脳)</p>	<p>4.2.7.7 Sites with prefixes or imprecise definitions</p> <p>Neoplasms of sites prefixed by "peri," "para," "pre," "supra," "infra," etc. or described as in the "area" or "region" of a site, unless these terms are specifically indexed, should be coded as follows:</p> <p>For malignant neoplasms classifiable to one of the categories</p> <ul style="list-style-type: none"> - C40, C41 (bone and articular cartilage), - C43 (malignant melanoma of skin), - C44 (other malignant neoplasms of skin), - C45 (mesothelioma), - C46 (Kaposi's sarcoma), - C47 (peripheral nerves and autonomic nervous system), - C49 (connective and soft tissue), - C70 (meninges), - C71 (brain), - C72 (other parts of central nervous system), <p>code to the appropriate subdivision of that category</p> <p>Example 61: I (a) Fibrosarcoma in the region of the pancreas</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>C72 (中枢神経系のその他の部分) その分類項目の適切な細分類項目にコードする。</p> <p>例 61: I (a) 臍臓領域における線維肉腫</p> <p>腹部の結合組織及び軟部組織の悪性新生物 (C49.4) にコードする。</p> <p>例 62: I (a) 横隔膜周囲血管筋肉腫</p> <p>胸郭の結合組織及び軟部組織の悪性新生物 (C49.3) にコードする。</p> <p>その他の形態学的型については、C76 (その他及び部位不明確の悪性新生物) の適切な細分類項目にコードする。</p> <p>例 63: I (a) 肺領域における癌 (腫)</p> <p>胸郭内のその他及び部位不明確の悪性新生物 (C76.1) にコードする。</p> <p>例 64: I (a) 傍脊椎がん</p> <p>その他の不明確の部位の悪性新生物 (C76.7) にコードする。</p> <p>例 65: I (a) 悪性新生物、横隔膜下</p> <p>腹部の悪性新生物 (C76.2) にコードする。</p>	<p><u>Code to malignant neoplasm of connective and soft tissue of abdomen (C49.4).</u></p> <p><i>Example 62: I (a) Peridiaphragmatic angiosarcoma</i></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of connective and soft tissue of thorax (C49.3).</u></p> <p><u>For other morphological types code to the appropriate subdivision of C76 (other and ill-defined sites).</u></p> <p><i>Example 63: I (a) Carcinoma in the lung area</i></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of other and ill-defined sites within the thorax. (C76.1)</u></p> <p><i>Example 64: I (a) Paravertebral carcinoma</i></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of other ill-defined sites (C76.7).</u></p> <p><i>Example 65: I (a) Malignant neoplasm, infradiaphragmal</i></p> <p><u>Code to malignant neoplasm of abdomen (C76.2).</u></p>
130		<p>4.2.7.8 部位不明の悪性新生物で他の病態の記載を伴うもの</p> <p>原発性の悪性新生物の部位が明示されていない場合、穿孔、閉塞、又は出血のような他の記載された病態の場所から、その部位の推定を行ってはならない。これらの病態は、実際の新生物と無関係な部位に生じる可能性がある。たとえば、腸閉塞は卵巣悪性腫瘍の進展によって引き起こされたかもしれない。</p> <p>例 66: I (a) 腸閉塞 (b) 癌 (腫)</p> <p>部位の明示されない悪性新生物 (C80.9) にコードする。</p> <p>例 67: I (a) 呼吸不全 (b) 気管の閉塞 (c) 悪性新生物</p>	<p>4.2.7.8 Malignant neoplasms of unspecified site with other reported conditions</p> <p>When the site of a primary malignant neoplasm is not specified, no assumption of the site should be made from the location of other reported conditions such as perforation, obstruction, or haemorrhage. These conditions may arise in sites unrelated to the neoplasm, e.g. intestinal obstruction may be caused by the spread of an ovarian malignancy.</p> <p><i>Example 66: I (a) Obstruction of intestine (b) Carcinoma</i></p> <p><u>Code to malignant neoplasm without specification of site (C80.9).</u></p> <p><i>Example 67: I (a) Respiratory insufficiency (b) Obstruction of trachea (c) Malignancy</i></p> <p><u>Code to malignant neoplasm without specification of site (C80.9).</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		部位の明示されない悪性新生物 (C80.9) にコードする。	
131	<p>I 感染症および悪性新生物</p> <p>(a) 免疫系に作用する化学療法の効果により、何人かの癌患者が感染症にかかりやすくなり、これにより死亡する。したがって、がん「による」と記載された A00-B19 または B25-B64 に分類されるあらゆる感染症は、I 欄または II 欄のどちらの欄にあっても、上下の因果関係として受け入れられる。</p>	<p>4.2.7.9 感染症及び悪性新生物</p> <p>(a) 悪性新生物による感染症</p> <p>免疫系に作用する化学療法の効果により、がん患者の中には感染症にかかりやすくなり、これにより死亡する場合もある。したがって、がん「による」と記載され、A00-B19 又は B25-B64 に分類される感染症は、<u>妥当な上下の因果関係となる。</u></p>	<p>4.2.7.9 Infectious diseases and malignant neoplasms</p> <p>(a) <u>Infections due to malignant neoplasm</u></p> <p>Owing to the effect of chemotherapy on the immune system, some cancer patients become prone to infectious diseases and die of them. Therefore, <u>any infectious disease classified to A00-B19 or B25-B64 reported as "due to" cancer will be an acceptable sequence.</u></p>
		<p>4.2.7.9 感染症及び悪性新生物</p> <p>(a) 悪性新生物による感染症</p> <p>免疫系に作用する化学療法の効果により、がん患者の中には感染症にかかりやすくなり、これにより死亡する場合もある。したがって、がん「による」と記載され、A00-B19 または B25-B64 に分類される4.2.2 A.(a)節に記載する感染症以外の感染症は、<u>妥当な上下の因果関係となる。</u></p>	<p>4.2.7.9 Infectious diseases and malignant neoplasms</p> <p>(a) <u>Infections due to malignant neoplasm</u></p> <p>Owing to the effect of chemotherapy on the immune system, some cancer patients become prone to infectious diseases and die of them. Therefore, any infectious disease classified as <u>classified aside from those listed in A00-B19 or B25-B64 section 4.2.2 A.(a)</u> reported as "due to" cancer will be an acceptable sequence.</p>
132	<p>例 47: I (a) 帯状疱疹 (b) 慢性リンパ球性白血病 慢性リンパ球性白血病 (C91.1) にコードする。</p> <p>(b) ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病を除き、感染症および寄生虫症は、悪性新生物の原因としては受け入れられない。</p> <p>例 48: I (a) 細胞癌 (b) B型肝炎ウイルス 肝細胞癌 (C22.0) にコードする。</p> <p>例 49: I (a) バーキット<Burkitt>腫瘍 (b) エプスタイン・パール<Epstein-Barr>ウイルス バーネット<Burkitt>腫瘍 (C83.7) にコードする。</p> <p>例 50: I (a) 肝の胆管細胞癌 (b) 肝吸虫症 肝内胆管の悪性新生物 (C22.1) にコードする。</p>	<p>例 68: I (a) 帯状疱疹 (b) 慢性リンパ球性白血病</p> <p>慢性リンパ球性白血病は帯状疱疹感染症を引き起こしうる。この上下の因果関係は認められるもので、慢性リンパ球性白血病 (C91.1) が原死因として選ばれる。</p> <p>(b) 感染症による悪性新生物</p> <p>例えばヒトパピローマウイルスと子宮頸がん、又は慢性 C 型肝炎ウイルス感染と肝臓がんなど、いくつかの感染症と特定のがんとの間に強い因果関係を示す証拠がある。しかし、このような危険因子は、死亡診断書では十分に報告されない。人口動態統計と公衆衛生の観点からは、その原因にかかわらず、特定のがんによる死亡をすべて計上できることが重要であるとされている。そのため、ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病を除き、いかなる感染症又は寄生虫症も悪性新生物を引き起こすものとして認められるべきではない。</p> <p>例 69: I (a) 肝細胞癌 (腫) (b) B型肝炎ウイルス</p> <p>B型肝炎は肝臓がんのリスクを高める。しかし、肝臓がんによる死亡数を登録することがより重要であると考えられ、この上下の因果関係は認められない。ルール 2 を用いて肝細胞がん (C22.0) を原死因として選ぶ。</p>	<p>Example 68: I (a) Zoster (b) Chronic lymphocytic leukaemia</p> <p>Chronic lymphocytic leukaemia could cause a zoster infection. The sequence is accepted, and chronic lymphocytic leukaemia (C91.1) is selected as the underlying cause of death.</p> <p>(b) <u>Malignant neoplasm due to infections</u></p> <p>There is evidence for strong aetiological links between some infections and particular cancers, e.g., human papilloma virus and cervical cancer, or chronic hepatitis C viral infection and liver cancer. However, reporting of such risk factors on death certificates is incomplete. For purposes of vital statistics and public health it is regarded as important to be able to count all the deaths due to particular cancers, whatever their causal factors. Therefore, except for human immunodeficiency virus [HIV] disease, no infectious or parasitic disease should be accepted as causing a malignant neoplasm.</p> <p>Example 69: I (a) Hepatocellular carcinoma (b) Hepatitis B virus</p> <p>Hepatitis B increases the risk of liver cancer. However, it is considered more important to register the number of liver cancer deaths, and the sequence is not accepted. Use Rule 2 to select hepatocellular carcinoma (C22.0) as underlying cause of death.</p> <p>Example 70: I (a) Kaposi's sarcoma (b) HIV</p> <p>HIV is accepted as causing malignant neoplasms. First, use the General Principle to select HIV as the temporary underlying cause. Then use Rule C (Linkage) to code HIV disease resulting in Kaposi's sarcoma (B21.0) as</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)																																																																																
		<p>例 70: I (a) カポジ<Kaposi>肉腫 (b) HIV</p> <p>HIV は悪性新生物を引き起こすものとして認められる。まず、一般原則を用いて HIV を暫定的な原死因として選ぶ。次にルール C (連鎖) を用いてカポジ<Kaposi>肉腫を起こした HIV 病 (B21.0) を原死因としてコードする。</p>	<u>underlying cause of death.</u>																																																																																
133	<p>J 悪性新生物および循環器疾患</p> <p>下記の急性または致命的な循環器疾患は、死亡診断書の I 欄で、悪性新生物によるものとして受け入れる：</p> <p>I 21- I 22 急性心筋梗塞 I 24.- その他の急性虚血性心疾患 I 26.- 肺塞栓症 I 30.- 急性心膜炎 I 33.- 急性および亜急性心内膜炎 I 40.- 急性心慮炎 I 44.- 房室ブロックおよび左脚ブロック I 45.- その他の伝導障害 I 46.- 心停止 I 47.- 発作性頻拍 (症) I 48 心房細動および粗動 I 49.- その他の不整脈 I 50.- 心不全 I 51.8 その他の診断名不明確な心疾患 I 60- I 69 脳血管疾患, I 67.0- I 67.5, I 67.9, I 69.-を除く</p> <p>下記の循環器疾患は、悪性新生物によるものとしては受け入れられない：</p> <p>I 00- I 09 リウマチ熱およびリウマチ性心疾患 I 10- I 15 高血圧性疾患 (内分泌系の新生物、腎の新生物およびカルチノイド腫瘍 (によると記載された場合を除く) I 20.- 狭心症 I 25.- 慢性虚血性心疾患 I 70.- アテローム<じゅく<粥>状>硬化 (症)</p>	<p>4.2.7.10 悪性新生物及び循環器疾患</p> <p>下記の急性又は致命的な循環器疾患は、I 欄で「~による」との下 の因果関係で示されている場合、悪性新生物によるものと認められる：</p> <table border="0"> <tr><td><u>I 21- I 22</u></td><td>急性心筋梗塞</td></tr> <tr><td><u>I 24.-</u></td><td>その他の急性虚血性心疾患</td></tr> <tr><td><u>I 26.-</u></td><td>肺塞栓症</td></tr> <tr><td><u>I 30.-</u></td><td>急性心膜炎</td></tr> <tr><td><u>I 33.-</u></td><td>急性及び亜急性心内膜炎</td></tr> <tr><td><u>I 40.-</u></td><td>急性心慮筋炎</td></tr> <tr><td><u>I 44.-</u></td><td>房室ブロック及び左脚ブロック</td></tr> <tr><td><u>I 45.-</u></td><td>その他の伝導障害</td></tr> <tr><td><u>I 46.-</u></td><td>心停止</td></tr> <tr><td><u>I 47.-</u></td><td>発作性頻拍 (症)</td></tr> <tr><td><u>I 48</u></td><td>心房細動及び粗動</td></tr> <tr><td><u>I 49.-</u></td><td>その他の不整脈</td></tr> <tr><td><u>I 50.-</u></td><td>心不全</td></tr> <tr><td><u>I 51.8</u></td><td>その他の診断名不明確な心疾患</td></tr> <tr><td><u>I 60- I 69</u></td><td>I 67.0- I 67.5、I 67.9、I 69.-以外 の脳血管疾患</td></tr> </table> <p>下記の循環器疾患は、悪性新生物「による」ものと認められない：</p> <table border="0"> <tr><td><u>I 00- I 09</u></td><td>リウマチ熱及びリウマチ性心疾患</td></tr> <tr><td><u>I 10- I 15</u></td><td>高血圧疾患 (内分泌系の新生物、腎の新生物及びカルチノイド腫瘍 によると記載された場合を除く)</td></tr> <tr><td><u>I 20.-</u></td><td>狭心症</td></tr> <tr><td><u>I 25.-</u></td><td>慢性虚血性心疾患</td></tr> <tr><td><u>I 70.-</u></td><td>アテローム<じゅく<粥>状>硬化 (症)</td></tr> </table>	<u>I 21- I 22</u>	急性心筋梗塞	<u>I 24.-</u>	その他の急性虚血性心疾患	<u>I 26.-</u>	肺塞栓症	<u>I 30.-</u>	急性心膜炎	<u>I 33.-</u>	急性及び亜急性心内膜炎	<u>I 40.-</u>	急性心慮筋炎	<u>I 44.-</u>	房室ブロック及び左脚ブロック	<u>I 45.-</u>	その他の伝導障害	<u>I 46.-</u>	心停止	<u>I 47.-</u>	発作性頻拍 (症)	<u>I 48</u>	心房細動及び粗動	<u>I 49.-</u>	その他の不整脈	<u>I 50.-</u>	心不全	<u>I 51.8</u>	その他の診断名不明確な心疾患	<u>I 60- I 69</u>	I 67.0- I 67.5、I 67.9、I 69.-以外 の脳血管疾患	<u>I 00- I 09</u>	リウマチ熱及びリウマチ性心疾患	<u>I 10- I 15</u>	高血圧疾患 (内分泌系の新生物、腎の新生物及びカルチノイド腫瘍 によると記載された場合を除く)	<u>I 20.-</u>	狭心症	<u>I 25.-</u>	慢性虚血性心疾患	<u>I 70.-</u>	アテローム<じゅく<粥>状>硬化 (症)	<p>4.2.7.10 Malignant neoplasms and circulatory disease</p> <p><u>The following acute or fatal circulatory diseases will be accepted as due to malignant neoplasms, if certified in a “due to” sequence in Part I:</u></p> <table border="0"> <tr><td>I 21- I 22</td><td>Acute myocardial infarction</td></tr> <tr><td>I 24.-</td><td>Other acute ischaemic heart diseases</td></tr> <tr><td>I 26.-</td><td>Pulmonary embolism</td></tr> <tr><td>I 30.-</td><td>Acute pericarditis</td></tr> <tr><td>I 33.-</td><td>Acute and subacute endocarditis</td></tr> <tr><td>I 40.-</td><td>Acute myocarditis</td></tr> <tr><td>I 44.-</td><td>Atrioventricular and left bundle-branch block</td></tr> <tr><td>I 45.-</td><td>Other conduction disorders</td></tr> <tr><td>I 46.-</td><td>Cardiac arrest</td></tr> <tr><td>I 47.-</td><td>Paroxysmal tachycardia</td></tr> <tr><td>I 48</td><td>Atrial fibrillation and flutter</td></tr> <tr><td>I 49.-</td><td>Other cardiac arrhythmias</td></tr> <tr><td>I 50.-</td><td>Heart failure</td></tr> <tr><td>I 51.8</td><td>Other ill-defined heart diseases</td></tr> <tr><td>I 60- I 69</td><td>Cerebrovascular diseases, except I 67.0- I 67.5, I 67.9, I 69.-</td></tr> </table> <p>The following circulatory diseases will not be accepted as due to malignant neoplasms:</p> <table border="0"> <tr><td>I 00- I 09</td><td>Rheumatic fever and rheumatic heart disease</td></tr> <tr><td>I 10- I 15</td><td>Hypertensive disease (except when reported as due to endocrine neoplasms, renal neoplasms and carcinoid tumours)</td></tr> <tr><td>I 20.-</td><td>Angina pectoris</td></tr> <tr><td>I 25.-</td><td>Chronic ischaemic heart disease</td></tr> <tr><td>I 70.-</td><td>Atherosclerosis</td></tr> </table>	I 21- I 22	Acute myocardial infarction	I 24.-	Other acute ischaemic heart diseases	I 26.-	Pulmonary embolism	I 30.-	Acute pericarditis	I 33.-	Acute and subacute endocarditis	I 40.-	Acute myocarditis	I 44.-	Atrioventricular and left bundle-branch block	I 45.-	Other conduction disorders	I 46.-	Cardiac arrest	I 47.-	Paroxysmal tachycardia	I 48	Atrial fibrillation and flutter	I 49.-	Other cardiac arrhythmias	I 50.-	Heart failure	I 51.8	Other ill-defined heart diseases	I 60- I 69	Cerebrovascular diseases, except I 67.0- I 67.5, I 67.9, I 69.-	I 00- I 09	Rheumatic fever and rheumatic heart disease	I 10- I 15	Hypertensive disease (except when reported as due to endocrine neoplasms, renal neoplasms and carcinoid tumours)	I 20.-	Angina pectoris	I 25.-	Chronic ischaemic heart disease	I 70.-	Atherosclerosis
<u>I 21- I 22</u>	急性心筋梗塞																																																																																		
<u>I 24.-</u>	その他の急性虚血性心疾患																																																																																		
<u>I 26.-</u>	肺塞栓症																																																																																		
<u>I 30.-</u>	急性心膜炎																																																																																		
<u>I 33.-</u>	急性及び亜急性心内膜炎																																																																																		
<u>I 40.-</u>	急性心慮筋炎																																																																																		
<u>I 44.-</u>	房室ブロック及び左脚ブロック																																																																																		
<u>I 45.-</u>	その他の伝導障害																																																																																		
<u>I 46.-</u>	心停止																																																																																		
<u>I 47.-</u>	発作性頻拍 (症)																																																																																		
<u>I 48</u>	心房細動及び粗動																																																																																		
<u>I 49.-</u>	その他の不整脈																																																																																		
<u>I 50.-</u>	心不全																																																																																		
<u>I 51.8</u>	その他の診断名不明確な心疾患																																																																																		
<u>I 60- I 69</u>	I 67.0- I 67.5、I 67.9、I 69.-以外 の脳血管疾患																																																																																		
<u>I 00- I 09</u>	リウマチ熱及びリウマチ性心疾患																																																																																		
<u>I 10- I 15</u>	高血圧疾患 (内分泌系の新生物、腎の新生物及びカルチノイド腫瘍 によると記載された場合を除く)																																																																																		
<u>I 20.-</u>	狭心症																																																																																		
<u>I 25.-</u>	慢性虚血性心疾患																																																																																		
<u>I 70.-</u>	アテローム<じゅく<粥>状>硬化 (症)																																																																																		
I 21- I 22	Acute myocardial infarction																																																																																		
I 24.-	Other acute ischaemic heart diseases																																																																																		
I 26.-	Pulmonary embolism																																																																																		
I 30.-	Acute pericarditis																																																																																		
I 33.-	Acute and subacute endocarditis																																																																																		
I 40.-	Acute myocarditis																																																																																		
I 44.-	Atrioventricular and left bundle-branch block																																																																																		
I 45.-	Other conduction disorders																																																																																		
I 46.-	Cardiac arrest																																																																																		
I 47.-	Paroxysmal tachycardia																																																																																		
I 48	Atrial fibrillation and flutter																																																																																		
I 49.-	Other cardiac arrhythmias																																																																																		
I 50.-	Heart failure																																																																																		
I 51.8	Other ill-defined heart diseases																																																																																		
I 60- I 69	Cerebrovascular diseases, except I 67.0- I 67.5, I 67.9, I 69.-																																																																																		
I 00- I 09	Rheumatic fever and rheumatic heart disease																																																																																		
I 10- I 15	Hypertensive disease (except when reported as due to endocrine neoplasms, renal neoplasms and carcinoid tumours)																																																																																		
I 20.-	Angina pectoris																																																																																		
I 25.-	Chronic ischaemic heart disease																																																																																		
I 70.-	Atherosclerosis																																																																																		
134		<p>4.2.8 複数の種類の薬物使用の関与</p>	<p>4.2.8 Involvement of multiple types of substance use</p> <p><u>If a condition classifiable to F10-F19 or F55 is selected as underlying cause, and one or more other conditions also classified to F10-F19 or F55 are</u></p>																																																																																

	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>F10-F19 又は F55 に分類される病態が原因として選ばれており、死亡診断書に F10-F19 又は F55 に分類されるその他の病態が一つ又は複数記載されている場合は、下記のように処理する：</p> <p>i) 死因と明示されている病態が一つある場合は、その病態にコードする。</p> <p>ii) 主たる死因と明示されている単独の病態がない場合は、死亡診断書作成者（医師）の確認を取るべきである。</p> <p>iii) そうした確認が取れない場合、下記の優先順位に従って原因を選択する：</p> <p>1) <u>アヘン類使用による精神及び行動の障害（F11）</u></p> <p>2) <u>コカイン使用による精神及び行動の障害（F14）</u></p> <p>3) <u>カフェインを含むその他の精神刺激薬使用による精神及び行動の障害（F15）</u></p> <p>4) <u>F19 における合成麻薬の使用による精神及び行動の障害</u></p> <p>5) <u>F55 における抗うつ薬及び非オピオイド系鎮痛薬の乱用</u></p> <p>6) <u>大麻類使用による精神及び行動の障害（F12）、鎮静薬又は催眠薬使用による精神及び行動の障害（F13）、幻覚薬使用による精神及び行動の障害（F16）、タバコ使用<喫煙>による精神及び行動の障害（F17）、揮発性溶剤使用による精神及び行動の障害（F18）、F19 に分類される合成麻薬以外の物質使用による精神及び行動の障害、F55 に分類される抗うつ薬及び非オピオイド系鎮痛薬以外の依存を生じない物質の乱用</u></p> <p>7) <u>アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害（F10）</u></p> <p>死亡診断書に同じ優先順位に属する精神及び行動の障害が複数記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。</p>	<p>mentioned on the death certificate, proceed as follows:</p> <p>i) If one condition is specified as the cause of death, code to that condition.</p> <p>ii) When no single condition is specified as the main cause of death, clarification should be sought from the certifier.</p> <p>iii) When no such clarification can be obtained, select the underlying cause in the following order of priority:</p> <p>1) <u>Mental and behavioural disorders due to use of opioids (F11)</u></p> <p>2) <u>Mental and behavioural disorders due to use of cocaine (F14)</u></p> <p>3) <u>Mental and behavioural disorders due to use of other stimulants, including caffeine (F15)</u></p> <p>4) <u>Mental and behavioural disorders due to use of synthetic narcotics, in F19</u></p> <p>5) <u>Abuse of antidepressants and non-opioid analgesics, in F55</u></p> <p>6) <u>Mental and behavioural disorders due to use of cannabinoids (F12), Mental and behavioural disorders due to use of sedatives and hypnotics (F13), Mental and behavioural disorders due to use of hallucinogens (F16), Mental and behavioural disorders due to use of tobacco (F17), Mental and behavioural disorders due to use of volatile solvents (F18), Mental and behavioural disorders due to use of substances other than synthetic narcotics classified to F19, Abuse of non-dependence-producing substances other than antidepressants and non-opioid analgesics classified to F55.</u></p> <p>7) <u>Mental and behavioural disorders due to use of alcohol (F10)</u></p> <p>If the death certificate reports more than one mental and behavioural disorder in the same priority group, code to first mentioned.</p>
135	4.2.8 心臓併発症を伴うリウマチ熱	4.2.89 心臓併発症を伴うリウマチ熱	4.2.9 Rheumatic fever with heart involvement
136		<p>4.2.11 損傷の性質</p> <p>第 XIX 章（S00-T98）に分類される損傷又は中毒が死亡の原因である場合、その損傷又は中毒の外因（第 XX 章、V01-Y89）を原死因としてコードする。</p>	<p>4.2.11 Nature of injury</p> <p>When death is caused by an injury or poisoning classified to Chapter XIX (S00-T98), code the external cause of the injury or poisoning (Chapter XX, V01-Y89) as underlying cause of death.</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>さらに、第 XX 章(V01-Y89)の外因に加えて、主たる損傷をコードする (S00-T98)。その時、死亡診断書に複数の損傷の記載がある場合、下記の指示に従う。</p> <p>a) 第 I 欄又は第 II 欄に記載された損傷の中に表在損傷又は軽微な損傷 (付録 7.1 死亡を引き起こす可能性の低い病態リストに記載する損傷) がある場合、その表在損傷又は軽微な損傷が死亡診断書に記載されなかったものとして主たる損傷を選択する。</p> <p>例: I(a) 腕の打撲傷及び頭蓋の骨折 (b) 足場からの転落</p> <p>足場からの転落又はその上での転倒 (W12) を原死因としてコードする。主たる損傷としては、頭蓋骨及び顔面骨の骨折、部位不明 (S02.9) にコードする。上肢の表在損傷、部位不明 (T11.0) は考慮しない。</p> <p>b) 第 I 欄と第 II 欄の両方に重度の損傷 (表在損傷でも軽微な損傷でもない損傷) の記載がある場合、第 I 欄から主たる損傷を選択する。「ICD-10 損傷の性質コードの優先順位リスト」(付録#参照) において、第 II 欄に記載されている損傷の優先順位が第 I 欄に記載されている損傷の優先順位より高い場合でも、第 I 欄から主たる損傷を選択する。</p> <p>例: I(a) 胸腔内の多発性損傷 (b) 自動車運転者、バスとの衝突 II 脳損傷</p> <p>原死因を、大型輸送車両又はバスとの衝突により受傷した運転者 (V44.5) にコードする。主たる損傷には、胸部<郭>の多発性損傷 (S29.7) にコードする。優先順位リストにおいて、頭蓋内損傷、詳細不明 (S06.9) の優先順位は胸部の多発性損傷の優先順位より高いが、胸部の多発性損傷の記載は第 I 欄にあるため、第 II 欄に記載の損傷に優先する。</p> <p>重度の損傷が第 II 欄にのみ記載されている場合、第 II 欄に記載されている損傷を主たる損傷として選択する。</p> <p>c) 死亡診断書の該当箇所に重度の損傷の記載が複数ある場合、「ICD-10 損傷の性質コードの優先順位リスト」(付録#参照) の優先順位に従って主たる損傷を選択する。同リストでは、「1」がもっとも高い優先順位を示し、「6」がもっとも低い優先順位を示す。</p> <p>例: I (a) 胸腔内の多発性損傷及び脳損傷 (b) 自動車運転者、バスとの衝突</p>	<p>In addition to the underlying cause from Chapter XX (V01-Y89), code also a main injury (S00-T98). If more than one injury is reported on the death certificate, apply the following instructions:</p> <p>a) When the injuries reported include superficial and trivial injury (as listed in Appendix 7.1 List of conditions unlikely to cause death), whether in Part I or Part II, select the main injury as if the superficial or trivial injury had not been reported.</p> <p>Ex.: I (a) Contusion of arm and fracture of skull (b) Fall from scaffolding</p> <p>Code to fall on and from scaffolding (W12) as underlying cause of death. As main injury, code fracture of skull and facial bones, part unspecified (S02.9). Superficial injury of upper limb, level unspecified (T11.0) is ignored.</p> <p>b) When serious (non-superficial and non-trivial) injuries are reported in both Part I and Part II, select the main injury from Part I. This applies even when the injuries mentioned in Part II have a higher rank on the Priority Ranking of ICD-10 Nature of Injury Codes list (see Appendix #) than the injuries mentioned in Part I.</p> <p>Ex.: I (a) Multiple intrathoracic injuries (b) Car driver, collision with bus II Brain injuries</p> <p>Code to car driver injured in collision with heavy transport vehicle or bus (V44.5) as underlying cause of death. As main injury, code multiple injuries of thorax (S29.7). Intracranial injury, unspecified (S06.9) has a higher rank on the priority list than multiple injuries of thorax, but multiple injuries of thorax are mentioned in Part I and take precedence of the injuries mentioned in Part II.</p> <p>When serious injuries are reported only in Part II, select a main injury from Part II.</p> <p>c) When more than one serious injury is reported in the relevant part of the certificate, select the main injury according to the Priority Ranking of ICD-10 Nature-of-Injury Codes list (see Appendix #). Note that 1 is the highest priority rank and that 6 is the lowest.</p> <p>Ex.: I (a) Multiple intrathoracic injuries and brain injuries (b) Car driver, collision with bus</p> <p>Code to car driver injured in collision with heavy transport vehicle or bus (V44.5) as underlying cause of death. As main injury, code intracranial injury.</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)																																																																														
		<p>原死因は、大型輸送車両又はバスとの衝突により受傷した運転者 (V44.5) にコードする。主たる損傷には、優先順位リストで胸部<郭>の多発性損傷 (S29.7) より順位の高い頭蓋内損傷、詳細不明 (S06.9) にコードする。</p> <p>d) 死亡診断書の該当箇所に重度損傷の記載が複数あり、優先順位がもっとも高い損傷が複数ある場合、最初に記載されている方の損傷を選択する。ただし、優先順位がもっとも高い損傷が複数あり、一方が特定された損傷で、他方が T00-T07 (多部位の損傷) の損傷である場合、特定された損傷を優先する。</p> <p>例：I(a) 大動脈破裂を伴う多発性損傷 (b) 自動車運転者、バスとの衝突</p> <p>原死因は、大型輸送車両又はバスとの衝突により受傷した運転者 (V44.5) にコードする。主たる損傷には、胸部大動脈損傷にコードする。多発性損傷 (T07) と胸部大動脈損傷 (S25.0) は優先順位リストで同じ順位にあるが、特定された損傷は、T00-T07 の損傷に優先する。</p> <p>優先順位リストは付録として掲載する。リストは下記の通り。</p> <p>-</p> <p>ICD-10 損傷の性質コードの優先順位</p> <table border="1" data-bbox="1136 1234 1558 1919"> <thead> <tr> <th>コード</th> <th>優先順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">1= もっとも高い優先順位</td> </tr> <tr> <td>S00-S02.0</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S02.1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>S02.2-.8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S02.9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>S03.0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S03.1-.2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S03.3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S03.4-S05.6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S05.7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S05.8-.S06.0</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S06.1-.9</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>S07.0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S07.1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>S07.8-.9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>S08.0-.1</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	コード	優先順位	1= もっとも高い優先順位		S00-S02.0	6	S02.1	4	S02.2-.8	6	S02.9	3	S03.0	5	S03.1-.2	6	S03.3	5	S03.4-S05.6	6	S05.7	5	S05.8-.S06.0	6	S06.1-.9	2	S07.0	5	S07.1	1	S07.8-.9	3	S08.0-.1	6	<p><u>unspecified (S06.9), which has a higher rank on the priority list than multiple injuries of thorax (S29.7).</u></p> <p>d) <u>When more than one of the serious injuries reported in the relevant part of the certificate have the same and highest rank, select the first mentioned of these injuries. However, prefer a specific injury over an injury from the block T00-T07 (Injuries involving multiple body regions) with the same priority rank.</u></p> <p>Ex.: <u>I (a) Multiple injuries with rupture of aorta</u> <u>(b) Car driver, collision with bus</u></p> <p><u>Code to car driver injured in collision with heavy transport vehicle or bus (V44.5) as underlying cause of death. As main injury, code rupture of aorta. Multiple injuries (T07) and rupture of aorta (S25.0) have the same rank on the priority list, but a specific injury takes precedence over an injury coded in T00-T07.</u></p> <p><i>The priority list would be placed in an appendix. The list is as follows:</i></p> <p><u>Priority Ranking of ICD-10 Nature-of-Injury Codes</u></p> <table border="1" data-bbox="1932 1129 2240 1919"> <thead> <tr> <th>Code</th> <th>Rank</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">1= Highest priority rank</td> </tr> <tr> <td>S00-S02.0</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S02.1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>S02.2-.8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S02.9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>S03.0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S03.1-.2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S03.3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S03.4-S05.6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S05.7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S05.8-.S06.0</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S06.1-.9</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>S07.0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S07.1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>S07.8-.9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>S08.0-.1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S08.8</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S08.9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S09.0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>S09.1-.8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>S09.9</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	Code	Rank	1= Highest priority rank		S00-S02.0	6	S02.1	4	S02.2-.8	6	S02.9	3	S03.0	5	S03.1-.2	6	S03.3	5	S03.4-S05.6	6	S05.7	5	S05.8-.S06.0	6	S06.1-.9	2	S07.0	5	S07.1	1	S07.8-.9	3	S08.0-.1	6	S08.8	5	S08.9	6	S09.0	5	S09.1-.8	6	S09.9	4
コード	優先順位																																																																																
1= もっとも高い優先順位																																																																																	
S00-S02.0	6																																																																																
S02.1	4																																																																																
S02.2-.8	6																																																																																
S02.9	3																																																																																
S03.0	5																																																																																
S03.1-.2	6																																																																																
S03.3	5																																																																																
S03.4-S05.6	6																																																																																
S05.7	5																																																																																
S05.8-.S06.0	6																																																																																
S06.1-.9	2																																																																																
S07.0	5																																																																																
S07.1	1																																																																																
S07.8-.9	3																																																																																
S08.0-.1	6																																																																																
Code	Rank																																																																																
1= Highest priority rank																																																																																	
S00-S02.0	6																																																																																
S02.1	4																																																																																
S02.2-.8	6																																																																																
S02.9	3																																																																																
S03.0	5																																																																																
S03.1-.2	6																																																																																
S03.3	5																																																																																
S03.4-S05.6	6																																																																																
S05.7	5																																																																																
S05.8-.S06.0	6																																																																																
S06.1-.9	2																																																																																
S07.0	5																																																																																
S07.1	1																																																																																
S07.8-.9	3																																																																																
S08.0-.1	6																																																																																
S08.8	5																																																																																
S08.9	6																																																																																
S09.0	5																																																																																
S09.1-.8	6																																																																																
S09.9	4																																																																																

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		S08.8 5	S10.0-2 6
		S08.9 6	S11.7 6
		S09.0 5	S11.8 6
		S09.1-.8 6	S11.9 6
		S09.9 4	S12.0-.7 6
		S10.0-2 6	S12.8 6
		S11.7 5	S12.9 6
		S11.8 6	S13.0 6
		S11.9 3	S13.1-2 6
		S12.0-.7 3	S13.3 6
		S12.8 5	S13.4 6
		S12.9 3	S13.6 6
		S13.0 6	S14.0 6
		S13.1-2 5	S14.1 6
		S13.3 3	S14.2-.5 6
		S13.4 5	S14.6 6
		S13.6 6	S15 1
		S14.0 5	S16 6
		S14.1 3	S17.0 6
		S14.2-.5 6	S17.8 6
		S14.6 5	S17.9 6
			S18 1
		S15 1	S19.7 3
		S16 6	S19.8 4
		S17.0 5	S19.9-S21 3
		S17.8 6	S22.0-1 5
		S17.9 3	S22.2-.3 6
		S18 1	S22.4 5
		S19.7 3	S22.5 2
		S19.8 4	S22.8-9 5
		S19.9-S21 3	S23.0 6
		S22.0-1 5	S23.1-2 5
		S22.2-.3 6	S23.3-.5 6
		S22.4 5	S24 4
		S22.5 2	S25.0 1
		S22.8-9 5	S25.1 5
		S23.0 6	S25.2-.4 3
		S23.1-2 5	S25.5 5
		S23.3-.5 6	S25.7 3
		S24 4	
		S25.0 1	
		S25.1 5	
		S25.2-.4 3	
		S25.5 5	
		S25.7 3	
			S10.0-2 6
			S11.7 6
			S11.8 6
			S11.9 6
			S12.0-.7 6
			S12.8 6
			S12.9 6
			S13.0 6
			S13.1-2 6
			S13.3 6
			S13.4 6
			S13.6 6
			S14.0 6
			S14.1 6
			S14.2-.5 6
			S14.6 6
			S15 1
			S16 6
			S17.0 6
			S17.8 6
			S17.9 6
			S18 1
			S19.7 3
			S19.8 4
			S19.9-S21 3
			S22.0-1 5
			S22.2-.3 6
			S22.4 5
			S22.5 2
			S22.8-9 5
			S23.0 6
			S23.1-2 5
			S23.3-.5 6
			S24 4
			S25.0 1
			S25.1 5
			S25.2-.4 3
			S25.5 5
			S25.7 3
			S30-S31.1 6

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)		
		S25.8	2	<u>S31.2-.3</u>	5
		<u>S25.9</u>	4	<u>S31.4-S32.3</u>	6
		S26.0	3	<u>S32.4</u>	5
		<u>S26.8-S27.6</u>	2	<u>S32.5</u>	6
		<u>S27.7</u>	1	<u>S32.7-.8</u>	5
		<u>S27.8-.9</u>	2	<u>S33.0-.2</u>	6
		<u>S28.0-.1</u>	3	<u>S33.3</u>	5
		<u>S29.0</u>	6	<u>S33.4-.6</u>	6
		<u>S29.7</u>	3	<u>S33.7</u>	5
		<u>S29.8</u>	6	<u>S34.0-.6</u>	6
		<u>S29.9</u>	3	<u>S34.8</u>	5
		<u>S30-S31.1</u>	6	<u>S35.0-.1</u>	5
		<u>S31.2-.3</u>	5	<u>S35.2-.5</u>	5
		<u>S31.4-S32.3</u>	6	<u>S35.7</u>	5
		<u>S32.4</u>	5	<u>S35.8-.9</u>	5
		<u>S32.5</u>	6	<u>S36</u>	5
		<u>S32.7-.8</u>	5	<u>S37</u>	5
		<u>S33.0-.2</u>	6	<u>S38.0</u>	6
		<u>S33.3</u>	5	<u>S38.1</u>	5
		<u>S33.4-.6</u>	6	<u>S38.2-S39.0</u>	6
		<u>S33.7</u>	5	<u>S39.6</u>	5
		<u>S34.0-.6</u>	6	<u>S39.7</u>	4
		<u>S34.8</u>	5	<u>S39.8</u>	6
		<u>S35.0-.1</u>	3	<u>S39.9</u>	4
		<u>S35.2-.5</u>	5	<u>S40-S41.7</u>	6
		<u>S35.7</u>	3	<u>S41.8</u>	5
		<u>S35.8-.9</u>	5	<u>S42.0-.2</u>	6
		<u>S36</u>	3	<u>S42.3</u>	5
		<u>S37</u>	5	<u>S42.4</u>	6
		<u>S38.0</u>	6	<u>S42.7</u>	5
		<u>S38.1</u>	5	<u>S42.9</u>	4
		<u>S38.2-S39.0</u>	6	<u>S43-S44.9</u>	6
		<u>S39.6</u>	3	<u>S45</u>	5
		<u>S39.7</u>	4	<u>S46</u>	6
		<u>S39.8</u>	6	<u>S47</u>	5
		<u>S39.9</u>	4	<u>S48</u>	5
		<u>S40-S41.7</u>	6	<u>S49.7</u>	5
		<u>S41.8</u>	5	<u>S49.8-S51.9</u>	6
		<u>S42.0-.2</u>	6	<u>S52</u>	5
		<u>S42.3</u>	5	<u>S53-S55.0</u>	6
		<u>S42.4</u>	6	<u>S55.1-.2</u>	5
		<u>S42.7</u>	5	<u>S55.7</u>	4
		<u>S42.9</u>	4	<u>S55.8-.9</u>	1
		<u>S43-S44.9</u>	6	<u>S56-S58</u>	6
		<u>S45</u>	3	<u>S59.7</u>	4
				<u>S59.8</u>	6
				<u>S59.9</u>	5
				<u>S60-S62.7</u>	6
				<u>S62.8</u>	5
				<u>S63-S65.0</u>	6
				<u>S65.1</u>	5
				<u>S65.2-.8</u>	6

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		S46	S65.9
		S47	S66-S68.3
		S48	S68.4
		S49.7	S68.8
		S49.8-S51.9	S68.9
		S52	S69
		S53-S55.0	S70-S71
		S55.1-.2	S72.0-.2
		S55.7	S72.3-.4
		S55.8-.9	S72.7
		S56-S58	S72.8
		S59.7	S72.9
		S59.8	S73-S74.1
		S59.9	S74.2-.7
		S60-S62.7	S74.8-.9
		S62.8	S75.0-.1
		S63-S65.0	S75.2
		S65.1	S75.7
		S65.2-.8	S75.8
		S65.9	S75.9
		S66-S68.3	S76
		S68.4	S77.0
		S68.8	S77.1-S78.1
		S68.9	S78.9-S79.9
		S69	S80-S81
		S70-S71	S82
		S72.0-.2	S83-S85.2
		S72.3-.4	S85.3
		S72.7	S85.4-.5
		S72.8	S85.7
		S72.9	S85.8
		S73-S74.1	S85.9
		S74.2-.7	S86.0-.7
		S74.8-.9	S86.8
		S75.0-.1	S86.9-S87.0
		S75.2	S87.8
		S75.7	S88.0-.1
		S75.8	S88.9
		S75.9	S89.7-.9
		S76	S90-S95.0
		S77.0	S95.1
		S77.1-S78.1	S95.2-S97.0
		S78.9-S79.9	S97.1
		S80-S81	S97.8-S98.4
		S82	S99.7-.9
			T00-T01.0
			T01.1
			T01.2-T01.6
			T01.8
			T01.9
			T02
			T03.0-.8

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		S83-S85.2	T03.9
		S85.3	T04.0
		S85.4-.5	T04.1-.3
		S85.7	T04.4
		S85.8	T04.7
		S85.9	T04.8
		S86.0-.7	T04.9
		S86.8	T05.0-4
		S86.9-S87.0	T05.5
		S87.8	T05.6-9
		S88.0-.1	T06.0
		S88.9	T06.1-.2
		S89.7-.9	T06.3
		S90-S95.0	T06.4
		S95.1	T06.5
		S95.2-S97.0	T06.8
		S97.1	T07
		S97.8-S98.4	T08
		S99.7-.9	T09.0
		T00-T01.0	T09.1
		T01.1	T09.2
		T01.2-T01.6	T09.3
		T01.8	T09.4
		T01.9	T09.5
		T02	T09.6
		T03.0-.8	T09.8-T11.1
		T03.9	T11.2
		T04.0	T11.3
		T04.1-.3	T11.4
		T04.4	T11.5
		T04.7	T11.6
		T04.8	T11.8-9
		T04.9	T12
		T05.0-.4	T13.0-3
		T05.5	T13.4
		T05.6-.9	T13.5-6
		T06.0	T13.8
		T06.1-.2	T13.9
		T06.3	T14.0
		T06.4	T14.1
		T06.5	T14.2
		T06.8	T14.3-4
		T07	T14.5
		T08	T14.6
		T09.0	T14.7
			T14.8-T15.8
			T15.9
			T16
			T17.0-1
			T17.2-4
			T17.5
			T17.8-9

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		T09.1 5	T18.0-2 6
		T09.2 6	T18.3-4 5
		T09.3 3	T18.5-T19.1 6
		T09.4 2	T19.2 5
		T09.5 6	T19.3-8 6
		T09.6 1	T19.9 5
		T09.8-T11.1 5	T20.0-2 6
		T11.2 6	T20.3 5
		T11.3 5	T20.4-6 6
		T11.4 2	T20.7 5
		T11.5 6	T21.0-2 6
		T11.6 3	T21.3 5
		T11.8-9 5	T21.4-6 6
		T12 3	T21.7 5
		T13.0-3 6	T22.0-2 6
		T13.4 3	T22.3 5
		T13.5-6 6	T22.4-6 6
		T13.8 4	T22.7 5
		T13.9 5	T23.0-2 6
		T14.0 6	T23.3 5
		T14.1 5	T23.4-6 6
		T14.2 2	T23.7 5
		T14.3-4 6	T24.0-2 6
		T14.5 5	T24.3 5
		T14.6 3	T24.4-6 6
		T14.7 2	T24.7 5
		T14.8-T15.8 6	T25.0-2 6
		T15.9 5	T25.3 5
		T16 6	T25.4-6 6
		T17.0-1 5	T25.7 5
		T17.2-4 2	T26.0-2 6
		T17.5 5	T26.3 5
		T17.8-9 2	T26.4-6 6
		T18.0-2 6	T26.7-T27.0 5
		T18.3-4 5	T27.1 5
		T18.5-T19.1 6	T27.2-T28.3 5
		T19.2 5	T28.4-6 6
		T19.3-8 6	T28.7 5
		T19.9 5	T28.8-9 6
		T20.0-2 6	T29.0 4
		T20.3 5	T29.1-2 6
		T20.4-6 6	T29.3 5
		T20.7 5	T29.4-6 6
		T21.0-2 6	T29.7 5
		T21.3 5	T30.0 5
			T30.1-2 6
			T30.3-4 5
			T30.5-6 6
			T30.7 5
			T31.0-2 5
			T31.3-4 4
			T31.5-6 5

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		T21.4-.6	T31.7-.9
		T21.7	T32.0-2
		T22.0-.2	T32.3-4
		T22.3	T32.5-6
		T22.4-.6	T32.7-9
		T22.7	T33
		T23.0-.2	T34.0-4
		T23.3	T34.5
		T23.4-.6	T34.6-9
		T23.7	T35.0-1
		T24.0-.2	T35.2-5
		T24.3	T35.6
		T24.4-.6	T35.7
		T24.7	T66
		T25.0-.2	T67.0
		T25.3	T67.1-3
		T25.4-.6	T67.4
		T25.7	T67.5-6
		T26.0-.2	T67.8
		T26.3	T67.9
		T26.4-.6	T68
		T26.7-T27.0	T69.0
		T27.1	T69.8
		T27.2-T28.3	T69.9
		T28.4-.6	T70.0
		T28.7	T70.1
		T28.8-9	T70.2
		T29.0	T70.3
		T29.1-.2	T70.4.8
		T29.3	T70.9
		T29.4-.6	T71
		T29.7	T73.0
		T30.0	T73.1
		T30.1-.2	T73.2
		T30.3-.4	T73.3
		T30.5-.6	T73.8-T74
		T30.7	T75.0
		T31.0-.2	T75.1
		T31.3-.4	T75.2-3
		T31.5-.6	T75.4
		T31.7-.9	T75.8
		T32.0-.2	T90.0-4
		T32.3-4	T90.5
		T32.5-.6	T90.8
		T32.7-9	T90.9
			T91.0-1
			T91.2-3
			T91.4
			T91.5-8
			T91.9
			T92.0-2
			T92.3-8

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		T33	T92.9
		T34.0-.4	T93.0
		T34.5	T93.1
		T34.6-.9	T93.2-.3
		T35.0-.1	T93.4
		T35.2-.5	T93.5-.9
		T35.6	T94.0-1
		T35.7	T95.0
		T66	T95.1
		T67.0	T95.2-.3
		T67.1-.3	T95.8-9
		T67.4	T98.0-1
		T67.5-.6	T98.2
		T67.8	
		T67.9	
		T68	
		T69.0	
		T69.8	
		T69.9	
		T70.0	
		T70.1	
		T70.2	
		T70.3	
		T70.4-.8	
		T70.9	
		T71	
		T73.0	
		T73.1	
		T73.2	
		T73.3	
		T73.8-T74	
		T75.0	
		T75.1	
		T75.2-.3	
		T75.4	
		T75.8	
		T90.0-.4	
		T90.5	
		T90.8	
		T90.9	
		T91.0-.1	
		T91.2-.3	
		T91.4	
		T91.5-.8	
		T91.9	

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
		T92.0-.2 5 T92.3-.8 6 T92.9 3 T93.0 6 T93.1 5 T93.2-.3 6 T93.4 5 T93.5-.9 6 T94.0-.1 3 T95.0 6 T95.1 5 T95.2-.3 6 T95.8-.9 3 T98.0-.1 1 T98.2 6	
137	4.2.11 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒 異なる分類項目に分類される医薬品が組み合わされている場合は、下記のように処理する： A) 原死因の選択 i) もし、その配合剤の一つの成分が、死因として明示されたならば、その成分にコードする。 例： I (a)アンフェタミンによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム アンフェタミンによる不慮の中毒 (X41) にコードする。I 欄でアンフェタミン中毒のみと位置付け、II 欄で記載することによって、死亡診断書の作成者(医師)はアンフェタミンが死を引き起こした最重要物質と判断する。 例： I (a)アルコールによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム アルコールによる不慮の中毒 (X45) にコードする。I 欄でアルコール中毒のみと位置付け、II 欄で他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者(医師)はアルコールが死を引き起こした最重要物質と判断する。 例： I (a)ヘロインによる中毒	4.2.1112 薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒 異なる分類項目に分類される医薬品が組み合わされている場合は、下記のように処理する： A) 原死因の選択 i) もし、その配合剤の一つの成分が、死因として明示されたならば、その成分にコードする。 例 5: I (a)アンフェタミンによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム アンフェタミンによる不慮の中毒 (X41) にコードする。I 欄でアンフェタミン中毒のみと位置付け、II 欄で記載することによって、死亡診断書の作成者(医師)はアンフェタミンが死を引き起こした最重要物質と判断する。 例 6: I (a)アルコールによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム アルコールによる不慮の中毒 (X45) にコードする。I 欄でアルコール中毒のみと位置付け、II 欄で他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者(医師)はアルコールが死を引き起こした最重要物質と判断する。 例 7: I (a)ヘロインによる中毒	4.2.1112 Poisoning by drugs, medicaments and biological substances When combinations of medicinal agents classified differently are involved, proceed as follows: A) Selection of the underlying cause of death i) If one component of the combination is specified as the cause of death, code to that component. Ex.: I(a) Poisoning by amphetamine II Toxic levels of heroin and flunitrazepam Code to accidental poisoning by amphetamine (X41). By placing amphetamine poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death in Part II, the certifier has identified amphetamine as the most important substance in bringing about the death. Ex.: I(a) Poisoning by alcohol II Toxic levels of heroin and flunitrazepam Code to accidental poisoning by alcohol (X45). By placing alcohol poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death in Part II, the certifier has identified alcohol as the most important substance in bringing about the death. Ex.: I(a) Poisoning by heroin II Toxic levels of alcohol and flunitrazepam Code to accidental poisoning by heroin (X42). By placing heroin poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death, the certifier has identified heroin as the most important substance in bringing about the death. ii) When no component is specified as the main cause of death, clarification should be sought from the certifier. iii) When no such clarification can be obtained, code combinations of alcohol with a drug to the drug. For other multi-drug deaths, code to the appropriate category for "Other".

2010

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>II アルコールならびにフルニトラゼパムの中毒レベル</p> <p>ヘロインによる不慮の中毒 (X42) にコードする。I 欄でヘロイン中毒のみと位置付け、他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はヘロインが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>ii) 主たる死因の成分が明示されていない場合は、死亡診断書の作成者 (医師) から説明を求めるべきである。</p> <p>iii) そのような説明が得られない場合、アルコールと他の薬物との配合剤をコードする。その他の多くの薬剤が死因の場合、「その他」のコードを当てる。</p>	<p>II アルコールならびにフルニトラゼパムの中毒レベル</p> <p>ヘロインによる不慮の中毒 (X42) にコードする。I 欄でヘロイン中毒のみと位置付け、他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はヘロインが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>ii) 主たる死因の成分が明示されていない場合は、死亡診断書の作成者 (医師) から説明を求めるべきである。</p> <p>iii) そのような説明が得られない場合、アルコールと他の薬物との配合剤をコードする。その他の多くの薬剤が死因の場合、「その他」のコードを当てる。</p>	
		<p style="text-align: center;">2013</p> <p>4.2.12 薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒</p> <p>異なる分類項目に分類される医薬品が組み合わされている場合は、下記のように処理する：</p> <p>A) 原死因の選択</p> <p>i) もし、その配合剤の一つの成分が、<u>死因死を引き起こした最重要物質として明示されたならば、その成分にコードする。</u></p> <p>例 x: I (a)ヘロインの不慮の過剰量 II ジアゼパム及びアミトリプチリン <u>ヘロインによる不慮の中毒 (X42) にコードする。I 欄でヘロイン中毒のみと位置付け、II 欄で記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はヘロインが死を引き起こした最重要物質と判断する。</u></p> <p>例 5: I (a)アンフェタミンによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム</p> <p>アンフェタミンによる不慮の中毒 (X41) にコードする。I 欄でアンフェタミン中毒のみと位置付け、II 欄で記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はアンフェタミンが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>例 6: I (a)アルコールによる中毒 II 中毒レベルのヘロインならびにフルニトラゼパム</p> <p>アルコールによる不慮の中毒 (X45) にコードする。I 欄でアルコール中毒のみと位置付け、II 欄で他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者 (医</p>	<p>4.2.12 Poisoning by drugs, medicaments and biological substances</p> <p>When combinations of medicinal agents classified differently are involved, proceed as follows:</p> <p>A) Selection of the underlying cause of death</p> <p>i) If one component of the combination is specified as the cause of death <u>most important substance in bringing about the death</u>, code to that component.</p> <p><u>Example x: I(a) Accidental heroin overdose II Diazepam and amitriptyline present</u></p> <p><u>Code to accidental poisoning by heroin (X42). By placing heroin overdose alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death in Part II, the certifier has identified heroin as the most important substance in bringing about the death.</u></p> <p>Example 5: I(a) Poisoning by amphetamine II Toxic levels of heroin and flunitrazepam Example 5: I(a) Poisoning by amphetamine II Toxic levels of heroin and flunitrazepam</p> <p>Code to accidental poisoning by amphetamine (X41). By placing amphetamine poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death in Part II, the certifier has identified amphetamine as the most important substance in bringing about the death.</p> <p>Example 6: I(a) Poisoning by alcohol II Toxic levels of heroin and flunitrazepam</p> <p>Code to accidental poisoning by alcohol (X45). By placing alcohol poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death in Part II, the certifier has identified alcohol as the most important substance in bringing about the death.</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>師) はアルコールが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>例 7: I (a)ヘロインによる中毒 II アルコールならびにフルニトラゼパムの中毒レベル</p> <p>ヘロインによる不慮の中毒 (X42) にコードする。I 欄でヘロイン中毒のみと位置付け、他の物質は死因の一因となりうると記載することによって、死亡診断書の作成者 (医師) はヘロインが死を引き起こした最重要物質と判断する。</p> <p>ii) 主たる死因死を引き起こした最重要物質の成分が明示されていない場合は、死亡診断書の作成者 (医師) から説明を求めるべきである。</p> <p>iii) そのような説明が得られない場合、アルコールと他の薬物との配合剤をコードする。その他の多くの薬剤が死因の場合、「その他」のコードを当てる。</p> <p>例 x: I (a)ヘロイン及びアンフェタミンの不慮の過剰量 その他及び詳細不明の薬物、薬剤及び生物学的製剤による不慮の中毒及び曝露 (X44) にコードする。I 欄に記載されているいずれの薬物も死を引き起こした最重要物質として明示されておらず、この二つの薬物の配合剤のコードも存在しない。</p>	<p>Example 7: I(a) Poisoning by heroin II Toxic levels of alcohol and flunitrazepam</p> <p>Code to accidental poisoning by heroin (X42). By placing heroin poisoning alone in Part I and reporting the other substances as contributing causes of death, the certifier has identified heroin as the most important substance in bringing about the death.</p> <p>ii) When no component is specified as the main cause of death <u>most important substance in bringing about the death</u>, clarification should be sought from the certifier.</p> <p>iii) When no such clarification can be obtained, code combinations of alcohol with a drug to the drug. For other multi-drug deaths, code to the appropriate category for "Other".</p> <p>Example x: I(a) Accidental overdose of heroin and amphetamine Code to accidental poisoning by and exposure to other and unspecified drugs, medicaments and biological substances (X44). Neither of the drugs reported in Part I is identified as the most important substance in bringing about the death and there is no specific code category for the combination of these substances.</p>
138		<p>iv) F10-F19 と中毒が同じ死亡診断書に記載されている場合は、下記のよう処理する:</p> <p><u>F10-F19 精神作用物質使用による精神及び行動の障害</u></p> <p>下記の記載を伴うもの: X40-X49 有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露、X40-X49 にコードする。 X60-X69 有害物質による中毒及び曝露にもとづく自傷及び自殺、X60-X69 にコードする。 X85-X90 有害物質による加害、X85-X90 にコードする。 Y10-Y19 薬物、化学物質及び有害物質による中毒及び曝露、Y10-Y19 にコードする。 4 桁細分類項目.0 (急性中毒)、X40-X49、X60-X69、X85-X90 又は Y10-Y19 にコードする。</p> <p>F10-F19 に分類される複数の病態が同じ死亡診断書に記載されている場合は、4.1.11 節参照。</p>	<p>iv) When F10-F19 is reported on the same record with a poisoning, proceed as follows: F10-F19 Mental and behavioural disorders due to psychoactive substance use with mention of: X40-X49 Accidental poisoning by and exposure to noxious substances, code X40-X49 X60-X69 Intentional self-poisoning by and exposure to noxious substances, code X60-X69 X85-X90 Assault by noxious substances, code X85-X90 Y10-Y19 Poisoning by and exposure to drugs, chemicals and noxious substances, code Y10-Y19 Fourth character .0 (Acute intoxication), code X40-X49, X60-X69, X85-X90 or Y10-Y19 Refer to section 4.1.11 when multiple conditions classified to F10-F19 are reported on the same record.</p>
139	B) 最も危険な薬物の同定	B) 最も危険な薬物の同定	B) Identifying the most dangerous drug To provide useful statistics on multiple drug deaths, it is of utmost

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>さまざまな薬剤による死亡について、最も有用な統計を出すために一番重要なのは、原死因に加えて最も危険な薬物の同定を行うことである。最も危険な薬物を選択したら、次の要領に従う。</p> <p>もし配合剤の成分が死因として推定されたら、その成分にコードする。もし単一成分を死因とすることができないときは、アルコールと薬物の配合剤の場合は、薬物にコードする。分類に配合剤の項目があれば、その薬物の配合剤にコードする。もし、配合剤の適切な分類項目がなければ、以下に示す優先順位に従って、コードをつける。分類中に、たとえば、抗てんかん薬の配合剤 (T42.5) など、薬物の配合薬に対して、特定の分類項目が規定されている場合は、その項目にコードする。もし、適切な配合薬分類項目がない場合は、下記の優先順位に従って主たる損傷コードを選択する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オピオイド (T40.0-T40.2) T40.0-T40.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能なオピオイドを含む配合薬: T40.2 にコードする。 2. コカイン (T40.5) 3. 乱用される可能性のある興奮薬 (T43.6) 包含: アンフェタミンならびにその誘導体 4. 合成麻薬ならびにその他の詳細不明の麻薬 (T40.3-T40.4、T40.6) T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬を含む配合剤:T40.4 にコードする。 T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬、および T40.6 に分類可能なその他の詳細不明な麻薬を含む配合薬:T40.6 にコードする。 5. 抗うつ薬 (T43.0-T43.2) T43.0-T43.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な抗うつ薬を含む配合薬:T43.2 にコードする。 6. 非オピオイド系鎮痛薬 (T39.-) T39.0-T39.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な非オピオイド系鎮痛薬を含む配合薬: T39.8 にコードする。 7. 上記以外の薬物および製剤 もし、死亡診断書に複数のこのような薬剤が記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。 	<p>さまざまな薬剤による死亡について、最も有用な統計を出すために一番重要なのは、原死因に加えて最も危険な薬物の同定を行うことである。最も危険な薬物を選択したら、次の要領に従う。</p> <p>もし配合剤の成分が死因として推定されたら、その成分にコードする。もし単一成分を死因とすることができないときは、アルコールと薬物の配合剤の場合は、薬物にコードする。分類に配合剤の項目があれば、その薬物の配合剤にコードする。もし、配合剤の適切な分類項目がなければ、以下に示す優先順位に従って、コードをつける。分類中に、たとえば、抗てんかん薬の配合剤 (T42.5) など、薬物の配合薬に対して、特定の分類項目が規定されている場合は、その項目にコードする。もし、適切な配合薬分類項目がない場合は、下記の優先順位に従って主たる損傷コードを選択する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オピオイド (T40.0-T40.2) T40.0-T40.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能なオピオイドを含む配合薬: T40.2 にコードする。 2. コカイン (T40.5) 3. 乱用される可能性のある興奮薬 (T43.6) 包含: アンフェタミンならびにその誘導体 4. 合成麻薬ならびにその他の詳細不明の麻薬 (T40.3-T40.4、T40.6) T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬を含む配合剤:T40.4 にコードする。 T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬、及び T40.6 に分類可能なその他の詳細不明な麻薬を含む配合薬:T40.6 にコードする。 5. 抗うつ薬 (T43.0-T43.2) T43.0-T43.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な抗うつ薬を含む配合薬:T43.2 にコードする。 6. 非オピオイド系鎮痛薬 (T39.-) T39.0-T39.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な非オピオイド系鎮痛薬を含む配合薬: T39.8 にコードする。 7. 上記以外の薬物及び製剤 もし、死亡診断書に複数のこのような薬剤が記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。 <p>死亡診断書に同じ優先順位に属する薬剤が複数記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。</p>	<p>importance that the most dangerous drug is identifiable in addition to the underlying cause (see also <i>Nature of injury</i>, pp 86-87). When selecting the code for the most dangerous drug, apply the following instructions. If one component of the combination is specified as the cause of death, code to that component. If no single component is indicated as the cause of death, code combinations of alcohol with a drug to the drug. When the classification provides a specific category for a combination of drugs, e.g. mixed antiepileptics (T42.5), code to that category. If no appropriate combination category is available, select the main injury code in the following order of priority:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Opioids (T40.0-T40.2) Combinations including opioids classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.0-T40.2: Code to T40.2 2. Cocaine (T40.5) 3. Psychostimulants with abuse potential (T43.6) Includes: Amphetamine and derivatives 4. Synthetic narcotics and other and unspecified narcotics (T40.3-T40.4, T40.6) Combinations including synthetic narcotics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.3-T40.4: Code to T40.4 Combinations including synthetic narcotics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.3-T40.4 with other and unspecified narcotics classifiable to T40.6: Code to T40.6 5. Antidepressants (T43.0-T43.2) Combinations including antidepressants classifiable to more than one fourth-character subcategory in T43.0-T43.2: Code to T43.2 6. Non-opioid analgesics (T39.-) Combinations including non-opioid analgesics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T39.0-T39.4: Code to T39.8 7. Drugs and substances not listed above <p>If the death certificate reports more than one such drug, code to the first mentioned. <u>If there is more than one drug in the same priority group, code to the first mentioned.</u></p>



	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		<p>B) <u>損傷の主たる性質のコーディングのための最も危険な薬物の同定</u></p> <p>さまざまな薬剤による死亡について、最も有用な統計を出すために一番重要なのは、原死因に加えて最も危険な薬物に係る<u>損傷の性質コードの同定</u>を行うことである（「4.2.1110-<u>損傷の性質</u>」も参照）。最も危険な薬物を選択したら、次の要領に従って<u>損傷の主たる性質のコード</u>を選択する。</p> <p>もし配合剤の成分が死因として推定されたら、その成分の<u>損傷の主たる性質</u>にコードする。もし単一成分を死因とすることができないときは、アルコールと薬物の配合剤の場合は、薬物にコードする。分類に配合剤の項目があれば、その薬物の配合剤にコードする。もし、配合剤の適切な分類項目がなければ、以下に示す優先順位に従って、コードをつける。分類中に、たとえば、抗てんかん薬の配合剤 (T42.5) など、薬物の配合薬に対して、特定の分類項目が規定されている場合は、その項目にコードする。もし、適切な配合薬分類項目がない場合は、下記の優先順位に従って<u>主たる損傷の主たる性質のコード</u>を選択する：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オピオイド (T40.0-T40.2) T40.0-T40.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能なオピオイドを含む配合薬: T40.2 にコードする。 2. コカイン (T40.5) 3. 乱用される可能性のある興奮薬 (T43.6) 包含: アンフェタミンならびにその誘導体 4. 合成麻薬ならびにその他の詳細不明の麻薬 (T40.3-T40.4, T40.6) T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬を含む配合剤: T40.4 にコードする。 T40.3-T40.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な合成麻薬、及び T40.6 に分類可能なその他の詳細不明な麻薬を含む配合薬: T40.6 にコードする。 5. 抗うつ薬 (T43.0-T43.2) T43.0-T43.2 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な抗うつ薬を含む配合薬: T43.2 にコードする。 6. 非オピオイド系鎮痛薬 (T39.-) T39.0-T39.4 の複数の 4 桁細分類項目に分類可能な非オピオイド系鎮痛薬を含む配合薬: T39.8 にコードする。 7. 上記以外の薬物及び製剤 もし、死亡診断書に複数のこのような薬剤が記載されている場合 	<p>B) Identifying the most dangerous drug for <u>main nature of injury coding</u></p> <p>To provide useful statistics on multiple drug deaths, it is of utmost importance that the <u>nature of injury code for the</u> most dangerous drug is identified in addition to the underlying cause code (see also Nature of injury, pp 86-87). When selecting the <u>main nature of injury</u> code for the most dangerous drug, apply the following instructions.</p> <p>If one component of the combination is specified as the cause of death, code <u>the main nature of injury</u> to that component. If no single component is indicated as the cause of death, code combinations of alcohol with a drug to the drug. When the classification provides a specific category for a combination of drugs, e.g. mixed antiepileptics (T42.5), code to that category. If no appropriate combination category is available, select the main <u>nature of injury</u> code in the following order of priority:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Opioids (T40.0-T40.2) Combinations including opioids classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.0-T40.2: Code to T40.2 2. Cocaine (T40.5) 3. Psychostimulants with abuse potential (T43.6) Includes: Amphetamine and derivatives 4. Synthetic narcotics and other and unspecified narcotics (T40.3-T40.4, T40.6) Combinations including synthetic narcotics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.3-T40.4: Code to T40.4 Combinations including synthetic narcotics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T40.3-T40.4 with other and unspecified narcotics classifiable to T40.6: Code to T40.6 5. Antidepressants (T43.0-T43.2) Combinations including antidepressants classifiable to more than one fourth-character subcategory in T43.0-T43.2: Code to T43.2 6. Non-opioid analgesics (T39.-) Combinations including non-opioid analgesics classifiable to more than one fourth-character subcategory in T39.0-T39.4: Code to T39.8 7. Drugs and substances not listed above If the death certificate reports more than one such drug, code to the first mentioned. <p><u>Example:</u> I(a) <u>Heroin, cocaine, diazepam and amitriptyline overdose</u></p> <p><u>Underlying cause of death:</u> Code to <u>accidental poisoning by and exposure to other and unspecified drugs, medicaments and biological substances (X44)</u>. None of the drugs reported in Part I are identified as the most important substance in bringing about the death and there is no specific code category for the combination of these substances.</p> <p><u>Main nature of injury:</u> Code to <u>poisoning by heroin (T40.1)</u>. On the priority list above, heroin is in group 1, cocaine (T40.5) is in group 2, diazepam (T42.4) is in group 7 and amitriptyline (T43.0) is in group 5.</p> <p><u>Example:</u> I(a) <u>Accidental poisoning by alcohol, heroin and diazepam</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>は、最初に記載されたものをコードする。</p> <p>例 x: I (a) <u>ヘロイン、コカイン、ジアゼパム及びアミトリプチリンの過剰量</u> 原死因：その他及び詳細不明の薬物、薬剤及び生物学的製剤による不慮の中毒及び曝露（X44）にコードする。I 欄で記載するいずれの薬物も死を引き起こした最重要物質であることが明確に示されておらず、これらの薬物の配合薬分類項目も存在しない。</p> <p>損傷の主たる性質：ヘロインによる中毒（T40.1）にコードする。上記の優先順位のリストでヘロインは第 1 グループに、コカイン（T40.5）は第 2 グループに、ジアゼパム（T42.4）は第 7 グループに、アミトリプチリン（T43.0）は第 5 グループにそれぞれ属している。</p> <p>例 x: I (a) <u>アルコール、ヘロイン及びジアゼパムによる不慮の中毒</u> 原死因：その他及び詳細不明の薬物、薬剤及び生物学的製剤による不慮の中毒及び曝露（X44）にコードする。アルコールと薬物の組み合わせによる中毒は、薬物にコードする（4.2.11 A iii）を参照）。I 欄で記載するいずれの薬物も死を引き起こした最重要物質であることが明確に示されておらず、これらの薬物の配合薬分類項目も存在しない。</p> <p>損傷の主たる性質：ヘロインによる中毒（T40.1）にコードする。上記の優先順位のリストでヘロインは第 1 グループに、ジアゼパム（T42.4）は第 7 グループにそれぞれ属している。</p> <p>死亡診断書に同じ優先順位に属する薬剤が複数記載されている場合は、最初に記載されたものをコードする。</p>	<p><u>Underlying cause of death: Code to accidental poisoning by and exposure to other and unspecified drugs, medicaments and biological substances (X44). Poisoning by combinations of alcohol and drug(s) are coded to the drug(s) (see instruction 4.2.11, A. iii). Neither of the drugs reported in Part I is identified as the most important substance in bringing about the death and there is no specific code category for the combination of these substances</u></p> <p><u>Main nature of injury: Code to poisoning by heroin (T40.1 On the priority list above, heroin (T40.1) is in priority group 1 and diazepam (T42.4) is in group 7.</u></p>
140	<p>4.2.12 外因</p> <p>病態が第 XIX 章（損傷、中毒およびその他の外因の影響）に分類される場合、そしてそのような場合のみ、外因のコード（V01-Y89）が、単一病態コーディングのための一次コードおよび原因の製表のための一次コードとして用いられる。</p> <p>病態が第 I 章から第 XVIII 章に分類される場合、病態それ自身は、原因としてコードされるべきであり、もし、望むならば、追加コードとして、外因に対する章からの分類項目を使用してもよい。</p>	<p>4.2.12 外因</p> <p>病態が第 XIX 章（損傷、中毒及びその他の外因の影響）に分類される場合、そしてそのような場合のみ、外因のコード（V01-Y89）が、単一病態コーディングのための一次コード及び原因の製表のための一次コードとして用いられる。</p> <p>病態が第 I 章から第 XVIII 章に分類される場合、病態それ自身は、原因としてコードされるべきであり、もし、望むならば、追加コードとして、外因に対する章からの分類項目を使用してもよい。</p> <p>外因として一連の事象が記載されている場合、一般原則及び選択</p>	<p>4.2.12 External causes</p> <p>The codes for external causes (V01-Y89) should be used as the primary codes for single-condition coding and tabulation of the underlying cause when, and only when, the morbid condition is classifiable to Chapter XIX (Injury, poisoning and certain other consequences of external causes). When the morbid condition is classified to Chapters I-XVIII, the morbid condition itself should be coded as the underlying cause and categories from the chapter for external causes may be used, if desired, as supplementary codes.</p> <p><u>When a sequence of external events is reported, apply the General Principle and the selection rules in the normal way, and select the first external event that affected the decedent.</u></p> <p><u>Example: I (a) Hypothermia</u> <u>(b) Exposure to cold</u> <u>(c) Driver of car, left road, rolled down embankment, trapped</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
		<p>ルールを通常の方法で適用して、死亡者に影響を及ぼした最初の事象を選ぶ。</p> <p>例： I (a) 低体温 (b) 低温の作用 (c) 自動車運転者、道を逸れて土堤を転落、発見されるまで3日間、自動車に閉じ込められる。</p> <p>衝突以外の交通事故により受傷した乗用車運転者（V48.5）にコードする。</p>	<p><u>in car 3 days before discovery</u> <u>Code to driver of car injured in noncollision transport accident (V48.5)</u></p>
141	<p>4.2.14 疑わしい診断を示す表現</p> <p>「明らかに」、「推定される」、「可能性がある」等のように、診断の正確性について疑いを示す修飾的表現は、無視しなければならない。それは、このような修飾が記載されている場合とない場合とでは、単に診断の正確性の程度が違うだけだからである。</p>	<p>4.2.14 疑わしい診断を示す表現</p> <p>「明らかにどうやら～らしい」、「推定される」、「可能性がある」等のように、診断の正確性について疑いを示す修飾的表現は、無視しなければならない。それは、このような修飾が記載されている場合とない場合とでは、単に診断の正確性の程度が違うだけだからである。</p> <p>死亡診断書の作成者が、「甲又は乙のどちらか」やそれと同様の表現を使って死因が一方又は他方の死因であると記載した場合、下記の指示に従う。</p> <p>1. 一つの病態に対して、「甲又は乙の部位」の記載</p> <p>a. <u>記載された部位が属するグループ又は解剖学的系統の残余の分類項目にコードする。</u></p> <p>例： I (a) 腎臓又は膀胱のがん 尿路の悪性新生物，部位不明（C68.9）にコードする。</p> <p>b. <u>記載された部位が異なる解剖学的系統に属する場合又は記載された部位が属するグループ又は解剖学的系統に残余の分類項目が存在しない場合、記載された疾病又は病態の残余の分類項目にコードする。</u></p> <p>例： I (a) 副腎又は腎臓のがん 副腎と腎臓はそれぞれ異なる解剖学的系統に属するため、原発性悪性新生物，原発部位不明（C80.9）にコードする。</p> <p>2. 一つの部位又は系統に対して、「甲又は乙の病態」の記載</p> <p>a. <u>記載された病態が同一の3桁分類項目の異なる4桁分類項目に属する場合、「詳細不明」の4桁分類項目にコードする。</u></p> <p>例： I (a) 冠動脈硬化又は冠動脈瘤 慢性虚血性心疾患，詳細不明（I25.9）にコードする。</p> <p>b. <u>記載された病態が異なる3桁分類項目に属するが、ICD-10に</u></p>	<p>Section 4.2.14 Expressions indicating doubtful diagnosis</p> <p>Qualifying expressions indicating some doubt as to the accuracy of the diagnosis, such as "apparently", "presumably", "possibly", etc., should be ignored, since entries without such qualification differ only in the degree of certainty of the diagnosis.</p> <p><u>When the certifier uses "either...or..." or a synonymous expression to indicate that death was due to either one cause of death or another, apply the following instructions.</u></p> <p>1. <u>One condition, either one site or another</u></p> <p>a. <u>Code to the residual category for the group or anatomical system in which the reported sites are classified.</u></p> <p>Ex.: I (a) Cancer of kidney or bladder</p> <p><u>Code to malignant neoplasm, urinary organ, unspecified (C68.9)</u></p> <p>b. <u>If the reported sites are in different anatomical systems or if there is no residual category for the group or anatomical system, code to the residual category for the disease or condition specified.</u></p> <p>Ex.: I (a) Cancer of adrenal or kidney</p> <p><u>Code to primary malignant neoplasm, primary site unspecified (C80.9), since adrenal and kidney are in different anatomical systems.</u></p> <p>2. <u>One site or system, either one condition or another</u></p> <p>a. <u>If the reported conditions are classifiable to different four character subcategories of the same three character category, code to the four-character subcategory for "unspecified".</u></p> <p>Ex.: I (a) Arteriosclerotic heart disease or coronary aneurysm</p> <p><u>Code to chronic ischemic heart disease, unspecified (I25.9).</u></p> <p>b. <u>If the reported conditions are classifiable to different three character categories but ICD-10 provides a residual category for the disease in</u></p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)								
		<p>当該疾病全般の残余の分類項目がある場合、その残余の分類項目にコードする。</p> <p>例：I (a) 心筋梗塞又は冠動脈瘤 慢性虚血性心疾患，詳細不明 (I25.9) にコードする。</p> <p>c. 記載された病態が異なる 3 桁分類項目に属し、ICD-10 に当該疾病全般の残余の分類項目もない場合、当該疾病の解剖学的部位又は系統の残余の分類項目にコードする。</p> <p>例：I (a) 肺の結核又はがん 病態はいずれも肺に関わるため、肺のその他の障害 (J98.4) にコードする。</p> <p>例：I (a) 脳卒中又は心臓発作 病態はいずれも循環系の病態であるため、循環器系のその他及び詳細不明の障害 (I99) にコードする。</p> <p>3. 「甲又は乙の病態、丙又は丁の部位」の記載 解剖学的に異なる系統における異なる疾病が「一方又は他方」の関係で記載されている場合、その他の明示された全身症状及び徴候 (R68.8) にコードする。</p> <p>例：I (a) 胆嚢仙痛又は冠動脈血栓 その他の明示された全身症状及び徴候 (R68.8) にコードする。</p> <p>4. 「疾病又は損傷」の記載 死亡が疾病又は損傷によるものと記載されている場合、その他の診断名不明確及び原因不明の死亡 (R99) にコードする。</p> <p>例：I (a) 冠状閉塞又は戦傷 その他の診断名不明確及び原因不明の死亡 (R99) にコードする。</p>	<p><u>general, code to the residual category.</u></p> <p>Ex.: <u>I (a) MI or coronary aneurysm</u></p> <p><u>Code to the residual category for ischemic heart disease (I25.9).</u></p> <p><u>c. If the reported conditions are classifiable to different three character categories and there is no residual category for the disease in general, code to the residual category relating to the disease of the anatomical site/system.</u></p> <p>Ex.: <u>I (a) Tuberculosis or cancer of lung</u></p> <p><u>Code to other disorders of lung (J98.4). Both conditions involve the lung.</u></p> <p>Ex.: <u>I (a) Stroke or heart attack</u></p> <p><u>Code to other and unspecified disorders of circulatory system (I99). Both conditions are in the circulatory system.</u></p> <p><u>3. Either one condition or another, either one site or another</u></p> <p><u>When different diseases of different anatomical systems are reported as "either...or", code to other specified general symptoms and signs (R68.8).</u></p> <p>Ex.: <u>I (a) Gallbladder colic or coronary thrombosis</u></p> <p><u>Code to other specified general symptoms and signs (R68.8).</u></p> <p><u>4. Either disease or injury</u></p> <p><u>When death is reported as due to either a disease or an injury, code to other ill-defined and unspecified causes of mortality (R99).</u></p> <p>Ex.: <u>I (a) Coronary occlusion or war injuries</u></p> <p><u>Code to other ill-defined and unspecified causes of mortality (R99).</u></p>								
142	<p>4.2.14 ヒト免疫不全ウイルス (HIV)</p> <p>何らかの病態 (たとえば血液疾患) に対し、治療として輸血された場合および感染した血液が供給され HIV に感染した場合、治療の対象とされた病態ではなく、HIV を原死因としてコードする。</p> <p>例 1: I (a) カポジ肉腫 1年 (b) HIV 3年 (c) 輸血 5年</p>	<p>4.2.1415 ヒト免疫不全ウイルス (HIV)</p> <p>何らかの病態 (たとえば血液疾患) に対し、治療として輸血された場合及び感染した血液が供給され HIV に感染した場合、治療の対象とされた病態ではなく、HIV を原死因としてコードする。</p> <p>例 1: I (a) カポジ<Kaposi>肉腫 1年 (b) HIV 3年 (c) 輸血 5年</p>	<p>4.2.14 Human Immunodeficiency Virus (HIV)</p> <p>When a blood transfusion is given as treatment for any condition (e.g. a haematological disorder) and an infected blood supply results in a HIV infection, code the HIV as the underlying cause and not the treated condition.</p> <p>Example 1:</p> <table border="0"> <tr> <td>I (a) Kaposi's sarcoma</td> <td>1 year</td> </tr> <tr> <td>(b) HIV</td> <td>3 years</td> </tr> <tr> <td>(c) Blood transfusion</td> <td>5 years</td> </tr> <tr> <td>(d) Haemophilia</td> <td>since birth</td> </tr> </table> <p>Code to HIV.</p>	I (a) Kaposi's sarcoma	1 year	(b) HIV	3 years	(c) Blood transfusion	5 years	(d) Haemophilia	since birth
I (a) Kaposi's sarcoma	1 year										
(b) HIV	3 years										
(c) Blood transfusion	5 years										
(d) Haemophilia	since birth										

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)
	<p>(d)血友病 出生後</p> <p>HIV にコードする。</p> <p>例 2: I (a) ニューモシスチス・カリニ 6 ヶ月 (b) HIV 5 年 (c) 脾破裂 7 年 (d) 暴行—素手の殴り合い 7 年</p> <p>HIV にコードする。</p>	<p>(d)血友病 出生後</p> <p>HIV にコードする。</p> <p>例 2: I (a) ニューモシスチス・カリニ[jirovecii]6 ヶ月 (b) HIV 5 年 (c) 脾破裂 7 年 (d) 暴行—素手の殴り合い 7 年</p> <p>HIV にコードする。</p>	<p>Example 2: I (a) <i>Pneumocystis carinii</i>[<i>jirovecii</i>] 6 months (b) HIV 5 years (c) Ruptured spleen 7 years (d) Assault – fist fight 7 years</p> <p>Code to HIV.</p>
143		<p>4.2 死因記載の解釈についての注</p> <p>4.2.1 中間原因の仮定</p> <p>4.2.2 「因果関係がほとんどない」の解釈</p> <p>4.2.3 分類に対する期間の影響</p> <p>...</p> <p>4.2.16 妊産婦<母体>の(産科学的な)原因による死亡</p> <p>a) 特に間接的な産科的原因の症例では、妊産婦<母体>の死亡を確認することが困難なことが多い。死因が産科的なことであるということが疑わしい場合、例えば I 欄に記入された病態が産科的でなく、II 欄において妊娠又は分娩の記載がある場合、死亡診断書作成者(医師)の確認を取るべきである。妊産婦<母体>死亡率が高い国々では、これは特に重要である。更なる情報が得られない場合、I 欄において妊娠及び分娩の記載のある死亡は産科的と考えるべきであるが、II 欄においてのみ妊娠又は分娩の記載のある死亡は産科的と考えるべきではない。</p> <p>b) 妊産婦<母体>死亡率を計算する場合、間接産科的原因について 4.2.16 節 a)に概説されている規定に適合するという前提で、第 15 章(O コード)にコードされない一定の症例も妊産婦<母体>死亡率に含めるべきである。これらの症例は、第 15 章の冒頭の「除外」に記載されている。</p> <p>c) 妊産婦<母体>死亡率の計算に組み入れられない産科的原因による死亡の症例がある。これらの症例は、死亡が分娩後 42 日以降に発生する症例である(5.8.1 節「妊産婦<母体>死亡の定義を参照」)。</p>	<p>4.2 Notes for interpretation of entries of causes of death</p> <p>4.2.1 Assumption of intervening cause</p> <p>4.2.2 Interpretation of “highly improbable”</p> <p>4.2.3 Effect of duration on classification</p> <p>...</p> <p>4.2.15 Death due to maternal (obstetric) causes</p> <p>a) <u>It is often difficult to identify a maternal death, particularly in cases of indirect obstetric causes. If there is any doubt that the cause of death is obstetrical, for example if the conditions entered in Part I are not obstetrical but there is a mention of pregnancy or delivery in Part II, additional information should be sought from the certifier. This is particularly important in countries where maternal mortality rate is high. If no additional information can be found, deaths with a mention of pregnancy and delivery in Part I should be considered obstetrical, but not deaths where pregnancy or delivery is mentioned in Part II only.</u></p> <p>b) <u>Note that when calculating maternal mortality rates, certain cases not coded to Chapter XV (O codes) should be included, provided that they meet the specifications outlined in section 4.2.15 a) for indirect obstetric causes. These cases are listed in the “Exclusion Note” at the beginning of Chapter XV.</u></p> <p>c) <u>There are cases of death due to obstetric causes that are not included in the calculation of the maternal death rate. These are those cases in which death occurs more than 42 days after delivery (see definition of “Maternal death” on page 134, Volume 2, ICD-10).</u></p>
144		<p>4.2.17 糖尿病の原因となり得る病態のリスト</p> <p>付表 10.2 は、糖尿病の原因となり得る病態のリストである。このリストは、糖尿病の他の疾患「による」ものとして認められる上下の因果関係を示すものである。</p>	<p>4.2.17 List of conditions that can cause diabetes</p> <p><u>In Appendix 7.2 is a list of the conditions that can cause diabetes. This list provides the acceptable sequences for diabetes “due to” other diseases.</u></p>
145	<p>4.3.5 コーディング・ルール</p> <p>ルールP3. (a)欄または(c)欄に記載のないもの</p>	<p>4.3.5 コーディング・ルール</p> <p>ルールP3. (a)欄又は(c)欄に記載のないもの</p>	<p>4.3.5 Coding rules</p> <p>Rule P3. No entry in sections (a) or (c).</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
	<p>その他の病態：虚血性心疾患 耳硬化症 インスリン依存性糖尿病</p> <p>専門科目：内分泌科 ケア：インスリンの適切な投与量の確立</p> <p>インスリン依存性糖尿病を「主要病態」として再選択し、E10.0にコードする。記載された情報によると、昏睡は糖尿病によるものと考えられ、昏睡はコーディングを修飾するものとして扱う。</p> <p>4.4.4 章ごとの注釈</p> <p>第IV章：内分泌，栄養および代謝疾患</p> <p>E10-E14 糖尿病</p> <p>例13：主要病態：腎症〈ネフロパシー〉，え〈壊〉痘および白内障を伴うインスリン依存性糖尿病</p> <p>その他の病態：-</p> <p>多発合併症を伴うインスリン依存性糖尿病 (E10.7) にコードする。E10.2†およびN08.3* (腎症〈ネフロパシー〉を伴うインスリン依存性糖尿病)、E10.5 (末梢循環合併症を伴うインスリン依存性糖尿病)、E10.3†およびH28.0* (白内障を伴うインスリン依存性糖尿病) は、個々の合併症を明示するために任意的追加コードとして使用することができる。</p>	<p>主要病態の再選択ルール</p> <p>ルールMB3：「主要病態」として記載された病態が、診断され、治療された病態の症状を表している</p> <p>例12：主要病態：昏睡 その他の病態：虚血性心疾患 耳硬化症 インスリン依存性1型糖尿病</p> <p>専門科目：内分泌科 ケア：インスリンの適切な投与量の確立</p> <p>インスリン依存性1型糖尿病を「主要病態」として再選択し、E10.0にコードする。記載された情報によると、昏睡は糖尿病によるものと考えられ、昏睡はコーディングを修飾するものとして扱う。</p> <p>4.4.4 章ごとの注釈</p> <p>第IV章：内分泌，栄養及び代謝疾患</p> <p>E10-E14 糖尿病</p> <p>例13：主要病態：腎症〈ネフロパシー〉，え〈壊〉痘及び白内障を伴うインスリン依存性1型糖尿病</p> <p>その他の病態：-</p> <p>多発合併症を伴うインスリン依存性1型糖尿病 (E10.7) にコードする。E10.2†及びN08.3* (腎症〈ネフロパシー〉を伴うインスリン依存性1型糖尿病)、E10.5 (末梢循環合併症を伴うインスリン依存性1型糖尿病)、E10.3†及びH28.0* (白内障を伴うインスリン依存性1型糖尿病) は、個々の合併症を明示するために任意的追加コードとして使用することができる。</p>	<p><i>Rules for reselection of main condition</i></p> <p>Rule MB3. Condition recorded as “main condition” Is presenting symptom of diagnosed, treated condition</p> <p><i>Example 12</i> Main condition: Coma Other conditions: Ischaemic heart disease Otosclerosis Type 1 diabetes mellitus, insulin dependent</p> <p>Specialty: Endocrinology Care: Establishment of correct dose of insulin</p> <p>Reselect type 1 diabetes mellitus, insulin dependent as the “main condition” and code to E10.0. The information provided indicates that the coma was due to diabetes mellitus and coma is taken into account as it modifies the coding.</p> <p>4.4.4 Chapter-specific notes <i>Chapter IV: Endocrine, nutritional and metabolic diseases</i></p> <p>E10-E14 Diabetes mellitus</p> <p><i>Example 13</i> Main condition: Type 1 insulin dependent diabetic with nephropathy, gangrene and cataracts Other conditions: -</p> <p>Code to type 1 insulin dependent diabetes mellitus with multiple complications (E10.7). Codes E10.2† and N08.3* (Type 1 insulin dependent diabetes with nephropathy), E10.5 (Type 1 insulin dependent diabetes with peripheral circulatory complications) and E10.3† and H28.0* (Type 1 insulin dependent diabetes with cataract) may be added as optional additional codes to identify the individual complications</p>
147	<p>4.4.4 章ごとの注釈</p> <p>第II章：新生物</p>	<p>4.4.4 章ごとの注釈</p> <p>第II章：新生物</p> <p>C79.9 続発性悪性新生物，部位不明</p> <p>C79.9 は悪性新生物が「播種性癌腫症」又は「全身性悪性腫瘍」(又はC79.9の包含リストに掲載されるその他の同等の用語)と記載され、かつ特定の部位が記載されていないときのみ「主要病態」として使用すべきである。</p>	<p>4.4.4 Chapter-specific notes</p> <p><i>Chapter II: Neoplasms</i></p> <p>C79.9 Secondary malignant neoplasm, unspecified site C79.9 should be used for “main condition” coding only when the malignancy is described as 'disseminated carcinomatosis' or 'generalised malignancy' (or other similar terms as described in the inclusion list for C79.9) and the specific sites are not documented.</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告（原文）
148	<p>4.4.4 章ごとの注釈 C80 部位の明示されない悪性新生物</p>	<p>4.4.4 章ごとの注釈 C80 部位の明示されない悪性新生物 C80.0 悪性新生物，原発部位不明と記載されたもの C80.9 悪性新生物，原発部位詳細不明</p> <p><u>C80.-は医療従事者が新生物を明確に原発部位不明又は原発性と推測される詳細不明の悪性腫瘍と記載しているときのみ「主要病態」として使用すべきである。</u></p>	<p>4.4.4 C80 Malignant neoplasm without specification of site C80.0 Malignant neoplasm, primary site unknown, so stated C80.9 Malignant neoplasm, primary site unspecified <u>C80.- should be used for “main condition” coding only when the health care practitioner has clearly recorded the neoplasm as an unknown primary site or as an unspecified malignancy, assumed primary.</u></p>
149	<p>4.4.4 C97 独立した（原発性）多部位の悪性新生物 C80 は医療従事者が明確に部位不明と記載しているときのみ「主要病態」として使用すべきである。C97 は、医療従事者が二つまたはそれ以上の独立した原発性の悪性新生物を「主要病態」と記載しており、どちらが主要ともいえないときに使用すべきである。追加コードは、個々の悪性新生物を特定したい場合に使用することができる。</p> <p>例 9： 主要病態 ： 癌腫症 その他の病態： - 部位の明示されない悪性新生物にコードする。</p>	<p>4.4.4 C97 独立した（原発性）多部位の悪性新生物 C80、は医療従事者が明確に部位不明と記載しているときのみ「主要病態」として使用すべきである。C97 は、医療従事者が二つ又はそれ以上の独立した原発性の悪性新生物を「主要病態」と記載しており、どちらが主要ともいえないときに使用すべきである。追加コードは、個々の悪性新生物を特定したい場合に使用することができる。</p> <p>例 9： 主要病態 ： 癌腫症 その他の病態： - <u>部位の明示されない悪性新生物（C80）続発性悪性新生物，部位不明（C79.9）にコードする。原発部位が不明の場合は、C80.9（悪性新生物，原発部位詳細不明）を追加コードとして使用することができる。原発性新生物がすでに存在しない場合は、第 XXI 章の新生物の既往歴のコードの中から適当なコードを選んで使用すべきである。</u></p>	<p>4.4.4 C97 Malignant neoplasm of independent (primary) multiple sites C80 should be used for “main condition” coding only when the health care practitioner has clearly recorded the neoplasm in such a manner. C97 should be used when ...</p> <p>Revise text: Example 9 Main condition: Carcinomatosis Other conditions: —</p> <p>Code to <u>secondary malignant neoplasm, unspecified site (C79.9), malignant neoplasm without specification of site (C80).</u> C80.9 (Malignant neoplasm, primary site unspecified) may be used as an additional code if the primary site is unspecified. An appropriate code from Chapter XXI for personal history of neoplasm should be used for a primary neoplasm that is no longer present.</p>
150	<p>4.4 疾病統計 4.4.4 章ごとの注釈</p> <p>第 VII 章：眼および付属器の疾患</p> <p>H54.- 盲<失明>および低視力 このコードは、もし原因が記載されてあったとしても、ケアのエピソードが主に盲<失明>自身に対するものでなければ、「主要病態」に対する優先コードとしては使用しない。原因のコーディングの場合は、H54.-を任意的追加コードとして使用することができる。</p>	<p>4.4 疾病統計 4.4.4 章ごとの注釈</p> <p>第 VII 章：眼及び付属器の疾患</p> <p>H54.- <u>視機能障害及び盲<失明>（両眼又は単眼）盲<失明>および低視力</u> このコードは、もし原因が記載されてあったとしても、ケアのエピソードが主に盲<失明>自身に対するものでなければ、「主要病態」に対する優先コードとしては使用しない。原因のコーディングの場合は、H54.-を任意的追加コードとして使用することができる。</p>	<p>4.4 Morbidity</p> <p>4.4.4 Chapter-specific notes</p> <p><i>Chapter VII: Diseases of the eye and adnexa</i></p> <p>H54. - Blindness and low vision Visual impairment including blindness (binocular or monocular) This code is not to be used as the preferred code for the "main condition" if the cause is recorded, unless the episode of care was mainly for the blindness itself. When coding to the cause, H54.- may be used as an optional additional code.</p>
151	<p>5.8.1 定義 妊産婦<母体>死亡（Maternal death） 後発妊産婦<母体>死亡（Late maternal death）</p> <p>妊娠関連死亡（Pregnancy - related death） 妊娠関連死亡とは、死亡の原因いかにかわらず、妊娠中または妊娠終了後満 42 日未満の女性の死亡をいう。</p>	<p>5.8.1 定義 妊産婦<母体>死亡（Maternal death） 後発妊産婦<母体>死亡（Late maternal death）</p> <p><u>妊娠、分娩及び産じょく（褥）の期間に生じる死亡妊娠関連死亡（Death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium Pregnancy-related death）</u> <u>妊娠、分娩及び産じょく（褥）の期間に生じる死亡妊娠関連死亡</u></p>	<p>5.8.1 – Definitions Maternal death ... Late maternal death ... Pregnancy-related death Death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium A pregnancy-related death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium is the death of a woman while pregnant or within 42 days of termination of pregnancy, irrespective of the cause of death (<u>obstetric and non obstetric</u>).</p>

	現行	事務局仮訳	WHO勧告(原文)																
		とは、死亡の原因(産科又はそれ以外)いかにかわらず、妊娠中又は妊娠終了後満42日未満の女性の死亡をいう。																	
152	5.8.4 妊産婦<母体>死亡の分母 妊娠関連死亡比 (Pregnancy-related mortality ratio) $\frac{\text{妊娠関連死亡数} \times k}{\text{出生数}}$	5.8.4 妊産婦<母体>死亡の分母 妊娠、分娩及び産じょく(褥)の期間に生じる死亡比 (Ratio for death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium) $\frac{\text{妊娠関連死亡比 (Pregnancy-related mortality ratio)}}{\text{妊娠、分娩及び産じょく(褥)の期間に生じる死亡妊娠関連死亡数} \times k}$	5.8.4 Denominators for maternal mortality Pregnancy-related mortality Ratio for death occurring during pregnancy, childbirth and puerperium $\frac{\text{Pregnancy-related Deaths occurring during pregnancy, childbirth and puerperium} \times k}{\text{Live birth}}$																
153	5.8.3 妊産婦<母体>死亡率の公表 ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病 (B20-B24) および産科的破傷風 (A34) による妊産婦<母体>死亡は、第I章にコードされることに注意しなければならない。このような症例は、妊産婦<母体>死亡率に含めるように注意しなくてはならない。	5.8.3 妊産婦<母体>死亡率の公表 妊産婦<母体>死亡率を計算する場合、第15章(Oコード)にコードされない症例を妊産婦<母体>死亡率に含めるように注意しなければならない。第15章の冒頭の「除外」に記載されている分類項目も、それが間接的産科原因について4.2.16節のa)に概説されている規定に適合していれば、含まれる。ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病 (B20-B24) および産科的破傷風 (A34) による妊産婦<母体>死亡は、第I章にコードされることに注意しなければならない。このような症例は、妊産婦<母体>死亡率に含めるように注意しなくてはならない。	5.8.3 Published maternal mortality rates It should be noted that maternal deaths from HIV disease (B20-B24) and obstetrical tetanus (A34) are coded to Chapter I. Care must be taken to include such cases in the maternal mortality rate. Note that when calculating maternal mortality rates, cases not coded to Chapter XV (O codes) should be included. These include those categories presented in the "Exclusion Note" at the beginning of Chapter XV, provided that they meet the specifications outlined in section 4.2.15 a) for indirect obstetric causes.																
154	7. 付録 7.1 死亡を引き起こす可能性の低い病態のリスト コード 分類項目または細分類項目 ... F69 詳細不明の成人の人格及び行動の障害 F95.0-F95.9 チック障害	7. 付録 7.1 死亡を引き起こす可能性の低い病態のリスト (4.1.9 節ルール B 参照) コード 分類項目又は細分類項目 ... F69 詳細不明の成人の人格及び行動の障害 F80-F89 心理的発達の障害 F95.0-F95.9 チック障害	7. Appendices 7.1 List of conditions unlikely to cause death (see 4.1.9, Rule B) Code Category or subcategory ... F69 Unspecified disorder of adult personality and behaviour F80-F89 Disorders of psychological development F95.0-F95.9 Tic disorders ※第3回部会資料から見え消しを修正																
155		付録 7.2 7.2 糖尿病の原因となり得る病態のリスト 糖尿病の他の疾患「による」ものとして受け入れられる因果関係 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>選ばれた原因</td> <td>引き起こされた病態</td> </tr> <tr> <td>M35.9</td> <td>E10, E14</td> </tr> <tr> <td>E40-E46</td> <td>E12, E14</td> </tr> </table>	選ばれた原因	引き起こされた病態	M35.9	E10, E14	E40-E46	E12, E14	List of conditions that can cause diabetes List of the conditions that can cause diabetes Acceptable sequences for diabetes "due to" other diseases <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">Selected cause</td> <td style="width: 50%;">As cause of</td> </tr> <tr> <td>M35.9</td> <td>E10, E14</td> </tr> <tr> <td>E40-E46</td> <td>E12, E14</td> </tr> <tr> <td>B25.2</td> <td>E13-E14</td> </tr> <tr> <td>B26.3</td> <td>E13-E14</td> </tr> </table>	Selected cause	As cause of	M35.9	E10, E14	E40-E46	E12, E14	B25.2	E13-E14	B26.3	E13-E14
選ばれた原因	引き起こされた病態																		
M35.9	E10, E14																		
E40-E46	E12, E14																		
Selected cause	As cause of																		
M35.9	E10, E14																		
E40-E46	E12, E14																		
B25.2	E13-E14																		
B26.3	E13-E14																		

2010

	現行	事務局仮訳		WHO勧告 (原文)	
		B25.2	E13-E14	C25	E13-E14
		B26.3	E13-E14	D13.6-D13.7	E13-E14
		C25	E13-E14	D35.0	E13-E14
		D13.6-D13.7	E13-E14	E05- E06	E13-E14
		D35.0	E13-E14	E22.0	E13-E14
		E05- E06	E13-E14	E24	E13-E14
		E22.0	E13-E14	E80.0- E80.2	E13-E14
		E24	E13-E14	E83.1	E13-E14
		E80.0- E80.2	E13-E14	E84	E13-E14
		E83.1	E13-E14	E89.1	E13-E14
		E84	E13-E14	F10.1-F10.2	E13-E14
		E89.1	E13-E14	G10	E13-E14
		F10.1-F10.2	E13-E14	G11.1	E13-E14
		G10	E13-E14	G25.8	E13-E14
		G11.1	E13-E14	G71.1	E13-E14
		G25.8	E13-E14	K85	E13-E14
		G71.1	E13-E14	K86.0- K86.1	E13-E14
		K85	E13-E14	K86.8- K86.9	E13-E14
		K86.0- K86.1	E13-E14	M35.9	E13-E14
		K86.8- K86.9	E13-E14	O24.4	E13-E14
		M35.9	E13-E14	P35.0	E13-E14
		O24.4	E13-E14	Q87.1	E13-E14
		P35.0	E13-E14	Q90	E13-E14
		Q87.1	E13-E14	Q96	E13-E14
		Q90	E13-E14	Q98	E13-E14
		Q96	E13-E14	Q99.8	E13-E14
		Q98	E13-E14	S36.2	E13-E14
		Q99.8	E13-E14	T37.3	E13-E14
		S36.2	E13-E14	T37.5	E13-E14
		T37.3	E13-E14	T38.0- T38.1	E13-E14
		T37.5	E13-E14	T42.0	E13-E14
		T38.0- T38.1	E13-E14	T46.5	E13-E14
		T42.0	E13-E14	T46.7	E13-E14
		T46.5	E13-E14	T50.2	E13-E14
		T46.7	E13-E14	X41	E13-E14
		T50.2	E13-E14	X44	E13-E14
		X41	E13-E14	X61	E13-E14
		X44	E13-E14	X64	E13-E14
		X61	E13-E14	Y11	E13-E14
		X64	E13-E14	Y14	E13-E14
		Y11	E13-E14	Y41.3	E13-E14
		Y14	E13-E14	Y41.5	E13-E14
		Y41.3	E13-E14	Y42.0- Y42.1	E13-E14
		Y41.5	E13-E14	Y46.2	E13-E14
		Y42.0- Y42.1	E13-E14	Y52.5	E13-E14
				Y52.7	E13-E14
				Y54.3	E13-E14

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)																																																																																																																																								
		<table border="1"> <tr><td>Y46.2</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>Y52.5</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>Y52.7</td><td>E13-E14</td></tr> <tr><td>Y54.3</td><td>E13-E14</td></tr> </table>	Y46.2	E13-E14	Y52.5	E13-E14	Y52.7	E13-E14	Y54.3	E13-E14																																																																																																																																	
Y46.2	E13-E14																																																																																																																																										
Y52.5	E13-E14																																																																																																																																										
Y52.7	E13-E14																																																																																																																																										
Y54.3	E13-E14																																																																																																																																										
		<p style="text-align: center;">2013</p> <p>付録 7.2 7.2 糖尿病の原因となり得る病態のリスト</p> <p>糖尿病の他の疾患「による」ものとして受け入れられる因果関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>糖尿病の種類</th> <th>下記の疾病「による」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>E10</td><td>B25.2</td></tr> <tr><td></td><td>E40-E46</td></tr> <tr><td></td><td>E63.9</td></tr> <tr><td></td><td>E64.0</td></tr> <tr><td></td><td>E64.9</td></tr> <tr><td></td><td>M35.9</td></tr> <tr><td></td><td>P35.0</td></tr> <tr><td>E11</td><td>E24</td></tr> <tr><td></td><td>E40-E46</td></tr> <tr><td></td><td>E63.9</td></tr> <tr><td></td><td>E64.0</td></tr> <tr><td></td><td>E64.9</td></tr> <tr><td></td><td>M35.9</td></tr> <tr><td></td><td>O24.4</td></tr> <tr><td></td><td>P35.0</td></tr> <tr><td>E12</td><td>E40-E46</td></tr> <tr><td></td><td>E63.9</td></tr> <tr><td></td><td>E64.0</td></tr> <tr><td></td><td>E64.9</td></tr> <tr><td>E13</td><td>B25.2</td></tr> <tr><td></td><td>B26.3</td></tr> <tr><td></td><td>C25</td></tr> <tr><td></td><td>C78.8 (膵臓のみ)</td></tr> <tr><td></td><td>D13.6-D13.7</td></tr> <tr><td></td><td>D35.0</td></tr> <tr><td></td><td>E05-E06</td></tr> <tr><td></td><td>E22.0</td></tr> <tr><td></td><td>E24</td></tr> <tr><td></td><td>E80.0-E80.2</td></tr> </tbody> </table>	糖尿病の種類	下記の疾病「による」	E10	B25.2		E40-E46		E63.9		E64.0		E64.9		M35.9		P35.0	E11	E24		E40-E46		E63.9		E64.0		E64.9		M35.9		O24.4		P35.0	E12	E40-E46		E63.9		E64.0		E64.9	E13	B25.2		B26.3		C25		C78.8 (膵臓のみ)		D13.6-D13.7		D35.0		E05-E06		E22.0		E24		E80.0-E80.2	<p>7. Appendices ... 7.2 List of conditions that can cause diabetes</p> <p>Acceptable sequences for diabetes “due to” other diseases</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Type of Diabetes</th> <th>Due to</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>E10</td><td>B25.2</td></tr> <tr><td></td><td>E40-E46</td></tr> <tr><td></td><td>E63.9</td></tr> <tr><td></td><td>E64.0</td></tr> <tr><td></td><td>E64.9</td></tr> <tr><td></td><td>M35.9</td></tr> <tr><td></td><td>P35.0</td></tr> <tr><td>E11</td><td>E24</td></tr> <tr><td></td><td>E40-E46</td></tr> <tr><td></td><td>E63.9</td></tr> <tr><td></td><td>E64.0</td></tr> <tr><td></td><td>E64.9</td></tr> <tr><td></td><td>M35.9</td></tr> <tr><td></td><td>O24.4</td></tr> <tr><td></td><td>P35.0</td></tr> <tr><td>E12</td><td>E40-E46</td></tr> <tr><td></td><td>E63.9</td></tr> <tr><td></td><td>E64.0</td></tr> <tr><td></td><td>E64.9</td></tr> <tr><td>E13</td><td>B25.2</td></tr> <tr><td></td><td>B26.3</td></tr> <tr><td></td><td>C25</td></tr> <tr><td></td><td>C78.8 (pancreas only)</td></tr> <tr><td></td><td>D13.6-D13.7</td></tr> <tr><td></td><td>D35.0</td></tr> <tr><td></td><td>E05-E06</td></tr> <tr><td></td><td>E22.0</td></tr> <tr><td></td><td>E24</td></tr> <tr><td></td><td>E40-E46</td></tr> <tr><td></td><td>E80.0-E80.2</td></tr> <tr><td></td><td>E83.1</td></tr> <tr><td></td><td>E84</td></tr> <tr><td></td><td>E89.1</td></tr> <tr><td></td><td>F10.1-F10.2</td></tr> <tr><td></td><td>G10</td></tr> <tr><td></td><td>G11.1</td></tr> <tr><td></td><td>G25.8</td></tr> </tbody> </table>	Type of Diabetes	Due to	E10	B25.2		E40-E46		E63.9		E64.0		E64.9		M35.9		P35.0	E11	E24		E40-E46		E63.9		E64.0		E64.9		M35.9		O24.4		P35.0	E12	E40-E46		E63.9		E64.0		E64.9	E13	B25.2		B26.3		C25		C78.8 (pancreas only)		D13.6-D13.7		D35.0		E05-E06		E22.0		E24		E40-E46		E80.0-E80.2		E83.1		E84		E89.1		F10.1-F10.2		G10		G11.1		G25.8
糖尿病の種類	下記の疾病「による」																																																																																																																																										
E10	B25.2																																																																																																																																										
	E40-E46																																																																																																																																										
	E63.9																																																																																																																																										
	E64.0																																																																																																																																										
	E64.9																																																																																																																																										
	M35.9																																																																																																																																										
	P35.0																																																																																																																																										
E11	E24																																																																																																																																										
	E40-E46																																																																																																																																										
	E63.9																																																																																																																																										
	E64.0																																																																																																																																										
	E64.9																																																																																																																																										
	M35.9																																																																																																																																										
	O24.4																																																																																																																																										
	P35.0																																																																																																																																										
E12	E40-E46																																																																																																																																										
	E63.9																																																																																																																																										
	E64.0																																																																																																																																										
	E64.9																																																																																																																																										
E13	B25.2																																																																																																																																										
	B26.3																																																																																																																																										
	C25																																																																																																																																										
	C78.8 (膵臓のみ)																																																																																																																																										
	D13.6-D13.7																																																																																																																																										
	D35.0																																																																																																																																										
	E05-E06																																																																																																																																										
	E22.0																																																																																																																																										
	E24																																																																																																																																										
	E80.0-E80.2																																																																																																																																										
Type of Diabetes	Due to																																																																																																																																										
E10	B25.2																																																																																																																																										
	E40-E46																																																																																																																																										
	E63.9																																																																																																																																										
	E64.0																																																																																																																																										
	E64.9																																																																																																																																										
	M35.9																																																																																																																																										
	P35.0																																																																																																																																										
E11	E24																																																																																																																																										
	E40-E46																																																																																																																																										
	E63.9																																																																																																																																										
	E64.0																																																																																																																																										
	E64.9																																																																																																																																										
	M35.9																																																																																																																																										
	O24.4																																																																																																																																										
	P35.0																																																																																																																																										
E12	E40-E46																																																																																																																																										
	E63.9																																																																																																																																										
	E64.0																																																																																																																																										
	E64.9																																																																																																																																										
E13	B25.2																																																																																																																																										
	B26.3																																																																																																																																										
	C25																																																																																																																																										
	C78.8 (pancreas only)																																																																																																																																										
	D13.6-D13.7																																																																																																																																										
	D35.0																																																																																																																																										
	E05-E06																																																																																																																																										
	E22.0																																																																																																																																										
	E24																																																																																																																																										
	E40-E46																																																																																																																																										
	E80.0-E80.2																																																																																																																																										
	E83.1																																																																																																																																										
	E84																																																																																																																																										
	E89.1																																																																																																																																										
	F10.1-F10.2																																																																																																																																										
	G10																																																																																																																																										
	G11.1																																																																																																																																										
	G25.8																																																																																																																																										

	現行	事務局仮訳	WHO勧告 (原文)
		E40 – E46	G71.1
		E63.9	K85
		E64.0	K86.0-K86.1
		E64.9	K86.8-K86.9
		E80.0 – E80.2	M35.9
		E83.1	O24.4
		E84	P35.0
		E89.1	Q87.1
		F10.1 – F10.2	Q90
		G10	Q96
		G11.1	Q98
		G25.8	Q99.8
		G71.1	S36.2
		K85	T37.3
		K86.0 – K86.1	T37.5
		K86.8 – K86.9	T38.0-T38.1
		M35.9	T42.0
		O24.4	T46.5
		P35.0	T46.7
		Q87.1	T50.2
		Q90	X41
		Q96	X44
		Q98	X61
		Q99.8	X64
		S36.2	Y11
		T37.3	Y14
		T37.5	Y41.3
		T38.0 – T38.1	Y41.5
		T42.0	Y42.0-Y42.1
		T46.5	Y46.2
		T46.7	Y52.5
		T50.2	Y52.7
		Y41.3	Y54.3
		Y41.5	
		Y42.0 – Y42.1	
		Y46.2	
		Y52.5	
		Y52.7	
		Y54.3	